

簿記論 I

石川雅之

【授業の概要】

企業の経済活動を貨幣額によって記録・計算・整理して、その結果を明らかにするための技術である複式簿記の基礎理論を学ぶとともに、取引の仕訳・勘定記入といった基礎的な記帳技術を習得する。

【授業の目標】

簿記は企業の経済活動を記録する技術であり、世界中の企業が例外なくこれを利用している。簿記以外の方法で企業の経済活動を記録することは出来ない。

簿記の結果として作成される貸借対照表と損益計算書によって企業の財政状態と経営成績を知ることが出来る。この貸借対照表と損益計算書の意味を正確に理解するためには簿記に関する知識が不可欠であり、それを習得することがこの授業の目標である。

簿記は決して難しいものではない。この授業では実務的で役に立つ会計知識の習得を目標とする。

【授業計画】

1 から 3	簿記の基礎
4 から 5	現金および預金
6 から 8	商品売買
9 から 10	手形取引
11 から 14	その他の期中取引
15 から 16	試算表の作成
17 から 22	決算手続き
24 から 30	総合問題

【評価方法】

試験などにより総合的に評価する。(中間試験を行う。)

【テキスト】

プリントを使用

簿記論 I

後藤貞明

【授業の概要】

企業の経済活動を貨幣額によって記録・計算・整理して、その結果を明らかにするための技術である複式簿記の基礎理論を学ぶとともに、取引の仕訳・勘定記入といった基礎的な記帳技術を習得する。

【授業の目標】

簿記は企業の経済活動を記録する技術であり、世界中の企業が例外なくこれを利用している。簿記以外の方法で企業の経済活動を記録することは出来ない。

簿記の結果として作成される貸借対照表と損益計算書によって企業の財政状態と経営成績を知ることが出来る。この貸借対照表と損益計算書の意味を正確に理解するためには簿記に関する知識が不可欠であり、それを習得することがこの授業の目標である。

簿記は決して難しいものではない。この授業では実務的で役に立つ会計知識の習得を目標とする。

【授業計画】

1 から 3	簿記の基礎
4 から 5	商品売買
6 から 8	現金および預金
9 から 10	手形取引
11 から 14	その他の期中取引
15 から 16	試算表の作成
17 から 22	決算手続き
24 から 30	総合問題

【評価方法】

試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

講義中に指示する。

簿記論 I

浦山章二

【授業の概要】

企業の経済活動を貨幣額によって記録・計算・整理して、その結果を明らかにするための技術である複式簿記の基礎理論を学ぶとともに、取引の仕訳・勘定記入といった基礎的な記帳技術を習得する。

【授業の目標】

簿記は企業の経済活動を記録する技術であり、世界中の企業が例外なくこれを利用している。簿記以外の方法で企業の経済活動を記録することは出来ない。

簿記の結果として作成される貸借対照表と損益計算書によって企業の財政状態と経営成績を知ることが出来る。この貸借対照表と損益計算書の意味を正確に理解するためには簿記に関する知識が不可欠であり、それを習得することがこの授業の目標である。

簿記は決して難しいものではない。この授業では実務的で役に立つ会計知識の習得を目標とする。

【授業計画】

1 から 3	簿記の基礎
4 から 5	商品売買
6 から 8	現金および預金
9 から 10	手形取引
11 から 14	その他の期中取引
15 から 16	試算表の作成
17 から 22	決算手続き
24 から 30	総合問題

【評価方法】

試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

合格テキスト日商簿記3級(予定)

簿記論 I

西崎賢治

【授業の概要】

企業の経済活動を貨幣額によって記録・計算・整理して、その結果を明らかにするための技術である複式簿記の基礎理論を学ぶとともに、取引の仕訳・勘定記入といった基礎的な記帳技術を習得する。

【授業の目標】

簿記は企業の経済活動を記録する技術であり、世界中の企業が例外なくこれを利用している。簿記以外の方法で企業の経済活動を記録することは出来ない。

簿記の結果として作成される貸借対照表と損益計算書によって企業の財政状態と経営成績を知ることが出来る。この貸借対照表と損益計算書の意味を正確に理解するためには簿記に関する知識が不可欠であり、それを習得することがこの授業の目標である。

簿記は決して難しいものではない。この授業では実務的で役に立つ会計知識の習得を目標とする。

【授業計画】

1 から 3	簿記の基礎
4 から 5	商品売買
6 から 8	現金および預金
9 から 10	手形取引
11 から 14	その他の期中取引
15 から 16	試算表の作成
17 から 22	決算手続き
24 から 30	総合問題

【評価方法】

出席状況・ミニテスト・試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

最初の講義で指示する。

簿記論 II

石川雅之

【授業の概要】

日々の取引記録から財務諸表の作成までの複式簿記の一連の手続についての理解を深めるとともに、現実の経済社会における営利組織の中心である株式会社を念頭に、株式会社に関する簿記処理に焦点を当てる。

【授業の目標】

簿記は企業の経済活動を記録する技術であり、世界中の企業が例外なくこれを利用している。簿記以外の方法で企業の経済活動を記録することは出来ない。

簿記の結果として作成される貸借対照表と損益計算書によって企業の財政状態と経営成績を知ることが出来る。この貸借対照表と損益計算書の意味を正確に理解するためには簿記に関する知識が不可欠であり、それを習得することがこの授業の目標である。

簿記は決して難しいものではない。この授業では実務的で役に立つ会計知識の習得を目標とする。

【授業計画】

1から3	商品売買
4から6	為替手形、銀行勘定調整表、有価証券
7から8	固定資産
9から10	手形取引
11から12	引当金
13から14	株式の発行、合併と買収
15から16	無形固定資産と繰延資産、社債
17から19	株式会社の税金、利益処分、損失処理と減資
20から22	精算表と財務諸表
23から24	本支店会計
25から27	帳簿組織
28から30	総合問題

【評価方法】

試験などにより総合的に評価する。(中間試験を行う。)

【テキスト】

未定

簿記論 II

浦山章二

【授業の概要】

日々の取引記録から財務諸表の作成までの複式簿記の一連の手続についての理解を深めるとともに、現実の経済社会における営利組織の中心である株式会社を念頭に、株式会社に関する簿記処理に焦点を当てる。

【授業の目標】

簿記は企業の経済活動を記録する技術であり、世界中の企業が例外なくこれを利用している。簿記以外の方法で企業の経済活動を記録することは出来ない。

簿記の結果として作成される貸借対照表と損益計算書によって企業の財政状態と経営成績を知ることが出来る。この貸借対照表と損益計算書の意味を正確に理解するためには簿記に関する知識が不可欠であり、それを習得することがこの授業の目標である。

簿記は決して難しいものではない。この授業では実務的で役に立つ会計知識の習得を目標とする。

【授業計画】

1から3	商品売買
4から6	為替手形、銀行勘定調整表、有価証券
7から8	固定資産
9から10	手形取引
11から12	引当金
13から14	株式の発行、合併と買収
15から16	無形固定資産と繰延資産、社債
17から19	株式会社の税金、利益処分、損失処理と減資
20から22	精算表と財務諸表
23から24	本支店会計
25から27	帳簿組織
28から30	総合問題

【評価方法】

試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

合格テキスト 日商簿記2級(予定)

簿記論 II

後藤貞明

【授業の概要】

日々の取引記録から財務諸表の作成までの複式簿記の一連の手続についての理解を深めるとともに、現実の経済社会における営利組織の中心である株式会社を念頭に、株式会社に関する簿記処理に焦点を当てる。

【授業の目標】

簿記は企業の経済活動を記録する技術であり、世界中の企業が例外なくこれを利用している。簿記以外の方法で企業の経済活動を記録することは出来ない。

簿記の結果として作成される貸借対照表と損益計算書によって企業の財政状態と経営成績を知ることが出来る。この貸借対照表と損益計算書の意味を正確に理解するためには簿記に関する知識が不可欠であり、それを習得することがこの授業の目標である。

簿記は決して難しいものではない。この授業では実務的で役に立つ会計知識の習得を目標とする。

【授業計画】

1から3	商品売買
4から6	為替手形、銀行勘定調整表、有価証券
7から8	固定資産
9から10	手形取引
11から12	引当金
13から14	株式の発行、合併と買収
15から16	無形固定資産と繰延資産、社債
17から19	株式会社の税金、利益処分、損失処理と減資
20から22	精算表と財務諸表
23から24	本支店会計
25から27	帳簿組織
28から30	総合問題

【評価方法】

試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

講義中に指示する。

簿記論 II

西崎賢治

【授業の概要】

日々の取引記録から財務諸表の作成までの複式簿記の一連の手続についての理解を深めるとともに、現実の経済社会における営利組織の中心である株式会社を念頭に、株式会社に関する簿記処理に焦点を当てる。

【授業の目標】

簿記は企業の経済活動を記録する技術であり、世界中の企業が例外なくこれを利用している。簿記以外の方法で企業の経済活動を記録することは出来ない。

簿記の結果として作成される貸借対照表と損益計算書によって企業の財政状態と経営成績を知ることが出来る。この貸借対照表と損益計算書の意味を正確に理解するためには簿記に関する知識が不可欠であり、それを習得することがこの授業の目標である。

簿記は決して難しいものではない。この授業では実務的で役に立つ会計知識の習得を目標とする。

【授業計画】

1から3	簿記一巡の手続と財務諸表、現預金取引
4から6	商品売買
7から8	特殊商品売買1
9から10	特殊商品売買2
11から12	手形取引、引当金
13から14	有価証券取引、債権債務取引、税金
15から16	有形固定資産、無形固定資産、繰延資産
17から19	株式の発行・減資、合併と買収、剰余金処分
20から22	決算手続(精算表と財務諸表)
23から24	本支店会計
25から27	帳簿組織
28から30	総合問題

【評価方法】

出席状況、ミニテスト、試験などにより総合的に評価する。

【テキスト】

新検定簿記講義2級商業簿記(加古宜士・渡部裕巨・片山覚【編著】中央経済社)

【参考文献・資料】

新検定簿記ワークブック2級商業簿記(加古宜士・渡部裕巨・片山覚【編著】中央経済社)

工業簿記

三浦克人

【授業の概要】

製造業における製造過程を貨幣額によって記録・計算・整理する簿記が工業簿記であり、その中心は原価の算定にある。工業簿記の基本的仕組みを理解し、記帳技術を習得する。

【授業の目標】

この授業の目標は、(1) 日商簿記検定2級(工業簿記)の範囲のうち、以下の授業計画に示す部分を習得すること、(2) 関連科目である原価計算や管理会計の履修のための基礎を固めることにある。

【授業計画】

1. 工業簿記とは
2. 工業簿記と原価計算
3. 工業簿記の構造
4. 材料費の計算
5. 労務費の計算
6. 経費の計算
7. 製造間接費の計算と処理(1)
8. 製造間接費の計算と処理(2)
9. 部門費の計算(1)
10. 部門費の計算(2)
11. 個別原価計算(1)
12. 個別原価計算(2)
13. 個別原価計算(3)
14. まとめ
15. 期末試験

【評価方法】

出席状況、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

別途指定する。テキストにしたがって講義をすすめるので、必ず購入すること。

財務会計 II

石川雅之

【授業の概要】

企業が財務諸表を作成するうえで従わなくてはならない会計処理上の諸規則について、まずその基本的な考え方を学習するとともに、なぜそうした規則が必要であるのか、どのような課題もしくは問題点があるのかを理解する。次に財務諸表の作成・表示に係る諸規則を学習し、現代会計制度についての理解を深める。

【授業の目標】

現代財務会計制度の基礎的な知識を身に付けるとともに、制度を支えるさまざまな会計ルールの基本的な考え方を理解すること。

【授業計画】

1. 負債の概念
2. 流動負債と固定負債
3. 資本の概念
4. 株式と資本
5. 資本と評価替え
6. 損益会計
7. 経常損益
8. 特別損益
9. キャッシュフロー計算書
10. 財務諸表の注記
11. 連結財務諸表I
12. 連結財務諸表II
13. まとめ

【評価方法】

筆記試験により評価する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

会計法規集

財務会計 I

石川雅之

【授業の概要】

取引の記録から財務諸表の作成に至る一連の手続についての理解を深め、現代の企業会計の基本的な考え方を学習する。そして、現代の会計制度がどのような考え方に基づいて形成されているのか、また現実の経済社会においてどのような役割を果たしているのかを学習する。

【授業の目標】

現代財務会計制度の仕組みについての基礎的な知識を身に付けるとともに、制度の背後にある基本的な考え方を理解すること。

【授業計画】

- 1) 財務会計の意義と役割
- 2) 企業会計の技術的構造
- 3) 企業会計の理論的構造
- 4) 企業会計制度
- 5) 会計基準
- 6) 財務諸表の様式
- 7) 資産の概念
- 8) 資産の評価
- 9) 流動資産
- 10) 有形固定資産
- 11) 無形固定資産
- 12) 繰延資産
- 13) 資産会計のまとめ

【評価方法】

筆記試験により評価する

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

機会があれば会計法規集(特に「企業会計原則」に目を通して下さい。)

原価計算

三浦克人

【授業の概要】

製造業において製造された製品が1個いくらであるかを知ることはそれほど容易ではない。製品の製造過程において生じた原価を集計する手続きが原価計算であるが、原価の発生をどのように認識・記録するか、そしてそれをどのように集計するのかについて考察する。

【授業の目標】

この授業の目標は、(1) 日商簿記検定2級(工業簿記)の範囲のうち、以下の授業計画に示す部分を習得すること、(2) 関連科目である管理会計などの履修のための基礎を固めることにある。

【授業計画】

1. 工業簿記と原価計算の基礎
2. 総合原価計算(1)
3. 総合原価計算(2)
4. 総合原価計算(3)
5. 総合原価計算(4)
6. 標準原価計算(1)
7. 標準原価計算(2)
8. 標準原価計算(3)
9. 標準原価計算(4)
10. 直接原価計算(1)
11. 直接原価計算(2)
12. 直接原価計算(3)
13. 直接原価計算(4)
14. 営業費の計算・工場会計の独立
15. 期末試験

【評価方法】

出席状況、授業中に行う小テスト、期末テストを総合して評価する。

【テキスト】

別途指定する。テキストにしたがって講義を進めるので、必ず購入すること。

【参考文献・資料】

この授業には「工業簿記」の知識が必須である。よって、受講登録にあたっては「工業簿記」を履修済みであることを条件とする。

管理会計 I

吉村文雄

【授業の概要】

企業は資源の効果的・効率的な運用を図るため、貨幣額によってこれを測定・評価し、そのデータをもとにさまざまな意思決定を行わなければならない。しかも、企業経営には実績情報だけでなく予測情報も必要不可欠であります。こうした情報を適切に把握し、分析するための基本的な考え方を学習します。

【授業の目標】

管理会計IIの学習に役立つように基礎知識の習得に努めます。したがって、引き続き管理会計Iを受講されることを希望します。なお、経済のグローバル化に伴いアメリカのみならずわが国でも近年ホスピタリティ・マネジメント会計（病院会計や福祉やホテル・レストランの会計）の必要が高まっておりますので、今年度はこの会計システムについても説明します。

【授業計画】

以下の要領で講義を進めます。

1. 管理会計の枠組み
Anthonyの枠組みその他
2. 戦略とは何か
戦略的計画について、各種の事例を紹介しながらわかりやすく説明します。
3. マネジメント・コントロールとは何か
管理会計との関係を説明し、会計の意義と限界を明らかにします。
4. オペレーショナル・コントロールとは何か
原価計算基準を比較的详细に解説するなかで、標準と標準原価についてその意義と限界について説明します。
5. 企業経営のコントロール
予算管理の構造と機能を明確に説明します。
6. 財務会計の概要
貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書などを、CVP分析と財務比率分析の展開の基礎として概説します。
7. CVP分析
損益分岐点分析とその応用については、ビジネスの教養として不可欠ですので懇切丁寧に説明します。
8. 財務比率分析

【評価方法】

講義の出席状況と中間試験・期末試験等を含めて総合的に評価します。期末試験では、自筆ノート、配布物、教科書および電卓の持ち込み可。配布コピー類以外の持ち込みは禁止。

【テキスト】

上巻進他『管理会計の基礎』（税務経理協会）を使いますが、適宜プリントを配布します。

【参考文献・資料】

講義中に随時指示します。講義内容に関する質問は、講義中および終了後の休憩時間内に受け付けます。

監査論 I

前川三喜男

【授業の概要】

現代の株式会社制度を支える一つの制度として、専門的な能力を有する独立の第三者による財務諸表の検証とその結果報告が求められている。それが会計監査である。本講義では、公認会計士による財務諸表監査の目的や制度についての基本的な知識を学習する。

【授業の目標】

監査の基本を理解する。

【授業計画】

- 第1回 監査の意義
- 第2回 監査の種類
- 第3回 会計士監査の歴史の展開
- 第4回 監査とディスクロージャー
- 第5回 監査制度1
- 第6回 監査制度2
- 第7回 監査人の資格と要件
- 第8回 公認会計士制度
- 第9回 監査人の職業倫理
- 第10回 監査人の独立性
- 第11回 監査人が負うべき法的責任
- 第12回 不正・違法行為と監査人の義務
- 第13回 粉飾決算と訴訟
- 第14回 監査基準の必要性
- 第15回 まとめ

【評価方法】

概ね授業4回ごとに学習した内容に関するテスト（10～15分程度）を実施し、合計3度のテストの結果で評価する。

【テキスト】

なし
レジメで対応

管理会計 II

吉村文雄

【授業の概要】

企業や組織のコントロールと問題解決に役立つ情報にはどのようなものがあるか。たとえば、社会制度に基づいて意思決定、資源および計画化のシステムをどのように設計するのか、またそのシステムが実際にどのように利用されるのかを考察します。さらに、会計データをコントロールと問題解決に役立たせるための合理的な方法にどのようなものがあるのか、また情報システムをどのように設計すべきかということについても検討します。

【授業の目標】

前期（管理会計I）で管理会計の特徴を踏まえた管理会計技法を、後期で実践的な個別管理会計技法を説明するので、ここでは個別具体的な管理会計技法の特性を把握することを目標にします。制度的な計算システムをつかむことによって、それが実際にいかなる目的のためにどのように利用されるかを理解できるようにするとともに、理論と実践との違いをはっきりと把握できるようにします。グローバル化経済のなかでの最新の会計システムが成果主義の業績評価とどのように結びつくのかという点についても明らかにします。

【授業計画】

前半で管理会計システムがコントロールと問題解決のハイブリッドシステムとして発展してきたことを説明し、後半で実践的な管理会計技法の構造と機能を把握するとともに、財務諸表分析の管理的意義を検討します。

概ね、以下の順に講義します。

1. 企業会計とは何かーフレームワーク
（1）基本的会計概念 （2）会計の分野 （3）現金管理の仕方 （4）減価償却費とは何か （5）原価の考え方ー貢献差益分析（ホテル企業と繊維企業との比較）
（6）経営診断の手段ー財務比率
2. 私たちまたは組織が有意義な生活を過ごすために必要な心得
（1）設備の投資問題（資本コスト、貨幣の時間価値等）
（2）倫理と管理
ベンチマーキング、リーダーシップ、会計責任、利害対立の回避、販売価格の決定と公正性、正直な財務報告等
3. ストックオプションの問題
（1）スターバックス物語と日本版SOX法
（2）コーポレート・ガバナンスの収斂ーアジアでの収斂に向けて

【評価方法】

講義の出席状況と中間試験・期末試験等の結果によって総合的に評価します。自筆ノート、配布物、教科書および電卓の持ち込み可。配布コピー類以外の持ち込み禁止。

【テキスト】

上巻進他『管理会計の基礎』（税務経理協会）を使いますが、適宜プリントを配布します。

【参考文献・資料】

講義を進めるなかで示します。授業中に質問を受け付けます。

監査論 II

前川三喜男

【授業の概要】

財務諸表の適正性を判断するためにどのような手続きが必要とされるのかについて、監査基準を中心として学習する。また、会計士監査における課題や問題点を取り上げ、監査の本質についての理解を深める。

【授業の目標】

監査の基本を理解するとともに監査実務についても修得する。

【授業計画】

- 第1回 監査契約
- 第2回 予備調査
- 第3回 監査計画
- 第4回 内部統制
- 第5回 リスク・アプローチ
- 第6回 実証的監査手続
- 第7回 実査
- 第8回 立会
- 第9回 確認
- 第10回 監査調査
- 第11回 監査結果
- 第12回 監査意見の形成

【評価方法】

概ね授業4回ごとに学習した内容に関するテスト（10～15分程度）を実施し、合計3度のテストの結果で評価する。

【テキスト】

なし
レジメで対応

経営分析 I

藤原英賢

【授業の概要】

企業が公表する財務諸表を中心とする会計情報は企業についての重要な情報の一つである。会計情報から企業の成績を把握するために必要な基本的な技法を学習する。

【授業の目標】

現在の経済社会では、企業との関係を切り離すことはできない。様々な立場から企業の財政状態や経営状況を財務諸表情報によって分析する手法としての経営分析を学習し、理解することが本授業の目的である。

【授業計画】

1. 財務諸表分析の概要
2. 財務報告とその分析1 (財務諸表分析の基本的なモデル)
3. 財務報告とその分析2 (財務会計の基本的な概念)
4. 財務報告とその分析3 (収益概念と公正価値会計)
5. 会計分析と利益マネジメント
6. 財務活動の会計分析1 (リースと退職給与を中心に)
7. 財務活動の会計分析2 (株主持分を中心に)
8. 投資活動の会計分析1 (流動資産を中心に)
9. 投資活動の会計分析2 (棚卸資産と固定資産を中心に)
10. 投資活動の会計分析3 (投資有価証券と企業結合を中心に)
11. 投資活動の会計分析4 (デリバティブ商品を中心に)
12. 営業活動の会計分析1 (収益概念を中心に)
13. 営業活動の会計分析2 (特別損益項目を中心に)
14. キャッシュ・フロー分析

【評価方法】

授業中に行う小テスト4回(40%)、最終試験1回(60%)で評価する。

【テキスト】

配布するレジюмеに従って授業を行う。

【参考文献・資料】

- ・財務会計・入門 第5版—企業活動を描き出す会計情報とその活用法 (桜井久勝, 須田一幸) 有斐閣
- ・最新財務諸表論第11版 (武田隆二) 中央経済社
- ・財務会計 財務諸表分析の基礎 第5版 (斎藤静樹編) 有斐閣
- ・企業分析入門第2版 (斎藤静樹監訳) 東京大学出版会

会計学特論 I

杉本典之

【授業の概要】

21世紀になって「会計ビッグバン」と俗称される企業会計の大変革が進行中である。つまり、会計基準は国際会計基準との共通化が進展するとともに、国内では会社法等の制定・施行にともなって会計基準の再編が進行しつつある。本講義では、変貌しつつある会計基準を中心に解説し、現代会計制度に対する理解をより深いものとする。

【授業の目標】

情報システムとしての企業会計は、大別して、会計測定のプロセスと会計伝達のプロセス (及び会計監査のプロセス) から成り立っている。会計学特論Iでは、主として会計測定のプロセスに焦点を合わせて企業会計の汎用性と重要性を理解するように努めたい。

【授業計画】

- 下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明する。
1. 株式会社会計を典型とする企業会計
 2. 情報システムとしての企業会計
 3. 企業会計の基本的構造と会計基準の位置づけ
 4. 会計測定の基本的構造と会計基準
 5. 勘定記録と会計情報

【評価方法】

授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

【テキスト】

- 各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する予定。
 会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近— (杉本典之著 同文館)
 キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題— (杉本典之・洪慈乙共著 東京経済情報出版)

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。
 必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。

経営分析 II

藤原英賢

【授業の概要】

経営分析 I の内容を踏まえ、財務諸表情報に基づく分析手法を学習する。ここで学ぶ分析手法は、(1)ROA等、(2)流動性、(3)安全性、(4)予測分析である。これらを用いて現実のように利用できるかを、(a)倒産分析、(b)企業買収をケースとして学習する。

【授業の目標】

実践的かつ高度な経営分析の手法を身に付け、実際に身近な企業を客観的かつ詳細に分析できるようになること。

【授業計画】

1. ROA, ROIC, RNOAの分析
2. ROCEの分析と予測分析
3. 残余利益モデルと短期予測
4. 流動性分析の方法
5. 安全性分析と資本構成
6. 負債の格付け
7. 利益の持続性
8. 利益予測について
9. 株式分析について
10. 倒産分析について
11. 企業買収について

【評価方法】

授業中に実施する小テスト5回(50%)、最終試験1回(50%)で評価する。

【テキスト】

配布するレジюмеに従って授業を行う。

【参考文献・資料】

- (1)財務会計 財務諸表分析の基礎 第5版(斎藤静樹編)有斐閣
- (2)企業分析入門 第2版(斎藤静樹監訳)東京大学出版会
- (3)財務諸表分析 第3版(桜井久勝)中央経済社

会計学特論 II

杉本典之

【授業の概要】

企業活動が多様化しグローバル化の中で、より迅速なディスクリージャー、企業グループ全体についての会計情報、資金に関する情報、企業の現在価値に関する情報など、企業に求められる会計情報の内容や質も多様化している。本講義では企業会計に求められる課題や制度上の最近の動向を取り上げる。

【授業の目標】

情報システムとしての企業会計は、大別して、会計測定のプロセスと会計伝達のプロセス (及び会計監査のプロセス) から成り立っている。会計学特論IIでは、主として会計伝達のプロセスに焦点を合わせて企業会計の汎用性と重要性を理解するように努めたい。

【授業計画】

- 下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明する。
1. 情報システムとしての企業会計
 2. 会計情報を搬送する決算財務諸表
 3. 決算財務諸表をめぐる会計基準
 4. 会計基準の国際的調和化
 5. 各国の会計基準と国際会計基準

【評価方法】

授業中に実施する複数回のテストやレポートの成績と、学期末試験の成績とを総合して評価する予定。

【テキスト】

- 各種の教材や下記の拙著のコピーを印刷物にして配布する予定。
 会計理論の探究—会計情報システムへの記号論的接近— (杉本典之著 同文館)
 キャッシュフロー計算書—その国際的調和化の現状と課題— (杉本典之・洪慈乙共著 東京経済情報出版)

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。
 必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、授業中に具体的に紹介・教示するだけでなく、学生の皆さんからの積極的な問い合わせにも答えたい。

法人税法 I

中村泰敏

【授業の概要】

法人税法の理論・仕組みについて解説し、法人税の課税標準（課税所得）の計算構造を理解する。個々の課税ベースについて解説し、法人税法の全体像を理解する。

【授業の目標】

最終的には法人税の課税標準である「所得」及び「税額」を計算することを目標に、「所得」を計算するに当たっての「益金の額」「損金の額」について、演習問題を取り入れ解説し、法人税法の仕組みを理解する。

【授業計画】

次の項目について説明し、法人税法IIに繋げる。

- 1 法人税のあらまし
- 2 総則
- 3 法人税法上の所得
- 4 損益の帰属①（収益の計上時期）
- 5 損益の帰属②（費用・損失の計上時期）
- 6 損益の帰属③（収益・費用の帰属事業年度の特例）
- 7 棚卸資産
- 8 減価償却①（減価償却資産の範囲、減価償却資産の取得価額）
- 9 減価償却②（償却限度額の計算、耐用年数、少額減価償却資産）
- 10 減価償却③（特別償却）
- 11 繰延資産の償却
- 12 役員給与等①（役員範囲、役員給与の損金不算入）
- 13 役員給与等②（特殊支配同族会社の役員給与の損金不算入）
- 14 役員給与等③（過大な使用人給与の損金不算入、経済的利益）
- 15 期末試験

【評価方法】

授業への出席状況及び学期末試験の成績を総合して評価する予定。

【テキスト】

演習法人税法 平成21年版（社団法人全国経理教育協会編 清文社）

【参考文献・資料】

図解法人税 平成20年版（田口雄編 財団法人大蔵財務協会）

国際会計

田代樹彦

【授業の概要】

これまで、国際的に資金調達を行う企業は、資金調達を行うそれぞれの国の会計基準に準拠して財務諸表を作成することが求められていた。しかし、このような状況は、財務諸表の作成者たる企業および利用者である投資家双方に、問題に直面させることになった。そこで、世界的に共通の会計基準を適用しようという動きが進められ、21世紀にはいって、それが現実のものとなりつつある。本講義では、このような会計基準を取り巻く国際的な動向について取り上げていく。

【授業の目標】

会計基準の国際的統合化の歴史的、経済的背景、国際会計基準審議会の活動及び国際会計基準、日本を含めた主要国の対応の理解、並びに今後の日本の会計制度の在り方の検討

【授業計画】

- (1) 国際会計の意義：国際会計の意義・主要研究領域
- (2) 国際的な財務報告と会計基準の国際的調和化：企業活動の国際化と財務報告、会計基準の多様性の要因とその問題点、会計基準の国際的統合化の推進主体
- (3) 国際会計基準審議会と国際会計基準：国際会計基準審議会、国際会計基準の概要、概念フレームワーク
- (4) アメリカと国際会計基準：アメリカの会計制度の特徴・統合化への対応
- (5) EUと国際会計基準：EU主要国の会計制度の特徴・統合化への対応
- (6) 日本の会計制度と国際会計基準：日本の会計制度の特徴、統合化への対応
- (7) その他の国々の会計制度と国際会計基準：その他の国の会計制度の特徴、統合化への対応

【評価方法】

平常点(40%)レポート等の課題（60%）

【テキスト】

ジョージ・ベンストン、他著『会計制度改革への挑戦』税務経理協会
伊藤秀俊編著『会計グローバリズムと国際政治会計学』創成社

【参考文献・資料】

開講時に指示する。

法人税法 II

中村泰敏

【授業の概要】

法人税の課税標準である「所得」の計算に当たっての「損金の額」「税額計算」について解説し、法人税法を理解したうえでの申告書の作成等、実践的な知識を修得する。

【授業の目標】

最終的には法人税の課税標準である「所得」及び「税額」を計算することを目標に、「損金の額」「税額計算」について、演習問題を取り入れ解説する。更に最近話題となっている「企業組織再編税制」について解説し、法人税法の理解を深める。

【授業計画】

法人税法Iの続きとして次の項目について説明する。

- 1 租税公課等
- 2 寄附金
- 3 交際費等①（交際費等の範囲）
- 4 交際費等②（交際費等と類似費用との区分）
- 5 貸倒損失と貸倒引当金
- 6 圧縮記帳
- 7 受取配当等の益金不算入
- 8 有価証券の譲渡損益・時価評価損益
- 9 その他の損益
- 10 別表四と五（一）の作成方法（税効果会計と申告調整）
- 11 税率（同族会社と留保金課税）
- 12 税額控除（所得税額の控除・外国税額の控除）
- 13 申告と納税（連結納税）
- 14 企業組織再編税制
- 15 期末試験

【評価方法】

授業への出席状況及び学期末試験の成績を総合して評価する予定。

【テキスト】

演習法人税法 平成21年版（社団法人全国経理教育協会編 清文社）

【参考文献・資料】

図解法人税 平成20年版（田口雄編 財団法人大蔵財務協会）

英文会計

平賀正剛

【授業の概要】

会計、パソコン、英語が「ビジネス三種の神器」と言われているそうです。「財務諸表はわかる」、「英語はできる」という人はいても、「英語の財務諸表がわかる!」という人は少ないでしょう。でも、もしそれができれば、就職に断然有利!…かもしれないですね。この授業では、そんな「金棒を持ちたい鬼」の方のために、英文会計の基礎を一緒に勉強していきます。

【授業の目標】

まずは英語の財務諸表のおよその意味が理解できるようになることを目標としたいと思います。丁寧に進めますので、その点は心配いりません。

【授業計画】

- 第1回 イン트로ダクション（授業の進め方、評価方法などに関する説明）
- 第2回 英文貸借対照表を読んでみよう(1)
- 第3回 英文貸借対照表を読んでみよう(2)
- 第4回 英文貸借対照表を読んでみよう(3)
- 第5回 英文貸借対照表を作ってみよう(1)
- 第6回 英文貸借対照表を作ってみよう(2)
- 第7回 英文損益計算書を読んでみよう(1)
- 第8回 英文損益計算書を読んでみよう(2)
- 第9回 英文損益計算書を読んでみよう(3)
- 第10回 英文損益計算書を作ってみよう(1)
- 第11回 英文損益計算書を作ってみよう(2)
- 第12回 英文キャッシュフロー計算書を読んでみよう
- 第13回 英文監査報告書を読んでみよう
- 第14回 まとめと試験前の質問
- 第15回 試験

【評価方法】

平常点（出席および授業中の提出物など）50%、期末試験50%で評価します。

【テキスト】

適宜プリントを配布します。ただし、授業で用いるので次の辞書を購入してください。
新井清光編著『英和・和英会計経理ハンディ辞典』中央経済社。

会計実務 I

中村雅文

【授業の概要】

会計実務上のさまざまな知識や技能を修得することを目的とする。具体的には企業の経理を行う上で必要な帳簿の作成や伝票の処理などの実践的な知識や技能のほか、関係法令の知識を学ぶ。

【授業の目標】

企業の会計実務、即ち、日常的な会計処理業務から決算処理業務に至るまでの具体的な実務を勉強する。授業では簿記の処理技術だけではなく関係する法令との係わりや解釈を分かりやすく説明する。授業を通じ、企業会計（株式会社会計）を理解し、決算書を読めるようにする。

【授業計画】

1. 複式簿記の概要
2. 会計報告書の概要
 - ①財務諸表とは
 - ②会計基準とは
3. 資産会計の実務
 - ①資産評価の会計実務
 - ②固定資産の会計実務
 - ③繰延資産の会計実務
4. 負債会計の実務
 - ①引当金の会計実務
 - ②偶発債務の実務

【評価方法】

出席状況、レポート、授業中に実施する小テスト、期末テストを総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

会計学入門（千代田邦夫著 中央経済社刊）

【参考文献・資料】

最初の講義で指示する。

租税法 I

糟谷修

【授業の概要】

わが国の租税法の基礎的な内容がどのようなものであるか解説する。租税法体系や租税理論及び歴史の変遷を概観し、更に今後の税制の課題についても言及する。その後、実定法としての所得税法の概要を理解させる。

【授業の目標】

わが国の租税法の成り立ちや、その基になっている租税理論を知ることにより租税法の基本原則を修得する。また、身近な税としての所得税を取りあげ、現実の租税法の規定の内容を理解する。

【授業計画】

下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明し、租税法IIへの橋渡しを目指す。

- (1) 租税法の概要
- (2) 租税法体系
- (3) 租税理論
- (4) わが国の租税制度の変遷
- (5) 今後の税制における課題
- (6) 所得税法の概要

【評価方法】

授業への出席状況及び学期末試験の成績を総合して評価する予定。

【テキスト】

図説 日本の税制 平成20年度版（川上尚貴編著 財経詳報社）

会計実務 II

中村雅文

【授業の概要】

会計実務上のさまざまな知識や技能を修得することを目的とする。具体的には企業の経理を行う上で必要な財務諸表の作成やその他法令で必要とされる書類の作成に係る知識や技能を学ぶ。

【授業の目標】

この授業では、企業（株式会社）の日常において起きるであろう経営上の問題が会計実務にどのように関わってくるのかを考察する。また、それは当該企業単独の立場からだけでなく、連結経営という視点から見た場合にはどうなるのか、といった方向からも研究する。

【授業計画】

1. 原価計算の概要
2. 会計組織と内部統制
3. 株式会社の税金
 - ①法人税の概要
 - ②その他法人に係る税金
 - ③税効果会計の実務
4. 連結会計
5. ディスクロージャーと会計
6. 監査とは

【評価方法】

出席状況、レポート、授業中に行う小テスト、期末テストを総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

基本書として「会計学入門」（千代田邦夫著 中央経済社刊）

【参考文献・資料】

最初の講義で指示する。

租税法 II

糟谷修

【授業の概要】

わが国の租税法の基礎的な内容がどのようなものであるか解説する。実定法としての法人税法やその他の税法の概要を解説し、租税法がどのようなことを規定の対象としているかを理解させる。

【授業の目標】

わが国の租税法のうち、法人税法、相続税法、消費税法、地方税法などの概要を把握し、現行法規定内容のあらましを修得する。更にわが国の国際租税制度についてもその概要を理解する。

【授業計画】

租税法Iの続きとして下記の事項をそれぞれ複数回に分けて説明する。

- (1) 法人税法の概要
- (2) 相続税法の概要
- (3) 消費税法の概要
- (4) 地方税法の概要
- (5) 国税の徴収手続等
- (6) 国際租税制度の概要

【評価方法】

授業への出席状況及び学期末試験の成績を総合して評価する予定。

【テキスト】

図説 日本の税制 平成21年度版（川上尚貴編著 財経詳報社）
（平成21年7月刊行予定。編著者は変更する場合あり）

マクロ経済学 I

大浜賢一朗

【授業の概要】

消費、投資、物価、所得などのマクロ経済変数の分析を通じて、一国の経済全体の動きを理論的に把握、検討する。

【授業の目標】

本講義は、マクロ経済学の基本的な概念・用語・理論を習得し、マクロ経済学Ⅱの基礎となることを目標とする。

【授業計画】

1. マクロ経済学はどんな学問でしょうか？
2. マクロ経済学と日本経済
3. GDP
4. 消費と貯蓄
5. 企業の投資
6. 政府の支出
7. 総需要の経済学
8. 金融市場の分析

【評価方法】

成績評価は定期試験で行う。

【テキスト】

基礎からわかるマクロ経済学（第2版）（家森信善著 中央経済社）、2007年

【参考文献・資料】

入門 マクロ経済学（第5版）（中谷巖著 日本評論社）、2007年
試験攻略新経済学入門塾 1 マクロ編（石川秀樹著 中央経済社）、2007年
その他は講義中に適宜、紹介する。

マクロ経済学 II

大浜賢一朗

【授業の概要】

マクロ経済でよく扱われる理論を解説する。具体的には、マクロ経済学の理論体系を短期と長期の理論に分けて整理し、経済全体の動向と経済政策の関係を分析する。

【授業の目標】

本講義ではマクロ経済学Ⅰの知識を前提として講義を行う。したがって、本講義の受講希望者は、マクロ経済学Ⅰを履修・修得するか、以下を理解しておくことが望ましい。

GDP、GDPの三面等価、有効需要の原理、GDPの決定（45度線分析）

本講義の目標は、現実の経済問題とその処方箋を理解することや、経済学が試験科目に課せられている各種資格試験に対応できるだけの知識を身につけることである。

【授業計画】

1. GDPの概念
2. 物価指数
3. マクロ経済分析の基本的枠組み－短期と長期－
4. 短期モデル
 - 4-1. GDPの決定
 - 4-2. 貨幣市場
 - 4-3. IS-LM分析と財政金融政策
5. 短期モデルと長期モデルの比較
6. 長期モデル
 - 6-1. 物価水準の決定
 - 6-2. インフレーションと失業
 - 6-3. 経済成長の理論

【評価方法】

定期試験で評価を行う。

【テキスト】

入門マクロ経済学（第5版）（中谷巖著 日本評論社）、2007年

【参考文献・資料】

講義中に適宜、紹介する。

金融論

藤井正志

【授業の概要】

資金循環勘定と企業の資金調達、直接金融・間接金融に係る金融仲介機関の機能、金融市場と金利等、金融の役割・仕組みについて論ずる。

【授業の目標】

経済紙、経済雑誌の経済・金融記事を理解するのに必要なマクロ経済・金融の基礎知識を修得すること（詳細は授業にて解説する）。

【授業計画】

- 第1講 経済と金融の関係
- 第2講 金融市場の分析
- 第3講 IS-LMモデル
- 第4講 IS-LMモデルの計算問題
- 第5講 短期金融市場と金利
- 第6講 日本の金融政策
- 第7講 銀行の機能
- 第8講 証券会社の機能
- 第9講 銀行融資の実務
- 第10講 中小企業の資金調達と信用補完制度
- 第11講 銀行経営
- 第12講 金融システム安定化政策
- 第13講 期末試験

【評価方法】

期末試験とミニテストにより総合的に評価する(評価の詳細については授業にて説明する)。

【テキスト】

共有ファイルから各自レジユメを印刷する。

【参考文献・資料】

はじめて学ぶ金融の仕組み・第2版（家森信善著 中央経済社）
基礎からわかるマクロ経済学・第2版（家森信善著 中央経済社） 他

ミクロ経済学 I

薛進軍

【授業の概要】

この授業では世界中でよく使われているテキストの決定版、マンキューのミクロ経済学の第2版を利用し、ミクロ経済学の基礎を教える。また、経済学の原理に基づいて食料価格の変動からアメリカ発の世界金融危機まで皆さんの目で見られる経済現象を解説する。

【授業の目標】

経済学の勉強は経済問題を分析するための分析道具(Tools)の勉強である。ミクロ経済学は経済学の道具ボックス(Tool box)の中でもっとも基本的な道具であり、ほかの経済学科目をよく理解するための基礎である。この授業では、経済分析道具としてのミクロ経済学の主な理論を勉強し、日常生活を含む経済現象の分析が出来ることが目標とする。

【授業計画】

1. 経済学の十大原理
(ケース・スタディ：市場経済はどう動いているのか)
2. 経済学の概念と方法
(ケース・スタディ：幸せを数学式で表示できるのか)
3. 需要と供給
(ケース・スタディ：ものは安くすればよく売れるのか)
4. 蜘蛛の巣理論
(ケース・スタディ：誰の手で市場を翻弄しているのか)
5. 限界効用・無差別曲線
(ケース・スタディ：ハンバーグはいくつ食べても美味しいのか)
6. 消費者余剰
(ケース・スタディ：ものを安く買ったらお得と思われるのか)
7. 国際貿易
(ケース・スタディ：何故日本は中国から農産物を輸入しているのか)
8. 外部不経済
(ケース・スタディ：何故環境問題が発生するのか)
9. 課税と租税
(ケース・スタディ：なぜタバコ税は高いのか)
10. 質疑答え

【評価方法】

出席状況と定期試験で総合勘案する。

【テキスト】

N.グレゴリー マンキュー『マンキュー経済学〈1〉ミクロ編』東洋経済新報社、第2版、2005年。
注：この教科書は後期のミクロ経済学Ⅱでも利用する予定である。

【参考文献・資料】

茂木喜久雄著『ミクロ経済入門』週刊住宅新聞社、2005年。

ミクロ経済学 II

薛 進軍

【授業の概要】

世界中でよく使われているテキストの決定版、マンキューのミクロ経済学の第2版を利用し、ミクロ経済学の基礎を教える。また、経済学の原理に基づいて食料価格の変動からアメリカ発の世界金融危機まで皆さんの目で見られる経済現象を解説する。

【授業の目標】

経済学の勉強は経済問題を分析するための分析道具(Tools)の勉強である。ミクロ経済学は経済学の道具ボックス(Tool box)の中でもっとも基本的な道具であり、ほかの経済学科目をよく理解するための基礎である。この授業では、経済分析道具としてのミクロ経済学の主な理論を勉強し、日常生活を含む経済現象の分析が出来ることが目標とする。

注: この授業は前期のミクロ経済学 I を引き続き、教科書の後半の部分を教える。

【授業計画】

1. 生産の費用
(ケース・スタディ: モノづくりには何か必要か)
2. 利潤の最大化
(ケース・スタディ: たくさんつくればたくさんの利益をもらえるのか)
3. 生産者行動
(ケース・スタディ: 企業はいくら生産すればよいのか)
4. 自由競争と市場均衡
(ケース・スタディ: 市場は万能なのか)
5. 独占
(ケース・スタディ: ブランド品の値段はなぜ高いのか)
6. 寡占 (ケース・スタディ: 石油の価格を誰が決めるのか)
7. 生産要素市場
(ケース・スタディ: なぜ就職氷河になったのか)
8. 所得分配
(ケース・スタディ: 経済格差はなぜ生じるのか)
9. 貧困と反貧困
(ケース・スタディ: ワーキングプアはなぜなのか)
10. 討論・質疑答え

【評価方法】

出席状況と定期試験で総合勘案する。

【テキスト】

N.グレゴリー マンキュー『マンキュー経済学〈1〉ミクロ編』第2版、東洋経済新報社、2005年。

注: この教科書は前期のミクロ経済学 I の教科書と同じものである。

【参考文献・資料】

茂木喜久雄著『ミクロ経済入門』週刊住宅新聞社、2005年。

ビジネスとファイナンス

細野義晴

【授業の概要】

経済のグローバル化と企業の海外進出、金融システム改革に伴い、資金の調達方法は多様化し、また、企業の財務戦略もバランスシートの管理、資金の運用、リスク管理と範囲が広がってきている。このような変化の中における企業のファイナンスの動きと内容をビジネスと関連づけて考察する。

【授業の目標】

企業をとりまく経営環境が変化するなかで、キャッシュフローやリスク管理の重要化、企業の資金調達や資金運用の変化、M&Aの多発など、大きく変わってきている企業をめぐるファイナンスの基礎的動向の理解を深める。

【授業計画】

1. 貨幣と貨幣の機能
2. 企業活動とファイナンスの役割
3. 企業以外の経済主体でのファイナンス (個人金融、国家財政)
4. 投資活動における現在価値と将来価値
5. 金融市場の分類と金利の理論
6. 金融機関の体系とその業務
7. 企業の資金調達1 (金融機関からの調達)
8. 企業の資金調達2 (債券市場からの調達)
9. 企業の資金調達3 (株式市場からの調達)
10. 企業の資金運用とその変化
11. 外国為替市場と国際的な資金の調達・運用
12. 企業活動でのリスクとその管理
13. M&A、ベンチャーファイナンス、など

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない (資料配布)。

【参考文献・資料】

1. コーポレートファイナンス入門 (砂川伸幸著、日経文庫)
2. 現代ファイナンス入門 (岸本・津森・阿部著、中央経済社)
3. 現代の財務管理 (榊原・菊池・新井著、有斐閣)

国際金融論

藤井正志

【授業の概要】

国際金融市場の生成と発展、累積債務問題の発生と国際金融に従事する銀行や投資家のリスクについて考察し、リスク管理の一手法としてのデリバティブの活用方法など、基礎と現実の動きを幅広く考察し今後の課題についても検討する。

【授業の目標】

経済紙、経済雑誌の経済・金融記事を理解するのに必要な国際金融の基礎知識を修得すること (詳細は授業にて解説する)。

【授業計画】

- 第1講 外国為替のしくみと貿易取引
- 第2講 国際収支の仕組み
- 第3講 経常収支の不均衡と国際金融
- 第4講 シンジケート・ローン
- 第5講 アジアの通貨・金融危機
- 第6講 アメリカの対外累積債務
- 第7講 サブプライム金融危機①
- 第8講 サブプライム金融危機②
- 第9講 外国為替相場の仕組み
- 第10講 為替レートの決定理論
- 第11講 為替リスクのヘッジ手段①
- 第12講 為替リスクのヘッジ手段②
- 第13講 デリバティブの計算問題
- 第14講 期末試験

【評価方法】

期末試験、ミニテストにより総合的に評価する(評価の詳細については授業にて説明する)。

【テキスト】

共有ファイルから各自レジユメを印刷する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

ファイナンス概論

三矢幹根

【授業の概要】

財務活動は人体の血液循環に相当する企業の生命線である。企業の血液であるキャッシュ・フローを核とした現代ファイナンス理論体系の基本概念を学習する。

現在価値や将来価値の理解に必要な指数や対数など基礎的な数学はその都度簡潔に復習し、数学が苦手でも支障はないように授業を進行する。高校の数学Iの基本的例題が解説を読めば理解できる程度、或いは、5段階評価で3以上なら全く問題はない。

この科目は将来、銀行、証券会社、投資顧問会社、企業の財務部など、ファイナンスの分野で活躍したい学生を念頭に構成している。

【授業の目標】

現代ファイナンス理論の重要項目を概念的に理解し、必要に応じてエクセルを活用して具体的な数値計算を体験することにより理解を更に深める。

【授業計画】

- (1)現在価値と将来価値
- (2)アニュイティとバベチユイティ
- (3)債券価格と株値の評価
- (4)正味現在価値NPVと内部収益率IRRによるプロジェクトの評価
- (5)投資のリスクとリターン
- (6)CAPMと効率的資本市場仮説
- (7)資本コストと企業価値評価
- (8)経済的付加価値EVA
- (9)資本構成、配当政策、自社株買いと企業価値
- (10)企業合併と買収 (M&A)
- (11)先物取引
- (12)スワップ取引
- (13)オプション取引①②項モデル
- (14)オプション取引②B Sモデル

【評価方法】

出席状況と復習小課題 (30%)、学期末試験の結果 (70%) で総合評価。

【テキスト】

しっかりわかるファイナンス (渡辺茂、中央経済社)
講義ノートを配布

【参考文献・資料】

ざっくりわかるファイナンス (石野雄一著、光文社新書)
チャートでわかる入門ファイナンス理論 (滝沢好夫、日本評論社)
コーポレートファイナンス 第8版 上下 (リチャード・ブリーリー他、日経BP社)

数理ファイナンス

三矢 幹根

【授業の概要】

数理ファイナンスはファイナンスの専門科目なので、最低限の数式の基礎的理解は必須であるが、主目的は厳密な数学的理解ではなく概念的な理解である。なぜなら、実社会でのビジネス実務では概念的理解さえ出来ていれば実際の計算はパソコンにやらせることができるからである。必要な具体的な計算はすべてエクセルの計算用ワークシートを配布するので、計算ができなくて困ることはない。尚、本科目は理工系向けの数理ファイナンスではなく、文系向けにカスタマイズしてある。

現在価値や将来価値などの理解に必要な指数や対数など基礎的な数学は必要に応じて適宜簡潔に復習し、数学が苦手でも支障がないように配慮して授業を進行する。高校の数学Iの基本的例題が解説を読めば理解できる程度、或いは、評価が5段階評価で3以上の数学力があれば問題ない。この科目は将来、銀行、証券会社、投資顧問会社、保険会社、企業の財務部など、ファイナンスの分野で活躍したい学生を頭脳に構成している。

【授業の目標】

数理ファイナンスの概念的な理解を主目的とするが、単にわかる(知識)だけでなくエクセルを最大限活用して具体的な数値計算を体験することにより実務レベルの仕事ができる(技能)ように、知識と技能を兼ね備えた「技術」を習得する。

【授業計画】

- (1) 金利と利回り、現在価値と将来価値
- (2) 利息先取りレートと後取りレート、1年360日か365日か、単利と複利
- (3) 表面金利と実効金利、連続複利、内部収益率IRRと正味現在価値NPV
- (4) アヌイティと債券の価格決定式、定額キャッシュフローの将来価値
- (5) 元利均等返済ローン型キャッシュフローの現在価値と将来価値
- (6) フォワード・レートとFRA
- (7) 円転コストと円投利回り
- (8) スワップとは何か、オフ・マーケット・スワップ
- (9) パー・レートからスポット・レートへ
- (10) 債券価格の金利感応度、マコーレイ・デュレーションと修正デュレーション
- (11) 債券価格の金利感応度、イミュニゼーション、コンベキシティ、BPV
- (12) 2項モデルによるオプションのプライシング
- (13) ブラック＝ショール・モデルによるオプションのプライシング

【評価方法】

出席状況と復習小宿題(30%)、学期末試験の結果(70%)で総合評価。

【テキスト】

証券アナリストのための数学再入門(金子誠一、ときわ総合サービス) 講義ノートを配布

【参考文献・資料】

ファイナンス数学の基礎(小林道正著、朝倉書店)
基礎から学べる投資・運用関連数式集(砺波元、金融財政事情研究会)
コーポレートファイナンス 第8版 上下(リチャード・ブリーリー他、日経BP社)

現代ビジネス事情 I

石井 均

【授業の概要】

米国発の金融危機により、現代は世界同時不況の様相を呈している。このような状況下、金融の激変を通じて、ビジネスはどう変わろうとしているのか。

この授業では、新聞の記事を中心に、現代のホットなニュース、案件に対し、随時取上げ、解説を加える。

現代のビジネス事情を読み取る力を得ることを、目標とする。

【授業の目標】

現在の経済状況を把握すること

【授業計画】

本講義において、事前に決められた計画はない。
ホットなニュース、案件など、随時、新しい事態を取り上げ、解説を加える。

【評価方法】

出席状況とレポートもしくは試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

プリント(新聞記事など)を適時配布する。

【参考文献・資料】

特になし

現代ビジネス事情 II

石坂 綾子

【授業の概要】

ヨーロッパ諸国の金融業を中心に、その基本的特徴を具体的事例を挙げて考察する。

【授業の目標】

グローバル化の進展によって、日本・アメリカ・ヨーロッパの三極を軸に、国境を超えた競争が激しくなっている。アメリカ・ヨーロッパ諸国の企業による日本への進出と日本企業の海外進出が相互に活発化している。アメリカ・ヨーロッパ諸国との関連トピックスを中心に、産業ごとの特徴について理解する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 銀行・証券・保険業(アメリカ・ヨーロッパ)
3. 鉄道業(ヨーロッパ)
4. 高級ブランド(ヨーロッパ)
5. 航空業(アメリカ・ヨーロッパ)
6. 旅客機メーカー(アメリカ・ヨーロッパ)
7. コンピューター産業(アメリカ)
8. 鉄鋼業(ヨーロッパ)
9. 自動車産業(アメリカ・ヨーロッパ)
10. 流通業(アメリカ・ヨーロッパ)
11. 通信業(アメリカ・ヨーロッパ)
12. 石油産業(アメリカ)
13. 食料品ビジネス(アメリカ・ヨーロッパ)

【評価方法】

単位認定レポートの成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。授業においてプリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業において適宜提示する。

銀行ビジネス論

石井 均

【授業の概要】

日本の金融は猛烈なスピードで変わっています。しかも、銀行や保険会社の相次ぐ破綻からもわかるように、金融の問題は私たちの生活に大きな影響を与えます。そこで、本講義では、はじめて金融を学ぶ学生を対象にして、大変革期にある日本の金融の仕組みを説明していきます。経済理論や金融理論はもちろん重要ですが、金融制度に関する知識や統計を正しく読む力なども身に付くように、講義を進めていきたいと思っています。また、金融の諸課題について、皆さんと一緒に考えていきたいとも考えています。

【授業の目標】

金融とは何か、貨幣や金利とは何か、株式や債券とは何かを学ぶ。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 序章-金融論で何を学ぶか
- 3 貨幣
- 4 金利
- 5 マクロ経済と金融政策
- 6 マクロ金融政策と日本銀行
- 7 日本の金融政策
- 8 金融システムの役割と日本の金融システムの特徴
- 9 金融仲介機関の役割と日本の銀行
- 10 銀行以外の金融機関
- 11 金融システムの安定化のための政策
- 12 伝統的な金融商品
- 13 市場性の金融商品
- 14 代表的な金融市場
- 15 試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

「はじめて学ぶ金融のしくみ」 家森信善著(中央経済社) ¥2000

【参考文献・資料】

特になし

証券ビジネス論

都島忠比古

【授業の概要】

日本版ビッグバン後、証券市場では変革が進みつつあり、また、グローバル化の中で証券ビジネスは質量とも変わってきている。そこで広範囲にわたる証券ビジネスを具体的に論ずるとともに、金融システムや市場の変化の中でどう変わっていくべきか、その背景と方向性についても考察する。

【授業の目標】

サブプライムローン問題に続く金融崩壊から米国では「投資銀行は死んだ」と喧伝されるが古典的な投資銀行業務の必要性はなくなっていない。特に経営戦略の一環としてのM&Aは混乱の時期にあつてなお進展している。MBOと再上場戦略については株価の正当性について近年、判例の積み重ねも始まっており、企業戦略の見直しが求められる例も出てきた。証券ビジネスの現場を見ることで、その重要性を理解し問題点を掴みたい。企業の社会的責任(CSR)等、企業社会の新たなテーマについても考察する力を養いたい。

【授業計画】

1. 貯蓄から投資へ
2. 発行市場と流通市場
3. 上場制度(形式審査と実質審査)
4. 上場準備の実際
5. ディスクロージャー制度とIR
6. 株式の評価と証券投資
7. ベンチャーキャピタルとIPO
8. 企業再編とM&A
9. M&A (2) (M&Aの実務)
10. MBO
11. 企業の社会的責任とSRI
12. ビッグバンと証券会社経営
13. IOSCOと証券行政

【評価方法】

レポートによる

【テキスト】

なし。授業の都度プリント配布

外国為替論

細野義晴

【授業の概要】

外国為替と外国為替相場に関する基礎的な概念・理論から今日の制度・為替政策、さらには経済への影響などに触れる。経済的なできごとや変化が外国為替相場にどう影響するか理解できるようにしたい。

【授業の目標】

毎日、ニュースで報道される外国為替に関する総合的な知識を身につけることを目指す。

【授業計画】

1. 外国貿易と外国為替の仕組み
2. 外国為替市場とその参加者
3. 外国為替相場の種類
4. 外国為替相場と国際収支
5. 外国為替相場決定の理論
6. 外国為替相場変動の影響
7. 外国為替相場政策と市場への介入
8. 外国為替取引のリスクとリスクヘッジ方法
9. 国際通貨体制の変遷(基軸通貨ドルの変遷)
10. 欧州の通貨統合とユーロの歩み
11. 人民元と新興市場通貨
12. 円の国際化とその動向
13. 国際金融市場とその変化

ただし、ホットなニュース、案件などがあるときは、随時、新しい事態に關し、解説を加える。

【評価方法】

単位認定試験の成績に出席状況を加味して評価する。

【テキスト】

使用しない(資料配布)。

【参考文献・資料】

外国為替のしくみ(小口幸伸著 日本実業出版社)
国際金融のしくみ(秦忠夫・本田敬吉著 有斐閣)

保険ビジネス論

跡部浩一

【授業の概要】

保険業法の基本事項を学習し、現代の経済活動において不可欠な生命・損害保険の意義と役割についての理解を深める。保険業法の法的解釈よりも、日常の経済活動を通じての保険の基本的な理解とその役割を中心に、その法的根拠としての保険業法の基本を解説する。

【授業の目標】

- (1) 生命保険・損害保険とは何か、保険の基礎知識の習得
- (2) 保険業法の概要とその今日的な意義・役割を習得
- (3) 以上を通じて、社会人として必要となる「リスク管理」と「保険と生命の大切さ」を習得する

【授業計画】

- 第1講 保険と保険業法の概要・授業のすすめ方
- 第2講 損害保険の基礎知識(1)・海外旅行傷害保険
- 第3講 損害保険の基礎知識(2)・自動車保険と自賠責保険
- 第4講 損害保険の基礎知識(3)・自動車保険と自賠責保険
- 第5講 損害保険の基礎知識(4)・火災保険と地震・台風
- 第6講 保険業法入門(1)・損害保険の中間整理
- 第7講 生命保険の基礎知識(1)・生命保険とは何か
- 第8講 生命保険の基礎知識(2)・生命保険商品と加入の留意点
- 第9講 保険業法入門(2)・損害保険と生命保険の違い
- 第10講 保険業法入門(3)・保険業法とは・保険会社とは
- 第11講 保険業法入門(4)・保険募集と業法
- 第12講 保険業法入門(5)・保険募集と契約者保護
単位認定試験

【評価方法】

1) 出席状況 2) レポート 3) 単位認定試験の成績 により、総合的に評価する
出席状況は、最高20点 レポート20点 単位認定試験は60点 合計100点で評価

【テキスト】

特定の教科書を教材には使用しない。講義ごとにレジメを配布する

【参考文献・資料】

参考資料・文献については、授業初日に明示する。

金融システム論

石坂綾子

【授業の概要】

中央銀行と金融政策、銀行と証券市場、国際的金融制度など金融システムについての基本的特徴をその機能と歴史的背景から考察する。

【授業の目標】

日本の金融システムの整備と金融自由化の進展について学ぶとともに、アメリカ・ヨーロッパ諸国が日本の金融システムにどのような影響を与えたのかを理解する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 日本の金融システム
 - (1) 金融システムの発展とその特徴
 - (2) 金融業務についての規制・慣行と変化
 - (3) 金融自由化 - 日本版金融ビッグバン -
3. アメリカの金融システム
 - (1) 大恐慌の教訓
 - (2) 金融システムの発展とその特徴
 - (3) アメリカ金融革命
4. ヨーロッパ諸国の金融システム
 - (1) イギリス - 国際金融市場とビッグバン -
 - (2) フランス - 国有化と公的金融 -
 - (3) ドイツ - ユニバーサルバンキングの展開 -
5. 1980・1990年代の金融世界
 - (1) バブルの陶醉と清算(1985～1994年)
 - (2) ボーダーレスマネー(1994年)
 - (3) 金融異変(メルトダウン)

【評価方法】

単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

特に指定しない。必要に応じてプリントを配付する。

【参考文献・資料】

金融システム(酒井良清・鹿野嘉昭著 有斐閣)
金融政策(酒井良清・鹿野嘉昭著 有斐閣)

金融工学

三矢幹根

【授業の概要】

数値ファイナンス (Mathematical Finance) という基礎理論を実務に適用する応用技術が金融工学 (Financial Engineering) であり、金融工学の2本柱は (1) 金融衍生品 (デリバティブ) の価格決定理論と (2) リスク評価・管理理論である。

金融工学はファイナンスの専門科目なので、最低限の数式による説明は必須となるが、主目的は決して厳密な数学的理解ではなく、概念的な理解である。なぜなら、実社会のビジネス実務では概念的な理解を土台でいけば実際の計算はパソコンにやらせることができるからである。実際の計算はエクセルの計算用ワークシートを配布するので計算問題で困ることはない。尚、本科目は数学を使用するが、理工系向けの金融工学ではなく、文系向けにカスタマイズしてある。

現在価値や将来価値の理解に必要な指数や対数など基礎的な数学は必要に応じて適宜簡潔に復習し、数学が苦手でも支障がないように配慮して授業を進行する。高校の数学1の基本的例題が解説を読めば理解できる程度、或いは、5段階評価で3以上ならば問題ない。この科目は将来、銀行、証券会社、投資顧問会社、保険会社、企業の財務部など、ファイナンスの分野で活躍したい学生を念頭に置き、ファイナンス実務で即役立つ内容で構成している。

【授業の目標】

金融工学の概念的な理解を主目的とするが、単にわかる (知識) だけでなくエクセルを最大限活用して具体的な数値計算を体験することにより実務レベルの仕事ができる (技能) ように、知識と技能を兼ね備えた「技術」を習得する。

【授業計画】

- (1) 金融工学とは何か、現在価値と将来価値 (単利)、利息先取りレートと後取りレート、1年360日か365日か
- (2) 現在価値と将来価値 (複利)
- (3) 実効金利と表面金利、連続複利
- (4) 正味現在価値NPVと内部収益率IRR
- (5) アニエティとバリエーションの現在価値と将来価値
- (6) 債券と株式の価格評価
- (7) 元利均等返済ローン型キャッシュフローの現在価値と将来価値
- (8) フワード・レートとFRA
- (9) 投資のリスクとリターン
- (10) 効率的フロンティアと資本市場線
- (11) CAPMと効率的市場仮説
- (12) 売却取引とは何か
- (13) スワップ取引とは何か
- (14) オプション取引とは何か
- (15) オプション戦略
- (16) オフ・マーケット・スワップのプライシング
- (17) 金利の期間構造
- (18) パー・レートからスポット・レートへ
- (19) スワップを活用した商品設計①
- (20) スワップを活用した商品設計②
- (21) 債券の金利感応度、マコーレイ・デュレーションと修正デュレーション
- (22) 債券価格の金利感応度、イミューゼーション、コンベクシティ、BPV
- (23) オプション2項モデル①期間モデル
- (24) オプション2項モデル②多期間モデル
- (25) オプションBSモデル
- (26) オプション修正BSモデル
- (27) ボラティリティ、デルタ、ガンマ、セータ、カッパ、ロー
- (28) オプションを使った商品設計

【評価方法】

出席状況と復習小宿題 (30%)、学期末試験の結果 (70%) で総合評価。

【テキスト】

証券分析への招待：高校数学からのアプローチ (宮崎浩一、サイエンティスト社)
キャッシュフローでわかる入門金融工学 (シンプレクステクノロジー、秀和システム)
講義ノートを配布

【参考文献・資料】

証券アナリストのための数学再入門 (金子義一、ときわ総合サービス)
ファイナンス数学の基礎 (小津重正、朝倉書店)
基礎から学べる投資・運用関連数式集 (朝倉元、金融財政事情研究会)
デリバティブの基本とカラクリがよ〜くわかる本 (藤崎達哉、秀和システム)
スワップの価格はどうして決まる (清水正俊、山田研夫、シグマベイスキャピタル)
コーポレートファイナンス 第8版 上下 (リチャード・フリーマン、日経BP社)

ファイナンシャルプランニング II

西部正巳

【授業の概要】

F Pの目的が、個々の生活者のライフプランの目標を実現するための夢の成就であるならば、それを支える体系的な且つ広範囲な知識の習得が必要不可欠となる。II では、I で学習した3分野以外のタックスプランニング、不動産、相続・事業承継などを取り上げて学習するほか、実務相談事例を通じて更に理解を深める。

【授業の目標】

所得税、住民税、贈与税、相続税、不動産、事業承継などF Pの中でも税金と関係の深い分野を中心に理解の習得に努め、前期「F P I」と合わせて国家資格である「3級ファイナンシャル・プランニング技能士」の資格取得を目標に置く。

【授業計画】

1. 所得の分類
2. 所得控除、税額控除、源泉徴収
3. 損益通算、繰越控除
4. 個人住民税、個人事業税
5. 不動産の見方、登記、契約
6. 不動産の取引
7. 法令上の規制
8. 取得・保有の税金、証券化
9. 贈与と税申告・納付
10. 相続と税申告・延納・物納
11. 評価減
12. 相続対策

【評価方法】

全出席日数の3分の2以上の出席と単位認定試験の総合評価

【テキスト】

FP教科書F P技能士3級完全攻略ガイド'08~'09年版 ((株)翔泳社)

【参考文献・資料】

2009年度版F P技能検定[3級学科・実技]試験対策マル秘ノート (近代セールス社)
最新版F P用語HANDBOOK (近代セールス社)

ファイナンシャルプランニング I

西部正巳

【授業の概要】

ファイナンシャルプランニングの目的が、個々の生活者のライフプランの目標を実現するための夢の成就であるならば、それを支える体系的な且つ広範囲な知識の習得が必要不可欠となる。I では、学習する6分野のうち、ライフプランと資金計画、公的年金、金融資産の運用設計、リスク管理、などを取り上げて学習するほか、実務相談事例などを通じて更に理解を深める。

【授業の目標】

ライフプランニング、公的年金、社会保障制度、生命保険、損害保険、金融商品、投資理論など社会生活に欠かせない知識の習得を目指し、後期「F P II」と合わせて国家資格である「3級ファイナンシャル・プランニング技能士」の資格取得を目標に置く。

【授業計画】

1. ライフプランニングの目的と作成手法
2. キャッシュフロー分析と家計支出
3. 社会保障制度・公的年金
4. 教育資金、住宅取得
5. リスクマネジメント
6. 生命保険の種類と税務
7. 損害保険の種類と税務
8. 第3分野と周辺業界
9. 金融市場と経済指標
10. 貯蓄型商品
11. 債券・株式投資
12. 投資指標と考え方

【評価方法】

全出席日数の3分の2以上の出席と単位認定試験の総合評価

【テキスト】

FP教科書F P技能士3級完全攻略ガイド'08~'09年度 ((株)翔泳社)

【参考文献・資料】

2008年度版F P技能検定[3級学科・実技]試験対策マル秘ノート (近代セールス社)
最新版F P用語HANDBOOK (近代セールス社)

情報処理概論 I

奥村文徳 福田ムフタル

【授業の概要】

コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの知識、およびプログラミングのアルゴリズム、計測・制御など情報処理の基本機能を実習を通して学習する。

【授業の目標】

Windowsの基本操作を理解し、OSの体系を理解する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 コンピュータの基礎知識
- 第3回 エンドユーザーコンピューティングとは
- 第4回 コンピュータの5大装置
- 第5回 コンピュータの情報表現
- 第6回 論理演算と論理回路
- 第7回 コンピュータの基礎知識のまとめ
- 第8回 ハードウェアの基礎
- 第9回 補助記憶装置
- 第10回 入出力装置
- 第11回 ソフトウェアの基礎
- 第12回 オペレーティング・システムの役割
- 第13回 データ管理と記憶管理
- 第14回 まとめ
- 第15回 テスト
(毎回、授業中にパソコン演習を含む)

【評価方法】

出席状況、授業中の課題、ミニテスト等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

エンドユーザーコンピューティング (ウイネット)

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

情報処理概論 II

福田ムフタル

【授業の概要】

情報処理システムの各種インターフェース、システム開発、テスト方法、システムの環境整備、運用と管理などについて実習を通して学習する。

【授業の目標】

様々な職場において、現状業務の分析、コンピュータを有効利用した業務改善案の提案、業務用システムの企画立案、情報システム利用環境の整備やシステム運用管理などの仕事に従事できる基礎力を身に付ける。

【授業計画】

1. システム開発技法
2. ヒューマンインターフェースの設計(1)
3. ヒューマンインターフェースの設計(2)
4. テスト技法
5. システムの運用と管理
6. プログラム言語と言語処理系
7. CPUの性能計算
8. ネットワークの性能計算
9. システムの構成と評価
10. システムの信頼性
11. コンピュータウイルスとワクチンソフト
12. セキュリティ対策
13. 開発と取引の標準化
14. データの標準化
15. まとめ

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

システムの運用と管理（ウイネット）

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

情報スキル IV（プログラミング）

奥村文徳 小林久恵 原伸之

【授業の概要】

コンピュータに関わる基本的な知識と技術の習得を目的として、今後のより専門的な情報技術に関する技能と知識の習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。具体的には、システム開発における基本技術であるプログラミング技術について、プログラム言語を用いてその技能と基礎知識を習得する。特に、プログラム言語が持つ特徴や機能の学習からはじめ、データ処理におけるアルゴリズムについての考え方、ならびに最終的なコーディング作業に至るまでの一連のプログラミング工程について学習する。

【授業の目標】

データ処理におけるアルゴリズムからプログラミング作業に至るまでのシステム開発における基礎知識と技術をVisual Basic のプログラミング実習を通じて習得する。

【授業計画】

1. システム開発におけるプログラミング
 2. プログラミング言語の概要
 3. プログラミングの基礎、手順
 4. アルゴリズムとフローチャート
 5. 変数とデータ型
 6. 順次構造
 7. 関数の利用
 8. 選択構造：IF、Select Case文
 9. 繰り返し構造：For～Next文
 10. 繰り返し構造：Do While～Loop、Do Until～Loop文
 11. 一次元配列
 12. 二次元配列
 13. 文字列処理
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

後期の「資格取得スキルIa・Ib」「情報活用スキルIII」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況（割合：20%）、課題提出（割合：30%）、学期末試験（割合：50%）によって総合評価を行う。

【テキスト】

プログラミング入門（西荒井学著 共立出版）

情報スキル III（ネットワークリテラシ）

諸上茂光 奥村文徳 小林久恵 原伸之 戸谷英司

【授業の概要】

コンピュータに関わる基本的な知識と技術の習得を目的として、今後のより専門的な情報技術に関する技能と知識の習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。具体的には、ネットワークに関する基礎的かつ実践的な技能と知識を習得する。また、ネットワークの仕組みを理解すると同時に、HTMLやXMLを利用したホームページの作成を通して、ネットワークの基本的な考え方、活用方法、有効性を体得する。さらに、情報社会の特質や問題点にも触れながら、ネットワークの利用やホームページを作成する際に配慮すべき情報倫理観を育てる。

【授業の目標】

ネットワーク技術を利用する上で必須となるネットワークの仕組みやホームページ作成の知識とスキルを習得する。

【授業計画】

1. ネットワークとインターネット
 2. OSI参照モデルとTCP/IPプロトコル
 3. LANの種類と仕組み
 4. サーバの種類と仕組み
 5. IPアドレスとサブネットマスクの仕組み
 6. ネットワークの実践、基本コマンド
 7. セキュリティと情報倫理
 8. ハイパーテキスト、HTMLの仕組み
 9. 画像の表示、ハイパーリンクの設定
 10. フレームとテーブルの作成
 11. XMLの仕組み
 12. XML文書とスタイルシートの作成
 13. ホームページ課題制作
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業を履修する上で、「情報スキルI」「情報スキルII」を併せて履修することが望ましい。

後期の「資格取得スキルIa・Ib」、2年前期の「情報活用スキルII」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況（割合：20%）、課題提出（割合：30%）、学期末試験（割合：50%）によって総合評価を行う。

【テキスト】

ネットワークリテラシ入門 第2版（共立出版）

コンピュータ科学 I

諸上茂光

【授業の概要】

現代の企業活動にとって必要不可欠なツールであるコンピュータの仕組みについて、ソフトウェア・ハードウェア面の両面から体系的に学習する。

【授業の目標】

前期授業のIでは主にハードウェアの仕組みを体系的に学習する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. コンピュータの種類とハードウェアの概要
3. ソフトウェアの概要
4. 記憶装置の仕組み
5. CPUの仕組み
6. データ表現
7. 論理演算子
8. 論理回路
9. ブール代数と集合演算
10. 機械語命令
11. 実効アドレスの計算
12. データ通信とネットワーク
13. システムの信頼性
14. まとめ

【評価方法】

出席及びレポート、テストによる総合評価

【テキスト】

これから学ぶコンピュータ科学入門 ハードウェア編（鑰山 徹著 工学図書発行）

【参考文献・資料】

社会科学系のためのコンピュータ科学概論（下条哲司・他 著 オーム社発行）

コンピュータ科学 II

諸上茂光

【授業の概要】

現代の企業活動にとって必要不可欠なツールであるコンピュータの仕組みについて、ソフトウェア・ハードウェア面の両面から体系的に学習する。

【授業の目標】

後期授業のIIでは主にソフトウェアの仕組みと企業活動におけるコンピュータの活用について体系的に学習する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. コンピュータとハードウェアの概要
3. オペレーティングシステム
4. ジョブとタスクの管理
5. データの管理とファイルシステム
6. プログラム言語
7. 流れ図とアルゴリズム
8. データ構造
9. 数値表現
10. コンパイラと言語プロセッサ
11. システム開発手法
12. データベースの制御
13. コンピュータと企業活動
14. まとめ

【評価方法】

出席及びレポート、テストによる総合評価

【テキスト】

これから学ぶコンピュータ科学入門 ソフトウェア編 (鑰山 徹著 工学図書発行)

【参考文献・資料】

社会科学系のためのコンピュータ科学概論 (下条哲司・他 著 オーム社発行)

プログラミング応用 II

奥村文徳

【授業の概要】

情報化社会においては、問題解決のためにコンピュータを活用できることは必須条件である。本科目は、プログラムの設計開発に際して要求される論理的思考能力の養成を目的とする。講義においては、プログラミングの基本的な考え方、手法を解説し、Javaを用いて日常生活、社会活動、研究活動等において有用なプログラムを作成する能力を育成する。

【授業の目標】

Javaの特性を理解し、Sun認定Javaアソシエイツ試験等の問題に取り組みながら、コンピュータ実習を通じてJavaのオブジェクト指向プログラミングを習得する。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. Javaプログラムの基本構造
3. Javaの基本操作
4. 一次元配列、二次元配列
5. 選択構造 (if-else文、switch-case文)
6. 反復構造 (for文、while文、do-while文)
7. 例外処理
8. オブジェクト指向
9. クラスとインスタンス
10. コンストラクタ
11. クラス変数とクラスメソッド
12. クラスの継承
13. 過去問題の検証と分析
14. まとめ

【評価方法】

出席状況、学期末試験、及び課題提出の内容によって総合評価する。

【テキスト】

入門Javaプログラミングのテクニック (三和義秀著 共立出版)

プログラミング応用 I

奥村文徳

【授業の概要】

情報化社会においては、問題解決のためにコンピュータを活用できることは必須条件である。本科目は、プログラムの設計開発に際して要求される論理的思考能力の養成を目的とする。講義においては、プログラミングの基本的な考え方、手法を解説し、Excel、Visual Basicを用いて日常生活、社会活動、研究活動等において有用な諸プログラムを作成する能力を養成する。

【授業の目標】

「プログラミング入門」で習得した基本的なプログラミングスキルを用い、Visual Basic及びVisual C++のプログラムを実際に多く作成することによって、実践的なプログラミング能力を高める。最終的には与えられた課題を遂行するプログラムを一から設計・作成できるようになることを目指す。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. Visual Basicによるプログラミングの手順
3. Visual Basicの基本操作
4. Visual Basic プログラミング演習 1 (演算子、関数)
5. Visual Basic プログラミング演習 2 (繰り返し、条件分岐)
6. Visual Basic プログラミング演習 3 (ユーザインタフェース)
7. Visual Basic プログラミング演習 4 (シートとブックの取り扱い)
8. Visual Basic プログラミングのまとめ
9. C/C++の考え方と基本操作
10. Visual C++ プログラミング演習 1 (演算子、関数)
11. Visual C++ プログラミング演習 2 (繰り返し)
12. Visual C++ プログラミング演習 3 (条件分岐)
13. Visual C++ プログラミング演習 4 (配列操作)
14. まとめ

【評価方法】

出席、レポートによる総合評価

【テキスト】

学生のための Excel VBA (若山芳三郎著、東京電機大学出版局)
例題で学ぶC言語のプログラミングのテクニック (小林久恵、三和義秀共著、共立出版)

ビジネスプレゼンテーション

梅田敏文 三浦信宏

【授業の概要】

ビジネスの場面における情報メディアと自己表現の効果的な技法を理論面、実践面から学習する。また、プレゼンテーションツール、マルチメディアを活用し実践することにより、プレゼンテーションスキルを習得する。

【授業の目標】

見やすいプレゼンテーション資料を作成し、効果的な発表を行うことのできるスキルと知識を習得する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンスとプレゼンテーション概要
- 第2講 パワーポイントの構成と基本機能
- 第3講 プレゼンテーションシナリオの作成
- 第4講 プレゼンテーション資料の作成 (1)
- 第5講 プレゼンテーション資料の作成 (2)
- 第6講 プレゼンテーション資料の作成 (3)
- 第7講 プレゼンテーション資料の作成 (4)
- 第8講 発表 (1)
- 第9講 発表 (2)
- 第10講 発表 (3)
- 第11講 発表 (4)
- 第12講 発表 (5)
- 第13講 まとめ

【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容を総合的に評価する。

【テキスト】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

【参考文献・資料】

創造するプレゼンテーション (梅田敏文著 弘学出版)

情報倫理

梅田敏文

【授業の概要】

情報化社会の特徴、ITが社会に及ぼす影響などを考察するとともに、知的財産権、プライバシー、コンピュータ犯罪などを検討し、情報倫理の必要性を理解する。

【授業の目標】

情報倫理の基礎概念と、現在課題とされているテーマについて幅広く理解する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 情報倫理とは何か
- 第3講 情報化社会を支える技術とその影響
- 第4講 企業と情報化社会
- 第5講 e ビジネスと情報倫理
- 第6講 ICTとユーザ
- 第7講 プライバシー
- 第8講 知的財産権
- 第9講 コンピュータ犯罪と対策
- 第10講 テスト

【評価方法】

出席点とテストで評価する。

【テキスト】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

【参考文献・資料】

情報倫理（村田潔編 経営情報学会情報倫理研究部会著 有斐閣）

情報システム論 II（設計）

林 誠

【授業の概要】

情報システムは情報の入手・処理・活用を行うためのシステムである。近年とみに企業環境の変化の激しさから情報システムの構築がビジネスのニーズに追いつかない面が顕著に現れている。そのため、いままでも企業独自に開発してきた情報システムを捨てて統合的なソフト・パッケージを採用した情報システムへの移行も進んでいる。本講義では、はじめにアプリケーションシステムの設計・開発の過程を学習する。その後、簡単な会計システムのプログラミングを行う。具体的なプログラミングをとおして会計システムの機能設計（概要設計を含む）や運用設計の基本も学ぶ。全体を通して、実際の業務とアプリケーションシステムの整合性をどのようにとりシステムを構築・管理をすればよいかの基本を理解することを目標にしている。

【授業の目標】

経済産業省が推奨し、中央官庁や自治体、大手民間企業で適用が進められているEA（エンタープライズ・アーキテクチャ）の方法論を理解し、ビジネスモデルや企業業務システムの可視化ができる能力を身につける。SEを目指す人間だけでなく、ビジネスパーソンとして必要な業務の分析能力、汎用化・抽象化能力、モデル化能力を身につけ、システムの仕様書が読めるようにする。

【授業計画】

1. ガイダンス、進め方
2. EAの概論
3. ビジネス・アーキテクチャ
4. 業務環境分析とCSFの抽出
5. ビジネスモデルの作成
6. データアーキテクチャ
7. 機能分析とDMM
8. データフローダイアグラムの作成
9. 情報モデルとデータモデル
10. エンティティ分析の演習1
11. エンティティ分析の演習2
12. アプリケーションアーキテクチャ
13. テクノロジーアーキテクチャ
14. まとめ

【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

ビジネスキャリア検定試験標準テキスト経営情報システム情報化企画2級（島田達巳・林誠監修）

【参考文献・資料】

実践エンタープライズ・アーキテクチャー（湯浦 克彦）、
図解入門 よくわかる最新エンタープライズ・アーキテクチャーの基本と仕組み（秀和システム）

情報システム論 I（DB）

奥村文徳 林 誠

【授業の概要】

データベースシステムの設計、運用、管理、及び情報検索に関する知識・技能を習得し、関係データベースを利用することによって実践的なスキルを養う。

【授業の目標】

企業情報システムの中での重要な位置を占めているリレーショナル・データベースの基本理論を理解し、データ中心の設計・構築の実践的手法を習得する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 データと情報の違い、データの性質
- 第3回 企業情報システムとデータベース
- 第4回 データベースシステムの基本概念
- 第5回 データモデルの種類と特徴
- 第6回 データベースシステムの構造
- 第7回 データの正規化（1）
- 第8回 データの正規化（2）
- 第9回 SQLの機能（1）操作系SQL
- 第10回 SQLの機能（2）更新系SQL
- 第11回 SQLの機能（3）定義系SQL、制御系SQL
- 第12回 DBMSの機能（1）常駐制御と排他制御
- 第13回 DBMSの機能（2）トランザクション制御、分散制御
- 第14回 DBMSの機能（3）障害復旧と領域管理
- 第15回 テスト

【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。受講登録にあたってはExcelとAccessの基本操作ができることを条件とする。

【テキスト】

データベース設計・構築 基礎+実践マスターテキスト（弓場秀樹、武田喜美子著 技術評論社）

【参考文献・資料】

10日でおぼえるAccess実用データベース入門教室（アंक 翔泳社）
Excel+Accessデータベース完全活用ガイド（谷尻かおり著 技術評論社）

マルチメディア I

奥村文徳

【授業の概要】

近年、ビジネス活動の中でマルチメディアに対するニーズが大きくなり、技術の多様化が進んでいる。このことから本授業ではマルチメディアに関する広範な技術的基礎を学んでいく。同時に、ひとつの適用例であるWebデザインの方と実践について、実際にホームページを作成しながら習得する。

【授業の目標】

授業前半部の講義では、マルチメディアの特徴やその適用例について理解を深める。後半部の演習では、ホームページビルダーを用いたホームページの作成を通して、Webデザインのための知識とスキルを習得する。

【授業計画】

- 前半（講義）／後半（演習）
- 1. ガイダンス
- 2. Webサイトの目的／ホームページビルダーの起動と終了
- 3. ページデザイン／Webサイトとトップページの作成
- 4. ナビゲーション／画像や素材の挿入と設定
- 5. Webプログラミング／表の作成と編集
- 6. サーバシステム／Webページのレイアウト編集
- 7. Webサイトの運営／リンクの設定
- 8. コミュニケーションの変化／画像の作成と編集1
- 9. 情報の共有／画像の作成と編集2
- 10. ネットビジネス／ウェブアートデザイナーの操作1
- 11. コンセプトメイキング／ウェブアートデザイナーの操作2
- 12. コンテンツデザイン／ウェブアニメータの操作1
- 13. 総合演習（ホームページ製作）
- 14. まとめ

【評価方法】

出席及びレポート、テストによる総合評価

【テキスト】

演習用：よくわかるホームページ・ビルダー9 基礎
（FOM出版）

講義用：マルチメディアと情報化社会
（画像情報教育振興協会、マルチメディアIIと共用）

マルチメディア II

奥村文徳

【授業の概要】

近年、ビジネス活動の中でマルチメディアに対するニーズが大きくなり、技術の多様化が進んでいる。本授業ではマルチメディア技術と情報化社会のあり方について学んでいく。同時に、演習の中でWebコンテンツの制作に必要な画像処理に関する知識と技術を習得する。

【授業の目標】

授業前半部の講義では、マルチメディア技術と情報化社会への適用について触れ、後半部の演習では、Adobe Photoshop CSを用いた演習により、Webコンテンツの制作に必要な画像処理の知識とスキルを習得する。

【授業計画】

- 前半（講義）／後半（演習）
1. ガイダンス
 2. マルチメディアの特徴と形態/Photoshopの起動と終了
 3. 感性とメディア/画像の作成・描画
 4. デジタルコミュニケーション/カンバスの回転と切り抜き
 5. 音声符号化と認識/色の調整 1（色相・彩度・明度）
 6. 音響処理/色の調整 2（レベル補正・トーンカーブ）
 7. 画像のデジタル化/フィルタの適用
 8. 色の表現/範囲の選択
 9. 画像処理/写真の補正
 10. モデリングとレンダリング/レイヤーを用いた画像の作成 1
 11. アニメーションと映像/レイヤーを用いた画像の作成 2
 12. ヒューマンインタフェース/文字の配置
 13. パーチャルリアリティ/シェイプの配置
 14. まとめ

【評価方法】

出席及びレポート、テストによる総合評価

【テキスト】

演習用：よくわかる Adobe Photoshop CS for Windows
(FOM出版発行)
講義用：マルチメディアと情報化社会
(画像情報教育振興協会、マルチメディア I と共用)

ITと職業倫理

梅田敏文

【授業の概要】

情報化の進展による産業や職業の変化を検討する。情報と関わる職業に要求されるプロフェッショナル倫理を、ケーススタディなどを通して理解を深め、情報化社会における職業観や勤労観を育成する。

【授業の目標】

ITが現代の職業に与えている影響を理解し、学生としてまた、社会人としてITの望ましい活用方法を習得する。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 職業とは何か
- 第3講 職業の倫理
- 第4講 倫理判断のベースとなる考え方
- 第5講 企業の倫理
- 第6講 ICTと倫理
- 第7講 内部告発
- 第8講 テスト

【評価方法】

出席点とテストで評価する。

【テキスト】

適宜、レジュメを配布する。

情報通信ネットワーク論

奥村文徳

【授業の概要】

「情報通信」とは、情報を相手に知らせることであり、そのために使われるしくみの中心がネットワークである。現在はインターネットというグローバルなネットワークから個別に構築された個別ネットワークまで大小さまざまなネットワークがビジネスで活用されている。その中で代表的なネットワークについて理解することが企業ビジネスにおいて重要である。

当講義では情報通信ネットワークを情報通信とネットワークの2つの概念の基に取り扱う。情報通信では、「情報とはなにか」から始まり、情報通信の基本である通信回線の種類や伝送方式について学習する。ネットワークでは、LANやインターネットのしくみについて学習する。さらにネットワーク構築の際の運用や管理の知識について学び、最近特に注目されているネットワーク・セキュリティについても学習する。全体を通して情報をいかにうまくビジネスに活用するか、という観点からそのしくみである情報通信ネットワークの役割を理解することを目標としている。

【授業の目標】

企業ビジネスにとって重要な情報通信の仕組みの理解と活用法の取得。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 情報と通信
3. 情報のデジタル化
4. 伝送システムの構成
5. 有線伝送と無線伝送
6. ADSLと光ファイバ
7. 携帯電話と無線LAN
8. ネットワークの階層
9. インターネットとプロトコル
10. 情報通信システムとIT革命
11. 情報家電とユビキタスネットワーク
12. 情報セキュリティと暗号化

【評価方法】

出席、レポート、テストによる総合評価。

【テキスト】

これから学ぶ情報通信ネットワーク（村上康司著、森北出版）

システムリスク管理論

上原 衛

【授業の概要】

インターネットを中心とする情報通信ネットワークを活用したeビジネスの進展とともに、企業や金融機関は、ビジネスリスクや通信ネットワークのリスクにさらされるようになった。

本科目では、これらのリスクをシステムリスクとして概観し、とくにネットワークの構築や運用時のリスクと、ネットワーク上でのコミュニケーション時のリスクに焦点をあて実習を通して学習する。

また、リスク低減策としてのセキュリティの知識と技術を習得する。

【授業の目標】

リスク管理に関して、まずERM(Enterprise Risk Management:戦略的総合リスク管理)を理解した上で、製品・製造要因リスク、情報セキュリティリスク、危機管理、事業継続計画にかかわるリスク管理全般の理解を深めること。

【授業計画】

1. リスク管理について(ガイダンス、企業を取り巻く環境)
2. 戦略的総合リスク管理 (ERM:Enterprise Risk Management)の必要性
3. リスク・マネジメントについて
4. 戦略的総合リスク管理とは
5. 戦略的総合リスク管理の構築および維持の必要性和体制作り
6. 戦略的総合リスク管理の実施(1) 製品・製造要因リスク
7. 戦略的総合リスク管理の実施(2) 情報セキュリティ上の脅威：コンピュータウイルス、不正アクセス
8. 戦略的総合リスク管理の実施(3) 情報セキュリティ上の脅威：知的所有権、個人情報保護、ネット告発
9. 戦略的総合リスク管理の実施(4) 事業継続計画(BCP:Business Continuity Plan)
10. 情報セキュリティ管理のための基礎技術(1) (暗号化、デジタル署名)
11. 情報セキュリティ管理のための基礎技術(2) (ユーザー認証とパスワード管理、アクセス権と排他的制御、データのバックアップと復旧)
12. 情報セキュリティ管理のためのシステム設計 (信頼性の高いシステム構築、電子メールとWWWのセキュリティ、ファイアーウォール)
13. リスクマネジメントと内部統制

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

流通情報システム論

三浦信宏

【授業の概要】

流通サービス産業におけるコンビニエンスストアをとりあげて、情報システムの設計、管理、活用の知識を習得する。とくに、コンビニ経営のためのデータベース設計や情報検索の手法を、実習を通して習得する。また、情報システムを基盤としたコンビニ経営の最新動向を学習する。

【授業の目標】

小売業に関する業種、業態の現状と情報化の課題を理解する。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 流通業界の変遷（百貨店）
- 第3回 流通業界の変遷（スーパー）
- 第4回 流通業界の変遷（コンビニ）
- 第5回 社会基盤としての情報システムの役割
- 第6回 工業社会と情報社会(1)
- 第7回 工業社会と情報社会(2)
- 第8回 情報化とビジネス変化
- 第9回 流通情報システム事例I（企業間取引情報システム）
- 第10回 流通情報システム事例II（企業内情報システム）
- 第11回 流通情報システム事例III（POS、CTI）
- 第12回 流通情報システム事例IV（CRM、ERP）
- 第13回 流通情報システム事例V（Web2）
- 第14回 まとめ
- 第15回 テスト

【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

情報と職業（情報処理学会 編集）オーム社
手にとるようにウェブ世界がわかる本

経営情報システム論

林 誠

【授業の概要】

経営情報システムを情報通信ネットワークの形態やその進展、およびコミュニケーション形態の変遷との関係でとらえ、MIS、意思決定支援システム、SIS、BPRなどの機能と構造をネットワークの構築、運用の観点から学習する。また、経営戦略やビジネスモデルの策定が、通信ネットワークとコミュニケーションにより、どのような影響を受けるのか、実習も含めたセキュリティ対策などを通して学習する。

【授業の目標】

経営情報システムの進化のプロセスを学習し、ITが企業の意志決定やビジネスモデルに与える影響を理解する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 情報社会と企業経営
- 第3回 情報システムの発展段階
- 第4回 組織と情報システム
- 第5回 経営戦略と情報システム
- 第6回 ネットワークコンピューティング
- 第7回 意思決定支援システムと戦略情報システム
- 第8回 BPRと情報システム
- 第9回 ロジスティクスシステム
- 第10回 サプライチェーンマネジメント
- 第11回 ナレッジマネジメントシステム
- 第12回 CRMとCS経営
- 第13回 経営情報システムの構築手法
- 第14回 まとめ

【評価方法】

出席状況、演習課題および試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

経営情報システム（島田達巳、高原康彦著 日科技連）

【参考文献・資料】

現代経営情報システム開発論（立川丈夫著 創成社発行）
経営情報論（遠山暁、村田潔、岸真理子著 有非閣）

プロジェクト管理

三浦信宏

【授業の概要】

適用業務開発プロジェクトを想定し、情報システムの設計局面、管理局面の作業内容とプロジェクトコントロールの知識と技法を学習する。とくに、画面設計やデータベース設計の作業を取り上げ、設計の作業を実習するとともに、作業の進捗管理、品質管理、変更管理の知識を習得し、情報システムの効果的な設計と管理の技法を学習する。

【授業の目標】

ソフトウェアの情報システム開発に関する開発手法・開発手順・管理項目管理手法について実例を基に理解を深める。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 情報システム開発とプロジェクト
- 第3回 情報システムの開発プロセス
- 第4回 プロジェクト実施計画の立案I
- 第5回 プロジェクト実施計画の立案II
- 第6回 プロジェクト実施計画の立案III
- 第7回 情報システムの適用業務分析
- 第8回 情報システムのデータベース設計I（論理設計と物理設計）
- 第9回 情報システムのデータベース設計II（最適化）
- 第10回 プロジェクト実施局面における進捗管理
- 第11回 プロジェクト実施局面における品質管理
- 第12回 プロジェクト実施局面における変更管理
- 第13回 プロジェクトの評価方法
- 第14回 国際標準プロジェクトマネジメント（PMBOK）の動向
- 第15回 テスト

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業の途中に適宜、資料を配布する。

コンピュータシミュレーション

上原 衛

【授業の概要】

情報処理システムを活用してデータの統計処理やシミュレーション機能を学習するとともに、図形処理や画像処理機能を活用して効果的なデータ提示方法を検討する。

【授業の目標】

オペレーションズリサーチ（OR）の代表的な手法である線形計画法に加え、ABC分析、回帰分析、重回帰分析、数量化理論I類、経済性分析について理解を深め、Excelを利用して実務に利用できるコンピュータシミュレーションの知識を習得すること。

【授業計画】

- 第1回 コンピュータシミュレーションとは
- 第2回 方程式でシミュレーション（関数と動くグラフ）
- 第3回 度数分布（配列数式）、PPM分析（バブル・グラフ）
- 第4回 シミュレーションの基礎(1)（ゴールシーク、シナリオ、テーブル）
- 第5回 シミュレーションの基礎(2)（ゴールシーク、シナリオ、テーブル）
- 第6回 シミュレーションの基礎(3)（ゴールシーク、シナリオ、テーブル）
- 第7回 OR：線形計画法1（最大化問題 ソルバーによる解法）
- 第8回 OR：線形計画法2（最小化問題 課題またはテスト）
- 第9回 ABC分析（パレート図、パレート曲線、マクロによる並べ替え）
- 第10回 需要予測1 回帰分析
- 第11回 需要予測2 重回帰分析
- 第12回 需要予測3 数量化理論I類
- 第13回 乱数の発生
- 第14回 まとめ

【評価方法】

出席状況、課題・レポート(または中間テスト)、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

ニューロマーケティング

諸上茂光

【授業の概要】

多様化する現代の消費者の心理過程を理解するため、近年では消費者個人の情報処理に目を向けた学際的なアプローチが注目されはじめている。本講義では、まず、消費者を普遍的な「ヒト」として捉え、あらゆる文脈において行われる情報の入力がかどのように内的に処理され、多くの過程を経て、最終的に行動に結びつくのかを、主に脳科学的な視点及び心理学的な視点から概説する。その上で、これらの知見を実際のビジネス活動でどのように適用できるのか議論する。

【授業の目標】

人間の視覚情報処理機構、特に認知・記憶・学習の仕組みについて脳科学的な知見や認知心理学的な知見を用いながら解説し、これらの知識をどのようにマーケティングに活かすことができるか、実際の適用例を挙げながら考えていく。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. マーケティングと学際的なアプローチ
3. 脳の機能図
4. 視覚のメカニズム
5. 形や空間の視覚認識
6. ニューロンと情報伝達
7. 脳の高次機能のメカニズム 1
8. 脳の高次機能のメカニズム 2
9. 記憶のメカニズム
10. 記憶とメタファー
11. 文脈と学習のメカニズム
12. 消費者の心理過程への脳科学的アプローチ
13. 脳科学の研究手法とニューロマーケティングの今後
14. まとめ

【評価方法】

出席およびレポート、テストによる総合評価。

【テキスト】

使用しない。適宜資料の配付を行う。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

エンドユーザーコンピューティング II

諸上茂光

【授業の概要】

エンドユーザーコンピューティングの推進活動に必要なシステム開発、運用管理、情報分析と活用の基本知識を体系的に学習する。

【授業の目標】

本授業は「情報スキルI・II」「情報活用スキルI」「情報通信ネットワーク論」「情報システム論I (DB)」「コンピュータ科学I・II」「エンドユーザーコンピューティングI」の各授業を履修済み、もしくは同等の知識及びスキルを持つ学生を対象に、エンドユーザーコンピューティングの推進に必要なシステム開発・運用管理能力や基本知識の習得のための総仕上げとして総合演習を行う。

【授業計画】

1. 演習I (仕事とコンピュータ)
2. 演習I (コンピュータシステムの基礎知識)
3. 演習II (データの分析と整理の技法)
4. 演習III (システムの開発と運用)
5. 演習IV (テストおよび検収)
6. 演習V (EUCにおけるハードウェアの役割)
7. 演習V (EUCにおけるソフトウェアの役割)
8. 演習V (表計算とデータベース)
9. 演習V (ネットワークの役割と利用形態)
10. 演習VI (システム環境整備と運用管理)
11. 総合演習 (1)
12. 総合演習 (2)
13. 総合演習 (3)

【評価方法】

出席状況およびグループ発表内容による総合評価

【テキスト】

第1回授業時までに指定する

【参考文献・資料】

適宜補足資料を配付

エンドユーザーコンピューティング I

奥村文徳

【授業の概要】

エンドユーザーコンピューティングの推進活動に必要なハードウェア、ソフトウェア、ネットワーク、データベースの基本知識を体系的に学習する。

【授業の目標】

大学卒業後におけるコンピュータやネットワークを利用するエンドユーザーとして、必要な知識を習得する。
実際に、社会で起きているニュースなどに対応させて理解できる。

【授業計画】

1. 情報戦略 (経営管理と情報システム)
2. 経営工学 (品質管理、OR、確立と統計)
3. 企業会計 (財務、管理会計)
4. 関連法規I (知的財産権)
5. 関連法規II (労働、取引、安全などに関する法規)
6. 表計算ソフトの利用
7. データベースの基礎知識
8. SQLの利用
9. ネットワークの基礎知識
10. LANの基礎知識
11. インターネットの基礎知識
12. 入出力インターフェース
13. まとめ (1)
14. まとめ (2)
15. 試験

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

・情報の分析と活用 (ウイネット)

【参考文献・資料】

・エンドユーザーコンピューティング (ウイネット)
・その他、授業の途中に適宜、資料を配布する。

ビジネスとジェンダー I

國信潤子

【授業の概要】

主に産業社会学の視点からビジネス関係、労働環境におけるジェンダー (社会的・文化的) 区分の実態を国内外の男女別統計データなどから検討し、雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法などの法制整備によって改善がみられるか、について検討し、事例などを紹介しながら現状を理解し、解決の方向を探る。

【授業の目標】

- 目標
- 1) ジェンダーという概念を正確に理解する：概念形成とその変容を理解する。
 - 2) 国内外のジェンダー関係の統計データを分析し、その格差の実態を知る。
 - 3) ジェンダー格差は現象として男女賃金格差、地位格差、職域区分などから形成され、さらに生活慣習、役割意識などとも関連しているのでその実態を統計資料などから考察する。
 - 4) 経済活動、家族的責任遂行における女性と男性の格差についてその問題点を明らかにし、解決の方向を探索する。

【授業計画】

- 講義 1～2 回目： ジェンダーという概念が形成されてきた社会背景を紹介する。
- 講義 3～5 回目： 国内外のジェンダー関係の統計データを紹介しながら、男女賃金格差、地位格差、職域区分などを解説する。
- 講義 6～8 回目： 日本社会にある性別役割分業の実態を調査結果などから理解し、国際比較データとともに日本と先進諸外国の格差を考察する。
- 講義・討論 9～11 回目： 雇用機会均等法、男女共同参画社会基本法の概要紹介
- 講義12～14 回目： セクシュアル・ハラスメント防止施策、出産休業、育児・介護休業法などについて紹介する。視聴覚教材も活用する。履修人数によって可能であれば、グループ討議も行う。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

【テキスト】

特になし、随時資料配布

【参考文献・資料】

授業時に随時紹介

ビジネスとジェンダー II

原山恵子

【授業の概要】

産業社会におけるビジネス行為はジェンダー：社会・文化的性によってその役割、評価、影響が異なる場合がある。特に、日本社会においては女性の地位は男女雇用均等法制定20年以上も経過したというのにまだ低い。経済のグローバル化の中で何が起きているのか考察したい。男女雇用機会均等法の問題点、間接差別、不安定雇用の問題点、育児休業における男性の取得が極端に低い原因、職業と家庭の両立を阻むものなどに言及したい。産業界における人間関係についてジェンダーに敏感な視点から考察する。男女賃金格差、セクハラ事件などについても詳細に検討する。

【授業の目標】

この講義では「働くこと」「職場」「男と女」というテーマを社会学的な方法で考えていきます。講義を通じて社会学的見方を身につけ、就労継続の一助になればと思います。

【授業計画】

1. ジェンダーという概念～その1「性差とは何か」
2. ジェンダーという概念～その2「性別とは何か」
3. ビジネス界に発生している男女差別の現状
4. 男女賃金差別の原因は
5. 不安定雇用の問題点
6. 男女雇用機会均等法の到達点とその問題点
7. 間接差別について考える
8. 社会や企業の子育て支援
9. 職場でのセクシャル・ハラスメントについて
10. 司法におけるジェンダー・バイアスについて

【評価方法】

毎回ではありませんが、講義の中でミニレポートを書いてもらったり、宿題を課す場合があります。評価はそのミニレポートの提出回数と最後の試験の点数の総合点で行います。

【テキスト】

特に指定しません。講義時に毎回プリントを配付します。

【参考文献・資料】

女性学・男性学（伊藤公雄・樹村みのり・國信潤子 有斐閣アルマ）
竹中恵美子が語る労働とジェンダー（関西女の労働問題研究会 ドメス出版）

異文化コミュニケーション I

福本明子

【授業の概要】

本講義では、「文化」を比較的安定的・相対的なものとして捉え、そのコミュニケーションに与える影響を学習します。「文化」「コミュニケーション」「意味」「価値観・世界観」「言語・非言語メッセージ」などの概念を、ゲームや自らの体験を用いて振り返り、日常生活に暗示的に存在している価値観・信条・規範などに気づき、これらのコミュニケーションへの影響を学ぶ。このことにより、自らの視点がいかに文化・社会の影響を受けているのか気づき、今後、自他の文化を尊重しながら、逸脱もできるか探求する。

【授業の目標】

「文化」のコミュニケーションへの影響を学習し、様々な視点や価値観の存在を認識することを目的とする。

【授業計画】

- 以下のテーマに沿って学習する。
1. 「コミュニケーション」、「文化」とは
 2. 異文化コミュニケーションの発展と複数のアプローチ
 3. 意味と文化
 4. 価値観と文化
 5. 言語コミュニケーションと文化
 6. 非言語コミュニケーションと文化

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやグループでのプレゼンテーションの内容・準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

異文化コミュニケーション II

福本明子

【授業の概要】

本講義では、「文化」を構造的な格差を伴うものとして捉え、異文化コミュニケーションIで学習した「文化」の概念を再検討する。力の性質や機能を学び、異文化コミュニケーションの複数のアプローチを学習し、人をカテゴリーに分類して理解することを検証する。具体的な事例として、英語や方言への言語に関する「力」とコミュニケーションの関係や、アメリカ・日本社会でマイノリティからマイノリティへ関する「力」とコミュニケーションについて学ぶ。多文化共生社会へ向け、コミュニケーションを通じて個人の社会への関与・貢献の可能性を探求する。

異文化コミュニケーションIを履修または同程度の知識を有すること。

【授業の目標】

「力」のコミュニケーションへの影響を、構築主義・批判主義的視点から学習することを目的とする。

【授業計画】

以下のテーマに沿って異文化コミュニケーションへの社会的「力」の影響を学習する。

1. 「コミュニケーション」、「力」とは
2. 異文化コミュニケーションの発展と複数のアプローチ
3. カテゴリーで人を理解することについて、社会的現実の構築
4. 言語と「力」：英語と方言についての考察
5. 社会と「力」：スポーツと人種、日本人論、アイデンティティ
6. グローバリゼーションと多文化共生

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

多文化社会と異文化コミュニケーション（伊佐雅子 監修 三修社）

ビジネスと社会

國信潤子 原山恵子

【授業の概要】

ビジネス・労働環境における人間関係の諸側面を法制、社会階層、ジェンダー関係など産業社会的視点および法制度から考察する2名の講師によるジョイント・ティーチの形式をとる講座である。近年女性の社会参画が社会のあらゆる側面に浸透しつつある。しかし雇用均等法などの法制は日本のビジネス界で適切に実施されているとは言いがたい。そこで本講座では2名の講師によって経済活動、家族的責任遂行など多面的な考察をおこなう。

（オムニバス方式）

（國信潤子教授）

社会学的統計データを使って、産業社会学の手法により、男女共同参画などの領域でビジネス、労働環境におけるジェンダー関係を紹介する。

（原山恵子弁護士、兼任講師）

法制面でのビジネス・労働環境の変容、特にビジネス・労働と家庭生活の両立におけるジェンダー関係の考察を行う。日本社会における企業組織、家庭におけるジェンダー関係を法制面から事例的に考察し、雇用機会均等法、家族関係の変容などについて解説し、問題解決方法を探究する。

【授業の目標】

産業社会学の領域で特に労働環境の変化、雇用の平等について基礎知識を得ること。また事例的に民法、商法などの訴訟などからみる男女地位・賃金格差の修正、ビジネスにおけるジェンダー格差問題がどのような現状にあるかを事例的に学ぶ。それらの領域の国際比較データからその異同を分析し、ビジネスにおける社会問題解決の方向を探究する。

【授業計画】

ジェンダーの概念を紹介し、産業社会学の領域でジェンダーに敏感な視点とは何かを学ぶ。またその社会的現象について日本の現状を紹介する。各種統計、調査報告、企業における職種、職階別統計データなどから日本のビジネス・労働環境にみるジェンダー区分を考察する。また関連法制の内容、訴訟事例などを紹介する。國信が最初の2回、ついで原山弁護士によって7回、最後にまとめとして國信が4回、日本のビジネス界におけるジェンダー関係についての課題を講じる。講師2名によるジョイント・ティーチの講座である。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

【テキスト】

特になし。随時資料を配布。

【参考文献・資料】

ジェンダーと職業（亀田ほか 東洋経済社）
新しい産業社会学（犬塚編 有斐閣）

ビジネスマナー I (国内)

松田照美

【授業の概要】

一般社会人として、コミュニケーションを円滑に行なうに必要な対人接遇の在り方について、電話による応待、面談の効果的な仕方、文書による表現などについて学習する。

【授業の目標】

企業活動におけるビジネスマナーの意味を理解し、基本動作や応対用語など、組織人としてのコミュニケーションスキルを実践的に習得する。

【授業計画】

- | | |
|------|-----------------------------|
| 第1回 | オリエンテーション 職業とビジネスマナー |
| 第2回 | 企業の存立意義 |
| 第3回 | 経営組織について |
| 第4回 | 組織の基本原則と指示・命令の受け方 |
| 第5回 | 職場の人間関係とコミュニケーションの理解 |
| 第6回 | 職場における話し方、言葉づかい(1) |
| 第7回 | 職場における話し方、言葉づかい(2) |
| 第8回 | 対人接遇の基礎(1) ビジネスの基本所作、来客応対 |
| 第9回 | 対人接遇の基礎(2) 訪問のマナー、紹介の原則 |
| 第10回 | 対人接遇の基礎(3) ビジネス電話のマナーと実際 |
| 第11回 | ビジネス文書の作成(1) 文書作成のポイント、社内文書 |
| 第12回 | ビジネス文書の作成(2) 社外文書、E-mail |
| 第13回 | 会議の知識 |
| 第14回 | 慶弔と贈答の心得 |
| 第15回 | 試験 |

【評価方法】

受講状況・課題	20%
期末試験	80%

【テキスト】

「ビジネスマナー ガイドブック」を授業時に配布します。

ビジネスマナー II (海外)

ジョリー幸子

【授業の概要】

当講座は、21世紀の国際ビジネスパーソンを目指す学生が、海外との取引や異文化における習慣や価値観などを学習することによって、国際ビジネスマナーや、世界に共通するプロトコルについて広範囲にわたり研鑽を積み、将来の国内、海外での商取引をはじめ、国際交流におけるコミュニケーションでの正しいマナーを身につける。

【授業の目標】

海外とのビジネス行動において、日常何気なく行われる簡単な握手や自己紹介、アポイントメントの取り方を始め、数多くの事柄の中で、日本人が慣れていない国際的マナーやプロトコルについて国ごとにその特徴を考える。

【授業計画】

- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1. Orientation (海外のビジネスマナーについて) | |
| 2. 韓国・中国 | 3. ベトナム・フィリピン |
| 4. タイ・インドネシア | 5. マレーシア・シンガポール |
| 6. オーストラリア・トルコ | 7. イスラエル・ケニア |
| 8. エジプト・ロシア | 9. スウェーデン・イタリア |
| 10. オーストリア・ドイツ | 11. スイス・フランス |
| 12. イギリス・スペイン | 13. ポルトガル・アメリカ(西海岸) |
| 14. アメリカ(東海岸)・カナダ | 15. ブラジル・チリ |

※ ペルー・メキシコ

【評価方法】

期末試験、英語を使用してのPresentation 又はレポート、授業への出席・関与度を総合的に評価判断する。

【テキスト】

海外のビジネスマナー (ジェットロ 【日本貿易振興会】編 2003)

【参考文献・資料】

国際ビジネスのためのプロトコル (寺西千代子 有斐閣 2000)
世界60カ国比較文化事典 (T. モリスン、W.A.コナウエイ、G.A.ボーデン、マクミラン ランゲージハウス 1999)

ビジネス文書英語

ジョリー幸子

【授業の概要】

経済のグローバル化の進む中、英文ビジネスレターを書く機会間違いなく増えている。手紙、ファックス、Eメールと形は異なっても、ビジネスレターにおいて最も大切なものは「50%が文法、のこりの50%は書き手の態度」ともいわれており、明確・簡潔・誠実・友好的に書くことが基本となる。読みやすく、プロフェッショナルにみえる英文ビジネスレターの書き方を、豊富な実例に学び、練習することを通じて、マスターする。

【授業の目標】

ビジネス英語の基礎知識から貿易英語の初歩段階までのビジネス英語を学習することを本講座の目的とする。

【授業計画】

当コースは下記の3つの部分から構成される。

- | | |
|-----|---|
| 第一部 | 英文ビジネス通信文の基礎： ビジネスレター、社内メモ、及び電子メールの構成とレイアウト、またビジネス通信文の本文を書く際の心構えや辞書の選び方 |
| 第二部 | 社交通信文： 帰国後の礼状、紹介状、祝い状など取引を円滑に進めるためのビジネス文書を学習。英文履歴書の書き方も学ぶ |
| 第三部 | 貿易通信文： 上記で学んだ知識を基礎として、貿易取引に関するビジネスレターを、貿易取引の流れに沿って学習する |

【評価方法】

宿題、期末試験、出席率などを総合的に評価し、決定する

【テキスト】

初めて学ぶビジネス英語： International Business English for Beginners, 田中武雄著、seibido, 1999

【参考文献・資料】

国際ビジネスコミュニケーション入門 (English for Business Communication), 亀山和夫、八尾昇編著、成美堂、1998

An Introduction to Business English: 入門ビジネス英語、林純三著、成美堂、1993

交渉術/ディベート

福本明子

【授業の概要】

本講義は、ディベートを中心に据えた技能習得を目的とします。ディベートのルールを学習し、議論の組み立て方、ロジカルシンキング、クリティカルシンキング、言語操作の俊敏性などの訓練をディベートの試合を複数回繰返しながら、技能向上を目指します。ディベートで用いる言語(日本語又は英語)は、履修者の希望を聞いて対戦グループ毎に決定します。

【授業の目標】

- 1) ディベートを通してクリティカル・シンキングを学び、身の回りの情報を論理・批判的に分析できる技能を修得すること。
- 2) 自らの主張を簡潔にまとめて話す技能を向上させること。

【授業計画】

- 以下の項目を中心に学習・訓練を行う。
1. 「ディベート」、「交渉」、「説得」とは
 2. ディベートのルール、フォーマットの学習
 3. 日本語ディベート
 4. 「アーギュメンテーション」、「クリティカル・シンキング」とは
 5. 調査・リサーチ
 6. 論証・検証のポイント
 7. ディベートの試合(2-3回)と復習

【評価方法】

出席率、ディベートへの準備やプレゼンテーション、試合の結果、グループ内の相互評価などを総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

英語プレゼンテーション

福本明子

【授業の概要】

本講義は、プレゼンテーションに関連する知識を学び、プレゼンテーションの実践・復習を通してプレゼンテーションの技能向上を目指します。

学習項目は、スピーチの構成、言語・非言語による信頼性の構築や聴衆分析や意味付与等です。毎月1回プレゼンテーションを実施し、学習した情報を実践し、個人が「自分らしさ」を伴うプレゼンテーションを探索します。プレゼンテーションは録画し、改善点を各自レポートで分析し、訓練を繰り返します。学期末にはパワーポイントを用いたプレゼンテーションを英語で行います。

プレゼンテーションでの使用言語は、初回の自己紹介と最後の説得のプレゼンテーションは英語とします。それ以外のプレゼンテーションは日本語又は英語を各自が選択します。

【授業の目標】

学習・実践・復習のサイクルを通じて、プレゼンテーション技能を向上させることを目指す。

【授業計画】

以下のテーマに沿って学習する。

1. コミュニケーション・モデル
2. 自己紹介プレゼンテーションと相互評価のポイント
3. 「意味付与」とは
4. 言語メッセージと非言語メッセージ
5. 情報提供、説得のプレゼンテーション
6. スピーチと自分らしさ
7. スピーチと文化
8. パワーポイントとプレゼンテーション

【評価方法】

出席率、授業への参加度合いやプレゼンテーションやクラスメートとの相互評価を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

Communication Strategies II

JOLLY, James A.

【Course description】

議論やディベートについての様々な概念を考察しながら、実際に自分の主張を発表し、その主張を証拠や論拠をあげて反論から守る訓練をする。

The objectives of this course are to provide students with continued review and practice of English as used in international business communication. Class assignments will include practice in written business communications in addition to business conversation practices. Lesson topics and content are designed to provide students with opportunities for expanding their functional vocabulary and to better express themselves in varied business situations. Special handout supplementary materials will be used with the textbook drills to provide broader experience.

【Course objectives】

1. To increase students' understanding of various oral and written business communications and to increase their abilities to properly handle such.
2. To equip students with communication skills to deal with international business situations.

【Course schedule】

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week, and each unit will reflect the communication needs in a different business situation. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics, and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

【Assessment】

The students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and, (4) the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

Communication Strategies I

JOLLY, James A.

【Course description】

This course is aimed at aiding students to develop their abilities to communicate more effectively in English as used in international business. Lessons will emphasize training and practice in listening and speaking using model conversations with practical application in social and business situations. Lesson topics and content will also provide students with opportunities for expanding their functional vocabularies in order to gain confidence in expressing themselves. Textbook drills will be supplemented with additional materials and activities to facilitate and enhance conversational skills.

【Course objectives】

1. To increase students' communication abilities in international business situations, with particular emphasis on oral communication skills.
2. To provide practical training and development of the students' abilities to express their thought and ideas freely and assertively.

【Course schedule】

Basically class sessions will cover one unit of the textbook each week, and each unit will reflect the communication needs in a different business situation. A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. There will be three or four homework assignments related to special lesson topics, and two short quizzes will be given during the class term. A final examination over the whole course will be given after the final lesson.

【Assessment】

The students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) quizzes and, (4) the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

ビジネス外書講読 I

小池弘道

【授業の概要】

新聞、雑誌・本（リーダースダイジェスト、日経ジャーナルなど）の英語版や、放送（BBC、CNNなど）などを教材として基礎的な読書力を養う。内容としては、世界の政治、経済、外交などに関するビッグなニュースを読んで理解するとともに、その出来事の本国および私達の生活への影響を考察する。また景気動向、物価の動き、金融情勢、雇用・失業状況などの経済ニュースを読んで、日本や世界各国の動きを知る。更には、企業の技術革新、収益状況、リストラクチャー、合併統合などに関する記事を読んで、最近の企業動向を理解する。

【授業の目標】

英字新聞などのやさしいビジネス文が、辞書を片手に読めるようになる。

【授業計画】

下記の内容の載っている記事を読み、読解力を高める。日本及び海外諸国の経済の動向、景気の動向、雇用の動向、物価の動きなど。企業の経営状況・・・決算状況、収益性分析、倒産など。企業再編成・・・合併、統合、提携など。マーケティング・・・市場調査・解析、新製品開発など。新技術研究。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じ資料配布。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

ビジネス外書講読 II

小池弘道

【授業の概要】

ビジネス外書講読Iでの学力向上を踏まえて、新聞、雑誌・本（リーダーズダイジェスト、日経ジャーナル、ハーバードビジネスレビューなど）の英語版や、放送（BBC、CNNなど）などを教材として使い、さらにレベルアップを図る。

【授業の目標】

英字新聞などのビジネス文が、辞書を使って読めるレベルになる。

【授業計画】

下記の内容の載っている記事を読み、読解力を高める。世界の政治、経済、外交などに関するニュースを読んで理解する。また景気動向、物価の動き、金融情勢、雇用・失業状況などの経済ニュースを読んで、日本や世界各国の動きを知る。更には、企業の技術革新、収益状況、リストラクチャー、合併統合、法律問題、環境問題などに関する分野も取り入れて講義していく。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じ資料配布。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

ビジネス口語英語 II

ジョリー幸子

【Course description】

The objectives of this course are to provide students with continued study and practice of English in international business situations. Lesson materials will encourage students to expand their abilities to express themselves clearly and confidently. Special supplementary materials will be used with the textbook drills to provide broader experience.

【Course objectives】

1. To continue development of the students' oral and written business English communication skills and to increase their abilities to properly handle such.
2. To increase the students' functional communication abilities and to build their confidence in handling international business situations.

【Course schedule】

Basically class sessions will cover the weekly textbook assignments.

Unit Three: Going on an International Business Trip

L.7 -- Getting Ready to Go: Checking-in at the Airport

L.8 -- Getting Through Immigration and Customs

L.9 -- Settling into your Hotel

Unit Four: Everyday Business Dealings

L.10 -- Conducting a Business Meeting

L.11 -- Making Appointments with Customers

L.12 -- Making Small-Talk with Colleagues

Unit Five: Business in the 21st Century

L.13 -- Writing and Responding to Business-Related E-Mails

L.14 -- Writing and Responding to an Informal E-Mail

L.15 -- Entertaining Business Associates

【Assessment】

Students will be graded on their performance in (1) attendance and class participation, (2) homework assignments, (3) mid-term quiz and (4) the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

Business as Usual: An Integrated Approach to Learning English (Todd Jay Leonard, Siebido 2004). Supplementary instruction material will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

ビジネス口語英語 I

ジョリー幸子

【授業の概要】

本講義は国際ビジネスに不可欠な英語表現を学び、主として取引の相手との対話、交渉などの実務的口語技術を習得することを目的とする。

【授業の目標】

国際言語として世界の国々のビジネス・パーソンとの意志の疎通に不可欠なビジネス英語のスキルの中で特にListeningとOral Communicationに重点を置き、基本的なやりとりが習得できることを目標とする。

【授業計画】

Course Orientation

Unit One : Making Introductions

L.1 Introducing Yourself to a Business Colleague

L.2 Making a Self-Introduction at a Business Meeting

L.3 Introducing Business Guests to Colleagues

Unit Two : Taking and Giving Messages

L.4 Leaving a Message on an Answering Machine or Voice Mail

L.5 Leaving a Message by Phone

L.6 Taking a Message in Person for a Colleague

Unit Three : Going on an International Business Trip

L.7 Getting Ready to Go: Checking-In at the Airport

L.8 Getting through Immigration and Customs

L.9 Settling into your Hotel

Unit Four : Everyday Business Dealings

L.10 Conducting a Business Meeting

L.11 Making Appointments with Customers

L.12 Making Small-Talk with Colleagues

Final Examination

【評価方法】

期末試験、出席率、レポート、授業への参加状況など総合的に判断評価する。

【テキスト】

Business as Usual: An Integrated Approach to Learning English (Todd Jay Leonard, Siebido, 2004)

【参考文献・資料】

グローバル・ビジネス英語教本 *Global Business Communication*, (土農田義明 南雲堂 1999)

国際ビジネスコミュニケーション入門 *English for Business Communication*, (亀山和夫、八尾見 Seibido 1998)

TOEFL (Writing)

JOLLY, James A.

【Course description】

本講義はTOEFLテストのwritingのセクションのための基本的技能を培うことを目的とする。TOEFLテストに含まれるエッセイ・ライティングの問題に関し、書き方の方法と技術を一步一步学んでいくものである。実際のテストに類似した練習問題が、TOEFLテストの中で期待される質問に慣れるために使われる。英語の総合運用能力を強化し、英語能力測定試験スコアの向上を目指すものである。

【Course objectives】

1. To increase students' abilities to formulate proper responses about given topics and to draft that response in a properly constructed writing.
2. To provide practical training in preparing and writing expressions of personal opinion or comment in English.
3. To review the current requirements for the written parts of the TOEFL test and provide instruction on such.

【Course schedule】

A detailed schedule of the lessons and assignments for each class will be provided at the second meeting of the class. The topics to be covered in this course include:

1. Understanding what you are to write about
2. Planning what you will write about (notes and outline)
3. Developing sentences and paragraphs to express your ideas
4. Improving your expressions and writing style
5. Checking and editing your essay

【Assessment】

Assessment will be based on class attendance and participation, completion of homework assignments, and demonstrated improvement in skill in practice tests. Practice written tests will be given at mid-term and at the end of course.

【Textbooks】

The textbook to be used for this course will be announced at the first class session. Supplementary instruction materials and practice exercises will be provided as necessary. Most importantly, each student is expected to have, bring to class, and actively use his or her own personal Japanese/English dictionary (book or electronic machine).

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

産業社会学概論（ジェンダー）

國信潤子

【授業の概要】

本講座は産業社会学と開発社会学の2領域の接点についてジェンダーに敏感な視点、開発途上国問題などの側面から考える。まず日本国内のビジネス・労働界のジェンダー関係を概観し、国境を越えた移住労働者の増加の実態を検討する。次に異なる文化背景を持つ人々の職場での人間関係の問題を紹介し、ビジネス関係や開発協力関係を形成するときに必要なとなる異文化理解について考える。近年の経済活動は環境に配慮した「持続可能な開発」「基本的生活ニーズ」の意味をジェンダーに敏感な視点とともに学習する。

【授業の目標】

本講座は産業社会学と開発社会学の領域の接点にある。

- 1) 日本のビジネス・労働界のジェンダー関係を概観する。
- 2) 異なる文化背景を持つ社会：特に南北社会問題とビジネス関係や開発協力関係の実態を知る。
- 3) 異文化理解について、ジェンダーの視点から各種統計データから比較検討する方法を理解する。その格差の社会背景について考察する。
- 4) 近年の国内外の移住労働者の国境を越えた増加の背景を理解する。
- 5) 経済活動や開発協力活動は環境に配慮し「持続可能な開発」が基本となる。ジェンダーに敏感な視点とともに環境配慮について認識する。詳細はテキスト、および授業時に随時資料を配布する。

【授業計画】

講座の日程
講座第1、2回目：ジェンダーという概念を紹介し、日本社会のジェンダー関係の特徴を検討。
講座第3～5回目：近年の国際化における男女平等法を紹介。国連女性の地位委員会、ILO他
講座第6～8回目：開発途上国と先進産業国にみる産業構造、労働者の技能などにおける格差を検討する。
講座第9～13回目：ジェンダー格差問題の多様な現象化の実態について事例的に紹介し、その問題点と産業社会学的手法による調査方法と結果について紹介する。

【評価方法】

履修態度、出席状況、期末レポート、履修者数によっては少人数討議を行い、そこでの貢献度など、総合評価による。

【テキスト】

「新しい産業社会学」 犬塚編著 有斐閣アルマ

【参考文献・資料】

「ジェンダーと開発」 田中他著 (国際協力出版会)
「日本の経営と過労死シンドローム」 高橋他著 (日本経済社)
「ジェンダー経済格差」 川口 章著 (勁草書房)

組織心理学

武田圭太

【授業の概要】

組織心理学では、組織を開放された1つの社会体系と考え、その構成員がどのような態度や行動を表出するかを実証し説明しようとする。この授業では、主に経営組織を環境とする枠組みのなかで、組織の協働活動に参画する人間行動の諸問題について解説する。

【授業の目標】

組織心理学の分野で議論されている主要な概念や学説などを理解し、個人と組織との適切な相互関係という考え方を身につけることが目標である。

【授業計画】

- 第1回 組織の概念
- 第2回 働くことへの動機づけ (1)
- 第3回 働くことへの動機づけ (2)
- 第4回 能力・適性の評価 (1)
- 第5回 能力・適性の評価 (2)
- 第6回 集団力学 (1)
- 第7回 集団力学 (2)
- 第8回 リーダーシップ (1)
- 第9回 リーダーシップ (2)
- 第10回 メンターシップとコーチング
- 第11回 ストレス状態 (1)
- 第12回 ストレス状態 (2)
- 第13回 離・転職行動 (1)
- 第14回 離・転職行動 (2)
- 第15回 個人と組織との関係性

【評価方法】

①随時行う小テスト (40%) と②学期末試験 (60%) で評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献・資料】

組織現象の理論と測定 (野中郁次郎ほか著 千倉書房)
組織心理学 (E.H.シュैन著 岩波書店)
増補改訂版 産業・組織心理学エッセンシャルズ (外島 裕・田中堅一郎編 ナカニシヤ出版)

キャリア発達論

武田圭太

【授業の概要】

働くことに焦点を合わせ、経営組織の構成員として、職場集団のなかで与えられた職務を遂行しながら、加齢とともに人が発達・成長・社会化・個性化していく過程について学ぶ。具体的には、職業興味、職業選択、キャリア展望、組織社会化、職務満足、仕事の動機づけ、組織コミットメントなど、キャリアの生涯発達に関する主題を取り上げて、共働き夫婦の仕事と家庭との調和をはじめ、職業生活にかかわる身近な問題について考える。

【授業の目標】

キャリアを創造するための基本的な考え方を理解することが目標である。

【授業計画】

- 第1回 キャリア発達の学説
- 第2回 キャリア展望
- 第3回 組織社会化
- 第4回 職業興味
- 第5回 職業選択
- 第6回 組織コミットメント
- 第7回 仕事の動機づけ
- 第8回 現実ショックへの対処
- 第9回 フリーターと早期離・転職
- 第10回 職務満足
- 第11回 女性が働く現状
- 第12回 共働き夫婦のキャリア
- 第13回 仕事と家庭との調和 (1)
- 第14回 仕事と家庭との調和 (2)
- 第15回 まとめ：キャリア発達初期の課題

【評価方法】

①随時行う小テスト (40%) と②学期末の課題レポート (60%) で評価する。

【テキスト】

テキストは特に指定しない。

【参考文献・資料】

ライフサイクルの心理学 (上) (下) (D.J.レヴィンソン著 講談社)
キャリア・ダイナミクス (E.H.シュैन著 白桃書房)
「選職社会」転機を活かせ (N.K.シュロスバーグ著 日本マンパワー出版)

異文化トレーニング

川田敏章

【授業の概要】

国内外を問わず広がるビジネスシーンにおいては、文化の違いによる誤解やトラブルが数多く生じている。本講義では、こうした文化を異にする人々との友好的かつ建設的な関係構築、コミュニケーションに必要な知識を解説するとともに、様々な事例や教員の経験をもとにエクササイズを行い、異文化への理解と対処法を学ぶ。

【授業の目標】

本講義では、担当教員の海外経験、学生自身の体験などを通じて異文化に対する理解を深め、文化を異にする人々とのコミュニケーション力や対応力を身につけることを目的とする。

【授業計画】

以下の内容を中心に授業を行う。

1. 異文化とは何か
2. 言語によるコミュニケーション
3. 非言語のコミュニケーション
4. 見えない文化：価値観と文化的特徴
5. 異なる文化のとらえ方・接し方：異文化の理解
6. カルチャーショックと異文化適応
7. 個人・グループ発表とフィードバック

【評価方法】

プレゼンテーション、レポート、期末試験及び出席率などを総合的に評価する。

【テキスト】

適宜資料を配布。

【参考文献・資料】

異文化コミュニケーション (古田暁監修、石井敏、岡部朗一、久米昭元著 有斐閣選書)
異文化トレーニング: ボーダレス社会を生きる (八代京子、町恵理子、小池浩子、磯貝友子著 三修社)
世界60カ国比較文化事典 (T.モリスン、 W.A. コナウエイ、 G.A. ボーデン 著、 幾島幸子訳 ランゲージハウス)

ストラテジーベーシック

浅井敬一朗

【授業の概要】

企業は変化する経営環境の中で生存するべく、様々なマネジメント活動を行っている。その中でとくに（1）成長戦略、競争戦略といった経営戦略を立案し、（2）いかに分業し調整するかという組織構造、組織形態の選択、（3）いかに人を動かす仕組みを作り上げるかについての決定がなされなければならない。本講義では、これらのうち、とくに前者の2つについての概論を具体的な事例を取り上げながら体系的に講義していく。

【授業の目標】

ビジネスストラテジーにつなげる基礎的な科目として、経営戦略論の基礎を学ぶとともに、基本的な組織形態について学習する。

実際の企業ケースにおける簡単な戦略分析ができることを目標とする。

【授業計画】

第1回	ガイダンス
第2～10回	企業の経営戦略 ・経営戦略の体系 ・企業ドメイン ・成長戦略 ・競争戦略
第11～13回	企業の組織形態
第14回	まとめ
第15回	テスト

【評価方法】

定期試験によって評価する（持ち込み不可）

【テキスト】

わかりやすいマーケティング戦略-新版-（沼上幹著 有斐閣アルマ）

【参考文献・資料】

適宜プリントを配布する

マーケティングストラテジー

大塚英揮

【授業の概要】

本講義では、マーケティングベーシックで習得した知識を基礎に、この目標を達成するためにとられる戦略的手法について理解を深めていく。まず企業の競争戦略を理解するために必要な「考え方」を習得し、その上で個別企業が操作可能な戦略手段である価格、製品、マーケティングチャネル、広告の各手段をそれぞれ取り上げ、これら各手段に関する具体的戦略の理解を深めていく。

【授業の目標】

戦略的思考法（競争の場である市場の構造を分類し、実現可能な戦略の選択肢を想定、最適な戦略を選択する）を習得する。さらに価格、製品、広告の各戦略手段をどう実行していけば良いのか、現実のケースを素材に意志決定できる力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 戦略的思考法（1）
3. 戦略的思考法（2）
4. 戦略的思考法（3）
5. 市場構造とマーケティング戦略
6. 戦略的ブランドマネジメント（1）
7. 戦略的ブランドマネジメント（2）
8. 戦略的ブランドマネジメント（3）
9. 知識創造と製品開発（1）
10. 知識創造と製品開発（2）
11. 戦略的価格マネジメント
12. 消費者心理と広告戦略（1）
13. 消費者心理と広告戦略（2）
14. 関係性マーケティング

【評価方法】

平常点（50%）と期末試験（50%）で評価します。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

戦略経営論（ガースサローナーほか著 石倉洋子訳 東洋経済新報社）

マーケティングベーシック

大塚英揮

【授業の概要】

『移り気な消費者が求めるものをいかに見出し、いかに売り込むか。』マーケティング戦略の究極の目標はまさにこの一点にある。激的な販売競争を勝ち抜くために、マーケティング戦略の成功には不可欠であり、そのためには消費者の需要、ライバルとの競争関係といった環境要因を分析し、適切な意思決定を行う能力が求められる。本講義では、先ず現実の企業が行っているマーケティング戦略を紹介し、マーケティングの面白さとは何かについて学習する。そしてケースを随時交えながらマーケティングの「基本的知識」を学習する。

【授業の目標】

マーケティングミックス（製品、価格、広告戦略）に関する基礎理論を学び、それを用いて現実のケースを分析できる力を身につけること。

【授業計画】

1. マーケティングとは何か
2. 買い物行動を振り返る（1）
3. 買い物行動を振り返る（2）
4. CMについて考える（1）
5. CMについて考える（2）
6. モノの値段について考える（1）
7. モノの値段について考える（2）
8. 製品について考える（1）-製品ライフサイクル
9. 製品について考える（2）-ブランドの基礎知識
10. サービスマーケティングの基礎知識
11. グローバルマーケティングの基礎知識
12. 売り場をめぐる闘い（1）
13. 売り場をめぐる闘い（2）
14. マーケティングミックス-最適な組み合わせを探せ
15. まとめ

【評価方法】

毎回の小テスト（50%）と期末テスト（50%）の合計で評価します。

【テキスト】

自作プリントを配布、利用します

【参考文献・資料】

わかりやすいマーケティング戦略（沼上幹著 有斐閣アルマ）

コーポレートガバナンス I

浅井敬一朗

【授業の概要】

コーポレートガバナンスとは「企業統治」という意味である。現代社会において最も重要な組織であるといえる企業とは何であるか。現代企業の構造・形態・機能について取り上げ、検討する。

【授業の目標】

平成18年施行の会社法により、企業のあり方が従来とは大きく異なった。

まずは、企業はどのようなもので、どのような構造をしており、どのような活動をしているのかを整理し、企業の構造、形態、機能について理解を深めることを目標とする。

【授業計画】

- | | |
|--------|-----------------|
| 1. | ガイダンス |
| 2～4. | 基本的な企業形態のあり方 |
| 5～10. | 企業の分類（構造、形態、特徴） |
| 11～13. | 日本型株式会社の特徴 |
| 14. | まとめ |

【評価方法】

出席、レポート、試験により評価する

【テキスト】

企業論 新版・補訂版（三戸浩他 有斐閣アルマ）

【参考文献・資料】

新会社法（浜田道代著 経済法令研究会）

コーポレートガバナンス II

浅井敬一郎

【授業の概要】

コーポレートガバナンス（企業統治）のうち、企業はステークホルダー（企業の利害関係者）の期待に応えるものであるという視点から企業行動を検討する。

【授業の目標】

企業は誰のものか、なぜ企業の不祥事が頻発しているか、社会的に評価されている企業はどのような行動をしているかについてケースを交えながら、企業の社会的責任の重要性、多様な企業観について認識する。

【授業計画】

- ガイダンス
- ステイクホルダーアプローチ
- 企業と社会論の基本的な考え方
- 社会的責任肯定論、否定論（レポート）
- ケーススタディ（レポート提出）
 - ・リーバイス
 - ・ジョンソンアンドジョンソン
 - ・ザ・コーポレーション
 - など

【評価方法】

出席およびレポートにより評価

【テキスト】

なし、資料等を配布する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

ビジネスストラテジー

河合篤男

【授業の概要】

企業を取りまく環境は常に変化している。こうした環境変化に対して、うまく適応して成長を続ける企業もあれば、適応に失敗してしまう企業もある。このような違いがなぜ生み出されるか。それを解明するためのひとつの柱は、経営戦略の立案プロセスの研究である。環境適応に成功している企業が、どのように変化を認識して、次なる経営戦略の立案に結び付けているのか、企業が内部に構築している環境適応のための仕組み、さらには社外からのCEOや経営コンサルティング企業など、外部の力を利用した企業革新について、事例を交えて解説する。

【授業の目標】

経営戦略のコンセプトを学ぶとともに、それが組織プロセスから生まれるものであることを理解する。人間の行動や思考の産物であるという特性を理解することで、より実効性の高い戦略論の体得を狙う。

【授業計画】

0. イントロダクション
1. 経営戦略について（その1）
2. 経営戦略について（その2）
3. 企業のドメイン
4. ドメインの変化
5. 企業革新のモデル（その1）
6. 企業革新のモデル（その2）
7. 資源展開（その1）
8. 資源展開（その2）
9. 企業とパラダイム
10. パラダイムの逆機能
11. 企業革新の新機軸
12. 企業革新と経営コンサルタント

【評価方法】

試験中心

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

『企業革新のマネジメント 破壊的決定は強い企業文化を変えられるか』（河合篤男 中央経済社）

国際ビジネストレンド

真田幸光

【授業の概要】

国際ビジネストレンドの講義に於いては、国際化の進む日本経済の現状を鑑み、日本経済の動向、そして日本企業の国際戦略を意識しつつ、Currentな国際経済情勢を学んでいくことを大きなテーマとしている。従って、その題材は新聞、雑誌等のマスコミ報道や日本政府、国際機関の示すデータや情報から取り上げ、これを担当教員が解説した上で、日本経済に与える影響や日本企業に対するビジネス・チャンスやビジネス・リスクなどについて考察、その上で可能な限り、受講生との意見や視点を引き出すことを心掛け、授業を展開していくことを予定している。

【授業の目標】

この授業は学生諸君が社会人となる際に必要最低限な国際情勢に関する基礎知識を習得することを第一の目的としている。また、現状の国際情勢を概観、その上で国際情勢分析を行う為のスキルを習得することを更なる目標と定めている。

【授業計画】

- 第1回 ガイダンス、入門基礎レベル確認試験
- 第2回 国際経済情勢下に於ける日本経済概況の解説
- 第3回 最新米国経済事情の解説
- 第4回 最新欧州経済事情の解説
- 第5回 最新北東アジア経済事情の解説
- 第6回 最新中国経済事情の解説
- 第7回 最新東南アジア経済事情の解説
- 第8回 最新国際経済事情概要の総括
- 第9回 日本企業の国際ビジネス展開概要の解説
- 第10回 日本企業の対外投資戦略に関する解説
- 第11回 日本政府・日本企業の外資誘致戦略、政策に関する解説
- 第12回 日本の地方自治体政府の地域企業国際化支援策に関する解説
- 第13回 日本企業の国際ビジネス展開（ケーススタディ1）
- 第14回 日本企業の国際ビジネス展開（ケーススタディ2）
- 第15回 理解力確認試験

【評価方法】

試験による評価

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

特になし。必要に応じて、資料を配布する。

ヒューマンリソースマネジメント

小池弘道

【授業の概要】

労働法の基礎知識について講義する。それから企業風土、組織について説明する。更に日本の労働慣行の崩壊について解説する。そのうえで、日本と欧米との人事・労務管理の違いなどを踏まえて、今後の人事・労務管理の変化について説明する。

【授業の目標】

人と組織についての基礎的知識を持つ。そして、労働基準法の概要を知ると。更に日本の労働慣行・労働市場の今までと将来について理解する。

【授業計画】

人というものについて色々な視点から考察する。そのうえで労働基準法などについて講義する。更に企業風土、組織、権限などについて解説する。また日本の強みと言われた終身雇用制度、年功型処遇制度の崩壊とその原因について考察する。更に今後の労働市場の変貌について説明する。また日本と欧米との人事・労務管理の違いについて、役割期待、責任と権限、採用、賃金制度、人事異動、従業員教育、モラル向上などの視点から講義する。

そのようことを踏まえて、今後の人事・労務管理において予想される変化と個人としての対応について解説する。

【評価方法】

単位認定試験の成績と出席状況を総合して評価する。

【テキスト】

必要に応じ資料配布。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

プロダクションマネジメント

浅井敬一郎

【授業の概要】

この授業では、まずプロダクションマネジメント（＝生産経営）が必要となった背景について概観する。

次にどのような生産システムが誕生したかについて検討する。

さらにグローバル化が進展する中で、製造業における競争力の鍵はなにかについて考察する。

【授業の目標】

プロダクションマネジメントが誕生する背景を理解した上で、プロダクションマネジメントがどのように変容したかを理解する。その上で製造業の意義について理解を深め、さらに国際化の進展する中で、日本のモノづくりの方向について各自の考えを深める。

【授業計画】

第1回	ガイダンス
第2回	生産経営の誕生した背景
第3回～4回	テイラーシステム
第5回	フォードシステム
第6回～7回	トヨタシステム
第8回～9回	セル生産システムとスキル
第10回～11回	EMSの新展開
第12回～13回	IT化とアーキテクチャ（設計思想）
第14回	まとめ
第15回	試験

【評価方法】

出席、レポートおよび定期試験によって評価する

【テキスト】

適宜資料を配付する

【参考文献・資料】

能力構築競争（藤本隆宏著 中公新書）
ものづくり経営学（藤本隆宏著 光文社）
日本のもの造り哲学（藤本隆宏他著 日本経済新聞社）
生産マネジメント入門I・II（藤本隆宏著 日本経済新聞社）

マーケティングリサーチ

石原 守

【授業の概要】

企業の市場創造活動であるマーケティングは、その意思決定過程において生活者や市場環境に関する多種多様なデータ情報を必要としている。その情報を組織的かつ体系的に収集・記録・分析し、直面する経営課題の解決や将来の戦略策定に反映させる活動がマーケティング・リサーチである。本講義ではリサーチの基礎的な考え方や統計的な分析手法の解説に重点を置きながら、特に確率論に依拠したサンプリング基礎理論の内容とその意義について詳述していく。理論が現実の市場分析で援用される事例を学ぶことにより、「科学的に市場を捉えることの重要性」について実感してもらいたい。

【授業の目標】

マーケティングによる市場構想の命題は「最適性の追求」である。この本質的課題にマーケティング・リサーチがどのような役割を果たしているか？講義の最終段階で受講生がこの問いに対する一定の考えを頭の中で思い描くこと、それが本講義最大のねらいである。

【授業計画】

1. ガイダンス（講義内容概説、講義の進め方・受講上の留意点等々）
2. マーケティング・リサーチとは何か？（その意義と限界）
3. マーケティング・リサーチの手法（1）定量調査とその特徴
4. マーケティング・リサーチの手法（2）定性調査とその特徴
5. マーケティング・リサーチの手法（3）インターネット・サーベイ
6. 調査と個人情報保護（「匿名社会化」時代における調査のあり方）
7. マーケティング・リサーチの手順（調査の企画、実施、分析と報告）
8. 調査票設計の一般原則（質問の構成内容に配慮すべき要件）
9. 調査票の構成要素と各種回答形式の設計方法
10. サンプリングの理論（1）その考え方や確率的・非確率的抽出方法
11. サンプリングの理論（2）「良いサンプル」を抽出するための条件
12. 統計的推定（点推定と区間推定、平均値・比率の推定）
13. 統計的検定（標本平均値・標本比率の差の検定）
14. 総括（ケース・スタディ）
15. 試験

【評価方法】

期末試験の成績、レポート課題の提出、出席回数、及び受講態度により総合的に評価する。

【テキスト】

特に使用せず。毎回の講義時に「講義プリント」を配布し、これをテキストとして使用する。

【参考文献・資料】

初回の講義時に「文献リスト」を配布する。

ビジネスマネジメント

辻村宏和

【授業の概要】

起業ブームの裏には低成長率もあることを見逃してはならない。財務テクニクや法律知識、あるいは最新テクノロジーに関して自分の不得意領域をカバーすべく起業には良きビジネス・パートナーが不可欠であるが、「ビジネスであるがゆえに親友（兄弟）の正体を知るはめとなった」最大最悪のトラウマに陥ったケースは枚挙にいとまがない。起業自体はマネジメントにとっほんのプロローグに過ぎず経営者は意外にも起業後の非経済的要因で苦悩する。本講義では、そういった苦悩を「組織の病気」として、事例を交えながら理論的に学習する。

【授業の目標】

起業前後で発生するヒューマン・ファクターを起因としたトラブルを数多くの事例によって紹介しつつ、それらの組織論的な説明ロジックを理解すること（詳細は授業にて解説する）。

【授業計画】

主要なテーマは以下の通りである。

1. 組織の病気（トラブル）の特異性
2. 強い組織と非公式組織
3. 日本的経営の再検討
4. 「任せてくれる」組織の怖さ
5. 「参謀」の効用および危険性
6. 「目標による管理」の思わぬ落とし穴
7. 会議（チーム）の予想外の非効率性
8. 「権力（権限）－権威」図式の有効性
9. 二代目経営者のリスク
10. ワンマン経営者の功罪
11. その他

【評価方法】

期末試験の結果に、講義中に取得したポイント数を加味する。

【テキスト】

組織のトラブル発生図式（辻村宏和著 成文堂）

リテールマネジメント

大塚英揮

【授業の概要】

他国に比べて厳しいといわれる「流通規制」に守られていた小売業界も、大店法撤廃、酒販免許緩和などの規制緩和の結果、年々競争が激化する傾向にある。セブンイレブンV S ローソンのようなコンビニという同じ業態同士の競争のみならず、ユニクロなどの急成長する専門店とイトーヨーカ堂のようなGMS間の異なる業態間の競争も活発化している。激化する競争にどう対応すればよいのか。本講義では小売業に関する基礎知識を学習した上で、小売業のとりうる競争戦略のパターンについてケースを用いて、より実践的に考察する。

【授業の目標】

（1）出店、店舗運営（2）小売業態の現況、（3）小売とメーカーとの取引関係、外資系小売との競合関係などに関する基礎知識の習得。

【授業計画】

- 第1回 小売とは何か
- 第2回 消費者の買い物行動（1）
- 第3回 消費者の買い物行動（2）
- 第4回 品揃えの決定（1）
- 第5回 品揃えの決定（2）
- 第6回 売り場レイアウトの決定（1）
- 第7回 売り場レイアウトの決定（2）
- 第8回 サービスを「創る」
- 第9回 商圏の決定
- 第10回 チェーンストア・マネジメント
- 第11回 小売の「輪」は回る－小売の業態について考える
- 第12回 メーカーと小売のパートナーシップ
- 第13回 小売の日本比較
- 第14回 黒船襲来－流通外資の戦略（1）
- 第15回 黒船襲来－流通外資の戦略（2）

【評価方法】

小テストなどの平常点（60%）＋期末試験（40%）で総合的に評価。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

ベーシック 流通と商業（原田英生・向山雅夫・渡辺達朗 有斐閣）

アントレプレナー特論

真田幸光

【授業の概要】

本講義では、ビジネスの原点とも言うべき「起業」、即ち、人々が「業を起す」という初期過程からビジネスとは何かを考察していくことを目的としている。起業をするには、財務分析等の定量的考察のみならず、市場環境調査、労務管理、リーダーシップなど、幅広い視点からビジネスの本質を捉えていく必要が生じ、こういった幅広い視点を研究することによって受講生のビジネスに対する学問的知識の向上と共に実践的な知識・ノウハウの向上を図っていくべく、講義を展開する。尚、実践的知識・ノウハウ向上の為、開講中、3～4人前後の外部講師（外資系企業経営陣、ベンチャー企業経営者、ベンチャーキャピタル経営者、マスコミ関係者、行政関係者などを予定）を招き、講義を受けた後、担当教員とのディベート、更には受講生との意見交換などを組み入れていくことを予定している。

【授業の目標】

本授業はビジネスを起す際に必要な倫理観、目的意識、経営スキル、組織運営等々を習得しながら、ビジネスの原点を探ることを目的としている。

従って、必ずしも「起業」の為だけの技術論に固執して授業を展開するのではなく、幅広く「企業経営」全般をも概観しながら、経営者としての有り方を学生諸君に理解してもらうことを最終目標としている。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. ビジネスとは何か
3. 起業の契機
4. コアビジネスの作り方
5. 販売戦略
6. コスト部門の効率化戦略
7. 人材活用
8. 企業組織論
9. ファイナンス
10. 中期計画の立て方
11. 投資家の視点と起業
12. ケース・スタディー 1
13. ケース・スタディー 2
14. 総括
15. 理解力試験

【評価方法】

試験による評価

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

特になし。

eビジネス

林 誠

【授業の概要】

前半はeビジネスと一般のリアル・ビジネスとの違いをeビジネスのタイプ事例を通して習得し、ビジネスモデル特許の問題やeビジネスの現状と課題について学習する。後半はeビジネスのしくみをエージェントシステム、オークションをとおして学び、eビジネスを支援する情報推薦システムについても見ていく。最後にeビジネスのシステムを構築する際の概要を留意点を中心に学んでいく。

【授業の目標】

最新のICT技術動向とeビジネスの様々なモデルを学習し、eビジネスの戦略策定やビジネスプランの立案が出来る能力を習得する。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 eビジネスとは
- 第3回 eビジネスの状況
- 第4回 BtoCビジネスモデル
- 第5回 BtoBビジネスモデル
- 第6回 ネット広告とeマーケティング
- 第7回 eコマースと物流・金融
- 第8回 クリック&モルタル
- 第9回 eビジネスの基盤技術
- 第10回 Web 2.0の概念と技術（ブログとSNSの活用）
- 第11回 eビジネスのシステム構築概要
- 第12回 eビジネス戦略策定
- 第13回 eビジネスのプランの立て方
- 第14回 まとめ

【評価方法】

出席状況、課題および試験の成績により総合的に評価する

【テキスト】

eビジネスの教科書（幡鎌博、創成社）

【参考文献・資料】

スマートシンクロナイゼーション（山下洋史、村田潔 同文館）
企業Webサイト構築最新常識（戸田克己 技術評論社）

チャンネルマネジメント

大塚英揮

【授業の概要】

メーカーが自社商品のシェアを高めていく上で、流通チャンネルをどう管理していくかは非常に重要な意味を持つ。本講義では次の3つのトピックスについて取り扱う。(a)「チャンネル」の形状、「チャンネル」を構成する基本要素であるメーカー、卸、小売三者間の取引関係、(b)メーカーが流通業者とどのような取引関係を結び、どう流通業者を管理するのが最適なのか、(c)メーカーと流通業者間の「製販統合」、これら3つのトピックスについて具体的ケースを用いて学習し、流通に関する専門的知識を習得する。

【授業の目標】

((1) 流通チャンネルの構造がどのように定まるのか、(2) 日本型流通の特徴は何か、(3) 流通をめぐる環境の変化と流通業の対応) に関する知識を習得する。

【授業計画】

1. 流通チャンネルとは何か (1)
2. 流通チャンネルとは何か (2)
3. 流通の基礎理論 (1) 機能代替可能性、取引数最小化
4. 流通の基礎理論 (2) 取引費用アプローチ
5. 流通の基礎理論 (3) パワー理論、帰属原理
6. 日本型流通システムとは何か
7. 日本型流通 (1) 専売店制
8. 日本型流通 (2) 返品制
9. 日本型流通 (3) 製販統合と製販連携
10. 環境変化と日本型流通の変質 (1) 流通規制緩和
11. 環境変化と日本型流通の変質 (2) 流通外資の参入
12. 環境変化と日本型流通の変質 (3) 流通におけるパワー関係の変化
13. 環境変化と日本型流通の変質 (4) 流通情報化の進展
14. 環境変化と日本型流通の変質 (5) 卸売業の機能強化
15. まとめ

【評価方法】

小テストなどの平常点 (60%) + 期末試験 (40%)

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

現代流通（渡辺達朗 有斐閣）

統計基礎

元吉忠寛

【授業の概要】

本講義では、社会調査やマーケティング・リサーチを行う上で必要となる統計の基礎（どのような分析の際にどのような統計手法を使用するか、また結果をどのように解釈するか）について、表計算ソフトExcelや社会科学用統計パッケージSPSSを利用しながら学びます。

【授業の目標】

統計学に関する基本的な知識を学習しながら、パソコンを用いたデータ処理スキルを身につけ、分析方法について理解する。

【授業計画】

1. 授業ガイダンス・統計学とは
2. 統計データとその分布
3. 分布の特徴をあらわす指標
4. Excelを用いた統計処理 (1)
5. SPSSによる統計処理 (1)
6. 相関係数
7. Excelを用いた統計処理 (2)
8. 推測統計とは
9. 平均値の差の検定
10. SPSSによる統計処理 (2)
11. 回帰分析
12. SPSSによる統計処理 (3)
13. カテゴリ変数の関連分析
14. 総合演習課題
15. 期末試験

【評価方法】

課題レポート、期末試験、出席状況から評価します。

【テキスト】

なし。

【参考文献・資料】

講義中に紹介します。

職業指導論

宮部幸雄

【授業の概要】

職業生活に必要な基本的な能力、態度及び職業観を育成し、自らの将来の生き方や進路について考える。

【授業の目標】

1. 自らの個性や適性を最大限に発揮するライフサイクルの中での、将来の人生設計を進めるような職業を見いだすべく、職業のもつ意義と役割について考察する。
2. 進路指導の理論に基づく実践的な指導能力を身につけることを主なねらいとする。

【授業計画】

- 第1章 進路指導の歴史と発展
- 第2章 教育課程と進路指導
- 第3章 進路指導における組織と体制
- 第4章 特別活動における進路指導
- 第5章 進路指導の方法と技術
- 第6章 進路相談の方法と技術
- 第7章 進路指導の評価
- 第8章 資格取得指導
- 第9章 産業構造、職業構造の変化と進路指導
- 第10章 職業生涯設計の在り方

【評価方法】

出席状況と単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【テキスト】

自作教材

民法入門

岡田千絵

【授業の概要】

私法的一般法である民法は私的な生活関係を秩序づけている基礎法である。日常生活と関わり深い民法のうち、まず総則と親族法を中心に取り上げ、権利や法律行為についての理解を深める。事例式で行い、実務的・実際の解決や考え方を意識したい。また、法令用語や基礎的な事項についても解説し、必要な限りで民法に限らず法学全般の基本的な事項に言及する。

【授業の目標】

具体的な事例を通して、法律を身近に感じ、法的知識・思考能力を身につけて頂くことを目標とする。

【授業計画】

- 1 民法とは（民法の基本原則について）
- 2 契約の成立・意思表示・代理等
- 3 物権・担保物権
- 4 債権総論（保証等）
- 5 債権各論（貸借等）
- 6 不法行為と損害賠償
- 7 親族法（夫婦、親子）
- 8 相続法

【評価方法】

レポートの提出により評価する。

【テキスト】

特になし。

民法

石畔重次

【授業の概要】

現代社会においては法との関わりなしに生活していくことはできない。なかでも民法は最も身近な法である。売買や貸借、雇用などの契約、交通事故などの不法行為、物の所有などの物権、さらには家族関係や相続まで、社会生活は基本的に民法によって規律されている。本講では、具体例を交えながら、社会人として必要な民法の基礎知識を習得していく。

【授業の目標】

民法の基礎的な知識を修得し、法的な思考能力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1 民法の基本原則
- 2 民法総則…意思表示と法律行為、代理、無効と取消、時効、法人
- 3 契約総論…契約の成立と効力。債務不履行と契約の解除
- 4 契約各論…売買、贈与、貸借、使用貸借、消費貸借、請負、委任、雇用
- 5 債権総論…債権の種類、債務不履行、責任財産の保全、債権譲渡、債権の消滅
- 6 不法行為
- 7 事務管理と不当利得
- 8 物権法…所有権、用益物権、占有権
- 9 担保物権法…抵当権、質権、留置権、先取特権、非典型担保
- 10 親族法…夫婦、親子
- 11 相続法…法定相続、遺言、遺産分割

【評価方法】

試験またはレポートの提出によって評価する。授業態度も参考にする。

【テキスト】

民法への招待（池田真朗著 税務経理協会）

【参考文献・資料】

ゼミナール民法入門（道垣内弘人著 日本経済新聞出版社）

会社法 I

上田純子

【授業の概要】

会社法のうち、まず会社の種類を取り上げ、社員の責任の態様について学習する。株式会社の設立・運営に関して会社法はどのような考え方に基づいてどのような規定を設けているのか講義する。株式に係る規定についても解説する。

【授業の目標】

会社法の基本的な枠組みを理解することを目標とする。

【授業計画】

- 1 会社法立法史概観
- 2 総論（2週）
- 3 法人格否認の法理
- 4 会社の設立（3週）
- 5 株式（5週）
- 6 株式の譲渡（2週）
- 7 試験

【評価方法】

期末に実施される筆記試験の成績を中心に評価するが、授業への出席状況や授業態度、授業内の提出物の提出状況などを考慮することもある。

【テキスト】

最新会社法（大野正道・上田純子編著 北樹出版 2006年4月刊行）
六法（会社法と関連する政省令が掲載されているもの）を持参されたい。

【参考文献・資料】

講義内容の全体をカバーする参考図書については、開講時に指示する。特定のテーマについて深く学びたい受講生に対しては、その都度参考文献を指示する。なお、テキストの記述で不足する部分については、適宜補助資料を配布する。

会社法 II

上田純子

【授業の概要】

会社法のうち、株式会社の機関に係る規定を中心に取り上げる。株式会社の経営がいかなる者に任せられ、その者にどのような義務・責任が課せられるかなど、会社の組織法を中心に講義する。また、組織変更・組織再編等についても可能な限り言及する。

【授業の目標】

会社法IIに引き続き、株式会社の機関、会計・監査、組織再編などにおける会社法の諸規定を解説し、会社法の基本的な枠組みを理解することを目標とする。

【授業計画】

- 1 株主総会（2週）
- 2 株主総会決議の瑕疵
- 3 取締役と取締役会（2週）
- 4 取締役の義務・責任（3週）
- 5 株主代表訴訟
- 6 代表取締役
- 7 監査役・会計監査人
- 8 委員会設置会社（2週）
- 9 組織変更・組織再編
- 10 試験

【評価方法】

期末に実施される筆記試験の成績を中心に評価するが、授業への出席状況や授業態度、授業内の提出物の提出状況などを考慮することもある。

【テキスト】

最新会社法（大野正道・上田純子編著 北樹出版 2006年4月刊行）。
六法（会社法および関連政省令が掲載されているもの）を持参されたい。

【参考文献・資料】

講義内容の全体をカバーする参考図書については、開講時に指示する。特定のテーマについて深く学びたい受講生に対しては、その都度参考文献を指示する。なお、テキストの記述で不足する部分については、適宜補助資料を配布する。

商事法 I

藤田修輔

【授業の概要】

現代企業がビジネスの現場で遭遇すると思われる問題を取り上げ、法的側面から検討する。また、ビジネスに関する興味深い裁判例を取り上げ、解説するとともに、今後企業が対応すべき新たな領域や問題についても考察する。

【授業の目標】

企業がビジネス上直面する法律分野である会社法、民法、商法、手形小切手法、民事執行法、労働基準法、独占禁止法、知的財産法などについての一般的な知識を、現実の取引やトラブル事例（裁判例）の検討を通じて身につける。

【授業計画】

授業の進行は以下を予定しているが、状況に応じて変更する場合がある。

- 1) ビジネスに関する法の概要（さまざまな法律と裁判の制度について）
- 2) 企業の形態（さまざまな企業の形と法律）
- 3) 株式会社
株式会社の設立、内部組織、資金の調達、株式会社の変動（営業の譲渡、合併、会社の清算など）
- 4) 企業の取引
契約の締結と効力、契約の解除、解約に基づく損害賠償請求
- 5) さまざまな契約
売買契約、賃貸借契約、消費貸借契約、その他の契約
- 6) 不法行為の責任
- 7) 債権の保全と回収
緊急時の回収、担保による回収、強制執行による回収
- 8) 企業の法的な整理手続
破産、民事再生、会社更正など
- 9) 労働関係に関する法
- 10) 経済法、独占禁止法
- 11) 知的財産の管理
特許権、実用新案権、商標権、著作権など
- 12) 紛争の解決方法
民事訴訟、調停など

【評価方法】

筆記試験を行う。評価のポイントは授業において説明する。

【テキスト】

書店で購入できるコンパクトな分量のものでよいので六法を準備すること。基本的なテキストは使用しないが、必要に応じて資料を授業の都度に配布することがある。

【参考文献・資料】

講義の対象がきわめて広範なので、各法律分野の講義に入る時に紹介する。

国際ビジネス法

JOLLY, James A.

【Course description】

主権国家間の法として成立した国際法の基本概念を把握した上で、個人、民族、国際機構という新たな主体が登場する現代国際社会で、国際法がいかに変貌しつつあるかを、戦争の規制や人権の保障などの分野を中心に考察する。

The aim of this course is to train students in the basic concepts of business law that are currently used in international trade. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of basic Japanese and English vocabulary of legal terminology to be able to converse in an international atmosphere. The course textbook will be in Japanese and students will be required to read and absorb basic concepts covered in these. Supplemental materials will be provided in Japanese and English to augment the lessons.

【Course objectives】

1. To provide students with basic knowledge and understanding of the legal concepts relate to international business.
2. To equip students with abilities to recognize the implications that legal problems have for international business dealings.

【Course schedule】

A schedule of class dates and assignments will be provided at the second class meeting. Topics to be covered include:

1. Classification and content of Legal Matters (法の分類とその内容)
2. Parties related to international contractual transactions (国際契約の当事者)
3. Characteristics of international trade dealings (国際売買の特色)
4. International trade dispute resolution practices (国際取引紛争の解決)
5. International investment practices (国際投資)
6. International technology transfer practices (国際実業移転)
7. Intellectual property rights (知的所有権)

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation and scores in quizzes and the final examination. There will be two quizzes given during the course on materials covered in each segment. The final examination will cover the concepts presented in the entire course.

【Textbooks】

国際取引法入門：当事者の視点から（富沢敏勝 窓社 1999年）Each student is also expected to have and use his/her own Japanese/English dictionaries.

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

商事法 II

藤田修輔

【授業の概要】

商取引の決済等において重要な役割を果たしている手形について、手形法がどのように規定しているのかについて講義する。高度ではあるが、テキストを用いながら法の基本的な考え方の理解を深める。

【授業の目標】

企業の決済方法が多様化した現在においても手形及び小切手による支払いは依然として大きな位置を占めている。本講義において抽象的に手形・小切手での決済方法を論じるとどめることなく、具体的事例に即して受講者の手形・小切手に関する法的理解を深める。

【授業計画】

授業の進行予定はおおむね以下のとおりであるが、状況に応じて内容を変更することがある。その際は初回の授業時に学生に告知する。

- 1) 手形・小切手の法的構造と経済的機能
- 2) 手形行為の特色（原因関係と手形関係）（以下、約束手形を中心に）
- 3) 手形行為の成立要件・方式
- 4) 手形の振出
- 5) 手形の裏書（裏書の意義・効力・善意取得・抗弁の制限）
- 6) 特殊な裏書
- 7) 手形の支払
- 8) 手形の不渡りと銀行取引停止処分
- 9) 遡求
- 10) 手形保証
- 11) 為替手形・小切手

【評価方法】

筆記試験を行う。評価のポイントは授業において説明する。

【テキスト】

新手形法・小切手法（有斐閣双書）（上柳克郎・北沢正啓・鴻常夫編 有斐閣）
その他適宜指示する。

【参考文献・資料】

各授業の際に必要なに応じて指示する。

基礎演習 I

浅井敬一郎

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- テキストをゼミ員全員で輪読し、経営戦略論に関する基礎理論を習得する。
- 習得した基礎理論を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
- 理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。
- ゼミ対抗ディベート、共同レポートを並行して行う。

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、ノートチェック、発表の内容、試験により評価する。

【テキスト】

戦略経営論（ガース サローナー他著 東洋経済新報社）
ただし、それまでに
・わかりやすいマーケティング戦略（沼上幹 有斐閣アルマ）
・経験から学ぶ経営学入門（奥林他 有斐閣ブックス）
・競争戦略論（青島矢一他 東洋経済新報社）
は読破し、理解しておくこと。

【参考文献・資料】

授業の中で適宜指示する。

基礎演習 I

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

演習への日常的な取り組み姿勢と演習でのレポート・報告によって総合的に評価する。特に出席状況は重視する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

基礎演習 I

石川雅之

【授業の概要】

次の課題を中心に行う。

- モノを読んでまとめる
- 論理的な考え方を身につける
- 意味のおお文章を作成する
- 雑談程度の内容でよいので、多くの人を相手に話をする
また、適宜訳など専門的な内容も扱う。

【授業の目標】

基礎学力を高める。

【授業計画】

学生による発表と講義をおりませながら行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

基礎演習 I

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

演習への日常的な取り組み姿勢と演習でのレポート・報告によって総合的に評価する。特に出席状況は重視する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

基礎演習 I

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。具体的には、「経営」と「情報」と「システム」についての基礎的な理解と、リスクマネジメントと企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)の基礎的な理解を深めること。さらに、全員でのディスカッションと各自のプレゼンテーションを通し、コミュニケーション能力、発言力、表現力を養う。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。また、近年注目されているリスク管理や企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)に関して、経営情報システムの観点から講義する。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

- 情報社会について
- 情報システムとデータの重要性
- システムリスクについて
- Excelの応用、VBA
- ホームページ作成
- プレゼンテーション、表現力の重要性
- リスクマネジメントについて
- 企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)について

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に別途指示・紹介する。

基礎演習 I

梅田敏文

【授業の概要】

双方向授業の中で、プレゼンテーションの計画、資料作成、技法に関して、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 パワーポイントの構成と機能
- 第3講 プレゼンテーションとは何か
- 第4講 プレゼンテーションの計画
- 第5講 プレゼンテーションの技法
- 第6講 発表とディスカッション (1)
- 第7講 発表とディスカッション (2)
- 第8講 発表とディスカッション (3)
- 第9講 発表とディスカッション (4)
- 第10講 発表とディスカッション (5)
- 第11講 発表とディスカッション (6)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

作成されたプレゼンテーション資料、発表内容、出席を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に、適宜配布する。

【参考文献・資料】

創造するプレゼンテーション (梅田敏文著 弘学出版)

基礎演習 I

浦山章二

【授業の概要】

ビジネスの世界で仕事をしていくには、経済やビジネスに関する知識が欠かせません。いまや世界はグローバル化し、遠い外国で起きたことがわれわれの生活に影響を与えるような社会になっています。

基本的な経済やビジネスに関する知識は、ビジネスの世界で仕事をしていく上で必要なだけでなく、社会人として豊かな暮らしをしていくために必要なものです。このような知識を身につけるため、このゼミでは実践的な経済知識や経済ニュースを調査研究し、経済やビジネスに関する知識のレベルを高めます。

【授業の目標】

経済ニュースを理解するためには経済、ビジネス、会計、税務、法律などの幅広い知識が必要です。さまざまな経済ニュースを調査研究し、経済やビジネスを理解するために必要な知識を習得することがこの授業の目標です。

学校で学ぶ知識は、確かに重要なことですが、それだけでは社会で役に立たないのは事実です。重要なことは、現実に行き詰っていることを理解し、自分で考えて判断できる人になることです。そのためには多くの実践的な知識と知恵が必要であり、このゼミではそれを学びます。努力せずに知識は身につけません。

【授業計画】

毎日発生している経済ニュースや過去の経済ニュースの中から、特に興味深いものを選んで調査研究し、理解を深める。

2年では経済の実践的なテキストで基礎的な経済知識の習得を目標とする。

【評価方法】

経済ニュースの理解度により判定する。

【テキスト】

- ・新聞
- ・日経・経済記事の読み方 (2008年版) など

【参考文献・資料】

インターネットなど

基礎演習 I

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) テキストをゼミ員全員で輪読し、経営戦略論に関する基礎理論を習得する。
- (2) 習得した基礎理論を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
- (3) 理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、発表の内容などを総合的に評価する。

【テキスト】

コトラー&ケラーのマーケティングマネジメント (コトラーほか ビアソンエデュケーション)

【参考文献・資料】

はじめて学ぶ経営経済学 (前田章 慶応義塾大学出版会)

基礎演習 I

奥村文徳

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。
相手に正しく伝えるだけでなく、より効果的に伝える技術を身につける。

【授業計画】

ワード、エクセル、パワーポイントを基本に、データのまとめ方や表現方法を理解するために、コンピュータを実際に使いながら講義と演習を行う。
最終的には、一つのテーマについてゼミ内で発表を行う。

【評価方法】

レポートの内容、出席状況、最終発表などから総合的に判断する。

【テキスト】

講義中に資料を配付する。

基礎演習 I

國信潤子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてジェンダーとビジネス、産業社会学の領域からテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習する。国際的視野をもったビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

ジェンダーに敏感な視点で現在の日本社会のビジネス界を概観し、その功罪両面を理解し、英語ビジネスジャーナル記事の講読により英語活動能力をつけることを目標とする。

【授業計画】

基礎演習はまずビジネスとジェンダーの接点において、各学生の問題意識、関心領域を意見交流し、それらに沿った資料の講読をおこなう。原則的に産業社会学、開発社会学の基礎資料、雇用機会均等法などの資料を日本語、英語で講読する。各自が分担部分をレジメ作成し報告・討議する。

- 1) 関心領域の意見交流～ジェンダーとビジネス・労働～
- 2) 産業社会学、開発社会学、雇用関係法制の基礎文献資料
- 3) ジェンダーの視点から労働環境、ビジネスシーンの事例分析をおこなう。
各種ジェンダー区分された統計資料の考察
- 4) 学生の企画による企業訪問、討論、合宿、懇親会などを実施
- 5) 外部講師による講演会、セミナーなどに参加し、その内容について討議を行う。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

新しい産業社会学（犬塚 有斐閣）
開発社会学（恩田 ミネルヴァ書房）
職業とジェンダー（岡村他 日本評論社）
女性学・男性学～ジェンダー論入門（國信他 有斐閣）
Sustainable Life and Economics 南雲堂

基礎演習 I

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

個人として必要な能力の習得をめざして、下記のような内容について、実際の演習を行う

ディベート訓練
パブリックスピーキング
プレゼンテーション

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、レポート、出席を総合して評価する。

【テキスト】

授業の中で、適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

基礎演習 I

後藤貞明

【授業の概要】

受講者の基礎知識を考慮してテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

会計に関する基礎知識を備え、社会で応用ができる人を育てる。

【授業計画】

- 1、簿記・会計の基礎知識の習得
- 2、会計理論の理解
- 3、原価計算・原価管理・経営分析
- 4、財務諸表の読解力の養成
- 5、一般営利法人での会計実務上の問題点
- 6、非営利法人の会計

【評価方法】

演習中の学習態度、発言、発表等で評価する。

【テキスト】

演習の過程で指示する。

【参考文献・資料】

演習の過程で指示する。

基礎演習 I

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

ビジネスのあり方、経営のチェックポイント、起業に向けての理論武装などについて考察する。

【評価方法】

演習に対する取組姿勢と分析・考察レポートによる。

【テキスト】

無し

【参考文献・資料】

適宜必要資料等についてコメントする。

基礎演習 I

中村雅文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

1. 簿記・会計知識の習得と理論的研究
2. 学生による発表とディベートによって進めるのを基本とする。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的な参加態度、レポートの提出、課題の提案等を総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

必要に応じ授業において別途指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じ授業において別途指示する。

基礎演習 I

林 誠

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

パソコンの基本リテラシーを確実にマスタするとともに、ケースを通じて、ロジカル・シンキングの手法やロジカル・コミュニケーションの方法を学習し、実践する。

【評価方法】

授業への出席、課題、ディスカッションへの積極的な参加度などを総合的に評価する。

【テキスト】

適時指示する。

【参考文献・資料】

Excelでマスターする ビジネスデータ分析 実践の極意 (住中光夫 アスキー)
PowerPointでマスターする勝ち抜く提案プレゼンの極意住中光夫 アスキー)

基礎演習 I

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

「視点の多様性」をテーマに、以下の「文化」と「コミュニケーション」の基礎・関連概念を学習します。

1. 「コミュニケーション」「文化」とは。ビジネスとの関連性
2. 「意味」とは
3. 「聞くこと」とは
4. 言語メッセージ
5. 非言語メッセージ
6. 文化とアイデンティティ
7. 文化と「価値観」
8. 価値判断
9. ステレオタイプと差別

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

多文化社会と異文化コミュニケーション (伊佐雅子 監修 三修社)
異文化トレーニング:ボーダレス社会を生きる (八代京子、町恵理子、小池浩子、磯貝友子 三修社)

基礎演習 I

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第13講、演習の受講者が、経済・金融統計のデータバンクにインターネットでアクセスし、現実のデータの分析を通じて、経済・金融の基礎知識を習得することを目的とする。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

基礎演習 I

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

簿記の基礎知識を理解させる。企業会計に関する基礎知識、仕組を理解させる。実務演習。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

商業簿記2級レベルの教材
その他レジュメで対応

基礎演習 I

三浦克人

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

会計学の入門書や会計に関する新聞や雑誌の記事などを利用して、上記のテクニックが自然と身につくように演習を進める。課題についてはあらかじめ提示するので、事前によく準備して演習に臨むこと。必要に応じて、合宿や工場見学などの課外活動を行うこともある。

【評価方法】

事前の準備、演習への参画、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

基礎演習 I

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

情報技術 (IT) の中でもハードウェアについての基礎知識の修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、発表の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

基礎演習 I

三矢幹根

【授業の概要】

財務分析ができるようになるため、財務諸表3表（損益計算書、貸借対照表、キャッシュフロー計算書）の読み方を学ぶ。

【授業の目標】

グループディスカッションを通してビジネス社会で即、役立つ体系的なファイナンス知識を学び、ビジネスの現場で必須となる問題解決能力を高めるため、実務的技能（責任感、チームワーク、リサーチ能力、プレゼンテーション能力、批判的思考力、レポート作成能力、小さな努力を継続する能力など）を習得する。また、ビジネスパーソンとして日本国内だけでなく国際舞台でも活躍できるよう実用英語能力も鍛錬する。

ファイナンスの基礎を体系的に学びながら、ビジネスパーソンに必須の問題解決能力（問題認識→原因分析→対策立案→対策実行→対策評価）を高めるため、次の項目に重点を置いて授業を進める。

【授業計画】

- ファイナンスおよび企業価値評価のフレームワークを理解する
- チームワークの大切さを日々体験学習する
- リサーチ能力を鍛える
- 口頭によるプレゼンテーション能力を鍛える
- 批判的思考能力を鍛える
- 文書によるプレゼンテーション能力を鍛える（卒論が書けるように準備を進める）
- 国際舞台でも活躍できるように、英語の実用運用能力を向上させる（毎回最初の10-15分は実用英語の指導をする。日本人の英語が下手なのはただ単に学習法が適切でないだけで、正しく学べば短期間で大幅に上達できる）

上記 (2) から (5) の目標を達成するため、ゼミ生を3つのチームに編成し、主担当チームが協力し合って決められたテーマについて事前に調べ、まとめ、他のチームに対して発表する。他のチームはプレゼンテーションの内容について批評する。主担当は週替わりの輪番制とし、ゼミ生全員がプレゼンテーションを何度も体験できるようにする。以上のような体験を積み重ねることにより、ビジネスの現場で必要とされる様々な技能と資質を習得することを旨とする。

【評価方法】

出席状況及び英語小宿題 (20%)、プレゼンテーション (30%)、課題レポート (50%) により総合評価する。

【テキスト】

決算書がスラスラわかる財務3表一休理解法 (国貞克則、朝日新聞社)

中学英語で言いたいことが24時間話せるPart1 (市川敬三著、南雲堂)
速読英単語 入門編 (Z会出版)
“豆熟” 英語基本熟語集 (赤尾好夫編、旺文社)

【参考文献・資料】

企業分析力養成講座 (山口揚平、日本実業出版社)

基礎演習 I

諸上茂光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

1. 広告に関する基礎知識の習得（テキストを用いた輪講及び討議）
2. 必要なソフトウェアの操作・活用方法の習得（サブゼミ・勉強会）

【評価方法】

出席状況と課題（輪講資料）の内容および討議における積極性により総合的に評価。

【テキスト】

授業時に適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜配布する。また、報告者の輪講資料は重要な参考資料となる。

基礎演習 I

吉村文雄

【授業の概要】

ゼミ生の関心事を踏まえてテーマを設定するとともに、双方向的授業の中で、ビジネス社会で役立つ知識とスキルを取り上げ、それらが組織の内外でどのように機能するかを考察します。また、ビジネスの動きを的確にとらえることができるように会計学の基調を把握するとともに、コミュニケーションについて各種のデータを用いて解説いたします。本年度は上の目的を満たすためにホスピタリティ・マネジメントアカウントティングについて理解を深めます。なお、各種の資格試験等を目指すひとには、個別に相談し各人に合った適切な方法をお互いに考えていくようにします。

【授業の目標】

概要で述べているように、マインドを涵養し伝達能力を高めるために、問題解決能力が身につくよう努めます。結果として、ゼミ生のコミュニケーション能力、論理的思考力および協調性などが身につくようになれば幸いです。各人が大学で何を目標として研究成果を示していくのが良いかをみんなで議論し、より適切な結果を導き出せるようにしたいと思います。なぜなら、会計は私たちの共通の言語であるとともに、人間関係を構築するからです。

【授業計画】

はじめに「ビジネス学部で何を学ぶのか」について討論し、ビジネスを支える会計に対する考え方が身につくように努めます。その後、国際化会計制度の意味について考察するとともに、ビジネスにおいて計数がどのように役立っているかについて検討します。そうした作業をおとして、現代経済の動向とビジネス改革の方向との関連性を明らかにします。また、各々の進路選択などについてもアドバイスいたします。

【評価方法】

出席、討論の内容などによって評価します。

【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を使いますが、適宜プリントを配布しそれらに基づいて討論します。プリントの使用頻度は高くなります。

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示します。

基礎演習 II

浅井敬一郎

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) 新聞の経済記事を読む上で最低限必要とされる経済・企業経営の仕組みについて学ぶ。基礎的なテキストを輪読する。報告者が担当箇所をレジュメにまとめ、報告し、質疑応答を行い、テストを行う。
- (2) ゼミ対抗のディベートを行う。
- (3) 3年生と合同でマネジメント・ゲーム実習を行う（春休み集中）。
- (4) テキストとは別にテーマを与え、共同レポートを作成しプレゼンテーションを行う。

【評価方法】

演習でのプレゼンテーション、作成ノートのチェック、討論の状況（各授業毎に一人一発言を義務づけている）、レポートにより評価する。また各章ごとに小テストを行う。
無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

戦略経営論（ガスサロナー他 東洋経済新報社）
この他は、演習時に指定する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

基礎演習 II

石川雅之

【授業の概要】

基礎学力を高める一環として、モノを読んでまとめ、それを他人に伝える練習を行う。
また、適宜仕訳など専門的な内容も扱う。

【授業の目標】

基礎学力を高める。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

発表内容とレポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

基礎演習 II

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・金融分野でのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。

【評価方法】

演習への日常的な取り組み姿勢、レポート・演習での報告によって総合的に評価する。特に出席状況は重視する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

基礎演習 II

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。具体的には、「経営」と「情報」と「システム」についての基礎的な理解と、リスクマネジメントと企業の社会的責任(CSR:Corporate Social Responsibility)の基礎的な理解を深めること。さらに、全員でのディスカッションと各自のプレゼンテーションを通じ、コミュニケーション能力、発言力、表現力を養う。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。また、近年注目されている、リスク管理や企業の社会的責任(CSR: Corporate Social Responsibility)に関して、経営情報システムの観点から講義する。

学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1. 経営管理
2. 情報処理と分析力の重要性
3. 統計学
4. 情報システムを利用した業務の効率化
5. エンドユーザー・コンピューティング
6. 内部統制について
7. 戦略的総合リスク管理 (ERM:Enterprise Risk Management)について

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

経営管理（有斐閣アルマ）。その他、授業中に適宜指示・紹介する。

基礎演習 II

梅田敏文

【授業の概要】

双方向授業の中で、レポートの作成能力、文章力の育成の分野で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 論文の構成と用語の使用、レポート分析の方法
- 第3講 レポート分析 (1)
- 第4講 レポート分析 (2)
- 第5講 レポート分析 (3)
- 第6講 レポート分析 (4)
- 第7講 レポート分析 (5)
- 第8講 レポート分析 (6)
- 第9講 レポート分析 (7)
- 第10講 レポート分析 (8)
- 第11講 レポート分析 (9)
- 第12講 レポート分析 (10)
- 第13講 まとめ

【評価方法】

レポート分析の発表内容、出席を総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に、適宜配布する。

基礎演習 II

浦山章二

【授業の概要】

ビジネスの世界で仕事をしていくには、経済やビジネスに関する知識が欠かせません。身近に起きていることを正しく理解するためには経済やビジネスの知識が必要なのです。

このような基本的な経済やビジネスに関する知識は、ビジネスの世界で仕事をしていく上で必要なだけでなく、社会人として豊かな暮らしをしていくためにも必要なのです。このような経済的な知識を身につけ、経済に強い人になることがこのゼミの目標です。

【授業の目標】

経済ニュースを理解するためには経済、ビジネス、会計、税務、法律などの幅広い知識が必要です。

学校で学ぶ知識は、確かに重要なことですが、それだけでは社会で役に立たないのは事実です。重要なことは、現実に行き詰っていることを理解し、自分で考えて判断できる人になることです。そのためには多くの実践的な知識と知恵が必要であり、このゼミではそれを学びます。努力せずに知識は身につけません。

【授業計画】

毎日発生している経済ニュースや過去の経済ニュースの中から、特に興味深いものを選んで調査研究し、理解を深める。2年では経済の実践的なテキストで基礎的な経済知識の習得を目標とする。

【評価方法】

経済ニュースの理解度と授業への取り組みにより判定する。

【テキスト】

- ・新聞
- ・日経・経済記事の読み方（2008年版）など

基礎演習 II

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- テキストをゼミ員全員で輪読し、マーケティング経済学の各論について学習する。
- 本から学び取った理論的知識を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
- 理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。
- 基礎演習の集大成として、他大学とのディベートを行うことで、目的を持ってゼミ員がゼミ活動に取り組めるよう留意する。

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、発表の内容などを総合的に評価する。

【テキスト】

コトラー&ケラーのマーケティングマネジメント（コトラーほか ピアソンエデュケーション）

【参考文献・資料】

はじめて学ぶ経営経済学（前田章 慶応義塾大学出版会）

基礎演習 II

奥村文徳

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。
多くの情報から自分が必要とする点を的確に要約できるようになること。

【授業計画】

まず新聞記事からポイントを掴むことを行う。その後、多くの情報の中から要約し、相手に伝えるための技術を身に付ける。
最終的には、本の重要な点の中を正しく相手に伝えられるようにする。ゼミ内で発表し、他の人の良い意見を取り入れながら、完成度を高めていく。

【評価方法】

提出物の内容、出席状況、最終発表などから総合的に判断する。

【テキスト】

テキスト候補の中からゼミ生の意見で書籍を選ぶため、最初の講義で決める。

基礎演習 II

國信潤子

【授業の概要】

前期基礎演習 I において学習した内容の展開である。

【授業の目標】

ジェンダー関連の産業社会学領域の資料、統計などを分析し、パワーポイントを使って各自がプレゼンテーションする。
英語資料、ビジネス・アジア、ハーバード・ビジネス・レビューからの記事などを講読する。

【授業計画】

前期：基礎演習 I の継続
原則的に産業社会学の領域を扱う。雇用機会均等法改正法、開発社会学の基礎資料の講読をする。
各自が分担部分をレジメ作成し報告・討議する。

- ジェンダーの視点から労働環境、ビジネスシーンの社会分析をおこなう。
各種ジェンダー区分された統計資料の考察
- 将来のライフプラン、キャリア開発の方法、就職活動の手法
- 新しい雇用に関する法制、家族関係の変容について
- 学生の自主企画による企業訪問、合宿などを実施
- 英語資料講読：社会問題についてのテキスト、ジャーナル記事を英文講読

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

新しい産業社会学（大塚他 有斐閣アルマ）
開発とジェンダー（田中他 国際開発出版会）
女性学・男性学～ジェンダー論入門（國信他 有斐閣アルマ）

基礎演習 II

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

ビジネスにおける専門知識習得のため、下記のような内容について演習を行う
ディベート

経営分析

- 財務諸表の見方
- 経営指標の見方
- 企業の実際の財務諸表及び各種情報を収集しての経営分析

【評価方法】

演習への取り組み姿勢、レポート、出席を総合して評価する。

【テキスト】

授業の中で、適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の中で、適宜指示する。

基礎演習 II

後藤貞明

【授業の概要】

受講者の基礎知識や関心を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

会計の基礎知識を持ち、実務でも応用力が発揮できること。

【授業計画】

- 1、簿記・会計の基礎知識の習得
- 2、会計理論の理解
- 3、財務諸表の読解力の養成
- 4、一般会計の論点の理解
- 5、非営利法人を含めた広い実務会計上の仕組みと論点

【評価方法】

学習態度・演習中の発言等で評価する。

【テキスト】

開講時に指示する。

【参考文献・資料】

講義中に指示する。

基礎演習 II

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。特にプレゼンテーション能力の向上と鳥瞰図の視野から見た分析能力の向上を目指す。

【授業計画】

前期に作成した各自レポートを発表、これを基に全ゼミ生によるディベートを実施する。

【評価方法】

各自発表内容とディベート参加姿勢による。

【テキスト】

必要に応じて適宜指導する。

【参考文献・資料】

適宜準備する。

基礎演習 II

中村雅文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

上記マインドを涵養し、企業会計を中心とした実践的な会計実務を習得することを旨とする。

【授業計画】

学生の発表した内容を全体で議論し、講義を織り交ぜながら進める。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的な参加態度、レポートの提出、課題の提案等を総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

授業において別途指示する。

【参考文献・資料】

授業において別途指示する。

基礎演習 II

林 誠

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

ケースを通じて、新しいビジネスモデルや社会ネットワークシステムを考察するとともに、ロジカル・シンキングの手法やロジカル・コミュニケーションの方法を学習し、実践する。

【評価方法】

授業への出席、課題、ディスカッションへの積極的な参加度などを総合的に評価する。

【テキスト】

適時指示する。

【参考文献・資料】

Excelでマスターする ビジネスデータ分析 実践の極意 (住中光夫 アスキー)
PowerPointでマスターする勝ち抜く提案プレゼンの極意住中光夫 アスキー)

基礎演習 II

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習Iで学習したコミュニケーションの基礎を踏まえ、「考えること」「レポートを作成すること」の技能を磨く。トピックは、前期の様子を見て調整する。現在の予定は、

1. 非言語コミュニケーションの発展（自ら考え、トピックを設定）
2. コンフリクト・交渉

について学習します。

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーション、授業への参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

基礎演習 II

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第13講、演習の受講者が、経済・金融統計のデータバンクにインターネットでアクセスし、現実のデータの分析を通じて、経済・金融の基礎知識を習得することを目的とする。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

基礎演習 II

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

簿記の基礎知識を理解させる。企業会計に関する基礎知識、仕組を理解させる。実務演習。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

商業簿記2級レベルの教材
その他レジメで対応

基礎演習 II

三浦克人

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

会計学の入門書や会計に関する新聞や雑誌の記事などに加え、ネット上にあるさまざまな会計情報を利用して演習を進める。課題についてはあらかじめ提示するので、事前によく準備して演習に臨むこと。必要に応じて、合宿や工場見学などの課外活動を行うこともある。

【評価方法】

事前の準備、演習への参画、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

基礎演習 II

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

情報技術 (IT) の中でもソフトウェアについての基礎知識の修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、発表の内容等を総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

基礎演習 II

諸上茂光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

前期に引き続き

1. 広告に関する基礎知識の習得 (テキストを用いた輪講及び討議)
2. 必要なソフトウェアの操作・活用方法の習得 (サブゼミ・勉強会) さらに、
3. 実際の広告を題材に、効果の測定や分析、ディスカッション (グループワーク・ゼミ内発表)

【評価方法】

出席状況と課題 (輪講資料) および討議、ゼミ内発表の内容により総合的に評価。

【テキスト】

授業時に適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜配布する。また、報告者の輪講資料は重要な参考資料となる。

基礎演習 II

三矢幹根

【授業の概要】

専門演習へ進んだとき、企業価値評価や証券分析ができるようにするため、現代ファイナンス理論の基礎と統計学の基礎を学ぶ。

【授業の目標】

ファイナンスの基礎と統計学の基礎を習得し、実際に数値計算できるようにする。

グループディスカッションを通してビジネス社会に役立つ体系的なファイナンス知識を学び、ビジネスの現場で必須となる問題解決能力を高めるため、実務的技能 (責任感、チームワーク、リサーチ能力、プレゼンテーション能力、批判的思考力、レポート作成能力、小さな努力を継続する能力など) を習得する。また、ビジネスパーソンとして日本国内だけでなく国際舞台でも活躍できるよう実用英語能力も鍛錬する。

【授業計画】

体系的なファイナンスの知識を積み上げながら、ビジネスパーソンに必須の 問題解決能力 (問題認識→原因分析→対策立案→対策実行→対策評価) を高めるため、次の項目に重点を置いて授業を進める。

- (1) ファイナンスおよび企業価値評価のフレームワークを理解する
- (2) チームワークの大切さを日々体験学習する
- (3) リサーチ能力を鍛える
- (4) 口頭によるプレゼンテーション能力を鍛える
- (5) 批判的思考能力を鍛える
- (6) 文書によるプレゼンテーション能力を鍛える (卒論が書けるように準備を進める)
- (7) 小さな努力を継続する能力を鍛える
- (8) 国際舞台でも活躍できるように、英語の実用運用能力を向上させる (毎回最初の30分は実用英語の指導をする。日本人の英語が下手なのはただ単に学習法が適切でないだけで、正しく学べば短期間で大幅に上達できる)

上記 (2) から (5) の目標を達成するため、ゼミ生を3つのチームに編成し、主担当チームが協力し合って決められたテーマについて事前に調べ、まとめ、他のチームに対して発表する。他のチームはプレゼンテーションの内容について批評する。主担当は週替わりの輪番制とし、ゼミ生全員がプレゼンテーションを何度も体験できるようにする。以上のような体験を積み重ねることにより、ビジネスの現場で必要とされる様々な技能と資質を習得することを目指す。

【評価方法】

出席状況及び英語小宿題 (20%)、プレゼンテーション (30%)、課題レポート (50%) により総合評価する。

【テキスト】

ざっくり分かるファイナンス (石野雄一著、光文社新書)

統計学がわかる (向後千春ほか、技術評論社)
今日から使える統計分析 (大村平、講談社)

中学英語で言いたいことが24時間話せるPart2 (市川敬三著、南雲堂)
速読英単語 入門編 (Z会出版)
"豆熟" 英語基本熟語集 (赤尾好夫編、旺文社)

【参考文献・資料】

しっかりわかるファイナンス (渡辺茂、中央経済社)

統計のはなし【改訂版】(大村平、日科技連)
統計解析のはなし【改訂版】(大村平、日科技連)
直感的統計学 (吉田耕作、日経BP社)

基礎演習 II

吉村文雄

【授業の概要】

ゼミ生の関心を踏まえてテーマを設定し、双方向的授業の中で、皆さんがビジネス社会で役立つ知識やスキルの修得に努めるとともに、ビジネスで必要なマインドを身に付けるよう指導します。そのために最新の管理システム、とくにアメリカで重視されつつあるホスピタリティ・マネジメントのためのアカウントティングシステムと、わが国の多くの企業が導入しようとしている業績評価システムの特徴をつかみ、それらが私たちの生活世界においてシステム化される姿を丁寧に説明します。

【授業の目標】

概要で述べたように、コミュニケーション能力を高めるためには、問題解決能力を身に付ける必要があります。そのために近年のグローバル化のなかで、とくにその動きを強めつつある福祉、医療、ホテル、レストランなどの計算システムを学びます。そのなかで、成果主義の業績評価会計システムの特徴をつかみ、それがどのように私たちの生活システムのなかで定着しているのかをとらえます。

【授業計画】

少人数ですので、自分の考えを積極的に示すとともに他人の意見に耳を傾け、討論の楽しさが身につくようにします。ビジネス社会で役立つ知識を身につけるため、ここでは何よりもまず社会において必要な計数的手段を取り上げ、その機能を組織の文化的・経済的諸要因との関係において把握します。なお、大学生活を送るにあたって悩んでいることや、履修上の問題を抱えているひとは、相談してほしいと思います。

【評価方法】

協調性、レポートの内容などを総合的に判断して評価します。

【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』(森山書店)を使用します。プリントもよく使います。

【参考文献・資料】

授業中に指示します。

専門演習 I

浅井敬一郎

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) 経営戦略を中心にテキスト、雑誌の記事を輪読する
- (2) ゼミ対抗のディベートを行う。
- (3) グループごとに共同レポートを作成し、プレゼンテーションを行う
- (4) マネジメントゲームを2年生と合同で行う（春休み、夏休み集中）

【評価方法】

演習での報告、ノートの作成、討論の状況、レポートにより評価する。特に質問者からの質問に答えるだけでなくいかに議論を引き出し、リードするかという点を重視する。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

戦略経営論（ガース サローナー他著 東洋経済新報社）
このテキストの後は適宜指示する

【参考文献・資料】

適宜紹介する

専門演習 I

石川雅之

【授業の概要】

貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の構造を理解するとともに、それらの作成ルールを学習する。

【授業の目標】

現代会計がどのような考え方によって、どのような制度を目指しているのかを理解する。

【授業計画】

学生による発表を中心に講義を織り交ぜながら行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

専門演習 I

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。また、個別グループでの研究発表を行う。

【評価方法】

演習への日常的な取り組み姿勢、レポート・演習での報告によって総合的に評価する。特に出席状況については重視する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習 I

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。具体的には、「経営」と「情報」と「システム」についての専門性と応用力を身につけ、リスクマネジメントと企業の社会的責任（CSR:Corporate Social Responsibility)についての理解を深めること。さらに、コミュニケーション能力、発言力、表現力に加え、分析力、企画力、創造力を養う。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。また、近年注目されている、リスク管理や企業の社会的責任（CSR:Corporate Social Responsibility)に関して、経営情報システムの観点から学ぶ。基礎演習で基礎固めを行った知識を高め、新たなIT技術や情報処理に関する知識とリスクマネジメントやCSRに関する専門的な知識を習得する。学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1. ACCESSの基礎と応用
2. Excelの応用とVBA
3. ホームページ作成
4. 経営情報論
5. 株式投資シミュレーション
6. 戦略的総合的リスク管理(ERM:Enterprise Risk Management)について

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示・紹介する。

専門演習 I

梅田敏文

【授業の概要】

双方向授業の中で、Webの効果的利用やホームページ作成の分野で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 インターネットを活用した情報収集と情報発信
- 第3講 HTMLの機能 (1)
- 第4講 HTMLの機能 (2)
- 第5講 HTMLの機能 (3)
- 第6講 ホームページの作成 (1)
- 第7講 ホームページの作成 (2)
- 第8講 ホームページの作成 (3)
- 第9講 ホームページの発表と評価 (1)
- 第10講 ホームページの発表と評価 (2)
- 第11講 ホームページの発表と評価 (3)
- 第12講 まとめ

【評価方法】

作成されたホームページ、そのプレゼンテーション、発表内容、態度、出席などを統合的に評価する。

【テキスト】

最初に全体のプリントを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習 I

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) テキストをゼミ員全員で輪読し、マーケティング戦略の実際に関して学ぶ。
- (2) 習得した知識を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
- (3) 理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。
- (4) グループに分かれ、自分たちで決めたテーマに沿って論文を作成することで、資料収集・文章作成のスキルを身につける。

【評価方法】

演習に取り組む姿勢（輪読の予習、発言の積極性、ディベート、プレゼンテーション準備）を総合的に評価する。

【テキスト】

戦略の経済学（デイビッドベサンコ ダイアモンド社）

副教材：コトラー&ケラーのマーケティングマネジメント（コトラーほかピアソンエデュケーション）

【参考文献・資料】

はじめて学ぶ経営経済学（前田章 慶応義塾出版会）

専門演習 I

浦山章二

【授業の概要】

ビジネスの世界で仕事をしていくには、経済やビジネスに関する知識が欠かせません。

このような基本的な経済やビジネスに関する知識は、ビジネスの世界で仕事をしていく上で必要なだけでなく、社会人として豊かな暮らしをしていくために必要なものです。このような知識を身につけるため、このゼミでは経済ニュースを調査研究し、全員で話し合っ経済やビジネスに関する知識のレベルを高めます。

【授業の目標】

経済ニュースを理解するためには経済、ビジネス、会計、税務、法律などの幅広い知識が必要です。さまざまな経済ニュースを調査研究し、理解するために必要な知識を習得することがこの授業の目標です。

学校で学ぶ知識は、確かに重要なことですが、それだけでは社会で役に立たないのは事実です。重要なことは、現実に行き起きていることを理解し、自分で考えて判断できる人になることです。そのためには多くの実践的な知識と知恵が必要であり、このゼミではそれを学びます。努力せずに知識は身につけません。

【授業計画】

基礎演習の成果を踏まえ、より高度で幅広いレベルの経済知識の習得を目指す。

【評価方法】

経済知識の理解度と授業への取り組みにより判定する。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

・日本経済新聞や雑誌、経済専門書など

専門演習 I

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) テキストをゼミ員全員で輪読し、マーケティング戦略の実際に関して学ぶ。
- (2) 習得した知識を「使える知識」に変えていくために、理論をケースに当てはめて分析、判断する訓練を行う。
- (3) 理論によるケース分析の結果得られた「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝える訓練を行う。
- (4) グループに分かれ、自分たちで決めたテーマに沿って論文を作成することで、資料収集・文章作成のスキルを身につける。

【評価方法】

演習に取り組む姿勢（輪読の予習、発言の積極性、ディベート、プレゼンテーション準備）を総合的に評価する。

【テキスト】

戦略の経済学（デイビッドベサンコ ダイアモンド社）

副教材：コトラー&ケラーのマーケティングマネジメント（コトラーほかピアソンエデュケーション）

【参考文献・資料】

はじめて学ぶ経営経済学（前田章 慶応義塾出版会）

専門演習 I

國信潤子

【授業の概要】

前年度学習した内容を基礎として、学生各自が関連領域の問題意識を盛り下げてゆく。

授業の内容

- 1) 産業社会学、開発社会学、ジェンダー論、雇用機会均等法、正規雇用と非正規雇用、家族的責任を持つ労働者のワークライフバランスなどである。
- 2) 方法：各自が自分で感心を持つテーマを選び、その領域についてリサーチする。
- 3) レジメを作成し、パワーポイント資料を作成し、各自は発表する。
- 4) その内容について質疑応答、自由討議を行う。
- 5) 関連領域の英語資料を講読する。

【授業の目標】

- 1) ワークライフバランスを考えるキャリア設計をする。
- 2) 市場にマッチしたスキルとは何かを考える
- 3) 就職活動を学習の一環ととらえ、学生各自が自分の問題意識を掘り起こす。
- 4) 国際基準としてジェンダー配慮を理解する。

【授業計画】

基礎演習で学習したことを踏まえて、日本語、英語による資料講読、ビジネス専門誌、新聞などの資料講読の継続。

各自の問題意識領域の掘り下げ。関連専門資料、情報の検索方法の習得。就職活動の方法なども具体的な先輩の事例から紹介する。4年になったときに卒業論文のテーマとなるような関心領域を探索する。自由討議を頻繁に取り入れる。自己表現力をつける。

テーマの例

- 1) 女性のビジネス界における正規雇用継続と家族
- 2) ワーク・ライフ・バランスとは
- 3) 国内外の雇用機会均等法と実態、国際比較。
- 4) 女性・男性のキャリア形成と家族的責任を持つ労働者のキャリア形成
- 5) 女性・男性の社会的地位の国際比較、統計資料の検討
- 6) 英語資料の講読

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし

【参考文献・資料】

ジェンダー経済格差 川口 章著 勁草書房
職業キャリアとライフコースの日米比較研究（日本労働研究機構刊）

専門演習 I

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

経営分析

- 1) 財務諸表の見方
- 2) 経営指標の見方
- 3) 企業の実際の財務諸表及び各種情報を収集しての経営分析

問題解決

- 1) 問題解決手法の習得
- 2) 習得した手法を使って、実際の問題に取り組む

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み姿勢、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

演習の中で、適宜紹介する

専門演習 I

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

東アジア経済の現状を分析、その上で日本と東アジア経済の関わり合いを考案する。

その後、各ゼミ生が特定地域を分析し日本との関係について考察する。

【評価方法】

演習に対する取組姿勢と分析・考察レポートによる。

【テキスト】

適宜必要に応じて指示する。

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習 I

JOLLY, James A.

【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

The objective of this course will be to study and become familiar with the various forms of business structures and how they are used in global business arrangements today. Included in this will be study of the typical contact forms and business documents related to such trade interactions.

【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Internet research of topics will supplement text materials. Topics will include:

1. International business arrangements: agency, distributorship, franchise, joint venture and plant export agreements
2. Regulation of international companies and their subsidiaries
3. Licensing contracts and arrangements

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting.

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

専門演習 I

ジョリー幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1週	Chapter 1	Aspects of Nonverbal Communication-1
第2週	〃	〃
第3週	Chapter 2	Aspects of Nonverbal Communication-2
第4週	〃	〃
第5週	Chapter 3	Body Movements and Gestures
第6週	〃	〃
第7週	Chapter 4	Facial Expression
第8週	〃	〃
第9週		Midterm Exam.
第10週	Chapter 5	Eye Behavior and Gaze
第11週	Chapter 6	Territoriality
第12週	〃	〃
第13週	Chapter 7	Personal Space
第14週	〃	〃
第15週		Final Exam

【評価方法】

通常の小テスト、中間試験、期末試験、レポート、スピーチ等殆どを英語で行い、その成果を出席率やクラスでの参加状況と共に総合的に判断する。

【テキスト】

Nonverbal Communication (S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao Ikubundo, 2002)

【参考文献・資料】

ジェスチャー：しぐさの西洋文化（デズモンド・モリス他、角川書店、1992）

専門演習 I

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習Iの共通テーマは、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と卒業論文の準備、である。

基礎演習IとIIの成果として学生各人が自覚するようになった問題意識を明確化・発展させ、各人のテーマにもとづいた発表と討論とを積み重ねる。これらの作業を通じて、卒業論文のテーマを模索する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

専門演習 I

中村雅文

【授業の概要】

基礎演習で身に付けた知識・スキルをベースにして、新聞・専門誌等のニュースを読み、実際の会計・財務の動きを勉強する。

【授業の目標】

企業の財務諸表が読め、社会に出ても戸惑わなで自信を持って前進できるようになることを目指す。

【授業計画】

学生の発表した内容を全体で議論し、講義を織り交ぜながら進める。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的な参加態度、レポートの提出、課題の提案等を総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

授業において、必要に応じ指示する。

【参考文献・資料】

授業において、必要に応じ指示する。

専門演習 I

西崎賢治

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

必要に応じて、企業会計や企業経営に関する文献も輪読する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

演習中に指示する。

専門演習 I

林 誠

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I、IIで学習した知識・能力をさらに深める。ビジネスのベストプラクティスと最新IT動向を学習する。ケースを通じて、新しいビジネスモデルや社会ネットワークシステムを考察するとともに、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じてロジカル・シンキングの手法やロジカル・コミュニケーションの方法を学習し、実践する。

【評価方法】

出席、課題提出、プレゼンテーション、ゼミ活性化への貢献度で総合的に評価する。

【テキスト】

適時指示する。
資料、ケースはプリント配布。

【参考文献・資料】

ロジカル・シンキング—論理的な思考と構成のスキル (照屋華子, 岡田恵子著)

図解入門ビジネス ロジカル・シンキングがよーくわかる本—ビジネスに役立つ論理的思考法入門 (今井信行)

専門演習 I

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I・IIで学習したコミュニケーションの概念や領域を発展的に学習する。大きく以下の2つのテーマを設定して学習し、各自又はグループでレポート作成や発表を行う。

1. 「コミュニケーション」の基礎の復習
2. 小集団のコミュニケーション
「よりよいグループワークとは」、チームワーク、リーダーシップ
3. 「企業が求めるコミュニケーション能力」とは？

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

専門演習 I

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第13講、演習の受講者が、経済・金融統計のデータバンクにインターネットでアクセスし、現実のデータの分析を通じて、経済・金融の基礎知識を習得することを目的とする。

【評価方法】

出席状況、演習への取組姿勢等から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

専門演習 I

藤原英賢

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習で学習した財務諸表の分析手法を確認すると共に、さらに高度な分析手法を学習する。今回のキーワードは“企業価値評価”である。

企業の目的は、企業の価値を高めることである。ただし、この企業価値を評価する方法がわからなければ、そもそも企業を評価することはできない。専門演習では、企業価値の評価方法を学習したあと、身近な企業を取り上げて、実際に企業価値を評価する。

【評価方法】

報告内容、課題、出席状況などをもとに総合的に評価する。

【テキスト】

企業分析シナリオ〈第2版〉(西山茂著 東洋経済新報社)

【参考文献・資料】

財務諸表分析〈第3版〉(桜井久勝著 中央経済社)
企業価値評価 (伊藤邦雄著 日本経済新聞社)
ビジネス・アカウンティング-MBAの会計管理- (山根節著 中央経済社)

専門演習 I

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

財務諸表(貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等)が読解できる知識の習得。新会計基準の仕組みを理解させる。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等の解説書
その他レジメで対応

専門演習 I

三浦克人

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

会計学の基本知識、財務諸表の見方、経営分析の方法について学習する。

【評価方法】

出席状況、演習への積極的な参画、レポートなどにより評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

専門演習 I

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

情報システムとその開発方法についての基礎知識の修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

専門演習 I

三矢幹根

【授業の概要】

企業価値評価の理論と実務的手法を体系的に学ぶ。卒論の書き方の概要を体系的に学ぶ。就職活動で必須となる様々なスキルの概要を学ぶ。

【授業の目標】

企業価値評価の理論と実務的手法を体系的に学ぶ。更に、グループディスカッションを通してビジネス社会で即、役立ち、ビジネスの現場で必須となる問題解決能力を高めるため、実務的技能（責任感、チームワーク、リサーチ能力、プレゼンテーション能力、批判的思考力、レポート作成能力、小さな努力を継続する能力など）を鍛錬する。また、ビジネスパーソンとして日本国内だけでなく国際舞台でも活躍できるよう実用英語能力も鍛錬する。また、体系的なファイナンスの知識を学びながら、ビジネスパーソンに必須の問題解決能力（問題認識→原因分析→対策立案→対策実行→対策評価）を高めるため、以下の項目に重点を置いて授業を進める。

【授業計画】

- 企業価値評価のフレームワークを理解する
- チームワークの大切さを日々体験学習する
- リサーチ能力を鍛える
- 口頭によるプレゼンテーション能力を鍛える
- 批判的思考能力を鍛える
- 文書によるプレゼンテーション能力を鍛える（卒論が書けるように準備を進める）
- 小さな努力を継続する能力を鍛える
- 国際舞台でも活躍できるように、英語の実用運用能力を向上させる（毎回最初の30分は実用英語の指導をする。日本人の英語が下手なのはただ単に学習法が適切でないだけで、正しく学べば短期間で大幅に上達できる）

上記（2）から（5）の目標を達成するため、ゼミ生を3つのチームに編成し、主担当チームが協力し合っで決められたテーマについて事前に調べ、まとめ、他のチームに対して発表する。他のチームはプレゼンテーションの内容について批評する。主担当は週替わりの輪番制とし、ゼミ生全員がプレゼンテーションを何度も体験できるようにする。以上のような体験を積み重ねることにより、ビジネスの現場で必要とされる様々な技能と資質を習得することを目指す。

【評価方法】

出席状況及び英語小宿題（20%）、プレゼンテーション（30%）、課題レポート（50%）により総合評価する。

【テキスト】

ゼミナール 企業価値評価（伊藤邦雄、日本経済新聞出版社）
レポート・論文・プレゼン スキルズ（石坂春秋、くろしお出版）
ハナマル式就活のすべて（上田晶美、学研）

大学入試英語類出問題総演習 五訂版（上垣暁雄、桐原書店）
CDで覚える入試類出英文1910（上垣暁雄、桐原書店）
速読英単語 必須編（Z会出版）
速読英熟語（Z会出版）

【参考文献・資料】

ケースでわかる株式価値評価の実務（小林憲司、中央経済社）
企業分析力養成講座（山口揚平、日本実業出版社）
証券アナリストのための企業分析 第3版（阿部大輔ほか、東洋経済新報社）

専門演習 I

諸上茂光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 消費者行動・消費者心理に関する基礎知識の習得（テキストを用いた輪講及び討議）
- 必要なソフトウェアの操作・活用方法の習得（サブゼミ・勉強会）

【評価方法】

出席状況と課題（輪講資料）の内容および討議における積極性により総合的に評価。

【テキスト】

授業時に適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜配布する。また、報告者の輪講資料は重要な参考資料となる。

専門演習 I

吉村文雄

【授業の概要】

ゼミ生の関心を踏まえてテーマを設定するとともに、双方向的授業の中で、とくにビジネス社会で役立つ知識やスキルを説明しながら、ビジネスで必要な成員間関係について議論します。最新の計算システム、とりわけヘルスケア、ホテルを含む無形セクターの経営・管理計算システムなどをとりあげ、その中核をなす意思決定・業績評価システムの特徴をとらえるとともにそれが組織のなかでどのような役割を果たすのかをつかみます。

【授業の目標】

ゼミ生相互の理解が深められ、協調性が発揮できれば素晴らしいと考えます。最先端のマネジメント技法と計算システムの特徴がつかめるようにします。また、そのことをとおして会計がいかに組織の規範として貢献的機能を発揮しうるのかを把握します。

【授業計画】

会計は組織の中で仕事を遂行するのに必要な様々な情報を提供するための技術と人間行為です。この授業では、社会経済システムにおいて欠かせない係数を生み出す技術の側面に焦点をあてながら分析し、その後に会計情報の性質、役割およびマネジメント技法の特徴について説明します。

【評価方法】

報告、討論の内容およびレポートによって評価します。

【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を使います。

【参考文献・資料】

授業を進めながら、適宜示します。

専門演習 II

浅井敬一郎

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

日本企業の経営システム、生産システムおよび国際経営に関する文献の輪読を行う。

エントリーシートや1分間自己PRについてゼミのメンバーの原稿を検討する。

また、後期授業終了時までには卒業論文もしくは、単位認定レポートの概要について必ず完成させること。

【評価方法】

演習でのプレゼンテーション、討論の状況（各授業毎に一人一発言を義務づけている）、レポートにより評価する。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

【テキスト】

演習時に指定する

【参考文献・資料】

日本のもの造り哲学（藤本隆宏著 日本経済新聞社）

専門演習 II

石川雅之

【授業の概要】

貸借対照表、損益計算書、キャッシュフロー計算書の構造を理解し、財務諸表から企業の財務状態を分析する。

【授業の目標】

現代会計がどのような考え方によって、どのような制度を目指しているのかを理解する。

【授業計画】

学生による発表を中心に講義を織り交ぜながら行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

専門演習 II

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。また、個別グループでの研究発表を行う。

【評価方法】

演習への日常的な取り組み姿勢、レポート・演習での報告によって総合的に評価する。特に出席状況については重視する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。必要に応じてプリントを配付する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習 II

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。具体的には、「経営」と「情報」と「システム」についての専門性と応用力を身につけ、リスクマネジメントと企業の社会的責任（CSR:Corporate Social Responsibility）についての理解を深めること。さらに、コミュニケーション能力、発言力、表現力に加え、分析力、企画力、創造力を養う。

【授業計画】

ビジネスの世界を「経営」と「情報」と「システム」という切り口から学ぶ。また、近年注目されている、リスク管理や企業の社会的責任（CSR:Corporate Social Responsibility）に関して、経営情報システムの観点から学ぶ。基礎演習で基礎固めを行った知識を高め、新たなIT技術や情報処理に関する知識とリスクマネジメントやCSRに関する専門的な知識を習得する。さらに、分析手法の応用としてのコンピュータ・シミュレーション、ケース・スタディーを利用した実社会の経営戦略の研究、経営情報理論を学ぶ。また、自らが考える新たな事業計画を作成し、発表と意見交換を行い、理解を深める。

学生の理解度を考慮しつつ、以下の項目について講義を進め、全員で討議していく。

1. コンピュータ・シミュレーション
2. 経営情報論
3. 経営戦略ケース・スタディ
4. 新規事業計画の作成と発表
5. 戦略的総合リスク管理（ERM:Enterprise Risk Management）

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題・レポートの提出により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習 II

浦山章二

【授業の概要】

ビジネスの世界で仕事をしていくには経済やビジネスに関する知識が欠かせません。身近に起きていることを正しく理解するためには経済やビジネスの知識が必要なのです。

このような基本的な経済やビジネスに関する知識は、ビジネスの世界で仕事をしていく上で必要なだけでなく、社会人として豊かな暮らしをしていくために必要なのです。このような知識を身につけるため、このゼミでは経済ニュースを調査研究し、経済に強い人になることがこのゼミの目標です。

【授業の目標】

経済ニュースを理解するためには経済、ビジネス、会計、税務、法律などの幅広い知識が必要です。さまざまな経済ニュースを調査研究し、理解するために必要な知識を習得することがこの授業の目標です。

学校で学ぶ知識は、確かに重要なことですが、それだけでは社会で役に立たないのは事実です。重要なことは、現実に起きていることを理解し、自分で考えて判断できる人になることです。そのためには多くの実践的な知識と知恵が必要であり、このゼミではそれを学びます。努力せずに知識は身につけません。

【授業計画】

基礎演習の結果を踏まえ、より高いレベルの知識の習得を目指す。

【評価方法】

経済知識の理解度と授業への取り組みにより判定する。

【テキスト】

テキストは日本経済新聞、経済関連書籍、雑誌などである。

専門演習 II

梅田敏文

【授業の概要】

双方向授業の中で、提案書作成や提案プレゼンテーションの分野で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 課題説明（1）
- 第3講 課題説明（2）
- 第4講 グループ作業説明
- 第5講 グループ作業実施（1）
- 第6講 グループ作業実施（2）
- 第7講 グループ作業実施（3）
- 第8講 グループ作業実施（4）
- 第9講 グループ作業実施（5）
- 第10講 グループ作業実施（6）
- 第11講 グループ作業実施（7）
- 第12講 まとめ

【評価方法】

提案書の内容、プレゼンテーション、出席、グループ作業への貢献などを総合的に評価する。

【テキスト】

授業の開始時にレジュメを配布する。
授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習 II

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- (1) グループ別にあるテーマに沿って研究を行い、成果を論文にまとめる。
- (2) 作成した論文をもとに他大学と討論を行うことで、「自分自身の考え」を他人にわかりやすく、かつ説得力をもって伝えるスキル身につける。

【評価方法】

演習に取り組む姿勢（輪読の予習、発言の積極性、ディベート、プレゼンテーション準備）を総合的に評価する。

【テキスト】

戦略の経済学（デイビッドペサンコほか ダイアモンド社）

副教材：コトラー&ケラーのマーケティングマネジメント（コトラーほかピアソンエデュケーション）

【参考文献・資料】

組織の経済学（ポールミルグロムほか NTT出版）

専門演習 II

國信潤子

【授業の概要】

2年次に学習した内容の更なる展開である。

【授業の目標】

- 1) 卒業論文作成を基本とする。
- 2) そのための自分の問題意識の探求
- 3) リサーチ方法の学習とそのテーマごとの発表
- 4) 英語講読：ビジネス関連記事の講読
- 5) 自己のキャリア形成の計画、就職活動におけるマナーと市場のニーズとのマッチングを考慮した自己のスキルアップ。

【授業計画】

基礎演習 I、II、専門演習 I で学習したことを踏まえて、和英資料講読、資料調査の継続。
各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。卒業論文執筆のための基礎的資料の調査。
テーマ例としては産業構造の変化と雇用機会均等、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分など。資料調査を継続。
リサーチ進行状況を各自がレジメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。就職活動の方法、問題点の検討をする。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし。随時資料などを配布する。

【参考文献・資料】

専門演習 I に同じ

専門演習 II

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

問題解決
1) 問題解決手法の習得
2) 習得した手法を使って、実際の問題に取り組む

法律の基礎知識の習得
労働法、商法、独禁法

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み姿勢、レポートなどを総合して評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

演習の中で、適宜紹介する。

専門演習 II

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

前期に作成した各自レポートを発表、これを基に全ゼミ生によるディベートを実施する。

【評価方法】

各自発表内容とディベート参加姿勢による。

【テキスト】

無し

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習 II

JOLLY, James A.

【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. Textbook materials will be provided in Japanese as much as possible. Students will be encouraged to research internet materials (in Japanese and in English) to supplement text materials. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Topics will include:

1. International regulation of intellectual property rights (IPR)
2. Detailed studies of domestic laws and international treaties related to patent, copyright, trademark and other IPR
3. The workings of international regulatory bodies related to IPR, such as WTO, TRIPs and WIPO

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

専門演習 II

ジョリー幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1週	Chapter 8	Touching Behavior
第2週	Chapter 9	Time
第3週	Chapter10	The Voice and Vocal Expression - Characteristics of the Voice
第4週	Chapter11	The Voice and Vocal Expression - Information Communicated through the Voice
第5週	Chapter12	Clothing as Communication
第6週	Chapter13	Personal Artifacts as Communication
第7週	Chapter14	Environmental Influences on Communication
第8週		Midterm Exam
第9週	Chapter15	What the Environment Communication
第10週	Chapter16	Verbal Expression and Nonverbal Communicates
第11週	Chapter17	Differences in Nonverbal Communication of Americans and Japanese
第12週		Extra classes
第13週		〃
第14週		Final Exam

【評価方法】

通常の小テスト、中間試験、期末試験、レポート、スピーチ等殆ど英語で行い、その成果を出席率やクラスでの参加状況を総合的に判断する。

【テキスト】

Nonverbal Communication (S. Kathleen Kitao, and Kenji Kitao, Ikubundo, 2002)

【参考文献・資料】

ジェスチュア：しぐさの西洋文化（デズモンド・モリス他、角川書店、1992）

専門演習 II

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習IIの共通テーマも、専門演習Iのそれと同じく、企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と卒業論文の準備、である。

専門演習Iでの作業を通じて模索した学生各人の卒業論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、専門演習IIIへつなげるように準備する。

改めて論文の書き方に関する解説書を学修する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

相談して決める。

【参考文献・資料】

『日本経済新聞』を含む日刊紙の経済面、週刊経済誌、会計関係の月刊誌等にも日頃から目を配り、企業会計の動向やその環境の変化に関心を持つようにしていただきたい。

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生からの問い合わせに応じて個別具体的に紹介・教示する。

専門演習 II

中村雅文

【授業の概要】

専門演習 I で習得したスキル等を発展させ、実践的な会計領域や監査実務とも関連させながら、各自あるいはグループ単位で研究発表する。

【授業の目標】

概要で記した研究発表を通じて各自の能力を高めるとともに、各種資格取得への挑戦意欲を持つことを目標とする。

【授業計画】

学生の発表した内容を全体で議論し、講義を織り交ぜながら進める。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的な参加態度、レポートの提出、課題の提案等を総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

授業において別途指示する。

【参考文献・資料】

授業において別途指示する。

専門演習 II

西崎賢治

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

教師の指導のもと学生が選択した国について政治・経済状況、企業進出を中心に学生が調べ、発表する。

必要に応じて、企業会計や企業経営に関する文献も輪読する。

【評価方法】

出席状況と演習への姿勢を総合的に評価する。

【テキスト】

演習中に指示する。

専門演習 II

林 誠

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I、II、専門演習Iで学習した知識・能力をさらに深める。ビジネスのベストプラクティスと最新IT動向を学習する。ケースを通じて、新しいビジネスモデルや社会ネットワークシステムを考察するとともに、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じてロジカル・シンキングの手法やロジカル・コミュニケーションの方法を学習し、実践する。

【評価方法】

出席、課題提出、プレゼンテーション、ゼミ活性化への貢献度で総合的に評価する。

【テキスト】

適時指示する。
資料、ケースはプリント配布。

【参考文献・資料】

ロジカル・シンキング—論理的な思考と構成のスキル (照屋華子, 岡田恵子著)
図解入門ビジネス ロジカル・シンキングがよーくわかる本—ビジネスに役立つ論理的思考法入門 (今井信行)

専門演習 II

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I、基礎演習II、専門演習Iで学習したコミュニケーションの概念や領域を発展的に学習する。大きく以下の2つのテーマを設定して学習し、各自又はグループでレポート作成や発表を行う。

1. 企業とコミュニケーション：企業文化、PRなど
2. メディアとコミュニケーション：PR、記号論、広告

【評価方法】

出席率、課題、ディスカッションやプレゼンテーションの準備や参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

専門演習 II

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第13講、演習の受講者が、経済・金融統計のデータバンクにインターネットでアクセスし、現実のデータの分析を通じて、経済・金融の基礎知識を習得することを目的とする。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する。

専門演習 II

藤原英賢

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習で学習した財務諸表の分析手法を確認すると共に、さらに高度な分析手法を学習する。今回のキーワードは“企業価値評価”である。

企業の目的は、企業の価値を高めることである。ただし、この企業価値を評価する方法がわからなければ、そもそも企業を評価することはできない。専門演習では、企業価値の評価方法を学習したあと、身近な企業を取り上げて、実際に企業価値を評価する。

【評価方法】

報告内容、課題、出席状況などを勘案し、総合的に評価する。

【テキスト】

企業分析シナリオ〈第2版〉(西山茂著 東洋経済新報社)

【参考文献・資料】

財務諸表分析〈第3版〉(桜井久勝著 中央経済社)
企業価値評価 (伊藤邦雄著 日本経済新聞社)
企業価値評価 (上) (下) (マッキンゼー ダイアモンド社)

専門演習 II

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

財務諸表（貸借対照表・損益計算書・キャッシュフロー計算書等）が読解できる知識の習得。新会計基準の仕組みを理解させる。

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

財務諸表に関する解説書
その他レジュメで対応

専門演習 II

三浦克人

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

演習Iでの学習内容をふまえ、企業分析を行う。また、分析結果を題材として、プレゼンテーションとディベートを行う。

【評価方法】

出席状況、演習への積極的な参画、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

専門演習 II

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

IT革命と業種・業態に関する知識修得に重点を置く。学生との対話を重視し、グループ作業や個別発表を中心に進める。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

専門演習 II

三矢幹根

【授業の概要】

株式価値評価の理論と実務を体系的に学ぶ。
一見複雑に見えるデータの本質を見抜くため、多変量解析の手法を学ぶ。
卒業の書き方の詳細を体系的に学び、4年生になりテーマが決まるとすぐに卒業を書き始めることができるように準備する。
就職活動に必要な様々なスキルの詳細を学び、4年生になると即就職活動が縦横無尽に開始できるよう準備する。

【授業の目標】

株式価値の理論と実務を体系的に学び、一見複雑なデータの中から本質を見抜くためのツールとして、多変量解析の手法を学ぶ。更に、グループディスカッションを通してビジネス社会で即、役立ち、ビジネスの現場で必須となる問題解決能力を高めるため、実務的スキル（責任感、チームワーク、リサーチ能力、プレゼンテーション能力、批判的思考力、レポート作成能力、小さな努力を継続する能力など）を習得する。また、ビジネスパーソンとして日本国内だけでなく国際舞台でも活躍できるよう実用英語能力も鍛錬する。体系的なファイナンスの知識を積み上げながら、ビジネスパーソンに必須の問題解決能力（問題認識→原因分析→対策立案→対策実行→対策評価）を高めるため、以下の項目に重点を置いて授業を進める。

【授業計画】

- 株式価値評価と多変量解析のフレームワークを理解する
- チームワークの大切さを日々体験学習する
- リサーチ能力を鍛える
- 口頭によるプレゼンテーション能力を鍛える
- 批判的思考力を鍛える
- 文書によるプレゼンテーション能力を鍛える（卒業が書けるように準備を進める）
- 小さな努力を継続する能力を鍛える
- 国際舞台でも活躍できるように、英語の実用運用能力を向上させる（毎回最初の30分は実用英語の指導をする。日本人の英語が下手なのはただ単に学習法が適切でないだけで、正しく学べば短期間で大幅に上達できる）

上記（2）から（5）の目標を達成するため、ゼミ生を3つのチームに編成し、主担当チームが協力し合って決められたテーマについて事前に調べ、まとめ、他のチームに対して発表する。他のチームはプレゼンテーションの内容について批評する。主担当は選替わりの輪番制とし、ゼミ生全員がプレゼンテーションを何度も体験できるようにする。以上のような体験を積み重ねることにより、ビジネスの現場で必要とされる技能と資質を習得することを目指す。

【評価方法】

出席状況及び英語小宿題（20%）、プレゼンテーション（30%）、課題レポート（50%）により総合評価する。

【テキスト】

ケースでわかる株式価値評価の実務（小林徳司、中央経済社）
図解でわかる多変量解析（浦井良幸、浦井貞美、日本実業社）
よくわかる卒業の書き方（白井利明・高橋一郎、ミネルヴァ書房）
絶対内定2010（杉村太郎、ダイヤモンド社）

大学入試英語類出問題総演習 五訂版（上垣曉雄、桐原書店）
C1で覚える入試類出英文1910（上垣曉雄、桐原書店）
速読英単語 必須編（Z会出版）
速読英熟語（Z会出版）

【参考文献・資料】

ゼミナール 企業価値評価（伊藤邦雄、日本経済新聞出版社）
企業分析力養成講座（山口揚平、日本実業出版社）
証券アナリストのための企業分析 第3版（阿部大輔ほか、東洋経済新報社）

Excelで簡単多変量解析（小椋裕弘、講談社サイエンティフィク）
今日から使える統計解析（大村平、講談社）
統計解析のほなし【改訂版】（大村平、日科技連）
多変量解析のほなし【改訂版】（大村平、日科技連）

専門演習 II

諸上茂光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

前期に引き続き

1. 消費者行動・消費者認知に関する基礎知識の習得（テキストを用いた輪講及び討議）
2. 必要なソフトウェアの操作・活用方法の習得（サブゼミ・勉強会）

さらに、

3. 仮想広告を作成し、効果の測定や分析、ディスカッション（グループワーク・ゼミ内発表）

【評価方法】

出席状況と課題（輪講資料）および討議、ゼミ内発表の内容により総合的に評価。

【テキスト】

授業時に適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜配布する。また、報告者の輪講資料は重要な参考資料となる。

専門演習 II

吉村文雄

【授業の概要】

ゼミ生の関心事を踏まえてテーマを設定するとともに、双方向的授業の中で、ビジネス社会で役立つ知識とスキルを説明しながら、会計学の基調をとらえます。それは、会計の技術的側面だけでなく、論理的側面をもあわせて研究することを意味します。とくに、最新の会計技法がわが国の社会システムにおいてどのように制度化していくのか、その進化の姿をとらえます。

【授業の目標】

会計マインドを涵養し、コミュニケーション能力が高められるように努めます。とくに会計の行為は、人間の行為であるということを理解してもらいたい。なぜなら、会計をつかむことは、私たちの営みを理解することにつながるからです。会計は私たちの言語であるとともに人間関係を形成します。

【授業計画】

今年度の授業では、管理会計行為を社会的関係としてとらえて分析します。そのことは、管理会計の方法や手段が人間間の関係を投影したものととらえることを意味します。詳細は授業で明示します。

【評価方法】

報告、討論の内容およびレポートによって評価します。

【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を使います。

【参考文献・資料】

講義中に適宜指示します。

専門演習 III

浅井敬一郎

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

3年間にわたるゼミ活動の集大成として、企業経営に関する、文献を輪読、プレゼンテーションを行う。
「卒業論文・制作」登録者は、この授業内で中間発表を行う。
「卒業論文・制作」未登録者は、単位認定レポートの骨子について固める。

【評価方法】

- ・演習でのプレゼンテーション、討論の状況（各授業毎に一人一発言を義務づけている）、レポートにより評価する。
- ・無断欠席をした場合は単位を認定しない。
- ・なお「卒業論文・制作」履修者は論文骨子、論文概要についても評価の対象とする。

【テキスト】

授業内で指示する。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する

専門演習 III

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

卒論制作に直結させて授業を進める。専門演習Ⅲ・Ⅳでは主に、卒業論文として望ましい研究分野の代表的な論文（和文）を講読する。ここでの知識を卒業論文の執筆に反映させる。現時点で望ましいと考える研究分野には、M&A、ディスクロージャー、CSR（企業の社会的責任）、無形資産（知的財産を含む）、企業価値評価、コーポレート・ガバナンス、内部統制、日本会計基準の国際化などがある。

【評価方法】

報告内容、課題などを総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

企業分析入門（第2版）（バレブ他著 東京大学出版会）など

専門演習 III

石川雅之

【授業の概要】

現代財務会計の理論と仕組みについての理解を深め、その背後にどのような目的があり、どのような考え方によって制度が作られているのかを理解する。

【授業の目標】

財務諸表の作成能力と分析能力を高める。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

専門演習 III

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。また、個別グループでの研究発表を行う。

【評価方法】

演習への日常的な取り組み、レポート・演習での報告によって総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習 III

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

企業がどのように情報を経営に活用すべきかという点に関して、「経営」と「情報」と「システム」という切り口から検討する。また、企業が抱えるさまざまなリスクに対してどのように対応すべきかという戦略的総合リスクマネジメント(ERM:Enterprise Risk Management)について、実践に即したケース・スタディをとおして研究する。そして、学生各自の調査と分析を行い、報告・討議を行う。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題の提出と発表により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習 III

梅田敏文

【授業の概要】

双方向授業の中で、ビジネス分野の問題解決方法や問題解決能力の向上に関して、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講 ガイダンス
第2講 問題とは何か
第3講 問題の分析
第4講 解決策の策定
第5講 問題解決セッション (1)
第6講 問題解決セッション (2)
第7講 問題解決セッション (3)
第8講 問題解決セッション (4)
第9講 問題解決セッション (5)
第10講 問題解決セッション (6)
第11講 問題解決セッション (7)
第12講 まとめと講評 (1)
第13講 まとめと講評 (2)

【評価方法】

発表態度、内容、ディスカッションの参画度合、出席などで評価する。

【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習 III

浦山章二

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

これまでの経済知識の学習成果を踏まえ、ビジネス社会で役に立つレベルの経済知識の習得を目指し、実践的な経済やビジネスおよび社会人としての心構えやマナーなどについて学ぶ。

【授業計画】

実践的な経済専門書などをテキストとして、ビジネス社会で役に立つビジネス知識の取得をおこなう。

【評価方法】

経済知識の総合的な理解度と授業態度によって評価する。

【テキスト】

日本経済新聞、経済雑誌、経済専門書など

専門演習 III

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

経営戦略論の中で各自関心のある分野を選択し、その分野の文献をまとめ、レジュメにて発表し、輪読する。最終的に提出する単位認定レポートの作成を目指し、文章力アップのための指導も行う。

【評価方法】

発表内容、発言の多寡などゼミへの取り組みで評価する。

【テキスト】

学生が自分の研究テーマに関連する論文を持ち寄り、輪読する。

【参考文献・資料】

利用しない。

専門演習 III

國信潤子

【授業の概要】

前期に学習した内容の更なる展開である。

【授業の目標】

3年次後期は就職活動が活発化する時期であるので下記の点を重点的に学習する。

- 1) 市場のニーズと自己アピール・ポイントの照合
- 2) 自分が大学生活において学習した専門知識のプレゼンテーション。
特にこのゼミにおいてジェンダー視点からみた日本の経営状況についての考察と国際基準について。
- 3) 男女雇用機会均等法の実施状況の理解
- 4) 自由討議により、自分の意見をまとめて報告できるためのスキルを実践的に身につける。
- 5) 家族的責任をもってキャリア形成することの意味を考える。
- 6) 英語資料の講読

【授業計画】

基礎演習I、II、専門演習I、IIで学習したことを踏まえて、各自のリサーチテーマにそって和英資料講読、資料調査の継続。就職活動を進める。各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。卒業論文執筆の開始とリサーチの継続。

テーマの例として日本ビジネスシーンにおける家族的責任を担った男女労働者のキャリア形成、産業構造の変化と雇用機会均等法の実施状況、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分など。各自の関心のもてるテーマについて資料調査を継続。就職活動と並行して論文執筆を進める。リサーチ進行状況を各自がレジュメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。先輩から就職活動の体験談を聞く。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

特になし。随時資料配布。

【参考文献・資料】

専門演習 I、IIと同じ。
ジェンダー経済格差、他
日本労働研究機構の専門誌、論文を講読
英語資料講読：ビジネス・アジア、
ハーバード・ビジネス・レビュー他

専門演習 III

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

それぞれの学生が選択した分野において取り組んだ内容を授業において発表し、その指導をしていく。

【評価方法】

出席状況、演習への取り組み、および取り組んだ結果を総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習 III

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

各授業に於いて毎回、それぞれの学生に対して個別指導をしていく形式をとる。

【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習 III

JOLLY, James A.

【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

This course is designed to provide students with practical knowledge of how private parties to international transactions handle and resolve the conflicts and disputes that arise from such transactions. Students will become familiar with the litigation process in formal court proceedings or in more informal non-judicial settlements (alternative dispute resolution), from initial filing to final payment of judgment.

【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at beginning of the term. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Internet research of topics will supplement text materials. Topics will include:

1. Structure of typical legal systems and judicial systems
2. Overview of the litigation process commonly used in lawsuits
3. Alternate dispute resolution (ADR)

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting.

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

専門演習 III

ジョリー幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

Nonverbal Behavior の下位分野の一部である下記の項目について読解、discussion, presentation, 英語でのスピーチを行う。

1. Facial Expression
2. Eye Behavior and Gaze
3. Territoriality
4. Personal Space
5. Touching Behavior
6. Time
7. The Voice and Vocal Expression -- Characteristics of the Voice
8. The Voice and Vocal Expression -- Information Communicated through the Voice

【評価方法】

毎週実施する英語による時事問題やグローバル的トピックについてのスピーチ、期末試験、同じく英語での presentation, 出席率などを総合的に判断し、決定する

【テキスト】

Nonverbal Communication, S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao. Ikubundo, 2002

【参考文献・資料】

叢書・身体と文化：表象としての身体、鷲田清一、野村雅一、大修、2005。

発話ともなう身振りの機能、西尾新、風間書房、2006

姿勢としぐさの心理学、P.E. Bull, 北大路書房、2001

専門演習 III

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習IIIの共通テーマも、専門演習I及び専門演習IIのそれとほぼ同様に、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と論文の準備」である。

論文を卒業論文として作成することに挑戦する学生は、12月半ばの卒業論文提出期間に間に合うように論文の制作を続け、その進捗状況を折々に報告し、ある程度まとまりのついた研究成果を何回かに分けて発表する。

それ以外の学生も、専門演習I及び専門演習IIでの作業を通じて模索してきた論文のテーマを絞り込み、必要な参考文献や資料の収集に努め、作業の進捗状況と論文の構想について折々に発表する。

いずれの学生も、改めて論文の書き方に関する解説書を学修する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

専門演習 III

中村雅文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

4年生であることを踏まえ、各人の方向性や特質を考慮しつつ、会計・財務・監査・分析等のそれぞれの専門スキルを充実させることを目標とし、きめ細かな指導をおこなう。

【授業計画】

各自に課題を与え、その研究発表を中心として、講義をする。課題としては以下のようなことを考えている。

1. 会計の実務の現場で起きている諸問題
2. 監査の実際の現場で起きている諸問題
3. 国際会計基準と我が国の会計基準
4. 実務的な経営分析

【評価方法】

授業における発言内容、期末レポートの評価、出席状況等を総合的に勘案して評価をする。

【テキスト】

別途指示する

【参考文献・資料】

別途指示する

専門演習 III

林 誠

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I、II、専門演習I、IIで学習した知識・能力をさらに深める。ビジネスのベストプラクティスと最新IT動向を学習する。ケースを通じて、新しいビジネスモデルや社会ネットワークシステムを考察するとともに、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じてロジカル・シンキングの手法やロジカル・コミュニケーションの方法を学習し、実践する。

【評価方法】

出席、課題提出、プレゼンテーション、ゼミ活性化への貢献度で総合的に判断する。

【テキスト】

適時指示する

【参考文献・資料】

事業システム戦略（加護野忠男他著 夕斐閣）
考える技術・書く技術（バーバラミント著 ダイアモンド社）

専門演習 III

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I、基礎演習II、専門演習I、専門演習IIでの学習内容を踏まえて、各自の興味やリサーチテーマに沿ったプレゼンテーションを実施してもらいます。

【評価方法】

出席、課題の準備や内容、参加度合い等を総合して最終評価を行う。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

専門演習 III

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第13講 学生の選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する

専門演習 III

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

有価証券報告書実例分析
新会計基準の実例研究
監査報告書の実例研究

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

有価証券報告書
監査小六法

専門演習 III

三浦克人

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

これまでの学習内容をふまえ、総合的な企業分析をおこなう。

【評価方法】

出席状況、演習への積極的な参画、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

専門演習 III

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

グループ討議を中心に、発表力と思考能力向上のトレーニングを行う。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

専門演習 III

諸上茂光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

1. 消費者行動・広告認知に関する知識の習得（テキストを用いた輪講及び討議）
2. 卒業論文のための文献レビューと調査法の習得

【評価方法】

出席状況と課題の内容および討議における積極性により総合的に評価。

【テキスト】

授業時に適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定または配布する。

専門演習 III

吉村文雄

【授業の概要】

ゼミ生の関心を踏まえてテーマを設定するとともに、双方向的授業の中で、とりわけビジネス社会において役立つ知識とスキルを考察することによって、会計学の基調がとらえられるようにします。論理的思考力、文章作成能力およびコミュニケーション能力の向上を目指して会計学を研究します。同時に最新の経営・管理計算システムを丁寧に説明します。

【授業の目標】

授業の概要で示すようなかたちで、さまざまな能力を高めることが大きな目標になります。最新の計算システムを分析し、同時にそのシステムが実際にはいかなる目的でどのように利用されるのかをつかみます。同時に組織の人間関係に貢献する会計システムの役割について考察します。

【授業計画】

内部会計の特徴を企業会計と結びつけながら明らかにし、コントロールと意思決定の結合としての管理会計技法の特徴について議論します。具体的には、次の順序となります。

1. 企業会計とは何か。
2. 内部会計の特徴
3. コントロールとは何か。
4. 意思決定とは何か。

このスケジュールに沿って研究していく中で、論理的思考法を身につけ、それが会計士試験や税理士試験などの各種の試験の合格につながれば良いと思います。

【評価方法】

出席およびレポートなどにより評価します。

【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を使いますが、適宜資料を配りません。

【参考文献・資料】

テキストの中に示されている文献・資料の中から適宜指示します。

専門演習 IV

浅井敬一郎

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

3年間にわたるゼミ活動の集大成として「卒業論文・制作」登録者は、この授業内で、中間発表を行う。また、「卒業論文・制作」未登録者は、単位認定レポートについての発表を行う。

【評価方法】

演習でのプレゼンテーション、討論の状況（各授業毎に一人一発言を義務づけている）、レポートにより評価する。

無断欠席をした場合は単位を認定しない。

卒業論文・制作を履修しない者は1万字程度の単位認定レポートによって評価する。

【テキスト】

なし

【参考文献・資料】

適宜紹介する

専門演習 IV

浅野敬志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

専門演習Ⅲ・Ⅳでは主に、卒業論文として望ましい研究分野の代表的な論文（和文）を講読する。ここでの知識を卒業論文の執筆に反映させる。現時点で望ましいと考える研究分野には、M&A、ディスクロージャー、CSR（企業の社会的責任）、無形資産（知的財産を含む）、企業価値評価、コーポレート・ガバナンス、内部統制、日本会計基準の国際化などがある。

【評価方法】

報告内容、課題、出席状況などを勘案して評価する。

【テキスト】

必要に応じて、適宜資料を配布する。

【参考文献・資料】

企業分析入門（第2版）（パレブ他著 東京大学出版会）など

専門演習 IV

石川雅之

【授業の概要】

現代財務会計の理論と仕組みについての理解を深め、その背後にどのような目的があり、どのような考え方によって制度が作られているのかを理解する。

【授業の目標】

財務諸表の作成能力と分析能力を高める。

【授業計画】

学生による発表を中心に行う。

【評価方法】

レポートに平常点を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

演習の最初に指示する。

【参考文献・資料】

その都度指示する。

専門演習 IV

石坂綾子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

アメリカ・ヨーロッパ諸国を中心に国際経済情勢、通貨・貿易体制についてのトピックスを取り上げ、演習参加生の報告と討論を行う。また、個別グループでの研究発表を行う。

【評価方法】

演習への日常的な取り組み姿勢、レポート・演習での報告によって総合的に評価する。

【テキスト】

第1回目の演習において指示する。必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

第1回目の演習において指示する。

専門演習 IV

上原 衛

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

企業がどのように情報を経営に活用すべきかという点に関して、「経営」と「情報」と「システム」という切り口から検討する。また、企業が抱えるさまざまなリスクに対してどのように対応すべきかという戦略的総合リスクマネジメント(ERM:Enterprise Risk Management)について、実践に即したケース・スタディをとおして研究する。そして、学生各自の調査と分析を行い、報告・討議を行う。

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的参加度、課題の提出と発表により総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

専門演習 IV

梅田敏文

【授業の概要】

双方向授業の中で、学生生活の内容や成果をDVDに作成し発表することを通して、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

- 第1講 ガイダンス
- 第2講 コンテンツの作成 (1)
- 第3講 コンテンツの作成 (2)
- 第4講 DVDの作成方法説明
- 第5講 DVD作成 (1)
- 第6講 DVD作成 (2)
- 第7講 DVD作成 (3)
- 第8講 DVD作成 (4)
- 第9講 DVD作成 (5)
- 第10講 発表 (1)
- 第11講 発表 (2)
- 第12講 発表 (3)
- 第13講 発表 (4)

【評価方法】

DVDの内容、発表態度、出席で評価する。

【テキスト】

授業の途中に、適宜、資料を配布する。

専門演習 IV

浦山章二

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

これまでの学習の成果を踏まえ、より高度な経済知識の習得と、ビジネス社会に必要なビジネスマナーや実践的なビジネス知識の習得を目標とする。

【授業計画】

実践的なビジネス専門書、日本経済新聞や経済専門誌などをテキストとして、ビジネス社会で役に立つ知識の習得を目指して授業を進める。

【評価方法】

総合的な経済知識の理解度と授業への取り組み状況により評価する。

専門演習 IV

大塚英揮

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

マーケティングの中で各自関心のある分野を選択し、その分野の文献をまとめ、レジュメにて発表し、輪読する。それによりマーケティングの専門知識を習得する。

【評価方法】

発表内容、発言の多寡などゼミへの取り組みで評価する。

【テキスト】

学生が自分の研究テーマに関連する論文を持ち寄り、輪読する。

【参考文献・資料】

利用しない。

専門演習 IV

國信潤子

【授業の概要】

最終年次の演習において今まで学習した内容の見直し、さらに自分の問題意識の鮮明化により、卒業論文あるいはゼミペーパーを執筆する。英語能力をさらにつける。

就職活動から学習した内容を自省し、その意味、その経験を今後のキャリア形成に有効な形で展開する方法を討議し、資料化する。

雇用機会均等法、家族的責任を持つ労働者の権利などについて国際基準を理解する。

【授業の目標】

卒業論文作成を基礎として、問題意識の探求、学術論文の書き方の学習、さらに、リサーチ方法の習得、資料の妥当性検討ができるようにする。

後輩と就職活動について情報交流し、自己のキャリア形成を長期的に計画する。

【授業計画】

基礎演習、専門演習 I～IIIで学習、リサーチしたことを踏まえて、論文執筆。

各自の問題意識領域をさらに掘り下げる。

テーマ例として、産業構造の変化と雇用機会均等、開発におけるジェンダー視点、職業にみるジェンダー区分、開発途上国への開発協力とジェンダー視点など。

就職活動と並行して論文執筆を進める。

リサーチ進行状況を各自がレジュメ、資料を準備し、発表し、討議、コメントを学生相互が行う。視聴覚教材なども取り入れ、討議する。

【評価方法】

出席状況、報告内容、討議貢献度、主体的参加度、期末レポート

【テキスト】

基礎演習、専門演習 I～IIIに同じ。さらに各自の問題意識にそって日本語、英語による専門ジャーナル、紀要論文、新聞記事などを講読する。

【参考文献・資料】

随時資料配布。

専門演習 IV

小池弘道

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

それぞれの学生が取り組んだ内容を授業において発表し、まとめができるように討議・指導していく。

【評価方法】

出席状況、演習での報告、およびレポート内容を総合的に評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

専門演習 IV

真田幸光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

各授業で学生が順次発表を行い、議論を展開していく。

【評価方法】

平常点及び提出物で評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

専門演習 IV

JOLLY, James A.

【Course description】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【Course objectives】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

The aim of this course will be to acquaint students with the most typical of legal problems that are encountered in international trade and business transactions. Students should gain practical knowledge of how these problems arise, how they are to be handled, and the forum in which settlement can be made.

【Course schedule】

Class sessions will consist of lecture and discussion of one unit of assigned text material each week. A schedule of class dates and assignments will be provided at. A bilingual approach will be used to facilitate acquisition of Japanese and English vocabulary in text and lecture instruction. Internet research of topics will supplement text materials. Topics will include:

1. Comparison of the various national domestic laws related to monopoly and unfair trade, product liability, and financial regulation.
2. Current practices and trends in international regulation of trade related issues.
3. Examination of the structures and procedures of WTO, WIPO and TRIPs as relates to these trade related issues.

【Assessment】

Assessment will be based upon attendance and participation, as well as scores in the mid-term quiz and the final examination. Active participation in class will be valued highly.

【Textbooks】

The text materials for this course will be announced at the first class meeting.

【Reference】

To be recommended individually as the need arises.

専門演習 IV

ジョリー幸子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

Nonverbal Behavior の Artifacts とその他の関連分野に関して各々の学生の選択した国の非言語行動について約40分の英語によるpresentationを行い、20分の質疑応答に対処する。

【評価方法】

上記のプレゼンテーション、出席率などを総合的に考慮し、判定する

【テキスト】

Nonverbal Communication, S. Kathleen Kitao and Kenji Kitao, Ikubundo, 2002

【参考文献・資料】

ジェスチャー：しぐさの西洋文化、デズモンド・モリス他、多田道太郎、奥野卓司訳、角川選書、平成4年

非言語行動の心理学：対人関係とコミュニケーション理解のために、V.P. リッチモンド、J.C.マクロスキー著、山下耕二編訳、北大路書房、2006

専門演習 IV

杉本典之

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

この専門演習IVの共通テーマも、専門演習IIIのそれと同じく、「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と論文の準備」である。

論文を卒業論文として作成することに挑戦する学生も、それ以外の学生も、各自が目指す論文のテーマと目次を定め、収集してきた参考文献や資料を駆使して論文の草稿を執筆し、その草稿を何度も書き直して論文を完成させる。そのような一連の作業の節目をとらえて、論文の進捗状況と研究成果について複数回発表する。

【評価方法】

この専門演習の主役は学生自身に他ならない。よって学生である皆さんの授業活性化への貢献度によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

専門演習 IV

中村雅文

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し能力を高めること。

【授業計画】

会計の法規を集大成した結果としての財務諸表を研究する。

具体的には、

1. 有価証券報告書の分析
2. 株主総会召集通知およびその添付資料の分析
3. 二つの監査報告書の分析

【評価方法】

各人の授業と討議への積極的な参加態度、レポートの提出、課題の提案等を総合的に勘案して評価する。

【テキスト】

授業において別途指示する。

【参考文献・資料】

授業において別途指示する。

専門演習 IV

林 誠

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I、II、専門演習I、II、IIIで学習した知識・能力をさらに深める。ビジネスのベストプラクティスと最新IT動向を学習する。ケースを通じて、新しいビジネスモデルや社会ネットワークシステムを考察するとともに、グループディスカッションやプレゼンテーションを通じてロジカル・シンキングの手法やロジカル・コミュニケーションの方法を学習し、実践する。

【評価方法】

出席、課題提出、プレゼンテーション、ゼミ活性化への貢献度で総合的に判断する。

【テキスト】

適時指示する

【参考文献・資料】

事業システム戦略（加護野忠男他著 夕斐閣）
考える技術・書く技術（パーパラミント著 ダイアモンド社）

専門演習 IV

福本明子

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

基礎演習I、基礎演習II、専門演習I、専門演習II、専門演習IIIでの学習内容を踏まえて、関連する書籍・新聞記事・資料を読み、ディスカッションを行い、演習の総まとめを行う。

【評価方法】

出席、授業態度、発表の内容と成果などを総合して評価する。

【テキスト】

初回の授業にて発表。

【参考文献・資料】

初回の授業にて発表。

専門演習 IV

藤井正志

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

第1講～第12講 学生の選択するテーマに添って卒業論文の指導を行う。レポートを選択する学生に対してもテーマに添って指導を行う。

【評価方法】

出席状況と演習への取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定する

専門演習 IV

前川三喜男

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

有価証券報告書実例分析
新会計基準の実例研究
監査報告書の実例研究

【評価方法】

ゼミへの出席状況と発表の仕方、内容で評価

【テキスト】

有価証券報告書
監査小六法

専門演習 IV

三浦克人

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

これまでの学習内容をふまえ、総合的な企業分析をおこなう。

【評価方法】

出席状況、演習への積極的な参画、レポートなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

専門演習 IV

三浦信宏

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

種々のケースを用いて、企業の情報化推進の現状と課題を考察する。

【評価方法】

出席状況、授業中の課題討議、発表等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

なし、プリント配布

【参考文献・資料】

授業中に適宜指示する。

専門演習 IV

諸上茂光

【授業の概要】

受講者の関心事を踏まえてテーマを設定し、双方向授業の中で、ビジネス社会に役立つ知識、スキルを学習するとともに、ビジネスパーソンとして活躍できるマインドを育成する。

【授業の目標】

概要で記したマインドを涵養し、能力を高めること。

【授業計画】

前期に引き続き

1. 消費者行動・広告認知に関する知識の習得（テキストを用いた論講及び討議）
2. 卒業論文のための文献レビューと調査法の習得
3. 調査データの解析法の習得

【評価方法】

出席状況と課題の内容および討議における積極性により総合的に評価。

【テキスト】

授業時に適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定または配布する。

専門演習 IV

吉村文雄

【授業の概要】

ゼミ生の関心を踏まえてテーマを設定するとともに、ビジネス社会において役立つ知識とスキルの分析をとらえて、会計学の基調をつかめるようにします。また、最近の国際的な計算システムを取り入れて丁寧に説明するとともに、アメリカ、ヨーロッパ、中国など諸外国の会計制度をわが国のそれと比較することも含め、最先端のホスピタリティ・マネジメントアカウントティングとその制度化の過程をも説明します。

【授業の目標】

授業の概要で示すようなかたちで、さまざまな能力を高めることです。また、最近の業績評価システムにおいて能力主義、成果主義を組み入れる企業が増加している実情をとらえ、それらをゼミ生とともに考え、討論したいと思います。さらに、そうした議論を、いわゆる卒論の作成につなげられればありがたいと思います。

【授業計画】

現代の管理会計論の傾向をとらえ、現在の企業実務として発展している管理会計技法の有り様と限界を明らかにします。具体的には、以下のようになります。

1. 現代の管理会計論の特徴。
2. 戦略管理会計論の特徴。
3. 各企業の内部会計実務の検討。
4. 新たな内部会計実務—ホスピタリティ・マネジメントアカウントティングの特徴。

【評価方法】

出席およびレポートなどにより総合的に評価します。

【テキスト】

吉村文雄『組織の会計論』（森山書店）を使います。

【参考文献・資料】

テキストの中に出ている文献・資料を適宜指示し配布します。

卒業論文・制作

浅井敬一朗

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

各自の卒業論文のテーマに沿って、学科が定める下記の(1)～(4)の提出期限前に最低各2回、計8回以上の中間報告を専門演習III・IVの中で行い、教員がコメントする。必要に応じ個別指導を行う。

- (1) 5月上旬までに論文骨子の提出
- (2) 7月下旬までに論文概要の提出
- (3) 10月下旬までに第1稿の提出
- (4) 最終稿提出(12月中～下旬)

【評価方法】

卒業論文の内容はもちろん、出席状況、中間報告のレポート内容、討論の状況により評価する。授業計画にある(1)～(4)を全て提出しなければ単位を認定しない。

【テキスト】

使用しない

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する

卒業論文・制作

浅野敬志

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒論の制作・発表を中心に、ゼミの総まとめを行う。

本講義は、専門演習III・IVに直結させて授業を進める。専門演習では主に、卒論として望ましい研究分野の代表的な論文(和文)の講読を行う。ここで得られた知識をもとに卒論を執筆し、本講義ではその報告と議論を中心に行う。卒論として望ましい研究分野には、M&A、ディスクロージャー、CSR(企業の社会的責任)、無形資産(知的財産を含む)、企業価値評価、コーポレート・ガバナンス、内部統制、日本会計基準の国際化などがある。

【評価方法】

卒論の報告内容、議論などを勘案して総合的に評価する。

【テキスト】

卒論の内容に応じて必要な資料を配布する。

卒業論文・制作

石川雅之

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

個々人の卒論の進捗度合に応じて対処する。

【評価方法】

卒業論文によって評価する。

卒業論文・制作

石坂綾子

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

基礎演習、専門演習の総まとめとして、履修生が関心を持つ論文テーマを設定し、卒業論文を完成させる。

【授業計画】

卒業論文テーマの決定、参考文献の収集と読解、論文執筆を進める。論文骨子(5月)、論文概要(7月)、初稿作成(11月)の過程において個別報告・個別指導を行い、完成度を高めていく。

【評価方法】

卒業論文作成へ向けての日常的な姿勢と提出された論文によって評価する。

【テキスト】

必要に応じて学術論文の作成方法にかんするテキストを指示し、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

卒業論文のテーマに対応して個別に指示する。

卒業論文・制作

上原 衛

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文テーマの決定を行い、テーマに沿った資料・事例・データ・文献の収集・調査と分析方法について指導する。論文骨子の作成、論文概要の作成、初稿作成の過程に従い、学生各自に個別指導を実施する。

【評価方法】

卒業論文作成への取り組み姿勢、卒業論文内容により総合的に評価する。研究の新規性・独創性、有用性に加え論旨の展開、従来研究の調査、研究成果の意義が明確であるかを重視する。

【テキスト】

指定しない。

卒業論文・制作

梅田敏文

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文の作成について小グループごとに個別指導を行なう。各種の提出期限を遵守して、学生は必要な書類を提出すること。

【評価方法】

論文の形式、内容の観点から評価する。

【テキスト】

特になし。

卒業論文・制作

浦山章二

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒論テーマの決定と卒業論文の作成については、個人別に指導する。

【評価方法】

卒業論文の内容によって評価する。

卒業論文・制作

大塚英揮

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

各自が卒論の中間発表を行い、作成にあたって受講生と教員がコメントを行う。

【評価方法】

卒業論文の内容と作成プロセスを総合的に評価する。

【テキスト】

利用しない。

【参考文献・資料】

利用しない。

卒業論文・制作

國信潤子

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

- 1) 卒論テーマの画定と研究方法の決定。当該領域の先行研究を講読する。
- 2) 論文執筆方法の指導と論文構成作成
- 3) テーマの例
 - 雇用機会均等法と実施状況
 - 正規雇用と非正規雇用
 - ニート問題
 - 家族的責任を持つ労働者の実態
 - 女性の就労継続支援策国際比較：日本対スウェーデン
 - 国際開発協力におけるジェンダー視点 など

【評価方法】

完成論文による評価

【テキスト】

特になし。個人の問題意識にそって、随時文献・資料検索指導あるいは文献紹介。

【参考文献・資料】

各自の研究テーマにそって選択する。学術論文、専門ジャーナル論文などの検索方法を指導する。

卒業論文・制作

小池弘道

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

個人別の指導を行なう。

【評価方法】

卒業論文により評価する。

【テキスト】

特になし。

【参考文献・資料】

適宜紹介する。

卒業論文・制作

真田幸光

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

論理的な思考回路の構築と単純明快なる文章作成能力の向上を目標とする。

【授業計画】

各授業に於いて学生各位に対して個別指導を実施する。

【評価方法】

卒業論文により評価する

【テキスト】

特に指定しない。

【参考文献・資料】

特になし。

卒業論文・制作

JOLLY, James A.

【Course description】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【Course objectives】

卒業論文の完成

To provide students with guidance in the preparation and completion of their senior theses.

【Course schedule】

After the first class session, consultation and counselling sessions between individual students and instructor will be arranged and appointed as needed. Students will be requested to prepare their own time-line plan of how they will develop and complete their work by the second week of the term. Students must also keep the instructor currently informed on the progress of their work and are expected to promptly report any problems encountered which delay their progress.

【Assessment】

Grades will be awarded based upon subjective evaluation of diligence of effort, quality of research, and quality of content of the completed work.

【Textbooks】

No textbook will be assigned.

【Reference】

To be recommended individually as need arises.

卒業論文・制作

ジョリー幸子

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

個々の当該専門演習履修者の卒論テーマに沿って必要時において、適宜指導する。

【評価方法】

卒論作成のための、研究企画、先行研究などの関連資料の検索、執筆の過程における進捗率、及び完成した卒論の内容、貢献度などを総合的に考慮し、判定する。

卒業論文・制作

杉本典之

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

杉本典之が担当する専門演習Iないし専門演習IVの共通テーマは、一貫して「企業会計の構造と機能ないし会計制度の国際化についての学修と卒業論文の準備」である。そのような共通テーマの下で卒業論文の作成に挑戦する学生は、5月中に自らの卒業論文のテーマを明確にし、夏休みが終わるまでに必要な参考文献や資料を収集し、秋には卒業論文の草稿を実際に執筆したうえで、12月初めまでに卒業論文を完成させるように努める。

学生各人による中間研究発表は、卒業論文作成のための上記作業の節目ごとに行う。つまり、少なくとも、卒業論文のテーマを絞り込んだ段階、参考文献や資料を収集して一読し終わった段階、そして、論文の草稿を一応書き上げた段階、のそれぞれの段階で中間発表する。

論文の書き方に関する解説書の学習は、すでに2年次の基礎演習の段階から学生各自が折々に心掛けてきたはずであるが、論文作成作業の具体的な進展に併行して改めて学修し直す。

【評価方法】

卒業論文の出来栄によって成績を評価する。

【テキスト】

共通のテキストは指定しない。

【参考文献・資料】

必読・必見の参考文献・資料やその入手方法については、学生各人に対する個別指導の中で個別具体的に紹介・教示する。

卒業論文・制作

中村雅文

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成。

【授業計画】

テーマの選定及び参考文献へのアドバイスを行う。また、研究の仕方及び論文作成の方法等への指導に関し、学生の進捗状況に応じて個別に対応する。

【評価方法】

卒業論文作成への取り組み姿勢、提出された当該論文の内容によって評価する。

【テキスト】

指定するものは特にない。

【参考文献・資料】

必要に応じ紹介する。

卒業論文・制作

林 誠

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文テーマの選定、参考文献や情報の収集と整理、論文骨子の作成とプレゼン、初稿作成、最終稿作成の過程で個別指導をおこなう。

【評価方法】

卒業論文への取り組み姿勢や態度、提出された卒業論文の内容等から総合的に評価する。

【テキスト】

テーマによって個別に指示する。

【参考文献・資料】

テーマによって個別に指示する。

卒業論文・制作

福本明子

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文を完成させ、提出すること。

【授業計画】

卒業論文の作成についてグループ又は個別の指導を行う。各自が卒業論文のテーマの決定後、先行文献の収集と読解、独自の実験、観察や分析、論文執筆について指導を行う。

【評価方法】

卒業論文の提出、提出後の発表、内容の観点から評価する。

【テキスト】

必要に応じてテキストやプリントを配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じてテキストやプリントを配布する。

卒業論文・制作

藤井正志

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文の骨子の提出を求め、骨子に添って卒業論文の指導を行う。

【評価方法】

卒業論文に対する取り組み姿勢から総合的に評価する。

【テキスト】

指定しない

【参考文献・資料】

適宜指定する

卒業論文・制作

前川三喜男

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

ゼミ生が選んだ卒論の内容について、研究の仕方、参考図書のアドバイスを行う
卒論内容の添削

【評価方法】

卒論の内容で評価

【テキスト】

なし

卒業論文・制作

三浦克人

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

ゼミでの学習の総まとめとして、会計学の分野に関する卒業論文の制作をおこなう。

【評価方法】

卒論の内容により評価する。

【テキスト】

適宜指示する。

卒業論文・制作

三浦信宏

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

学生個人毎のテーマ、進捗状況に応じて対処する。

【評価方法】

卒論の内容によって評価する。

【テキスト】

内容に応じて指示する。

【参考文献・資料】

必要に応じて紹介する。

卒業論文・制作

諸上茂光

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をもとに、演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させる。

【授業の目標】

卒業論文の完成

【授業計画】

卒業論文の作成のための個別指導が中心となる。
また、定期的に中間発表を行い、ディスカッションによって論文の内容を深めていく。

【評価方法】

卒業論文に対する取り組み姿勢、論文内容によって総合的に評価する。

【テキスト】

授業時に適宜指定する。

【参考文献・資料】

適宜指定または配布する。

卒業論文・制作

吉村文雄

【授業の概要】

専門演習I、IIを通じて興味と関心のある分野を発見し、専門演習III、専門演習IVにおける研究発表をふまえて、それまでの成果を演習指導教員の個別指導により卒業論文・制作として結実させます。

【授業の目標】

卒業論文を完成させることです。

【授業計画】

内部会計を中心に問題点を把握し、その解決法の把握を通じて研究テーマを決定します。あるいは、将来の職業選択を踏まえてその職業に必要な技法や思考法をとらえて研究テーマを決定します。論文の作成に当たっては、随時双方向的に議論を深めていきたいと考えています。

【評価方法】

卒業論文の制作をもって評価します。

【テキスト】

一応、吉村文雄『組織の会計論』を使うが、文献を多用する必要から適宜指示します。

【参考文献・資料】

テキストを中心に文献・資料を提示します。

インターンシップ概論

上原 衛 小林三太郎 石田寅生

【授業の概要】

学生が在学中に自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適の職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ研修を受講するための導入講義として位置づける。

【授業の目標】

講義を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】

1. ガイダンス（インターンシップについて、心構え等）
2. 職業と人生について
3. 各種業種について（学生各自の調査と発表も実施）
4. 日本の企業経営について
5. NPO/NGO/ボランティア活動について
6. ビジネスマナー講座
7. キャリアプランの作成
8. インターンシップ研修後の報告レポートの作成と成果報告について

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

インターンシップ研修

上原 衛 小林三太郎

【授業の概要】

学生が在学中に企業や公共機関、NPOなどにおける就業経験を行うことにより、自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適の職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ概論を修得済または同時履修中の学生のみ履修可とする。

【授業の目標】

研修を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】

夏期または春期に1～2週間程度の期間、企業や公共機関、NPOなどでインターンシップ研修を実施し、実社会を体験する。その後、研修報告と成果発表を行い、研修の総括を行う。

1. ガイダンス
2. 夏期または春期に企業や公共機関、NPOなどでインターンシップ研修を受ける
3. インターンシップ研修後の成果報告会における発表
4. 報告レポートの作成と提出

【評価方法】

企業での実地研修状況、成果報告書の作成と発表の3つにより総合的に評価する。成績は「合」「否」により評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

< ビジネス学部特別講座科目 >

資本市場と証券投資（野村証券提供講座）

石坂綾子

【授業の概要】

現在、証券業務に従事している各分野のプロが、基礎から最先端かつ専門的な資本市場と証券投資について実践的な講義を行います。直接金融への期待が高まる現在、資本市場に求められる役割とは何かについて考え、金融ビッグバン以降、激変する日本の資本市場の全容と投資とリスク・リターン考え方、株式投資・債券投資・分散投資・グローバル証券投資・分散投資の方法などを実務の観点から解説します。

【授業の目標】

資本市場の役割、投資とリスク・リターン考え方、株式・債券投資について理解し、実務面についての知識も習得すること。

【授業計画】

- (1) ガイダンス
- (2) 経済情報の捉え方
- (3) 経済成長と金融資本市場
- (4) 証券投資のリスク・リターンについて
- (5) ポートフォリオ・マネジメント
- (6) 債券市場の役割と投資の基礎知識 (1)
- (7) 債券市場の役割と投資の基礎知識 (2)
- (8) 株式市場の役割と投資の基礎知識 (1)
- (9) 株式市場の役割と投資の基礎知識 (2)
- (10) 投資信託の役割とその仕組みについて (1)
- (11) 投資信託の役割とその仕組みについて (2)
- (12) 資本市場における投資家心理について
- (13) 資産運用とライフ・プランニング

※授業はオムニバス形式で毎回講師が来て行われる。

【評価方法】

出席状況と毎回の授業で提出するレポートにより総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じてそのつど関連資料を配布する。

【参考文献・資料】

証券投資の基礎（野村証券投資情報部編 丸善株式会社）
日本の資本市場（氏家純一編 東洋経済新聞社）

ジェンダーと社会

中島美幸

【授業の概要】

文学作品を始めとする「表現」を取り上げ、「女」「男」がどのように描かれているか、また、なぜそのように「女」「男」が描かれたのか、社会的・歴史的・心理的視点から考える。また、「表現」された「女」「男」によって、社会や個人がいかに固定的なイメージに縛られているかを認識し、さらに、固着したイメージから自由な、現実の多様な女と男の生と性を「表現」に探る。

【授業の目標】

「表現」を分析する能力を高めることで、社会の身近なところにさまざまなジェンダー問題が存在することに気づき、自らの生き方を考える機会とする。

【授業計画】

- 第1回 講義概要説明
- 第2回 ことばとジェンダー
- 第3回 <娘>の表現——恋愛と自立と
- 第4回 <母>の表現——母性神話を問う
- 第5回 <家族像>を描きなおす
- 第6回 表現する女性の困難(1)——イギリス小説誕生の背景
- 第7回 表現する女性の困難(2)——樋口一葉の挑戦
- 第8回 『青鞥』の女性たち
- 第9回 男性作家のジェンダー
- 第10回 教科書のなかのジェンダー
- 第11回 幼い頃に出会った表現
- 第12回 映画のなかのジェンダー
- 第13回 「表現」と「政治」
- 第14回 まとめ

【評価方法】

学期末レポートの得点を基本に、毎回提出のコメントカードの合計点を加えた総合計で評価。コメントカードは内容に応じて加点。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

女性学・男性学

中島美幸

【授業の概要】

男女についての定説化した知識、それによって作り出された役割、人格の内部に及ぶ性別化の影響とその結果生まれる病理などについて、さまざまな事例や理論を紹介し検討する。

【授業の目標】

男女をめぐる状況は、近年大きく変化してきた。男女に関する従来の思い込みから自由になれるよう、新しい情報に接し、自己決定できるための知識を獲得する。

【授業計画】

- 第1回 講義の概要説明
- 第2回 作られる「女らしさ」「男らしさ」
- 第3回 恋愛と結婚
- 第4回 リプロダクティブ・ヘルス/ライツ
- 第5回 母になるということ、父になるということ
- 第6回 多様性とエンバウメント
- 第7回 女性に対する暴力の根絶
- 第8回 「男らしさ」からの解放
- 第9回 「働くしかない男」と「働けない女」
- 第10回 性別分業をめぐる——現在と2055年の日本
- 第11回 男女をめぐる国際比較
- 第12回 女性解放運動の歩み
- 第13回 女性学・男性学の誕生
- 第14回 テスト

【評価方法】

学期末テストの得点を基本に、毎回提出のコメントカードの合計点を加えた総合計で評価。コメントカードは内容に応じて加点。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

講義の中でその都度紹介する。

ジェンダーと社会

森井マスキ

【授業の概要】

「女」や「男」がどのように描かれてきたか。なぜそのように描かれたのか。本講義では、文学作品や映画など、「表現」の中にあられたジェンダー規範を、社会的・歴史的・心理的視点から解きほぐしながら、自由で多様な〈性〉のあり方を探っていく。

【授業の目標】

私たちの人格や生き方を規定する〈性〉について、さまざまな作品を分析していく中で、その問題点に気づき、ジェンダーバイアスから自由な思考ができるようになることをめざす。

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 近代の恋愛幻想—「或る女」
- 3 家父長制と女子教育—『十三夜』
- 4 近代の労働と主婦の誕生—『G・I・ジェーン』
- 5 性愛から純愛へ—『ベッドタイムアイズ』
- 6 家族神話の崩壊—「父の詫び状」
- 7 レイプ幻想—「ザ・レイプ」
- 8 お姫様婚姻譚—「美女と野獣」
- 9 少女マンガとフェミニズム—「マージナル」
- 10 男の子の全能感—「少年ジャンプ」
- 11 新たなセクシュアリティ—「親指Pの修行時代」
- 12 まとめ

【評価方法】

授業時に課すペーパーと、学期末テストの成績を総合して判断する。

【テキスト】

なし。随時、プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に、適宜紹介する。

女性学・男性学

竹信三恵子

【授業の概要】

男女がともに働く社会に不可欠なワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の両立）の実現には何が必要かを、これを損なう「ワーキングプア」問題の解決方法なども含めて明らかにし、問題解決の道をさぐる。

【授業の目標】

ワーク・ライフ・バランスのある暮らしに必要な働き方の仕組みや安全ネット、男女平等のための法制度のあり方を考え、パートや派遣労働などの非正規労働がもたらす貧困への対応策も含めて、人間らしい働き方のための将来設計を考える。

【授業計画】

- 新聞記事、ビデオを多数使って、以下の4点から戦後の企業社会がワーク・ライフ・バランスを軽視するに至った理由と、その軽視が招いた社会の行き詰まり、今後の企業社会のあるべき方向性を示す。
1. 戦後の日本の経済政策が男女分業に支えられてきた状況とこれを可能にした社会状況～高度経済成長からバブル崩壊まで
 2. ワーク・ライフ・バランスへシフトする海外の変化への日本社会の対応法とその限界～男女雇用機会均等法・男女共同参画社会基本法と「ワーク・ライフ・バランス」
 3. 格差社会と少子化のはざままで～ワーキングプアと福祉削減に揺れる「子育てできる社会」
 4. 仕事と生活を両立できる社会構造の実現～男女が働ける税制と年金制度、福祉・雇用制度とは

【評価方法】

出席日数、授業後のフィードバックシートの提出状況と内容、授業内での質問や意見発表などの貢献度で評価する。

【テキスト】

『家事の値段』とは何か（久場嬉子・竹信三恵子著 岩波ブックレット 1999年）

【参考文献・資料】

ジェンダーから見た新聞のうら・おもて～新聞女性学入門（田中和子・諸橋泰樹著 現代書館 1996年）
ワークシェアリングの実像～雇用の分配か、分断か（竹信三恵子著 岩波書店 2002年）

女性学・男性学

中村 彰

【授業の概要】

1999年6月に成立した「男女共同参画社会基本法」がめざす社会システムを検証し、仕事の場や家庭、地域で、私たち男女がフェアに対等に生きるとは何かを説明します。日本における女性運動、男性運動のあゆみにもふれ、先人たちの心根を学びます。セクシャル・ハラスメント、ドメスティック・バイオレンス、過労死、中高年の自殺など、そのときどきの社会問題を男女共同参画の視点で読み解きます。

【授業の目標】

男女共同参画社会とは何か？ 新聞などのプリント、ビデオなどで判りやすく講義します。ワークショップで自分を振り返る工夫も試みます。

【授業計画】

- 1 ジェンダーと男女共同参画社会
- 2 日常に潜むジェンダー・バイアス
- 3 女子差別撤廃条約と男女共同参画社会基本法
- 4 ドメスティック・バイオレンス
- 5 セクシャル・ハラスメント
- 6 恋愛・性をめぐるジェンダー
- 7 多様な性を考える一性自認・性指向・インターセックス
- 8 メディア・リテラシー
- 9 教育とジェンダー
- 10 仕事社会がもたらしたもの
- 11 高齢社会とジェンダー
- 12 育児支援とジェンダー
- 13 福祉・医療現場とジェンダー
- 14 ジェンダーからみた障害者問題

【評価方法】

レポートにより評価します

【テキスト】

中村彰『男性の「生き方」再考 ―メンズリブからの提唱』世界思想社 2005
日本DV防止・情報センター編『デートDVってなに？ Q&A』解放出版社 2007

比較文化

星山 幸子

【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、文化を理解するための枠組みや概念を学ぶとともに、いくつかの事例をとおして「文化」について考える。さらに、異文化交流についても講義する。その際、民族、国家、南北問題、ジェンダー等といったさまざまな視点から文化について考える。とくに、イスラームの文化の事例も授業のなかで取り上げる。

【授業の目標】

私たちの生活には、さまざまなモノや考え方に関する多くの情報があふれている。この授業では、複数の事例をとおして、異文化に対する視座について学習する。さらに、多様な文化や価値観を学ぶことにより自分自身の社会や文化を見つめ直すことを目標とする。

【授業計画】

1. 文化の理解
2. ことばと文化
3. 民族と国家と文化
4. エスニシティと文化
5. 言語、宗教、文化
6. イスラームの文化
7. イスラームと女性
8. 教育と文化
9. 文化と規範
10. 開発と文化
11. 文化のグローバル化

【評価方法】

出席、授業中の提出物、討論と質疑応答 20%
期末試験 80%

【テキスト】

テキストは使用しない。授業中に適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献については、授業のなかで適宜指示する。また、ビデオなどの視聴覚資料を使用する。

比較文化

文 嬉眞

【授業の概要】

国際化が進み、世界の文化について触れる機会が多くなってきた。この授業では、さまざまな文化を考察する上で必要な概念について学ぶことによって、世界の文化の特徴について考える。さらに、異文化交流についても講義する。

【授業の目標】

外国人が日本文化を見て表現したことを分析し、それによって「日本文化」を再認識することをその目標とする。

【授業計画】

本講義では、主に「日本の文化」に焦点を当て考えることにする。特に、外国人（見る側）が日本という異文化（見られる側の文化）と直接接触した際、どのように評価（表現方法）・認識したかを考察し、その考察からなぜそのような評価・認識があらわれるかを分析する。そして、得られた分析によって外国人（見る側）がもつ「文化」を再分析する。すなわち、外国人（見る側）が「異文化」（見られる側の文化）を見るまなざしに関して考察することによって、自文化（見る側の文化）を再認識するだろう。

1. 異文化との理解・誤解に関する一般的な概論
2. 異文化交流史における本講義の位置付け
3. 前近代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
4. 近・現代の外国人（見る側）における「日本認識」および外国人（見る側）がもつ「文化」に関する考察
5. 異文化としての「日本文化論」

【評価方法】

1. 出席、受講態度、講義時の課題等で全体の50%を評価する。
2. 学期末レポートで残る50%を評価する。

【テキスト】

講義の中で随時、配布する。（必ず事前に読んでおくこと）

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

東アジアの生活と文化

楊 衛平

【授業の概要】

日本は東アジアに位置し、歴史的にも東アジアの影響を強く受けている。日本と関係の深い近隣の国を中心にその生活や文化について講義する。

【授業の目標】

中国の多民族の構成からそれぞれの生活・民俗・風習を中心に取り上げ、中国の歴史・宗教・食・医学・音楽などについての認識を深め、伝統的な中国文化を理解していくことを目標とする。

【授業計画】

1. 中国の民族構成
2. 儒・仏・道とは
3. 中国の年中行事
4. 医食同源食文化
5. 東西医学の比較
6. 気文化と気功術
7. 飲茶文化と歴史
8. 伝統武術と雑技
9. 少数民族の音楽
10. 少数民族の服装
11. 中国人の百家姓
12. 中国の名勝物語
13. 中国人の考え方

【評価方法】

出席状況、受講態度、各回のレポートによって総合的に評価する。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

中国人・文字・暮らし（李順然 東方書店）
中国仏・道・儒教史話（劉克蘇 河北大学出版社）
中国伝統文化導論（劉栄興 河北大学出版社）
中国視聴数字図書館（北京芸術科学電子出版社）

国際交流

松本一子

【授業の概要】

国際化時代といわれる現代社会は、さまざまな形で国際交流や国際協力が行われている。最近ではNPOやNGOの活躍がめざましい。国際交流の歴史を概観しながら、主として日本に滞在する多くの外国人との異文化接触を通しての国際交流のあり方について講義する。

【授業の目標】

地球市民としての意識を育むことを目標とする。

【授業計画】

1. 国際交流とは
2. 国際交流の歴史
3. 国際交流活動の現状
 - ・自治体と国際交流
 - ・地域の国際化と多文化共生
 - ・地球市民教育
 - ・ネットワークの形成と活用
4. 実践国際交流
 - ・先進的組織運営のさまざまな事例
 - ・交流から共生へ

以上を骨組みに、受講生が「自分に何ができるか」を考える材料を提供する。

【評価方法】

レポート及び平常点（リアクションカードの提出&出席率）で評価する。

【テキスト】

オリジナル教材

【参考文献・資料】

草の根の国際交流と国際協力（毛受敏浩編著 明石書店 2003年）
国際交流の組織運営とネットワーク（榎田勝利編著 明石書店 2004年）
講義の際に適宜紹介する。

生涯学習

山川法子

【授業の概要】

身近に繰り広げられている“生涯学習”について、まず知り、生涯学習の成り立ちや目的・内容等について、整理する。また、受講者自身の生涯学習について、キャリア・シートを活用しながら、考えていく。

【授業の目標】

受講者が、自らの生涯を見据えて、ライフプランを立てる方法を獲得することを目標とする。そのために、人の生涯や学習の内容等に関する基礎知識の解説と、受講者による考察を中心に行う。なお、キャリアシート等を用いた、自己分析や職業選択、ライフプラン作成の作業を行ってもらう。

【授業計画】

- 1 学習とは
- 2 生涯教育と生涯学習
- 3 身近な「学習のできる場」
- 4 主要な社会教育施設と学校
- 5 互いに心地良く過ごすとは
- 6 人生のビジョンを立てる(キャリアシート全4回)
- 7 まとめ

【評価方法】

レポート2回により評価する。
(レポート課題のおおまかな説明や提出期日については第1回目の授業にて伝える)

【テキスト】

テキストは特に指定しない。プリントを配布することがある。

【参考文献・資料】

生涯学習と自己実現(放送大学教育振興会、堀薫夫・三輪建二)
生涯学習論-現代社会と生涯学習(放送大学教育振興会、岩永雅也)等
授業中に随時紹介する。

手話・点字

堀 正和

【授業の概要】

手話・点字について聴覚障害者や視覚障害者のコミュニケーションや文化におけるその役割や歴史と実践的技術・方法論を講義する。

【授業の目標】

手話及び点字の成り立ちがわかり、手話の簡単な日常会話の読み取りや表現ができるようになり、点字のカナ・数字・アルファベットの読み書きができるようになる。

【授業計画】

1. 聴覚障害概要
2. 聴覚障害者のコミュニケーション方法
3. 手話の概要
4. 手話演習
5. 視覚障害概要
6. 視覚障害者のコミュニケーション方法
7. 点字の概要
8. 点字演習

【評価方法】

手話や点字の読み取りや表現のテストにより行う。

【テキスト】

点訳のしおり・点字器付き（日本点字図書館）及び
手話教室入門（全日本ろうあ連盟出版局）

日本の歴史

岩口和正

【授業の概要】

社会のもっとも基礎的な構造のひとつである家族や親族関係は、時代とともに大きく変貌してきました。そして、このような変貌こそが歴史の最も大きな変動要因のひとつとなっているものです。そこで、日本歴史における家族や親族関係の特徴・変遷の意味について、東アジア諸国のそれとも比較しながら、政治制度や経済制度とのかかわりを中心に考えます。

【授業の目標】

- (1) 歴史が家族の日々の暮らしの中から創られることを理解する
- (2) 家族や親族を巡るあまり変わらない歴史と大きく変わってきた歴史を学ぶ
- (3) 家族や親族の歴史と社会や政治の歴史との関係を考える
- (4) 歴史史料に親しみ、その扱い方について習熟する

【授業計画】

- (1) 歴史の中での婚姻論・家族論の意味
- (2) 妻問婚の特徴1<万葉集を中心として>
- (3) 妻問婚の特徴2<日本霊異記を中心として>
- (4) 婿取婚の成立と特徴
- (5) 嫁取婚の成立と特徴
- (6) 密通法と離婚法の成立と展開
- (7) 江口と神埼<遊女の出現>
- (8) 婚姻と家族と親族<日本の親族体系の特徴>
- (9) 婚姻とイエ<所有・財産制度と婚姻の歴史>

【評価方法】

成績評価は学期末の試験でおこないます。ただし、受講者数の特に少ない場合は平常点による評価となります

【テキスト】

使用しません

【参考文献・資料】

授業の中で別途に紹介いたします

日本の文学

堀尾幸平

【授業の概要】

日本の文学史について概説し、日本文学の特徴や外国文学の影響などについてもふれる。古典から近・現代までの著名な作品や名作も鑑賞し、日本文学への興味と関心を高める。

【授業の目標】

1. 文学とは何か。その定義、形態、特色などを理解する。
2. 日本の文学の著名な作品を鑑賞しながら、文学史全体を把握する。

【授業計画】

1. 文学とは何か
2. 明治期の文学
3. 坪内逍遙、二葉亭四迷
4. 三輪弘忠、巖谷小波
5. 大正期の文学
6. 小川未明、鈴木三重吉
7. 千葉省三、浜田廣介
8. 少年詩、童謡、金子みすゞ
9. 昭和期の文学
10. 佐藤紅緑、江戸川乱歩
11. 宮澤賢治
12. 新美南吉、坪田譲治
13. 平成期の文学
14. 創作の方法理論
15. 試験

【評価方法】

定期試験、レポート、出席状況等によって総合的に評価する。

【テキスト】

新日本児童文学論（堀尾幸平著 中日文化 2,200円）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

伝統芸能

林 和利

【授業の概要】

日本の伝統芸能である能・狂言・歌舞伎・人形浄瑠璃（文楽）などの歴史や文化的意義について講義し、ビデオなどによる鑑賞も行う。

【授業の目標】

各ジャンルの概要・歴史を知り、その価値を認識して、日本人として当然わきまえるべき知識を修得する。

【授業計画】

1. 授業の目的と方針を提示
 2. 日本芸能演劇史概説
 3. 芸能の発生について
 4. 神楽について
 5. 伎楽・舞楽・散楽について
 6. 田楽について
 7. 猿楽について
 8. 能について
 9. 狂言について
 10. 歌舞伎について
 11. 文楽について
- また、学外で催される伝統芸能の舞台を種々案内し、各自の判断で鑑賞することを促す。

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により総合的に評価する。
学外の伝統芸能を鑑賞した場合は、レポート提出により評価の対象にする。

【テキスト】

日本文化論序説（林和利著 青山社）

【参考文献・資料】

日本演劇全史（河竹繁俊著・岩波書店）
演劇百科大事典（早稲田大学演劇博物館編・平凡社）
なごやと能・狂言（林和利著・風媒社）

書道

森美恵子

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書き、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】

すぐれた古典の臨書並びに鑑賞を通して、用美一体の書作を習得し、審美眼を得させる。

【授業計画】

楷書・行書・草書の古法帖を拡大臨書コピーし、その手本に基づき書作した清書作品を提出する。
書写中心であるが、中国の書論に則り、古法帖の概略等も講ずる。

【評価方法】

授業内で提出する平素の成績物及び出席状況等にて総合的に評価する。

【テキスト】

書の鑑賞と学び方（上田桑鳩 教育図書研究会）

書道

小川晃治

【授業の概要】

現代の芸術としての書道の意味と意義について概説し、中国や日本の名筆についても鑑賞する。書写は楷書・行書・草書などを書き、技法の向上をはかり、現代社会に於ける文字、書の美について考え、書道への関心を高める。

【授業の目標】

東洋独自の文化遺産である書、用美一体の書美。
漢字、ひらがな、カタカナと世界で類を見ない最高の言語、文字を有する書と文化、この現代社会そして人々の生活の中にしっかりと存在していることを理解、認識すること。

【授業計画】

講義、実技を一日の時間内に進める。前後期共通の為、各時代の書美、他の美術、文学の対比についての講義は概論とする。現代社会に於ける書美と、日本人の美意識を探究することを基準として進める。

【評価方法】

レポート二種、実技作品、学習態度、出欠状況などによる。

【テキスト】

担当者の手本、古典法帖。

映像文化

小倉 史

【授業の概要】

現代芸術としての映画の意味と意義を概説し、映画の歴史についてもふれ、名作を鑑賞する。欧米やアジアの映画との比較の視点から日本映画の特徴について講義し、映画への興味と関心を高める。

本講義では、撮影技術や演出方法、作品の背景といった映画に関する基本的な知識について解説し、それらを指標としながら実際に映画を鑑賞する。また、受講生に毎回書いてもらうミニ・レポートとともに、作品を分析し、読み解いていく。

受講生にとっては「古い」映画、「見慣れない」映画にも数多く触れることになるため、様々な映画と積極的に関わろうとする意欲的な学生の受講を歓迎する。

【授業の目標】

映画の基本的な知識を得たり、作品の背景を知ったりすることで、映画をただ「観る」のではなく、意識的に「読み解く」ことができるようにする。

【授業計画】

1. イントロダクション
2. ショットとシーン
3. 長回しとディープフォーカス
4. 編集とモンタージュ
5. カメラ移動とフレーミング
6. 「作家」で見る
7. 異化効果
8. 「ジャンル」で見る
9. 「テーマ」で見る
10. まとめ

【評価方法】

学期末に教場レポートを実施する。出席状況と毎回授業後に提出してもらうミニ・レポートの内容も加味する。

【テキスト】

適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

適宜指示する。

090429502_0180 掲載順 : 0180

MCode:090103006_0180 ★

生き物の世界

服部一三

【授業の概要】

地球上には多種・多様な動物や植物が生存しているが、それぞれ進化しながら今日の生態系を成している。動物や植物の分類、分布、食性などの基礎知識を学ぶとともに、自然環境保護の視点を視野に入れながら、生き物の世界について講義する。

【授業の目標】

地球という太陽系第3惑星に住んでいる種々な動物・植物と人間との関わりを理解するとともに、特に、植物との関わりを中心として、今後の関わり方についても理解を得られるようにする。

【授業計画】

- | | |
|---------|-------------------------------|
| 第1回 | 1. 生物界の分類 |
| | 2. 生物の進化 |
| 第2-6回 | 3. 植物と人の関わり |
| | 1) 農耕の始まり |
| | 2) 世界の農耕文化 |
| | 3) 日本農耕文化の起源と発展 |
| | 4. 人が手を加えた植物-作物 |
| | 1) 作物とは? |
| | 2) 世界の作物の起源 |
| 第7-8回 | 5. 作物改良の原理と方法 |
| | 1) 作物改良の原理 |
| | (1) メンデルの法則-遺伝学 |
| | (2) 遺伝の物質的基礎 |
| 第9回 | 2) 作物の改良方法 |
| 第10回 | 6. バイオテクノロジー |
| 第11-12回 | 1) バイオテクノロジーとは? |
| | 2) 作物の改良とバイオテクノロジー |
| | (1) 細胞・組織培養 |
| | (2) 遺伝子操作 |
| | (3) バイオテクノロジーで得られた作物をいかに考えるか? |
| | (1) 倫理 |
| | (2) 安全性 |

【評価方法】

受講資格についてはあえて問わないが、成績評価には出席点を重視し、単位認定試験の成績によって総合的に評価する。

【参考文献・資料】

下記の書籍を参考書籍として使用するが、テキストなどを作成して講義を進めるので、特に買い求める必要はない。

生物的自然と人間 (平田豊著 開成出版)

数学の世界

岡田克彦

【授業の概要】

数学は膨大な体系を持つ学問体系であるが、主要な分野の入門的、基礎的な事項を解説する。日常生活や他の学問分野はさまざまな数学の恩恵を受けて成り立っているため、例えば、物理学と数学との関連、日常体験と数学の関連性といったことにもふれてみたい。

【授業の目標】

文科系の学生が、社会に出て仕事をする上で、最低限必要な数学の知識を習得させる。数学が面白くて簡単なものである事を理解させる。

【授業計画】

以下の各項目について説明し、演習を行う。

- 1 確率
- 2 統計、偏差値
- 3 ベクトル
- 4 微分
- 5 積分
- 6 物理学への応用

【評価方法】

課題及び試験で評価する。

【テキスト】

特に使用しない。随時プリントを配布する。

090429502_0190 掲載順 : 0190

MCode:090103006_0190 ★

生命の科学

林 博司

【授業の概要】

生命の誕生、生命の維持、生体を構成する物質の特徴、遺伝の仕組み、遺伝子変異のメカニズムと機能などについてヒトの身体を例に講義する。

【授業の目標】

生命現象の多くの側面が、物理学と化学の言葉で説明できることを理解し、生命の科学が、人類の幸福にどう役立っているかを学ぶ。

【授業計画】

1. 命の惑星地球
2. 命の理解に必要な物理と化学のエッセンス
3. 命を支える器官
4. 器官を作る細胞
5. 細胞の仕組み
6. 分子機械としての生命
7. 分子機械の設計図：遺伝子
8. 遺伝子の働き
9. 遺伝子を操作する
10. 細胞を操作する
11. 器官を操作する
12. 遺伝子と環境のかかわり

以上12講を実験・映像資料も用いておこなう。

【評価方法】

出席点と小テストの得点で総合的に評価する

【テキスト】

指定しない

【参考文献・資料】

講義中に適宜触れる

生命の科学

小野佳成

【授業の概要】

ヒトの生命維持機構を他の脊椎動物と比較しながら解説します。

【授業の目標】

ヒトの生命維持機構(消化器、呼吸器、循環器、泌尿器、運動器、皮膚、感覚器、中枢神経系等)が効率的に上手く働き、生命維持が行われているかを理解する。

【授業計画】

1. ヒトはなぜ食べるのか? (1) 消化管: 消化と吸収
2. ヒトはなぜ食べるのか? (2) 消化器: 肝臓と膵臓
3. ヒトは冬にも活動できるのか? (1) 循環器: 心臓
4. ヒトは冬にも活動できるのか? (2) 循環器: 血管
5. ヒトは冬にも活動できるのか? (3) 血液系: 赤血球、白血球、凝固系
6. ヒトは陸上で生活できるのか? (1) 腎臓と排尿
7. ヒトはどのように殖えるのか? 生殖、受精、妊娠
8. ヒトは陸上で生活できるのか? (2) 肺呼吸
9. ヒトは陸上で生活できるのか? (3) 運動器: 骨、筋肉系
10. ヒトは陸上で生活できるのか? (4) 皮膚: 色、体温調節、感覚
11. ヒトはどのようにして外界との変化をとらえるのか? 視覚 聴覚、平衡覚、嗅覚、味覚等
12. ヒトはどのように行動するのか? 本能行動、意識
13. ヒトはどのように考え、行動するのか? 高次機能

【評価方法】

講義ごとの小テストによって評価します。学期末試験は施行しません。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

必要に応じて配布する予定です。

食品の科学

杉浦信彦

【授業の概要】

ヒトの生命の源泉は食物に在り、幸福の源泉は健康に在るといわれています。生涯を通して健やかで安らかな暮らしを続けるにはどうしたらよいのか。生命と健康を脅かす様々なリスクに対処しながら健康を守るための手段を、食品と栄養の視点から学びます。

【授業の目標】

1. 食と健康のかかわりの基礎的知識を学ぶ。
2. 食品の表示を知り、正しい知識に基づいた食品の選択を考える。
3. 過剰および不足栄養成分と生活習慣病とのかかわりを学ぶ。
4. 食の化学的安全性について添加物や農薬の功罪を中心に考える。

【授業計画】

1. ガイダンス
2. 食と健康を考える “食の5条件とは”
3. 食品の表示
4. 健康補助食品・サプリメント
5. 現代人に不足する成分元素 1)カルシウム
6. “ ” 2)鉄
7. 過剰栄養とメタボリックシンドローム
8. 食生活の安全 1)食品添加物
9. “ ” 2)天然着色料と合成着色料
10. “ ” 3)合成保存料の功罪
11. “ ” 4)合成甘味料の恐怖
12. “ ” 5)残留農薬とポストハーベスト
13. 飲料水の化学的安全性を考える。

テーマによりVTR視聴や簡単な演習を行います。

【評価方法】

出席回数、授業内容についてのメモリーシートおよびレポートの提出により評価します。

【テキスト】

使用せず、適時プリントを配布します。

【参考文献・資料】

適時紹介します。

食品の科学

千葉善根

【授業の概要】

基礎的な科学と食品の科学とのかかわり、食品の持つ機能や性質、貯蔵などを学び、食品と酵素の関係や科学物質としての理解を深め、多様化した食生活や加工食品の氾濫の中で生活に役立つ講義をする。

【授業の目標】

日常生活で、身近にある食品が化学的(科学的)にどのような意義・性質・機能などを持っているかを理解する。

【授業計画】

1. 現代食生活の問題点
食生活の変化と食糧資源について。
2. 糖質と食品
デンプンの機能と利用、食物せんい、最近の甘味料について。
3. たんぱく質と食品
変性と加工・調理との関係、加工食品と食物性たんぱく質の利用。
4. 脂質と食品
脂肪の性質と脂肪酸、油脂の劣化、乳化と乳化食品。
5. 無機質と食品
骨粗鬆症等。
6. ビタミン
食品加工・調理との関係、生物学的触媒としての働き。
7. 発酵食品
食品と酵素・微生物との関係。

【評価方法】

定期試験にて評価。

【テキスト】

使用しない(プリント配布)。

【参考文献・資料】

講義の際 紹介

生活の化学

永井慎一

【授業の概要】

私たちの生命や健康で豊かな暮らしは化学の力で支えられている。日々の暮らしにかかわる物質や現象を、事例をあげながら化学の目で学ぶ。

【授業の目標】

身近な物質の性質や現象の違いを、物質の顔というべき有機化合物の構造を眺めながら理解を深める。

【授業計画】

生命の科学1-2(有機化合物の構造式、受容体と酵素のX線構造)
身近な現象の科学1-3(青いバラ、紅葉、タンパク質と変性、ジスルフィド結合、血液型、にぎり寿司、味、HbA1c値とパンのキツネ色、エビカニの色、瞬間接着剤)
ホルモンとフェロモン、特に最近構造決定されたチャパネゴキブリの性フェロモン
薬と作用の化学(モルフィネの構造から最強の鎮痛パッチの開発とベニシリンから最新の抗生物質への構造変換)
毒の化学(体内で究極の発がん物質に変化するタバコの成分などの毒)
青春から注意する病気
ヒット商品の化学1-3(最近発売され、ヒットした数々の生活関連商品の化学的なしくみ)などを最新の研究成果を紹介しながら分かり易いイラストで解説、有機化学の楽しさを学ぶ。

【評価方法】

期末に提示する問題の解答を、期限内に1問につき原稿用紙400字で提出させ、解答と出席した授業の実時間数で成績評価する。

【テキスト】

毎回配布する教材(A3両面)で講義。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介。

環境の保護

田部一史

【授業の概要】

いま、地球規模で自然破壊・環境破壊が進んでいる。自然を守り環境を保護する立場から、生物とそれを取りまく外的環境の問題点を、身近な例をあげて講義する。

【授業の目標】

1. さまざまな地球環境問題の現状とその原因についての理解を深める。
2. 環境汚染物質が生命と健康へ与える影響の大きさについて学ぶ。
3. 人の手による生態系破壊の現状を知り、環境保護の方策を考える。

【授業計画】

- 第1講 序論：自然に学ぶ
 第2講 森林破壊：森はいのちの母である
 第3講 砂漠化：人為による沙漠の拡大
 第4講 地球温暖化と異常気象：人間がつくり出した異常
 第5講 大気汚染と酸性雨：自然も文明も溶かし去る
 第6講 フロンとオゾンホール：降りそそぐ有害紫外線
 第7講 いのちのしくみ1・細胞レベル：遺伝子とタンパク質
 第8講 いのちのしくみ2・個体レベル：生体防御
 第9講 環境汚染とがん：細胞を狂わせる物質の氾濫
 第10講 環境ホルモン：いのちのつながりを絶つ
 第11講 生態系のバランス：壊れやすい自然のしくみ
 第12講 生命の多様性：人の手による大量絶滅
 第13講 美しい自然を守ろう：循環型社会をめざして
 第14講 期末試験

【評価方法】

出席状況、中間レポートおよび期末試験の成績によって総合的に評価する。(出席20%、レポート30%、試験50%)

【テキスト】

使用せず。毎回講義資料プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

日本国憲法

初谷良彦

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】

激動する世界の乱拍子が聞こえるような時代となった。今、次代を担う学生諸君にとって、もっとも大切なことは豊かな憲法感覚を身につけることである。憲法の基本原理やその歴史的背景をしっかりと学んで欲しいと願っている。

【授業計画】

- 第1回 憲法総論
 第2回 日本国憲法制定の経緯
 第3回 日本国憲法の基本原理
 第4回 国民主権
 第5回 平和的生存権と戦争の放棄
 第6回 基本的人権
 第7回 教育を受ける権利
 第8回 国会
 第9回 内閣
 第10回 裁判所
 第11回 地方自治
 第12回 国法の諸形式
 第13回 国家と国家統治の基本
 第14回 日本国憲法と法の支配
 第15回 政府の手続に関わる諸権利

【評価方法】

主として中間試験及び期末試験の成績によって評価する。

【テキスト】

憲法講義I(改訂新版)(初谷良彦著 成文堂)

【参考文献・資料】

授業の際、随時紹介する。

日本国憲法

大嶽 浩

【授業の概要】

法と国家は人間のためにある。憲法は、このような法の目的と国家の責務を明らかにしようとするものである。なるべく具体的な現実の問題と関連させて説明したり、裁判例などにも触れ、憲法はわれわれの生活の中に入り込んでいる身近な、確かな存在であることを実感できるようにしたい。

【授業の目標】

基本的人権の「獲得の歴史」を理解し、人権の「保障の意味」を理解すること。

【授業計画】

1. 憲法と理想
2. 憲法と法律
3. 憲法と憲法典
4. 国民の司法参加
5. 憲法の最高法規性
6. 憲法の改正

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

入門法律学

大嶽 浩

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、法とは何か、という問題を「文学作品」、「映像作品」、「新聞記事」などを利用して考えてみたいと思います。

【授業の目標】

「社会あるところに法がある」ことを文学作品を通して理解すること。

【授業計画】

1. 法学の入門書と文学作品
2. 法學学習と文学作品
3. 法學学習の方法
4. 法学と政治と文学
5. 法学と活字
6. 法学と批評

【評価方法】

試験とレポートによる評価。

【テキスト】

使用せず。プリントを配布。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

入門法律学

高橋 喬治

【授業の概要】

社会生活は「法」という社会規範が網の目のようにはりめぐらされています。そこで、いろいろな生活場面ごとに、法律がどのようにになっているのかを、身近な事例を挙げたりしながら考察していきます。

【授業の目標】

それぞれの法律や、その基礎にある考え方を学び、またそれらの考え方を実際の生活に当てはめてみることに。

【授業計画】

授業では、冒頭でそれぞれの回に関係する問題を考えてもらい、その解説も含めながら講義をしていきます。項目としては、いまのところ以下のようなものと考えています。

1. 法律を学ぶということ
2. 憲法はなぜ大切なのか
3. 民法と毎日の生活
4. 会社法と起業のための基礎知識
5. 民事訴訟法を知って裁判所を使いこなす
6. 罪と罰と刑法
7. 犯人逮捕で一件落着とはならない刑事訴訟法
8. バイト・OL・サラリーマンと労働法
9. 国際法から見た日本
10. 意外と身近な行政法
11. いろいろな国や地域の法律
12. 法律の歴史をひもといてみる
13. 常識を使って少年犯罪の問題を考え直す

【評価方法】

学期末の筆記試験を基本にして評価します。

【テキスト】

授業でプリントを配付します。その他に、小型の『六法』を購入してください。(詳細は第一回目の授業で話しますが、ポケット六法(有斐閣)、デイリー六法(三省堂)、新六法(三省堂)などがあり、価格は1700円～1800円程度です。)

【参考文献・資料】

講義の際、随時紹介したり、配付します。

入門社会学

堀田 裕子

【授業の概要】

社会学は、人間関係に焦点をあてつつ、個人・集団・社会など「社会」を総体的な視座から研究する学問です。学生の皆さんの関心と興味を中心に、現代社会の抱えるさまざまな課題を取りあげ、社会学の入門とします。

【授業の目標】

人間および人間関係に関する多様な見方・考え方や現代の主要なトピックを扱うことで、「社会」についての多角的な知見を学びます。また、そうした知見にふれることで皆さんのもっている「常識」を少しでもうち破っていただけたらと思います。

【授業計画】

- 1) イントロダクション——社会学とは
- 2) 社会化と自我——人「間」になるプロセス
- 3) 相互行為——地位と役割の社会的意義
- 4) 行為——行為の意味を「理解」する
- 5) 集団と組織——集団での活動とルール
- 6) 未組織集合体——人間は群れるとどうなるか
- 7) 権力と支配——支配する側/される側
- 8) 見えない権力——権力主体不在の権力
- 9) ジェンダー——女と男をめぐる諸問題
- 10) 家族——変わりゆく家族と少子高齢化
- 11) 社会病理——自殺や犯罪はなぜ起こるか
- 12) 教育——学校は何を教える所か
- 13) 情報化——ハイバースペースの中の人間
- 14) 医療——病気と健康はいかにして作られるか
- 15) まとめ——社会調査と社会をみる眼

【評価方法】

出席20%、筆記試験80%で評価します。

【テキスト】

使用しません。

【参考文献・資料】

講義中に適宜紹介します。

入門社会学

高木 真理子

【授業の概要】

社会学は、人間関係に視座を据えて、個人・集団・社会など、社会を総体的に研究する学問である。学生の関心と興味を中心に、現代社会の課題を分析対象に取り上げ社会学の入門とする。

【授業の目標】

身の回りで起こっていることに興味をもち、それについて深く考察できるようにしましょう。

【授業計画】

世界で、そして日本でおこっている身近な事柄をとりあげ、社会のしくみや制度に目を向ける。『社会学』という本をテキストとして使うが、授業ではテキストの内容だけでなく、いろいろな事象に興味をもってもらいたいと思っている。

1. はじめに——社会学について
2. 社会とは——私たちと彼ら
3. 行為とは——4類型
4. 集団とは——コミュニティ
5. 家族とは——少子化や介護の問題へ
6. 逸脱とは——少年非行
7. コミュニケーションとは——携帯電話?メール?
8. 社会心理とは——群集心理など
9. ジェンダーとは——あらためて見直すジェンダー

以上のようなテーマについて、授業時間1～2回を使ってクラスで学んでいきたい。授業回数や進行速度の関係で、割愛する部分が出てくる可能性があることをあらかじめ了解しておいていただきたい。

【評価方法】

毎回ではないが、pop quizを行う。最終評価はレポートか試験。出席を重視する。出席とは単に教室に「存在」することではない。自分なりのノートをつくり、毎回のトピックに対する自分の考えをまとめるなどの形で、授業に積極的に参加することが求められる。
評価＝出席(25%) pop quiz(25%) レポートまたは試験(50%)

【テキスト】

奥井智之著『社会学』東京大学出版会

【参考文献・資料】

授業中に紹介する

入門心理学

青柳 眞紀子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

「心理学」の概要について、正しい理解を深めること。「心理学」は身近な存在でもあることを認識し、自分自身を振り返るきっかけをつかむ。

【授業計画】

1. ガイダンス、心理学とは
2. 無意識の世界1
3. 無意識の世界2
4. ストレスとタイプA性格
5. 錯視の不思議
6. 学習1
7. 学習2
8. パーソナリティ1
9. パーソナリティ2
10. 対人関係1
11. 対人関係2
12. 集団の心理

【評価方法】

試験の成績、レポート、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

入門心理学

加藤智宏

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

近年マスコミ等で心理学が取り上げられることが多くなってきた。それだけ心理学が身近になってきたと考えられる。しかしその一方で、マスコミ等で取り上げられた内容だけから心理学のイメージが作られているようにも思われる。そこでこの授業では、心理学の様々な切り口を取り上げることで、心理学の持つ広範な知識を獲得することを目標とする。

【授業計画】

- 知覚と感覚
- 要素と全体（ゲシュタルト心理学）
- 学習と記憶
- 忘却と変容
- 発達心理学（ピアジェとエリクソン）
- 防衛機制
- フロイトとユングの精神構造モデル
- 心理療法
- 心理テスト
- 個人と集団
- 応用心理学（犯罪心理学、環境心理学）

以上を中心に、それぞれ1～2回の講義を予定しています。

【評価方法】

出席状況と試験の成績によって総合的に評価します。

【テキスト】

使用しません。授業中に資料を配付します。

入門心理学

加藤公子

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

心理学の各領域における基本的な考え方を理解する。

【授業計画】

- 心理学とは
- 知覚①：視覚、錯視
- 知覚②：知覚の情報処理
- 注意の働き：選択的注意、注意の配分
- 記憶①：短期記憶と長期記憶
- 記憶②：意味記憶
- 思考：問題解決、推理
- 学習①：古典的条件づけ
- 学習②：オペラント条件づけ
- 感情：感情理論
- パーソナリティ：類型論と特性論、パーソナリティ検査
- 脳の機能：脳の構造、脳と認知処理

【評価方法】

試験の成績から評価する。

【テキスト】

使用しない。授業時に適宜資料を配布する。

入門心理学

梅林 薫

【授業の概要】

心理学の研究対象と研究方法を明らかにし、行動科学としての心理学を展望する。心理学の一般的方法論や心理学の各領域における基礎的知識を概説する。

【授業の目標】

心理学とは人の行動や心的過程を科学的に研究する学問分野である。人はいかに外界を認知し、どのように記憶し、あるいはいかにして学習するのか。またその心、行動を司る脳機能とはどのようなものか。本講義では心理学全般の基本的知識の習得を目指す。

【授業計画】

- 心理学の定義、心理学の研究領域
- 知覚：錯視
- 知覚と注意：知覚の情報処理モデル、選択的注意
- 記憶：記憶の貯蔵庫モデル、長期記憶の種類
- 記憶：作業記憶
- 学習：レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ
- 情動：情動モデル
- パーソナリティ：類型論、特性論
- 脳と行動：脳機能の概略

以上を中心に、それぞれ1～2回の講義を予定

【評価方法】

試験の成績、出席状況などから総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

入門文化人類学

三木 誠

【授業の概要】

人間は無意識のうちに自然に生れ育った文化からさまざまな影響を受けている。世界中の社会に見られるさまざまな文化的事象を、できるだけ多くの事例をあげて講義する。

【授業の目標】

人間の文化の多様性を理解するとともに、文化相対主義的な考え方を身につけ、自文化の客観的な把握と、異文化の正当な理解ができるようにする。

【授業計画】

以下のようなテーマで講義を行う。それぞれのテーマを総合的に理解するのに不可欠な概念や用語の解説と、プリント等を利用した事例研究が主になる。異文化に対する興味や好奇心を喚起するために映像資料も活用する。

- 文化人類学とは？
- 性別と社会(1)
- 性別と社会(2) (映像資料鑑賞を含む)
- 婚姻と家族(1) (映像資料鑑賞を含む)
- 婚姻と家族(2) (映像資料鑑賞を含む)
- 婚姻と家族(3) (映像資料鑑賞を含む)
- 婚姻と家族(4) (映像資料鑑賞を含む)
- 宗教と信仰(1) (映像資料鑑賞を含む)
- 宗教と信仰(2) (映像資料鑑賞を含む)
- 宗教と信仰(3) (映像資料鑑賞を含む)
- 民族文化の諸相(1) (映像資料鑑賞を含む)
- 民族文化の諸相(2) (映像資料鑑賞を含む)
- 民族文化の諸相(3) (映像資料鑑賞を含む)
- 民族文化の諸相(4) (映像資料鑑賞を含む)
- まとめ

【評価方法】

定期試験により評価する。ノートや配布資料は持ち込み可とする。

【テキスト】

指定せず。

【参考文献・資料】

興味を持った学生にはそのつと指示する。

国際情勢

瀬戸裕之

【授業の概要】

近年、日本とアジアの国際関係は、経済関係だけにとどまらず、地域の安全保障体制を構築するうえでも重要性を増している。講義では、アジアにおける国際関係について、具体的な事象に触れながら説明し、アジアと日本の関係について考察することにした。

【授業の目標】

アジアの国際関係の形成と発展、並びにアジアと日本の関係を、歴史的背景およびアジアが抱える課題をふまえて理解すること。

【授業計画】

1. アジアを学ぶために
2. アジアの国家形成－植民地からの独立
3. アジアの革命－中国の革命と改革
4. アジアの冷戦－朝鮮半島の分断国家
5. アジアの地域統合－ASEANの形成と発展
6. アジアにおける日本の戦争－戦前のアジア政策
7. アジアに対する日本の外交－戦後の国際協力

【評価方法】

成績評価は、期末試験（筆記）により行う。出欠は考慮しないが、中間試験を受験しないものは、期末試験の受験資格を失う。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業において、関連文献を紹介する。

現代のマナー

近藤乃美子

【授業の概要】

人間関係の円滑な親和を保つために必要な基本的マナーを学ぶ。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

良識ある家庭人であり、自立し誇りを持って行動できる社会人となり、伝統と文化に裏打ちされた広い教養を身につけ、自信を持って国際社会においても活躍できる人材を育成する一端を担うことを目標とする。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. マナーの基本
2. 会話と傾聴
3. 身だしなみとおしゃれ
4. 服装 フォーマルとカジュアル
5. 訪問と応接 和風
6. 洋風
7. 茶菓のマナー
8. 贈答のマナー
9. 冠婚のマナー
10. 葬祭のマナー
11. 食事のマナー
12. パブリックマナー

【評価方法】

出席状況、授業態度、期末試験等により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。

【参考文献・資料】

参考文献・資料はなし。

現代のマナー

嘉悦祐子

【授業の概要】

コミュニケーションを円滑に進めるには、相手を尊重する気持ちや思いやりが大切で、マナーとはこの相手を思いやる気持ちを形にしたものである。身近な実例をとりあげて講義する。

【授業の目標】

自分の気持ちをどのような形で表現すれば相手に誤解なく伝わるのか、状況に応じたマナーを身につける。

【授業計画】

1. マナーとは
2. 学生と社会人の違い
3. 第一印象の重要性
4. マナーの五原則
 - (1) 表情
 - (2) 態度
 - (3) 挨拶
 - (4) 身だしなみ
 - (5) 言葉づかい
5. 電話応対
6. 訪問
7. 来客応対
8. 報告、連絡、相談
9. 文書
10. 冠婚葬祭
11. テーブルマナー
12. まとめ
13. 試験

【評価方法】

出席状況、授業態度、学期末の試験成績により総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。授業毎にプリントを配布する。

【参考文献・資料】

必要に応じ授業内で紹介する。

文章表現法

青木 健

【授業の概要】

マルチメディアの発達で文章を書く機会が少なくなっているため、自らの意思を文章で表現することが苦手な人も増えている。文章を作り、書くために必要な基礎的技法や構成について具体例を示しながら講義する。

【授業の目標】

書くことは同時に読むこと。文章表現の多様さにふれ、読む楽しさと、書くことによって自らの言葉で考えるトレーニングをしたい。書くことで新しい自己を発見し、自己の世界を拓けてもらえることががのぞましい。

【授業計画】

- 第1回 人は言葉の織物である。(伝達と表現1)
- 第2回 現代の口語表現について。(伝達と表現2)
- 第3回～12回
例文をテキストに、文章の構成、表現技法、語法、リズム、修辭法など具体的に講義。

この間に課題を3回提出し、短文(2～3枚、400字詰)を書いてもらい、提出原稿から文章表現についての共通の問題点を抽出して講評する。

【評価方法】

出席状況、3回の提出原稿などを基準として評価する。

【テキスト】

高校生のための文章読本(筑摩書房) 参考書籍は授業中に数冊提示します。

話し方作法

三久保角男

【授業の概要】

①日本語の発音のメカニズムと豊かな表現のための基礎技術、②読む・話すことの技術、③ことばの用法、を視点に、音声言語の特質とコミュニケーション能力を高めるテクニクを知る。

【授業の目標】

マルチメディアの発達で直接的な会話することが少なくなり、話すことが苦手な人が増えている。自分の意思を効果的にことばで伝えるための基礎的な技術を身につけられるための方策を考える。

【授業計画】

1. 話しことば概論
ことばの機能 話しことばの特徴 共通語と方言
2. 日本語の音声 1 (発声)
音声器官 呼吸法 発声法
3. 日本語の音声 2 (発音)
拍と音節 母音と子音 調音 アクセント 環境による音声変化
4. 話しことばの表現技法
スピード ポーズ イントネーション プロミネンス
5. 文を読む
読みの基本 朗読
6. 話しをする
パブリックスピーキング リポート インタビュー
7. 話しことばの用法
ことば事情 ことばの変化 敬意表現

授業は講義が中心になるが、可能な限り実践を伴うものにする。参加意欲を持って欲しい。

【評価方法】

期末に筆記試験を行う。随時の提出物も評価に加味する。

【テキスト】

毎回、レジュメ・資料等を用意する。

ライフサイクルと健康

松田秀子

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて講義する。

【授業の目標】

ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて考える。

【授業計画】

1. ライフサイクルと健康とは
2. 姿勢
3. プロポーション (理想と現実)
4. 肥満とやせ
5. 隠れ肥満
6. 骨密度・体脂肪測定
7. 自分のからだを判定しよう
8. 体脂肪を正しく落とす方法
9. 筋肉と運動神経
10. 健康づくりのための運動
11. Walking
12. 性への理解
13. 学生生活と健康

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。
必要に応じて参考資料を配付する。

キャリアの形成

樋口貴子

【授業の概要】

キャリア形成とは、将来の働き方をデザインすることであり、これからの生き方をデザインすることでもあります。そのためには、自分を理解し、職業と社会経済動向の理解も深め、さらにキャリアの選択を可能にする心構えが必要になってきます。人が働くことを意識するのは、学生生活から職業生活へ移行する節目のときです。これから迎える職業生活という本格的なキャリアのスタートを切る前に、働くことを中心としたキャリア形成をぜひ描いておきましょう。それに必要な考え方や方策を実践的に学習します。

【授業の目標】

社会が大きく転換している今、就職・進学を問わず、その環境は目まぐるしく変化しています。そこで、本授業では、自分の将来に向けて、まずは自分なりの指針や目標を立て、その上で何を学び、どう行動すればよいかを考えます。
また、その過程で新しい自分を発見し、自分らしさを磨いていくことで、自分の将来や働くことに対する不安や迷いを解消し、社会に羽ばたくことに臨むことなく、希望を持って前向きに挑戦できるよう、自分なりの職業観を涵養します。
キーワードは、4つ。①「自己研鑽」…たゆまぬ向上心。②「自己統合」…自分を見つめる。③「社会的存在」…社会における個人のあり方、自立/自律の自覚。④「真摯な姿勢」…前向きな学習姿勢、幅広い見識。
これらの資質を基盤に、これからの21世紀をたくましく、自分らしく生きていくために、自らの人生設計を主体的に行うキャリア形成を実践します。

【授業計画】

1. 21世紀に求められる人材像とプロフェッショナル意識
2. キャリア形成のすそめと基本的資質
3. 社会経済の動向とキャリア形成の必要性
4. キャリア形成の体系とそのプロセス
5. 自己理解の演習①「キャリアの発達課題」
6. 自己理解の演習②「ライフキャリアの虹」
7. 自己理解の演習③「ライフスタイルとワークキャリアの価値観」
8. 自己理解の演習④「職業興味と職業適性」
9. 仕事理解の演習①「働く意味、仕事が成り立つ条件」
10. 仕事理解の演習②「業界研究、企業研究、仕事研究」
11. 仕事理解の演習③「さまざまな働き方とその実態」
12. 仕事理解の演習④「ビジネス基礎能力とコンピテンシー」
13. 意思決定の演習「職業選択における意思決定のあり方」
14. 将来の目標設定①「なりたい自分のキャリアモデル」
15. 将来の目標設定②「自分の目指すキャリアビジョン」

【評価方法】

筆記試験と出席状況

【テキスト】

キャリアの形成 (樋口貴子著)

【参考文献・資料】

授業の中で適宜、紹介します

ライフサイクルと健康

土田 洋

【授業の概要】

人間は年齢に伴い体型も変化し、健康も害しやすくなる。ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて講義する。

【授業の目標】

ライフサイクルにあわせた運動と健康の維持について、身近な問題を取りあげて考える。

【授業計画】

1. 現代の健康問題
2. 身体と健康
3. 心と健康
4. 遺伝や適応と健康
5. 環境と健康
6. 栄養と健康
7. 運動と健康
8. 運動による障害
9. 社会と健康
10. 経済と健康
11. 情報技術と健康
12. 交通と健康
13. 住宅と健康

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

資料としてプリントの配布、ビデオ等を利用する。

メンタルヘルス

太田龍朗

【授業の概要】

複雑な現代社会において、心の病はもはや人ごとではない。なぜ心は病んでいくのだろうか。この授業では、心理学・医学モデルや事例などをもとに、心に影響を及ぼす様々な要因について検討し、心の健康について考える。

【授業の目標】

心の健康についていろいろな病を通して考え、身体の病気と同じように、ごく身近なものであることを理解しつつ、正しい知識を修得するとともに、全人的なとりくみの重要性が分かるようにする。

【授業計画】

概論：第1回	メンタルヘルス序論：心の病とその歴史
第2回	いろいろな病：精神疾患の種類と分類
第3回	症状のとりえ方：精神と神経の症状
第4回	ライフサイクルと心：発達と加齢
各論：第5回	青年期、思春期にはじまる統合失調症（分裂病）
第6回	気分・感情の障害としての躁うつ病（気分障害）
第7回	うつ病と現代社会を考える
第8回	ストレスとその反応：神経症と心身症
第9回	やまらない、止まらない：薬物依存
第10回	眠りと食と性の偏り：睡眠、摂食、性障害
第11回	大人とは異なる児童・小児の心の問題
第12回	老人と高齢者の病：器質性障害(認知症など)
総論：第13回	病を前にして：治療、面接、カウンセリング
第14回	心の健康に向けて：地域社会、制度と活動
第15回	期末試験

【評価方法】

おもに期末試験の成績と各回講義でのレポート・アンケート提出によって総合的に評価する。

【テキスト】

改訂 大学生のための精神医学（高橋俊彦・近藤三男編 岩崎学術出版社）

【参考文献・資料】

精神を病むということ（秋元波留夫・上田敏著 医学書院）
図解雑学 心の病と精神医学（景山任佐著 ナツメ社）

メンタルヘルス

長谷川純子

【授業の概要】

心理学および医学的な観点から多角的に心の成長や健康について講義する。現代ストレス社会の中で、自分らしく健やかな生活を過ごすために必要なセルフコントロールの実際や心の健康に関わる事例なども紹介する予定である。

【授業の目標】

心の健康管理に必要な大学生教養レベルの知識習得を目指す。

【授業計画】

1. 心の病
2. ストレスと心の健康
3. 心の発達とメンタルヘルス
 - (1) 児童・思春期
 - (2) 老年期
 - (3) 女性のメンタルヘルス

【評価方法】

単位認定試験の結果を重視するが、出席日数や授業態度も評価の対象となる。

【テキスト】

なし。プリント配布。

【参考文献・資料】

必要に応じて適宜紹介する。

健康とくすり

永井慎一

【授業の概要】

現在の日本は飽食の時代といわれ、運動不足やストレスのためくすりの助けがなければ健康の維持は難しい。病気とくすりについて正しい知識を学び、くすりの効きかたと副作用について理解を深める

【授業の目標】

病気は、酵素の働きで過剰に生成する生理活性物質が受容体に結合することで発症し、くすりの大部分は、酵素と受容体の働きを阻害することで効くことを学ぶ。

【授業計画】

第1回	全講義の要旨〔病気とくすりのまとめ〕を配布したのち、最新の医薬品事情や薬事行政などを解説
第2～3回	くすりの基礎知識として、生体内運命、新しいくすりのかたち、受容体拮抗薬、酵素阻害薬、危険なくすりの飲み合わせなど2回にわたって解説
第4回	くすりの正しい知識を、イラスト入りの質問形式で学ぶ
第5回	要処方だが保険適用外の生活改善薬をはじめ、女性のくすりと検査器具、最新の一般用医薬品（OTC）と繁用される医療用医薬品を解説
第6回	頭痛、生理痛の原因物質とくすりの効きかた
第7回	花粉症、アトピー性皮膚炎発症のメカニズムとくすりの効きかた
第8回	生活習慣病の早期発見に不可欠な血液検査値のみかたと心疾患
第9～12回	生活習慣病である高血圧、がん、糖尿病と、近年若者に拡大するクラミジアやエイズの発症原因と治療薬

【評価方法】

期末に提示する問題の解答を、期限内に1問につき原稿用紙400字で答えさせ、解答と出席した実授業時間数で成績評価する。

【テキスト】

教材（A3両面）を毎回配布して講義する。

【参考文献・資料】

多数あるので、初回授業で紹介する

スポーツと文化

松田秀子

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】

スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1. スポーツは遊びから出発する
2. スポーツは技能を追求する
3. スポーツは競争と協力の両面をもつ
4. スポーツはフェアプレーの精神によって成り立つ
5. スポーツは自己実現を志向させる
6. スポーツは舞踊とともに祭礼と結びついていた
7. スポーツには教育が関係する
8. スポーツには政治が関係する
9. スポーツには科学が関係する
10. スポーツには地理的環境に影響されることが大きい
11. スポーツには民族性が反映される
12. スポーツには商業主義がつきまとう
13. スポーツは「強いこと」から「美しいこと」へと対象を拡げつつある
14. スポーツの生成・発展・衰退の過程は、文化の場面と同じである

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

スポーツと文化

門間 博

【授業の概要】

スポーツが文化であることを歴史的社会的事実から論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業の目標】

スポーツが文化であることを論証し、スポーツの生成、発展、衰退に関する諸要因について考え、現代社会における「人間性復権」について展望する。

【授業計画】

1. 導入、授業の全体について
2. スポーツとは何か（スポーツの起源とその歴史）
- 3～4. スポーツの魅力
- 5～6. スポーツとメディア
- 7～8. スポーツと商業主義
- 9～10. スポーツと政治・経済
- 11～12. スポーツと教育
- 13～14. スポーツと倫理
15. まとめ

【評価方法】

出席状況・レポート・単位認定試験によって総合的に評価する。

【テキスト】

使用せず。
必要に応じて参考資料を配付し、参考書籍を指示する。

健康と医学

小野佳成

【授業の概要】

いろいろ健康問題が注目を浴び、「メタボリックシンドローム」「低侵襲治療」「エイズウイルス」「ノロウイルス」「食中毒」「リハビリテーション」「後期高齢者」「認知症」等の耳慣れない言葉がマスコミによって報道されています。本講では、これらの健康問題を取り上げ、医学的な見地から解説します。

【授業の目標】

マスコミで取り上げられる最近の健康に関する問題を考え、理解する。

【授業計画】

1. メタボリックシンドローム
2. エイズウイルス
3. 性格はどのように形成されるか？
4. 脳梗塞とリハビリテーション
5. 後期高齢者と認知症
6. ノロウイルス：下痢集団発生
7. 女性は膀胱炎になりやすい？：尿路感染防御機構
8. 生殖：妊娠から出産
9. 骨粗鬆症と転倒骨折

※適時追加する予定です。

【評価方法】

講義ごとの小テストによって評価します。期末テストは行ないません。

【テキスト】

ありません。

【参考文献・資料】

必要に応じて資料を配付します。

スポーツ科学

門間 博 境田雅章 土田 洋 寺田邦昭 松田秀子 丸山治美
今井辰也 堀田典生

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	1限	門間	テニス・バドミントン
	2限	門間	テニス・バドミントン
	3限	今井	バレーボール・バスケットボール
	4限	今井	バレーボール・バスケットボール
火曜日	2限	土田	フットサル・卓球
	3限	松田	バドミントン・ニュースポーツ
	3限	土田	フットサル・卓球
水曜日	4限	松田	バドミントン・ニュースポーツ
	2限	門間	バドミントン・卓球
	2限	土田	卓球・バドミントン
	3限	門間	バレーボール・バスケットボール
木曜日	3限	堀田	テニス・卓球
	4限	門間	バレーボール・バスケットボール
	1限	寺田	卓球・バドミントン
	2限	寺田	スキルトレーニング・バドミントン
金曜日	3限	境田	テニス・フットサル
	4限	境田	テニス・フットサル
	1限	門間	テニス・バドミントン
	2限	門間	テニス・バドミントン
	3限	丸山	エアロビクス&フィットネス
	4限	門間	テニス・バドミントン
	4限	丸山	エアロビクス&フィットネス

【評価方法】

- 出席=70点
実技・参加の態度・種目理解度等=30点

090430504_0030 掲載順:0030

MCode:090104008_0030 ★

スポーツ科学

境田雅章

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔テニス〕(木曜3限・4限前半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ラケットとボールに慣れる ゲーム
 3. ボールをコントロールする ゲーム
 4. サーブを練習する ゲーム
 5. ルールとマナーを身につける ゲーム
 - 6~7. ゲーム・スキルテスト
- 〔フットサル〕(木曜3限・4限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ボールに慣れる ゲーム (スモール・ビッグ)
 3. 基本的な個人技能の確認 ゲーム (スモール・ビッグ)
 4. チームでの基本的な練習 ゲーム (スモール・ビッグ)
 5. ルールとマナーを身につける ゲーム (スモール・ビッグ)
 - 6~7. スキルテスト ゲーム (スモール・ビッグ)

【評価方法】

- 出席=70点
実技・参加の態度・種目理解等=30点

スポーツ科学

門間 博

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・第2週目の授業は体力診断テストを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔バドミントン〕(月曜1限後半・月曜2限後半・水曜2限前半・金曜1限後半・金曜2限後半・金曜3限後半・金曜4限後半)
- 1~2. ラケットとシャトルをコントロールする
 3. ルールとマナーを身につける
 - 4~6. ミニゲーム
- 〔卓球〕(水曜2限後半)
1. ラケットのグリップと打法
 2. フォアハンド・バックハンド
 3. サーブとレシーブ
 - 4~6. ゲーム(審判とスコア)、テスト(スキル)
- 〔テニス〕(月曜1限前半・月曜2限前半・金曜1限前半・金曜2限前半・金曜3限前半・金曜4限前半)
- 1~2. ラケットとボールに慣れる
 3. ルールとマナーを身につける
 - 4~6. ミニゲーム
- 〔バレーボール〕(水曜3限前半・水曜4限前半)
1. パスワーク(オーバーハンド・アンダーハンド)
 2. サーブとレシーブ(サーブレシーブ・パスアタックレシーブ)
 3. トス・アタック・ブロック
 - 4~6. ゲームと審判(ルール)、テスト(スキル)
- 〔バスケットボール〕(水曜3限後半・水曜4限後半)
1. ボールに慣れる
 - 2~3. 個人・チームでの基本的な練習
 4. ルールとマナーを身につける
 - 5~6. ゲーム・スキルテスト

【評価方法】

- 出席=70点 実技・参加の態度・種目理解度等=30点

090430504_0040 掲載順:0040

MCode:090104008_0040 ▲

スポーツ科学

土田 洋

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチャ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 - ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- 〔フットサル〕(火曜2限・3限前半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. 体力診断テスト
 3. ボールに慣れる
 4. ルールとマナーを身につける
 - 5~7. ゲーム
- 〔卓球〕(火曜2限・3限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ルールとマナーを身につける
 3. ラケットのグリップと打法
 4. サーブとレシーブ
 - 5~7. ゲーム
- 〔バドミントン〕(水曜2限後半)
1. ガイダンス、競技の概略
 2. ルールとマナーを身につける
 3. ラケットとシャトルに慣れる
 4. シャトルコントロール
 - 5~7. ゲーム

【評価方法】

- 出席=70点
実技・参加の態度・種目理解等=30点

スポーツ科学

寺田邦昭

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔卓球〕(木曜1限前半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットのグリップと打法
3. フォアハンド・バックハンド
(ロング・ショート・カット・スマッシュ)
4. サービスとレシーブ
- 5～7. シングルスゲーム・ダブルスゲーム (スコア記録)

〔スキルトレーニング〕(木曜2限前半)

オールラウンドプレーヤーを目指し、下記のスポーツスキルを週毎に種目を変えながら実施し、その基本的な動きのコツの獲得を目指す。

1. ガイダンス
- 2～4. 主にアウトドア種目(フライングディスク、ソフトボール、ゴルフ、サッカー)等を用いての動き作り
- 5～8. 主にインドア種目(卓球、バドミントン、バレーボール、バスケットボール)等を用いての動き作り

〔バドミントン〕(木曜1限後半・木曜2限後半)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとシャトルに慣れる
3. シャトルをコントロールする
4. ルールとマナーを身につける
- 5～8. シングルスゲーム・ダブルスゲーム (スコア記録)

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

丸山治美

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・この授業では、1. エアロビクスの特徴・効果を理解する 2. エアロビクスを通して運動する楽しさ・表現する楽しさを味わう 3. 自分の身体への感覚を敏感にし、自分の身体と対話し、自分の身体をよく知るの3点を目標に行う。

〔エアロビクス&フィットネス〕(金曜3限・金曜4限)

1. ガイダンス
2. エアロビクスとは何か その理論と特性
3. 目標心拍数の設定と主観的運動強度
4. 筋力トレーニング 筋肉と骨格
- 5～6. ボールを使って
7. 体脂肪
8. ウェイトコントロール
9. 骨を強くする
- 10～15. エアロビクス ダンス パフォーマンス
動きづくり練習 発表・相互評価

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

松田秀子

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕(火曜3限前半・火曜4限前半)

1. ガイダンス
2. 体力診断テスト
3. ラケットとシャトルに慣れる
4. シャトルをコントロールする
5. ルールとマナーを身につける
6. ミニゲーム

〔ニュースポーツ〕(火曜3限後半・火曜4限後半)

1. ガイダンス
 - 2～8. ユニホッケー
スピードミントン
ソフトバレーボール
ミニテニス
ファミリーバドミントン
- 上記のニュースポーツを実践する。

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

今井辰也

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バレーボール〕(月曜日3限・4限前半)

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる
- 3～4. 個人・チームでの基本的な練習
- 5～7. ゲーム・スキルテスト

〔バスケットボール〕(月曜日3限・4限後半)

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる
- 3～4. 個人・チームでの基本的な練習
- 5～7. ゲーム・スキルテスト

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ科学

堀田典生

【授業の概要】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業の目標】

スポーツの科学的理論と実技的能力を実践を通じて学び、各種スポーツおよびストレッチ体操・トレーニングなどの実践によって運動の基礎的技術を習得する。

【授業計画】

・第1週目の授業は、教室にてガイダンスを行う。
 ・この授業では、テニス・卓球というラケットスポーツを通して、健康のために生涯にわたって運動・スポーツを楽しみながら継続していく術を身につけることも目標とする。
 ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕(水曜3限前半)

1. 基本の練習、ルール・マナー学習
2. 基本の練習、片面シングルス
3. 能力別練習、片面シングルス
4. 能力別練習、ダブルスの説明及び簡単なゲーム
- 5～7. シングルス・ダブルスゲーム、スキルチェック

〔卓球〕(水曜3限後半)

- 1～2. 基本の練習 ルール学習
3. 能力別・グループ別練習、簡易ゲーム
- 4～6. シングルス・ダブルスゲーム、スキルチェック

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

門間 博

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
 ・天候によって種目を変更する場合がある。
 ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔テニス〕(月曜1限、月曜2限、金曜3限、金曜4限)

1. ガイダンス、競技の概略
2. ラケットとボールに慣れる(グリッパ、スタンス)
3. グランドストローク(フォアハンドを中心に)
4. グランドストローク(バックハンドを中心に)
5. サーブ、レシーブ
6. ボレー、スマッシュ
7. ゲームの進め方、ルールとマナー
8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム、スキルテスト

〔バドミントン〕(水曜2限・水曜3限・水曜4限・金曜1限・金曜2限)

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験(シングルスゲーム)
3. ラケットワーク
4. ストローク練習(アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習(サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習(オーバーヘッドを中心に)
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

門間 博 境田雅章 土田 洋 寺田邦昭 松田秀子 今井辰也 堀田典生

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・天候によって種目を変更する場合がある。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。
- ・授業内容については、担当教官の欄を参照のこと。

月曜日	1限	門間	テニス
	2限	門間	テニス
	3限	今井	バレーボール
	4限	今井	バレーボール
火曜日	2限	土田	フットスポーツ
	3限	松田	バドミントン
	3限	土田	フットスポーツ
	4限	松田	バドミントン
水曜日	2限	門間	バドミントン
	3限	門間	バドミントン
	3限	堀田	卓球
	4限	門間	バドミントン
木曜日	1限	寺田	バドミントン
	2限	寺田	ニュースポーツ
	3限	境田	サッカー
	4限	境田	サッカー
金曜日	1限	門間	バドミントン
	2限	門間	バドミントン
	3限	門間	テニス
	4限	門間	テニス

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

境田雅章

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔サッカー〕(木曜3限・4限)

1. ガイダンス、競技の概略
2. パス&トラップ ゲーム(スモール・ビッグ)
3. ヘディング ゲーム(スモール・ビッグ)
4. ドリブル&シュート ゲーム(スモール・ビッグ)
5. ボールを奪われない技術 ゲーム(スモール・ビッグ)
6. 競り合いの技術 ゲーム(スモール・ビッグ)
7. パス&サポート ゲーム(スモール・ビッグ)
8. 実技テスト ゲーム(スモール・ビッグ)
9. 切り替え(ボールを奪われたら奪い返す) ゲーム(スモール・ビッグ)
10. ゴールを奪う(シュートの意識) ゲーム(スモール・ビッグ)
11. シュートのためのコントロール ゲーム(スモール・ビッグ)
12. 突破からのシュート ゲーム(スモール・ビッグ)
13. チーム戦術(システム) ゲーム(スモール・ビッグ)
14. チーム戦術(カウンター) ゲーム(スモール・ビッグ)
15. ゲーム&ゲーム

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解等=30点

健康と運動

土田 洋

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔フィットネス〕

1. ガイダンス、マシン使用説明
2. 脚力強化
3. バランス力強化

〔キックベースボール〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. チーム編成 試しのゲーム
3. チーム再編成 ゲーム
4. ゲーム

〔フットサル〕

1. ガイダンス、競技の概略
2. フットサル用のボールに慣れる 試しのゲーム
3. 基礎技術の練習
4. パスワークの練習
- 5～7. ゲーム

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解等=30点

健康と運動

寺田邦昭

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・ニュースポーツについて、2～6週までのうち雨天の場合には7～14週に予定しているインドア種目に変更して実施する。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕(木曜1限)

1. ガイダンス
2. 歴史的ゲームの追体験(シングルスゲーム)
3. ラケットワーク
4. ストローク練習(アンダーハンドを中心に)
5. ストローク練習(サイドハンドを中心に)
6. ストローク練習(オーバーヘッドを中心に)
7. ゲームの進め方、ルール説明
8. ダブルスゲーム(フォーメーションを中心に)
- 9～15. ダブルスゲーム

〔ニュースポーツ〕(木曜2限)

1. ガイダンス
- 2～3. フライングディスク
- 4～6. ベタンク、ターゲット・バード・ゴルフ
- 7～10. インディアカ、ミニテニス
- 11～14. ダーツ、ソフトテニス、ソフトバレー
15. グループによるニュー・スポーツの創作と発表

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

松田秀子

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・第1週目の授業は教室にてガイダンスを行う。
- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バドミントン〕(火曜3限・火曜4限)

1. ガイダンス
2. 記録への挑戦(打ち続けよう)
3. 歴史的ゲームの追体験
4. 用具の特徴(貴重な水鳥の羽根)
5. フォーム作り(格好良いフォームで打とう)
6. 攻撃的なショット(初速はどれくらい?)
7. 守備的なショット
8. 基本の戦術
9. ダブルスのフォーメーション
10. 世界のバドミントンプレイヤーを観よう(VTR)
11. ゲームの特徴(心拍数、運動強度はどれくらい?)
12. ゲームのルールとマナーを身につけよう
13. ハーフコート・ミニゲーム
14. ダブルスゲーム
15. スキルテスト

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

健康と運動

今井辰也

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

- ・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

〔バレーボール〕(月曜3限・月曜4限)

1. ガイダンス
2. ボールに慣れる
- 3～5. 個人・グループでの基本的な練習
6. ルールとマナーを身につける
- 7～9. チームでの基本的な練習
- 10～15. ゲーム・技能テスト

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解等=30点

健康と運動

堀田典生

【授業の概要】

現代社会は、運動不足による体力の低下、過食による肥満など健康を阻害する要因が増加している。スポーツ種目の実践を通して、健康の保持増進への理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

運動の科学的理論の学習と各種スポーツの実践を通して、健康の保持増進への理解を深め、運動不足による体力の低下および過食による肥満を防ごうとする。

【授業計画】

・第1週目の授業は、教室にてガイダンスを行う。
・卓球は子どもから高齢者まで参加でき、スポーツ施設に限らず保養所など様々な場所で楽しむことができるスポーツといえる。従って卓球を楽しむようになることは、生涯に渡って運動やスポーツを楽しむ術を身につけることにつながる。そこで、卓球を楽しむ術を身につけることも目標とする。
・授業については、健康スポーツ教育センターの掲示板を参照のこと。

[卓球(水曜3限)]

1. ガイダンス
2. 自分に合うラケット探し、フリー練習
3. ストローク、サーブ、レシーブの練習
4. 自分の能力を知る、ラリーは何回続けられますか？
5. 能力別練習1
6. 能力別練習2、フォームの確認し合い
7. ルール・マナー、審判法の学習
- 8～9. シングルゲーム
10. グループ編成、グループ練習1
11. グループ練習2、ダブルスの動き方とルール学習
- 12～13. ダブルゲーム
14. 団体(グループ)戦1
15. 団体(グループ)戦2、スキルチェック

【評価方法】

出席=70点

実技・参加の態度・種目理解度等=30点

スポーツ特殊講座 (スケート)

鶴原香代子

【授業の概要】

スケートを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

スケートを行うためのマナーを理解し、安全に楽しく実施するための基礎技能の習得を図り、生涯スポーツの一つとして位置づけられるようにする。

【授業計画】

1. 実習日時 平成21年9月2日(水)・3日(木)・4日(金)
7日(月)・8日(火)・9日(水)計6日間
時間：9：30～12：40
2. 説明会 日時：平成21年7月7日(火)16：45～17：35
場所：長久手キャンパス体育館3階 体育講義室
・実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
・説明会の欠席者は受講を認めません。
※出席できない場合は事前に長久手キャンパス健康スポーツ教育センターに問い合わせること。
3. 実習場所 名古屋スポーツセンター(大須)
4. 実習費 9,600円
※前年度の費用ですので変更する場合があります。
5. 定員 40名
6. 内容 1日目 開講式、床で歩行練習、基本姿勢、氷上歩行・両足滑走
2日目 自然滑走、正しい押し出し
3日目 フォアスケータイング・カーブ滑走
4日目 ストップ、バックスケータイングの基本
5日目 クロスステップ、フォアからバックへのターン
6日目 総合練習、実技テスト、閉講式

【評価方法】

出席状況(70%)と実習中の技術の上達度・参加態度・種目理解度(30%)により総合評価する。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

大学スケート研究会「アイススケータイングの基礎」アイオーエム,1995.

スポーツ特殊講座 (ボウリング)

松田秀子

【授業の概要】

ボウリングを通して、基礎的技術の向上と知識の習得を目標とし、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業の目標】

ボウリングの基礎的な技術と知識を習得し、楽しさを学び生涯スポーツの実践へとつなげる。

【授業計画】

[ボウリング]

1. 実習日時 平成21年9月2日(水)・3日(木)・4日(金)
7日(月)・8日(火)・9日(水)
計6日間 9：30～12：40
2. 説明会 日時 平成21年7月1日(水)12：30～13：15
場所 長久手キャンパス体育館3階 体育講義室
実習に必要な諸手続きを行うので必ず参加すること。
参加できない場合は事前に長久手キャンパス健康スポーツ教育センターに問い合わせること。
説明会の欠席者は受講を認めません。
3. 場所 星ヶ丘ボウル
4. 実習費 7,200円
5. 定員 60名
6. 内容 1日目 開講式、ボウリング学習の意義と特質、用具説明
2日目 ボウリングの歴史、基本動作
3日目 ボールのコントロール、軌道調整
4日目 アジャスティングの基本と実践、3-2-1理論
5日目 レーンコンディションとボールの曲がり
ストライクアングルの実践練習
6日目 競技会説明、競技会(アメリカン方式3ゲーム)、閉講式

【評価方法】

出席状況と実習中の技術の上達度により総合評価する。

【参考文献・資料】

山本幸治「スポーツボウリングの世界」日本放送出版協会,2004.

Basic English 1

山田久美子 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

基本的なリスニング能力を、LL教材を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

短いフレーズを中心とした英語を正確に聞き取れるようになるための基礎的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、基礎的なリスニング力を養成することがこの授業の目標である。この目標を達成するために、音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. デイクテーション
4. シャドーイング
5. 短文・長文の暗唱
6. ペア・プラクティス

様々な場面における対話や応答、状況説明などの聞き取りを通じて、語彙の増強と基本的な英語表現の習得も図る。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

Basic English 2

小沢 茂 BROWNING, Jeremy S. 他

【授業の概要】

英文の内容を早く、正確に読みとれる能力を身につけるために、さまざまなタイプの英文を多読・速読する。

【授業の目標】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、英文の内容を早く、正確に読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

1分あたり150語以上のスピードで英文を読み、英語を日本語に訳すのではなく、英語を英語として読み、分からない単語があっても前後の文脈から意味を推測し、パラグラフごとの要点を把握するための訓練を行う。速読の訓練には、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システム ALC NetAcademy (アルクネットアカデミー) のSpeed Reading機能を自習課題とする。授業は以下の内容で進める。

1. 社会・経済、世界の情報、自然科学、文化、広告文などの実用的な英文などさまざまな分野の英文の読解
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 1 (Listening)

小沢 茂 SUTHONS, Philip 他

【授業の概要】

リスニングの発展的な能力を、LL教材等を用いて演習形式で身につける。

【授業の目標】

英語をより正確に聞き取り、パラグラフや会話文の要点を把握できるようになるための発展的な能力を身に付けることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、会話文・説明文などの内容を正確に把握できるリスニング力を養成することがこの授業の目標である。

この目標を達成するために、さまざまな音声教材、CALLシステムなどを活用し、以下の内容で授業を進める。

1. 英語のリズムとイントネーションの習得
2. 連結・脱落・同化などの聞き取り
3. 数字・地名の聞き取りと、日本人英語学習者が発音・聞き取りを不得手としている音の練習
4. デイクテーション
5. シャドーイング
6. 短文・長文の暗唱
7. ペア・プラクティス

授業で取り上げた教材を、何度も繰り返し声に出して発音する練習を通じて、英語らしいリズムとイントネーションの習得とともに、語彙力と表現力も身につける。英語を頭の中で日本語に置き換えるのではなく、英語を英語として聞き理解できるようになるために、大量・高速の英語を聞く。

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 2 (Reading)

今井加寿 MC GOLDRICK, Gemma 他

【授業の概要】

さまざまなタイプの英文の内容を正しく把握できるように、英文精読のトレーニングを行う。

【授業の目標】

目的に応じた英文の読み方があることを知り、ある程度のまとまった長さの英文を読みとれるようになることがこの授業の目標である。

【授業計画】

パラグラフごとの要点を把握し、異なるパラグラフが論理的にどのような関係にあるのか、筆者の主張・論点・メッセージは何かを理解する必要がある。授業は以下の内容で進める。

1. 長文の大意把握
2. 語彙力の増強
3. 文法事項の整理
4. 練習問題・確認テストなど

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 3 (TOEIC 1)

山田久美子 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての基礎的な能力を身に付ける。

【授業の目標】

TOEICに向けての基本的な文法や語彙など基本事項を徹底的に身につけることを目標とする。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、文法や語彙などの基本事項の整理を行うのがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を活用して、文法や語彙などの基本事項を再確認し、その定着を図る。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーウィング、ペア・プラクティスなど
4. Speed ListeningとSpeed Reading機能を活用した速聴・速読練習
5. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 4 (Speaking 1)

SUTHONS, Philip 他

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の基礎的な力を身に付ける。

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This course aims to develop students' basic English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Office Conversations, Travel Situations, Talking about Occupations, On the Telephone, Eating out and other TOEIC type situational conversations.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

English 5 (TOEIC 2)

小沢 茂 DYCUS, David C. 他

【授業の概要】

就職などでも考慮されることが多い国際コミュニケーション英語能力テストTOEICに向けての発展的な能力を身につけ、英語の総合力を高めることを目標とする。

【授業の目標】

リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることが目標である。

【授業計画】

英語運用能力育成を目指す全学共通科目の一つとして、リスニング力とリーディング力を総合的に向上させることがこの授業の目標である。この目標を達成するために、この授業では、本学に導入しているコンピュータを利用した英語学習システムALC NetAcademy（アルクネットアカデミー）を自習課題として活用して、英語コミュニケーション能力の向上を目指す。具体的には、以下のように授業を進める。

1. 受講生による演習問題への解答
2. 授業担当者による問題解説
3. 演習問題を利用したディクテーション、シャドーイング、ペア・プラクティスなど
4. 確認テストの実施

なお、担当教員や使用テキストなどにより、若干の変更が生じる場合がある。授業の計画や進度についての詳細は、1回目の授業で担当教員から説明される。

【評価方法】

出席25%、宿題25%、授業への積極的参加・授業内活動・テスト50%

【テキスト】

担当教員によってテキストは異なるので、掲示、配布物で確認すること。

English 6 (Speaking 2)

HARRIS, Richard S. 他

【Course description】

ネイティブ・スピーカーの教員によって、実用英会話の応用的な力を身に付ける。

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas. Topics commonly included in TOEIC tests will be used as themes for these oral encounters.

Reading, Writing and Listening tasks will be used only as preparation for oral activities. For example, dialogues and role plays may be used to set the scene for further discussion. The dialogues may be text based or student designed (i.e. homework).

【Course objectives】

This pre-intermediate course aims to further develop students' English proficiency by focusing on the practical English skills that will enable them to communicate their needs, views and ideas.

【Course schedule】

Topics will include such things as: Leisure and Recreation, The Weather, Advertising, Commuting and Transportation, Banking and Shopping.

【Assessment】

25% Attendance
25% Homework
50% Class-work/Participation/Tests

【Textbooks】

To be announced

Advanced General English IG

鈴木久子 太田晶子 今井加寿

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English I」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English II」から成る。最高、半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）まで、4年間続けて何度でも履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 ・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
 ・演習（リーディング・リスニング）（30分）
 ・問題解説（25分）
 第15回 模擬テスト
 *宿題 リーディング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）
 リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

Advanced General English IH

鈴木久子 太田晶子 今井加寿

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English I」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English II」から成る。最高、半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）まで、4年間続けて何度でも履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 ・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
 ・演習（リーディング・リスニング）（30分）
 ・問題解説（25分）
 第15回 模擬テスト
 *宿題 リーディング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）
 リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

Advanced General English IIG

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B. PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English I」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English II」から成る。最高、半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）まで、4年間続けて何度でも履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 ・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
 ・演習（リーディング・リスニング）（30分）
 ・問題解説（25分）
 第15回 模擬テスト
 *宿題 リーディング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）
 リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

Advanced General English IIIH

CAPITIN-PRINCIPE, Abigail B. PUDWILL, Larry A.

【授業の概要】

TOEICスコア470点以上の学習者を対象とする全学向けのTOEIC対策講座。日本人教員担当の「Advanced General English I」、英語ネイティブスピーカー担当の「Advanced General English II」から成る。最高、半期に2コマ（I、IIの両科目を受講した場合）まで、4年間続けて何度でも履修できる。週1回の授業で2単位とする。毎回、授業外でのリーディング演習（60分×7日×13回）とリスニング演習（60分×7日×13回）（それぞれ91時間相当）が課せられる。課題は毎回チェックされる。授業中に演習に取り組む態度、出席、課題などにより総合的な評価を行う。

【授業の目標】

学期末のTOEIC受験における得点アップを最大の目標とする。ただし、各自目標を設定し、到達度・進捗度を確認することが望ましい。

【授業計画】

- 第1回 オリエンテーションおよび模擬演習
 第2回～第14回 演習・解説、Vocabularyテスト
 ・1週間の宿題の範囲からVocabularyの小テスト・採点・解説（15分）
 ・前回の宿題で間違いが多かった点および質問の解説（15分）
 ・演習（リーディング・リスニング）（30分）
 ・問題解説（25分）
 第15回 模擬テスト
 *宿題 リーディング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）
 リスニング演習（60分×7日）＝毎回7時間相当分
 （合計 7時間×13回＝91時間）

【評価方法】

出席・演習に取り組む態度・宿題の遂行度合いなどにより総合的に評価する。

【テキスト】

掲示・配布物で確認すること。

Advanced Academic English 09A

BROWNING, Jeremy S. WRINGER, Paul

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09A」は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目は受講できない。）

【授業の目標】

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning

Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

【授業計画】

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning

Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every 2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

【評価方法】

「Advanced Academic English 09A」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日5限（担当教員：BROWNING, Jeremy）、木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Wringer : To be announced.

Browning: Handouts will be provided

Advanced Academic English 09C

横山綾子 DAVIES, Alun

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09C」は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目は受講できない。）

【授業の目標】

横山

通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies

Aims:

To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

【授業計画】

横山

第1回 通訳一般概論 Sight translation

第2～10回 The Student Timesからの記事使用（テープ）

Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Davies

This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks (e.g. drama; discussion; interpreting; conversation).

【評価方法】

「Advanced Academic English 09C」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日1限（担当教員：DAVIES, Alun）、水曜日2限（担当教員：横山綾子）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山 : The Student Times その他

Davies: No text is required.

Advanced Academic English 09B

BROWNING, Jeremy S. WRINGER, Paul

【授業の概要】

この科目「Advanced Academic English 09B」は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Wringer

1. To help students to integrate new ideas, vocabulary and idioms into everyday speech
2. To help students recognize organizational patterns in preparation for the TOEIC test

Browning

Students will develop stronger vocabulary, idiomatic expressions, and language learning strategies that cover various language skill areas.

【授業計画】

Wringer

Students will be expected to discuss a variety of topics each week from the following themes: People; Relationships; Workplace; Family; and Society.

Browning

Students will explore various topics that go beyond the simple conversation level. Every 2 weeks a new topic will be introduced that challenges the students to express themselves in greater detail. During the 2-week exploration of the topic, students will use various language skills (reading, writing, listening & speaking) to help them holistically learn the topic & its language requirements.

【評価方法】

「Advanced Academic English 09B」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日5限（担当教員：BROWNING, Jeremy）、木曜日1限（担当教員：WRINGER, Paul）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

Wringer : To be announced.

Browning: Handouts will be provided

Advanced Academic English 09D

横山綾子 DAVIES, Alun

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09D」は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

横山

通訳の訓練には、言語の知識、訳出技術、論理的思考、また自主的な発言能力など様々な要素が求められます。このクラスでは、First in First out (FIFO) の訓練を中心にスピーディーな訳出、日本語のわかりやすく美しい表現など学習します。

Davies

Aims:

To strengthen existing skills and develop fluency via communication tasks. To learn about CHUNKS as an aid to building a powerful vocabulary of natural English. To practice speed, rhythm, stress and intonation patterns of native speaker English.

【授業計画】

横山

第1回 通訳一般概論 Sight translation

第2～10回 The Student Timesからの記事使用（テープ）

Shadowing, Sight translation, メモ取り、逐次通訳演習、同時通訳入門

Davies

This course will provide opportunities for oral interaction in English. Vocabulary-building is central to the aim of using English for communication in a range of speaking and listening tasks (e.g. drama; discussion; interpreting; conversation).

【評価方法】

「Advanced Academic English 09D」は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日1限（担当教員：DAVIES, Alun）、水曜日2限（担当教員：横山綾子）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの評価の平均を、この科目の評価とする。

【テキスト】

横山 : The Student Times その他

Davies: No text is required.

Advanced Academic English 09E

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09E」は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。4年間続けて履修できる。（ただし、1年生および編入生（1年目）は前期開講の本科目は受講できない。）

【授業の目標】

Bev Curran
To create a community of supportive language learners and to develop each student's confidence in their ability to express their ideas in prepared presentations and extemporaneous discussion in English.

難波豊子
英語の構文を意識しながら聞き、生の英語に慣れる。且つ「聞き手に分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてながら、主に英語から日本語への逐次通訳力強化を目指す。

【授業計画】

Bev Curran
Each week, in my class, a different student will be responsible for selecting a topic and introducing a discussion about it in English. The other students will listen with attention and then continue the discussion through their own questions and comments. The goal in each class is to engage in animated discussion for 90 minutes, giving each student an opportunity to grow more comfortable and confident in initiating and continuing a conversation or discussion in English. Special guests will also be invited to the class to talk about themselves with the students in a relaxed and supportive atmosphere.

難波豊子
・スラッシュ・リーディングによる頭からの情報処理
・分かりやすい日本語の検討
・短い時間で、英文のメッセージを把握
・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に
(1)英語のテープを聞いて、グループあるいはペアで内容把握
(2)単語チェック
(3)日本語への逐次通訳練習を中心として演習を行う。
内容理解の段階では、基本的に英語を話す事を要求する。教材は基本として毎回異なった内容のものを使用。教材としては時事的なニュースを取り扱うが、スピーチの通訳も実践する。また、1回はゲストスピーカーを招待し、積極的に会話を行ってもらう。

【評価方法】

火曜日2限（担当教員：難波豊子）、木曜日2限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカーとのディスカッションへの貢献度等で、総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

英語コミュニケーション基礎

太田直子 山田久美子 小沢 茂

【授業の概要】

英語力の向上の為にはまず基礎が大切である。基礎をもう一度確認することで大学レベルの英語の授業をさらに効果的に活用できると考える。授業は、そのためのステップとして、もう一度、英語基礎を一からやり直しする。

【授業の目標】

文法を復習すること、そして基本的な例文を暗記することで英語の基礎を再確認する。
次回のTOIECスコア350を目指す。

【授業計画】

授業計画
1) 授業オリエンテーション
2) 品詞
3) 5文型
4) 時制 <現在形・過去形>
5) 進行形・未来形
6) 完了形
7) 助動詞
8) 受動態
9) 不定詞
10) 動名詞
11) 関係詞
12) 比較級・最上級
13) 仮定法
14) まとめ
15) まとめ
但し、授業の進行状況により内容を変更する場合がある。

この授業は、英語サポートプログラムである「基礎からのやり直し英語」と同時に履修することができる。同時に履修することにより、さらに英語の基礎力が付くと考える。「基礎からのやり直し英語」についての詳細は、授業中に説明をする。また、「基礎からのやり直し英語」のパンフレット（9号棟に設置）が用意されている。

【評価方法】

出席と小テスト

【テキスト】

Kikujii Saito, Michiko Joichi
「Simple Grammar シンプルセンテンスで学ぶ基本英文法」 南雲堂 1,800円

【参考文献・資料】

講義の際に説明する

Advanced Academic English 09F

難波豊子 CURRAN, Beverley

【授業の概要】

本科目「Advanced Academic English 09F」は、2人の担当教員による週2日の授業で1セット（4単位）を基本とする全学対象の上級英語科目である。TOEICスコアで選抜を行い、少人数クラスを編成する。英語で行なう時事問題考察・文化考察、通訳演習などの多様な授業活動を通して語彙力増強と英語運用能力の強化を目指す。学外ゲストとの英語交流も行なわれる。多くの英語コミュニケーション実践により、文化の多様性に対する認識が深まり、広い視野と柔軟な視点が育成されるだろう。4年間続けて履修できる。

【授業の目標】

Bev Curran
To continue to give students practice in preparing and leading a discussion, as well as sustaining a discussion through careful listening and questions. The group discussion aims to form a community of supportive language learners and to develop each student's ability to express their ideas in English.

難波豊子
英語の構文を意識しながら聞き、生の英語に慣れる。且つ「聞き手に分かりやすい通訳とは？」を、通訳練習を通して考えてながら、主に英語から日本語への逐次通訳力強化を目指す。

【授業計画】

Bev Curran
In the second semester, discussions will continue, and students will be encouraged to take more responsibility for engaging in discussion and offering support to the speaker through a thoughtful consideration of the topic. Each week will be a chance to grow closer as a group of engaged language learners whose communal energy will motivate individual student growth in English ability and self-confidence. Special guests will also be invited to the class to talk to the students in English in a relaxed but lively atmosphere.

難波豊子
・スラッシュ・リーディングによる頭からの情報処理
・分かりやすい日本語の検討
・短い時間で、英文のメッセージを把握
・2点集中力育成練習

上記基礎力強化を基本に
(1)英語のテープを聞いて、グループあるいはペアで内容把握
(2)単語チェック
(3)日本語への逐次通訳練習を中心として演習を行う。
内容理解の段階では、基本的に英語を話す事を要求する。教材は基本として毎回異なった内容のものを使用。教材としては時事的なニュースを取り扱うが、スピーチの通訳も実践する。また、1回はゲストスピーカーを招待し、積極的に会話を行ってもらう。

【評価方法】

本科目は、週2回コースの授業で4単位の科目である。火曜日2限（担当教員：難波豊子）、木曜日2限（担当教員：CURRAN, Beverley）の両方に登録し、両授業への出席が必要である。それぞれの授業において、日常の授業態度、宿題に対する姿勢、ゲストスピーカーとのディスカッションへの貢献度等で、総合的に評価し、それらの評価の平均をこの科目の評価とする。

【テキスト】

授業中に配布、指示する。

中国語読解 1 A

中西千香 李昱 胡桂蘭 曹志偉 湯海鵬 嚴萍

【授業の概要】

身近な実用読解文を多くとりあげた教材を通じて中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の発音・文法面・表現面における基礎的能力を養成する。さらにHSK基礎試験の2級合格を目指し、〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、中国語の平易な文章の読解が可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 母音、数字、挨拶、疑問文、形容詞述語文
3. 子音、声調、曜日表現、省略疑問文、疑問詞疑問文
4. 音節、勧誘表現
5. 動詞述語文、指示代名詞
6. 我姓松本。自己紹介
7. 介詞“和”、副詞“也”“都”
8. 我的家庭。所有・存在の“有”、名詞述語文
9. 部分否定文、感嘆表現、変調と軽声
10. 我们的大学。介詞“给”“在”
11. 名詞の修飾表現
12. 我的一天。日時・時刻の表現、方向補語
13. 就要放暑假了。語気助詞“了”、介詞“和”
14. 伝聞の表現、能願動詞“想”“要”

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 A 2 (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 1 B

中西千香 胡桂蘭

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語読解 1 A〉に準ずるが、中国語の基礎を固め理解をより深めるために週2回の受講が可能となるよう設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が〈中国語読解 1 A〉と異なる教材を使用する。このことで、学習した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

読解に必要な、基礎的な表現や文法事項を、特に日本人の苦手な部分に重点を置いて、半期にわたって学習する。

- | | |
|------|-------------|
| 第一課 | 発音 (1) |
| 第二課 | 発音 (2) |
| 第三課 | 発音 (3) |
| 第四課 | 発音 (4) |
| 第五課 | 人称代名詞・“是” |
| 第六課 | 指示代名詞・数詞・量詞 |
| 第七課 | 形容詞と形容詞述語文 |
| 第八課 | 動詞述語文 |
| 第九課 | “有”・年月日 |
| 第十課 | 場所・時間・数量 |
| 第十一課 | 前置詞(介詞)・“了” |
| 第十二課 | 能願動詞 |

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解 1 B (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 A

中西千香 大森信徳 曹志偉 周素芬 陳惠貞 中塚亮

【授業の概要】

分かりやすい実用会話文を多くとりあげた教材を通じて、中国語の初級段階を総合的に学習し、中国語の発音・音声面・表現面における基礎的能力を養成する。さらにHSK基礎試験の2級合格を目指し、HSK試験センターより出された〈中国漢語水平考試大綱〉に規定された400～900前後の語彙力と70項目の文法力を身につける。このことで、一般的な挨拶・自己紹介などが可能になると同時に、履修翌学期からHSK試験対策コースである〈HSK基礎コースA〉〈HSK基礎コースB〉の履修が可能になる。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

初めて中国語を学ぶ学生を対象とし、日常会話表現の習得を目指す。

1. オリエンテーション
2. 発音 (1)
3. 発音 (2)
4. 発音 (3)
5. 発音 (4)
6. あいさつ表現
7. 時間の表し方
8. 年齢を言う
9. 家族について語る
10. 自分の家について語る
11. 学校について語る
12. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 A 2 (中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 1 B

中塚亮

【授業の概要】

講義の内容等とカリキュラム上の位置づけは〈中国語会話 1 A〉に準ずるが、中国語の基礎を固め理解をより深めるために週2回の受講が可能となるよう設定された講義である。ただし、文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定などが〈中国語会話 1 A〉と異なる教材を使用する。このことで、学習した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにするを図る。

【授業の目標】

中国語学習の基礎となる発音、基本的な語彙・文法を学習し、中国語で簡単なやりとりができる程度の語彙・表現力を身につける。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. 今天星期几? 曜日と疑問詞利用の疑問文
3. 我很高兴。省略疑問文、形容詞述語文
4. 我学习中文专业。能願動詞“能”
5. 现在几点? 時間表現、語気助詞“了”
6. 我的家庭。介詞“在”
7. 谈天气。天気表現、選択疑問文、感嘆文、
8. 邀请。仮定文、反復疑問文、部分否定文
9. 我的大学。伝聞の表現
10. 找手机。目的語位置換えの“把”、結果補語“到”
11. 喜欢什么? 過去の経験表現「V+“过”」
結果や程度表現「V+“得”」
12. 帮我。能願動詞“会”
13. 假期做什么? 結果補語“好”
14. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話 1 B (愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 2

李昱 胡桂蘭 大森信徳 湯海鵬 張勤 嚴萍

【授業の概要】

読解学習を通じて中国語の全体像がつかめる基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級合格を目指し、＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。HSK試験対策のためには＜HSK基礎コースA＞か、＜HSK基礎コースB＞と並行した履修が望ましく、基礎能力の深度を深めるためには＜中国語会話2＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ、読解能力のさらなる向上を目指す。より複雑な文章の学習を通じて、中国語の基本構造を理解し、読解能力を養成する。

【授業計画】

本文の状況設定や表現は、旅行記・家族のこと・趣味など、学習者が興味を持てるような身近な題材を取り上げた。

1. 暑暇回家的一天。完了の表現、結果補語“到”
2. 使役の表現“让”
3. 鈴木一家。能願動詞“会”“能”
4. 過去の経験表現「V+“过”」
5. 我家的照片。動作の進行・状態の持続などの表現「V+“着”」
6. 介詞“离”、連動文
7. 终于习惯了。疑問詞の連用、感嘆表現2
8. 自己の意見表示
9. 我做了一个夢。進行表現の「“在”+V」
10. 程度補語と可能補語、副詞用法の“地”
11. 我太幸福了。目的語位置換えの“把”
12. 比較の表現、受身文
13. まとめ

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解1 A 2（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 2

中西千香 李昱 胡桂蘭 周素芬 杜英起 大森信徳

【授業の概要】

身近で分かりやすい実用例文を多くとりあげた会話学習を通じて、中国語の音声面・文法面・表現面における全体像がつかめるような基礎的能力を養成する。さらに、HSK基礎試験の3級合格を目指し、HSK試験センターより出された＜中国漢語水平考試大綱＞に規定された900～1500前後の語彙力と140項目の文法力を身につける。履修後は旅先での中国語による買い物や換金など、基本的な会話が可能になる。なおHSK試験対策のためには＜HSK基礎コースA＞か＜HSK基礎コースB＞と並行した履修が望ましく、基礎能力の定着をはかるためには＜中国語読解2＞と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

半期の学習成果を踏まえ会話能力のさらなる向上を目指す。日常の様々なシーンで求められる表現・会話の学習を通じて、中国語の運用能力を身につける。

【授業計画】

本文の状況設定や表現は、学習者が中国に留学している気分で学習できるように配慮した。

1. 趣味を語る
2. 中国へ行く
3. ホテルのフロントで
4. 換金する
5. 道を尋ねる
6. バスに乗る
7. 電話をかける
8. タクシーに乗る
9. 実践会話練習

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話1 A 2（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK基礎コース A *聴解中心

中西千香 李昱 大森信徳 王麗英 杜英起

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK（漢語水平考試）に向けて、受験に必要な基礎的な能力を集中的に養成するための授業である。試験で要求される400～1500前後の語彙量とその語彙量に相応する文法力・聴解力を身につける。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “了”や“过”の使い方など
2. “時点”の言い方や“时段”の言い方など
3. “小时”や“钟头”の使い方など
4. “方位词表”について
5. “多会儿”や“哪会儿”の使い方など
6. “该”や“应该”の使い方など
7. 介詞の“朝”、“向”と“往”の使い方
8. 比較表現について
9. “是字句”について
10. “愿意”や“想”の使い方など
11. “趋向补语”について
12. “复合趋向补语”である“下来”や“下去”などの意味について
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎A 改訂版（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK基礎コース B *読解中心

中西千香 李昱 河井昭乃 曹志偉 嚴萍 中塚亮

【授業の概要】

近年注目されている中国語能力試験HSK（漢語水平考試）に向けて、受験に必要な基礎的な能力を集中的に養成するための授業である。設定する目標、講義内容とカリキュラム上の位置づけは＜HSK基礎コースA＞に準ずるが、HSKの資格取得に対して特に関心を持つ学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が＜HSK基礎コースA＞とは異なる教材を使用し、習得した文法事項を確実に身に付けること、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広げること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものとする。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の実践能力を高める。HSK基礎2級から3級に合格するレベルの語彙・文法・読解力を身につける。

【授業計画】

12課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと、練習問題を解いて、練習問題について解説する。各課の文法のポイントは下記の通りである。

1. “我”と“你”；“左右”と“前后”など
2. “是”；語気助詞の“吗”と“呢”など
3. “了”；形容詞述語文など
4. “動詞+过”と“形容詞+过”；“在”など
5. 数量補語；“头”と“面”など
6. “有字句”；構造助詞“地”など
7. 量詞の重ね型；“把”構文など
8. “从”と“离”；“一边～一边～”など
9. “都”と“一共”；程度補語など
10. “被”構文；“在・正・正在”など
11. 方向補語；“多么”など
12. 複合方向補語；“是～还是～”など
授業の予習としてホームページを利用することができる。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK基礎B 改訂版（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解3

大森信徳 河井昭乃 曹志偉

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み中国語文の読解力と理解力を一層高めていくための授業である。さらに、HSK初等試験の4級合格を目指し、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。なおHSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーション能力を高めるためには<中国語会話3>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1. 应该感谢谁
2. 接続詞の使い方、用途など。“虽然～但是”など。
3. 一件小事
4. 連動文。動態助詞“着”。
5. 生日宴会
6. 動詞の重ね型。結果補語。
7. 中国人的问候语
8. 挨拶の言葉。“打招呼、问候语”などの基本と応用。
9. 在中国过中秋节
10. 構造助詞の使い方。“的、地、得”の使い方、それぞれの違い。
11. 骑自行车的张师傅
12. 数量補語。可能補語。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4（中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースA *聴解中心

中西千香 李昱 巖萍

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初等試験の4級に合格することをめざし、試験で要求される1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

テキストの各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時にはテキストに即して練習問題を解くこととその解説を中心に、実践能力の向上をめざす。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話3

李昱 胡桂蘭 大森信徳 周素芬

【授業の概要】

第二外国語として一年間ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取り上げられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための授業である。さらに、HSK初等試験の4級合格を目指し、1500～2000前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。履修後は家族生活・大学生活などについて語ることができる。なおHSK試験対策のためには<HSK初等コースA>か、<HSK初等コースB>と並行した履修が、中国語読解能力を高めるためには<中国語読解3>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話2を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 初めまして
 2. 私達の中国語の先生
 3. 朝食を食べる
 4. タクシーに乗る
 5. 宿舍のおばさん
 6. 言葉のパートナー
- 各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK初等コースB *読解中心

中西千香 胡桂蘭 曹志偉 巖萍

【授業の概要】

中国語を1年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK初等コースA>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK初等コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を多く解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSKを通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK初中等4級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

テキストの各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には教科書に即して練習問題を解くこととその解説を中心に、実践能力の向上をめざす。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。

学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK初等コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語読解 4

大森信徳 河井昭乃

【授業の概要】

読解中心のテキストを用い、さらなる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語の読解力と理解力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK 初中等試験の5級合格を目指し、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。なおHSK 試験対策のためには<HSK 中等上級コースA>か<HSK 中等上級コースB>と並行した履修が、中国語コミュニケーション能力を高めるためには<中国語会話4>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまな題材を扱った文章を学習することで、より高度な文章読解力・構成力を身につける。

【授業計画】

1. 自行车上的宝座儿
2. 方向補語。程度補語。“把”構文(1)。
3. 雨披
4. 反復疑問文。反語表現。
5. 服装与色彩
6. 副詞のポイント。“又、再、也、都、一直、已经”。
7. 逛商场
8. 形容詞と副詞の用例。“差点儿”の使い方。
9. 一个特别的“村”
10. 伝聞表現。複合方向補語“起来”。感嘆表現。
11. 学汉语趣事
12. “差不多”の使い方。“把”構文(2)。特殊な動詞述語文。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語読解3・4(中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コース A * 聴解中心

河井昭乃 巖 萍

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した学生を対象としたHSK 受験対策の授業である。履修後、HSK 初中等試験の5級に受かることをめざし、ねらいの試験で要求される2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力をマスターしていく。

【授業の目標】

HSK を通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK 初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

1 2 課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと練習問題を解いて、練習問題について解説する。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 中等上級コースA(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語会話 4

李 昱 胡 桂蘭 周 素芬

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、生活において日常的に取りあげられる話題を中心に構成された会話のテキストを用い更なる意欲で中国語の表現の学習に励み、中国語によるコミュニケーション能力を一層高めていくための講義である。さらに、HSK 初・中等試験の5級合格を目指し、2000～2500前後の語彙力とそれに相応する文法力を身につける。履修後は趣味生活・地域社会などについて語る事ができる。なおHSK 試験対策のためには<HSK 中等上級コースA>か<HSK 中等上級コースB>と並行した履修が、中国語読解能力を高めるためには<中国語読解4>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

前段階までに学習した語彙・文法を復習することで基礎の定着を図り、その上にさまざまなシチュエーションを想定した学習によってより高度な会話力・表現力を身につける。

【授業計画】

中国語会話3を履修した学生が、さらに高度な内容について、中国語で円滑に会話が行えるようになることを目指す。

1. 市場での買い物
 2. 旅行に行こう
 3. 体を鍛える
 4. ついてない一日
 5. ダイエット
 6. 友情に乾杯
- 各課を二回の授業で扱うことで、反復練習と重要ポイントの定着を図る。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語会話3・4(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK 中等上級コース B * 読解中心

大森信徳 河井昭乃

【授業の概要】

中国語を1年半以上学習した履修者を対象としたHSK 受験対策の授業である。設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK 中等上級コースA>に準ずるが、HSK の資格取得に対して特に関心を示す学生に週2回のHSK 対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK 中等上級コースA>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることによって理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSK の合格をより確実なものにしていく。

【授業の目標】

HSK を通じて、中国語の総合的能力を高める。HSK 初中等5級に合格するレベルの語彙・文法・読解力および聴解力を身につける。

【授業計画】

1 2 課編成で授業を進める予定である。まず文法の説明から入り、そのあと練習問題を解いて、練習問題について解説する。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な学習が要求される。学習のペースとしては、学習者の理解に合わせて一課を一回の授業で進めていく。

【評価方法】

出席、小テスト、課題提出、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK 中等上級コースB(愛知淑徳大学中国語教育委員会編)

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文 1

李 昱 嚴 萍 曹 志偉

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、みずから平易な中国語文章が書けることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の6級または7級に受かることを目指し、2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目をマスターしていく。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけでなく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身に付けることも目標とする。

【授業計画】

学習のベースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

- 第一課 文章記号と文章形式
- 第二課 自己紹介
- 第三課 書き付けと招待状
- 第四課 日記
- 第五課 手紙
- 第六課 電子メール

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース 1 A *聴解中心

大森信徳 周素芬

【授業の概要】

中国語を二年以上学習した履修者を対象としたHSK受験対策の授業である。履修後、HSK初中等試験の6級または7級に受かることを目指す。HSKで要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、HSK6級合格に要求される2500～3500前後の語彙とそれに相応する文法・表現をマスターしていく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のベースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

期末試験、出席状況、小テスト、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース 1 B *読解中心

胡 桂蘭 曹 志偉

【授業の概要】

設定する目標、扱う語彙量と文法ポイントなどを含めた講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考）6級に合格するレベルの語彙、文法、読解力の養成を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のベースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第一課から第六課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門 1

周 素芬 曹 志偉

【授業の概要】

第二外国語として2年間ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心に習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、初歩的な実務通訳ができる実力を養成する。高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることをねらいとする。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の6級または7級に合格する程度の2500～3500前後の語彙量とそれに相応する文法項目・表現をマスターしてゆく。

【授業計画】

教科書は通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。それぞれの状況でよく使われる語彙・表現を学習した上で、日本語と中国語のリビート、通訳の練習を行う。教科書に沿って一課を二回の授業で進め、この授業では第一課から第六課まで学習する予定である。

1. 出迎え
2. ホテルにて
3. 工場見学
4. 宴席にて
5. 交渉
6. 観光ショッピング

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

中国語作文2

曹志偉 嚴萍

【授業の概要】

一年半ほど中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心として習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、中国語の一般的な文章が書けることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指し、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。履修後は、友人・知人への略式手紙、中国官公署向けの書類作成、中国語による日記・メモの作成などが可能になる。

【授業の目標】

作文の授業を通して、受講者に日常生活に必要な平易な文章だけでなく、各文体に沿って練習を重ねることで社会のさまざまな場面で使用される実用な文体を身につけることも目標とする。

【授業計画】

学習のペースとしては、教科書の構成に沿って学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

- 第七課 契約書
- 第八課 就職書類
- 第九課 記述文
- 第十課 説明文
- 第十一課 感想文
- 第十二課 意見文

【評価方法】

出席、様々な課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

中国語作文（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて指示する。

HSK中等高級コース2A *聴解中心

胡桂蘭 周素芬

【授業の概要】

中国語を一年半以上学習した履修者を対象とするHSK受験対策の授業である。履修後、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指す。HSKで要求される総合的な中国語の能力を養成する。

【授業の目標】

練習問題を大量に解くことで、HSK7級合格に要求される3500～4000前後の語彙とそれに相応する文法・表現をマスターしてゆく。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。単語テストなどによって学習内容の定着をはかり、また予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験、課題提出から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースA（愛知淑徳大学中国語教育委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

HSK中等高級コース2B *読解中心

曹志偉

【授業の概要】

設定する目標、講義内容と位置づけは<HSK中等高級コース2A>に準ずるが、HSKの資格取得に対して特別に関心を示す学生に週2回のHSK対策コースの受講を可能にするため設定された講義である。文法項目の順序と用例、そして練習問題などの設定が<HSK中等高級コース2A>で用いる教材と異なる教材を使用し、習得した文法事項が確実に身に付くこと、同じ文法項目をちがった角度から見ることで理解の幅を広めること、多面にわたる練習問題を解くことでHSKの合格をより確実なものにしていく。HSK中等高級コースBは読解中心とする。

【授業の目標】

HSK（中国語水平考試）7級に合格するレベルの語彙、文法、読解力の養成を目指す。

【授業計画】

各課は文法のポイントと練習問題から構成されている。授業時には練習問題を解くこととその解説を中心として、実践能力の向上を目指す。予習を課すこともあり、履修者の積極的な取り組みが要求される。学習のペースとしては学習者の理解に合わせて一課を二回の授業で進めていく。教科書の第七課から第十二課まで進む予定。

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

HSK中等高級コースB（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

同時通訳入門2

周素芬 曹志偉

【授業の概要】

一年半以上中国語を学んできた学習者が、その間会話と読解を中心として習得してきた中国語の表現力と理解力を活用し、平易な同時通訳ができる実力を養成する。高度な中国語の運用能力を身につけ、実社会で中国語を使った仕事ができることをねらいとする。さらに、HSK中等試験の7級または8級に受かることを目指し、3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法項目を身につける。HSK試験対策のためには<HSK中等高級コース2A>か<HSK中等高級コース2B>と並行した履修が、中国語表現の深度を深めるためには<中国語作文2>と並行した履修が望ましい。

【授業の目標】

日本語と中国語の表現の違いを認識した上で、中国語通訳の基本的技術を身につける。そのために必要とされるスキルの目安として、HSK中等試験の7級または8級に合格する程度の3500～4000前後の語彙量とそれに相応する文法事項・表現を身につける。

【授業計画】

教科書は通訳が必要とされるさまざまな状況を想定して、各課ごとに一つのシチュエーションを取り上げて構成されている。それぞれの状況でよく使われる語彙・表現を学習した上で、日本語と中国語のリピート、通訳の練習を行う。教科書に沿って一課を二回の授業で進め、この授業では第七課から第十二課まで学習する予定である。

1. 電話会談
2. 商品見本市
3. 納品・支払い
4. 梱包・輸送
5. 損害賠償
6. 仲裁

【評価方法】

出席状況、小テスト、期末試験から総合的に判定する。

【テキスト】

同時通訳入門（愛知淑徳大学中国語委員会編）

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。

韓国・朝鮮語入門

金賢珍 キム ソヨン

【授業の概要】

韓国・朝鮮の文字であるハングルの読み書き、基礎文法の理解、よりらしい発音のトレーニングなど、入門段階において必要な学習内容を総合的に習得していくことにより、韓国・朝鮮語学習に対する興味と自信を覚えてもらう。

【授業の目標】

基礎的名詞および動詞や形容詞を中心にする500語程度の基本語彙、60項目ほどの基礎文法を身につけて、それを用いた短文の読み書き、聞きとり、意思表示、そして会話上の運用を可能にする。

【授業計画】

この段階における集中学習法の効果をねらい、週2回履修を義務づける。なお、韓国・朝鮮語は日本語と文法構造がほとんど同じで、効果的に学習すれば1年間で高校3年の英語力程度の力をつけることができるといわれる。

- | | |
|-----------|--|
| 第1講～第4講 | ハングルの読み書き1、まとめ
1) 基本母音字 (10個)、挨拶1
2) 基本子音字1・2 (平音9個・激音5個)、挨拶2
3) 合成子音字 (激音5個)、名詞1 |
| 第5講～第8講 | ハングルの読み書き2、まとめ
1) 合成母音字1・2 (11個)、名詞2
2) 終声子音字1・2 (7種)、名詞3 |
| 第9講～第10講 | 発音ルールとトレーニング、動詞1
外国語のハングル表記、まとめ |
| 第11講～第12講 | 助詞1、上称形1、尊敬形1、まとめ |
| 第13講～第14講 | 連結語尾1、助詞2、上称形2、尊敬形2、変則活用1 |
| 第15講 | 試験対策 |
| 第16講 | 中間試験 |
| 第17講～第18講 | 数詞と助数詞1、連結語尾2、否定形、現在時制1、
敬語、変則活用2 |
| 第19講～第20講 | 数詞と助数詞2、連結語尾3、未来時制・過去時制、変則活用3、慣用表現1、
連結語尾3 |
| 第21講～第23講 | 数詞と助数詞2、連結語尾4、助詞3、変則活用4 |
| 第24講～第25講 | 用言の名詞形、現在時制2、不可能形、曖昧形、
変則活用5、連結語尾5 |
| 第26講～第27講 | 助詞4、変則活用6、連結語尾6、回想の表現、
慣用表現2 |
| 第28講～第29講 | 試験対策 |
| 第30講 | 単位認定試験 |

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

はじめの韓国・朝鮮語 (曹述燮 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

090432007_0030 掲載順:0030

MCode:090105511_0030 ★

韓国・朝鮮語会話1

金賢珍 金美淑 李芝賢

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞などの1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけて、それを用いた会話の聞き取り、意思表示の運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

- | | |
|------|---------------------|
| 第1講 | 授業概要の説明、こんにちは |
| 第2講 | 韓国は初めてですか |
| 第3講 | ここが寮です |
| 第4講 | 授業は3月2日からです |
| 第5講 | MTって何ですか |
| 第6講 | どこで売っていますか |
| 第7講 | 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト |
| 第8講 | スタンドランプを見せてください |
| 第9講 | 一杯飲みましょう |
| 第10講 | 大学生活はどうですか |
| 第11講 | よく聞けば勉強になります |
| 第12講 | 誕生日パーティをしましょう |
| 第13講 | 会話を楽しむ |
| 第14講 | 試験対策 |
| 第15講 | 単位認定試験 |

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話 (曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解1

金賢珍 キム ソヨン 金元榮

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の基礎過程を総合的に学習し、基礎的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

名詞、動詞や形容詞、そして冠詞や副詞など1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を身につけて、それを用いた文章の読み書きの運用を可能にする。そして、韓国語能力試験の1級、ハングル能力検定試験の4級に受かることを目指す。

【授業計画】

- | | |
|---------|---|
| 第1講 | 授業概要の説明、入門講座の復習 |
| 第2・3講 | サッカーがお好きですか。
過去の経験の敬語体、
理由・原因の表現、単純否定表現と不可能表現 |
| 第4・5講 | 明日は何をされますか。
意志・意図・計画の表現、願望の表現、勧誘の表現 |
| 第6・7講 | 郵便局に行く。
用言の連体形 |
| 第8講 | 総合復習および中間テスト |
| 第9・10講 | 喫茶店で。変則1、
仮定の表現、選択・許容の表現、命令・提案・要求の表現 |
| 第11・12講 | 韓国料理屋で。変則2、
前置きの表現、逆接の表現、助数詞 |
| 第13・14講 | 道をたずねる。変則3、
案内の表現、義務・必要性の表現、比較・対照の表現 |
| 第15講 | 単位認定試験 |

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語中級 (李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

090432007_0040 掲載順:0040

MCode:090105511_0040 ★

韓国語能力試験対策1

キムソヨン 金芝恵 白明学

【授業の概要】

韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,000語程度の基本語彙、120項目ほどの文法力を着実に身につけて、韓国語能力試験の1級あるいはハングル能力検定試験の4級に必ず合格する。

【授業計画】

発音と表記、文法、助詞、読解と表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をおとして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- | | |
|------|----------------|
| 第1講 | 授業ガイド、発音と表記 |
| 第2講 | 終結語尾 (叙述形・命令形) |
| 第3講 | 数え方・否定形 |
| 第4講 | 各種助詞1 |
| 第5講 | 連体形 |
| 第6講 | 敬語の表現 |
| 第7講 | 変則用言 |
| 第8講 | 模擬試験 |
| 第9講 | 各種助詞2 |
| 第10講 | 挨拶・語句 |
| 第11講 | 活用表現1 |
| 第12講 | 活用表現2 |
| 第13講 | 読解 |
| 第14講 | 模擬試験 |
| 第15講 | 単位認定試験 |

【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験などの各種テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験4級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 2

金元榮 姜信和

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、基本的な説明文・広告文などが理解できること、簡単な文章が正しく書けること、そして韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 授業概要の説明
- 第2・3講 地下鉄の駅で。変則4、可能・不可能、能力・無能力の表現、排除の表現、推量・可能性の表現
- 第4・5講 タクシーに乗る。前後関係の表現、意図・予定の表現、決定の意の表現、依頼・要求の表現
- 第6・7講 約束を交わす。感動・独白・感想の表現、同時進行の表現
- 第8講 総合復習および中間テスト
- 第9・10講 天気、引用・伝聞の表現、確認あるいは同意の表現
- 第11・12講 電話をかける、紹介・案内の表現、曖昧さの表現
- 第13・14講 ショッピングをする、許諾・承認の表現
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語中級 (李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話 2

キムソヨン 金美淑 李芝賢

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の初級過程を総合的に学習し、平易な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を身につけ、ホテルでの客室予約、銀行での口座開設などの日常生活の簡単な会話を可能にし、基本的な説明文・広告文が理解できるようにする。そして、韓国語能力試験の2級、ハングル能力検定試験の3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 会話1の復習、どこでもかまいません
- 第2講 週末には何をしましたか
- 第3講 今晚またお電話いたします
- 第4講 趣味は料理とか旅行です
- 第5講 資料を探しに一緒に行きませんか
- 第6講 韓国料理ができますか
- 第7講 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8講 何をしようと思っていますか
- 第9講 どこにいらっしゃいますか
- 第10講 バスカ地下鉄に乗っていきます
- 第11講 さる水曜日からです
- 第12講 このバックいくらだった
- 第13講 会話を楽しむ
- 第14講 試験対策
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

始めよう韓国語会話 (曹述燮・李正子・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 2

キムソヨン 金芝恵 白明学

【授業の概要】

韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

1,500から3,000語程度の活用語彙、180～250項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の2級あるいはハングル能力検定試験の3級に必ず合格する。

【授業計画】

基礎表現、発音、読解と活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験とおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1講 授業ガイド、発音
- 第2講 各種縮約形
- 第3講 受け身・使役
- 第4講 する関係動詞・する動詞・する形容詞、する副詞
- 第5講 名詞作り、形容詞作り、数え方
- 第6講 各種助詞、不規則用言
- 第7講 終結語尾・接続助詞
- 第8講 模擬試験
- 第9講 語句・活用表現 1
- 第10講 活用表現 2
- 第11講 活用表現 3
- 第12講 読解 1
- 第13講 読解 2
- 第14講 模擬試験
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

ハングル能力検定試験3級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語読解 3

金賢珍 姜信和

【授業の概要】

身近でわかりやすい実用読解文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を読み、書き、理解し、表現する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、簡単な手紙を読んだり書いたりするなど平易な文章による意思伝達が可能であること、新聞、雑誌を読んでもある程度理解可能であること、そして韓国語能力試験の3級または4級、ハングル能力検定試験の準2級または3級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 授業概要の説明
- 第2・3講 病院で。動詞の名詞形、希望・願望の表現、補助用言、話し手の意志・予定や推測の表現
- 第4・5講 バス停で。譲歩や強調の表現、能力・推測・予定・意図などの表現、理由や根拠を示す連用形、命令・指示の伝聞
- 第6・7講 銀行で。特定の動作を原因に提示する表現、物事の限界や程度・目標を示す表現
- 第8講 総合復習および中間テスト
- 第9・10講 書店で。動作や動作の様態を示す連用形、はなはだしい程度の表現、動作継続の表現、状況の前置きを示す表現、伝聞を確認する表現、
- 第11・12講 韓国料理。仮定条件を示す表現、全面的な肯定の表現、付加表現、勧誘の伝聞、例示・容認・列挙・限定などを示す表現
- 第13・14講 天気。引用・伝聞の表現、相手の意向を聞く表現、
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

韓国語上級 (李昌圭 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国・朝鮮語会話 3

金賢珍 キム ソヨン 李芝賢

【授業の概要】

使用頻度の高い実用会話文を多く取り上げたテキストを中心に韓国・朝鮮語の中級過程を総合的に学習し、日常生活に必要な一般的な韓国・朝鮮語を聞きとり、理解し、応対する能力を養成する。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を身につけ、日常言語生活において語彙の不便がなくよく使われる言葉をゆっくり聞けば十分理解できてハンゲルの会話が楽しめるようにする。そして、韓国語能力試験の3級または4級、ハンゲル能力検定試験の準2級または2級に受かることを目指す。

【授業計画】

- 第1講 専門科目を多めに履修しなければなりません
- 第2講 時間はいつがいいですか
- 第3講 自動引き落としのほうがいいと思います
- 第4講 曇りといっておりました
- 第5講 春といったらレンギョと山つつじですね
- 第6講 本当に美味しいですね
- 第7講 韓国の歌、表現練習、まとめ、中間テスト
- 第8講 民俗博物館に行ってきました
- 第9講 庭園文化について知りたいです
- 第10講 どちらが速いですか
- 第11講 使えますとも！
- 第12講 矢のように早いですね
- 第13講 下宿先を変えようかと思っています
- 第14講 会話を楽しむ
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、小テスト、中間テスト、単位認定試験の成績を総合して評価する。

【テキスト】

使おう韓国語会話 (曹述燮・金賢珍 プリンテック)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

韓国語能力試験対策 3

金賢珍 キム ソヨン

【授業の概要】

韓国語能力試験の3級または4級あるいはハンゲル能力検定試験の準2級または2級に合格するために、既出問題および新出予想問題のドリル式練習、ポイントの解説、語彙・文法リストの作成などで構成される。

【授業の目標】

3,000から4,000語程度の活用語彙、240～300項目ほどの文法力を着実に身につけ、韓国語能力試験の3級または4級あるいはハンゲル能力検定試験の準2級または2級に必ず合格する。

【授業計画】

発音、読解、注意すべき用言とその用例、活用表現などねらいの試験で要求される学習量を模擬試験をとおして習得していく。聞き取り、書き取りの試験対策も平行する。

- 第1講 授業ガイド、発音
- 第2講 漢字音の比較
- 第3講 受け身、使役
- 第4講 する関係動詞・する動詞・する形容詞・する副詞
- 第5講 各種副詞、各種助詞
- 第6講 名詞作り、形容詞作り、動詞作り、名詞節作り
- 第7講 語句
- 第8講 模擬試験
- 第9講 活用表現1
- 第10講 活用表現2
- 第11講 活用表現3
- 第12講 読解1
- 第13講 読解2
- 第14講 模擬試験
- 第15講 単位認定試験

【評価方法】

出席、授業のための準備、模擬試験、単位認定試験の成績等を総合して評価する。

【テキスト】

ハンゲル能力検定試験準2級合格をめざして (李昌烈 白帝社)

【参考文献・資料】

授業中に適時指示する。

初めての外国語1 (ドイツ語)

須藤 勲

【授業の概要】

この授業では、ドイツ語を基礎から学びます。基本的な文法事項や、発音、聞き取りの練習を通して、ドイツ語を学んでいきます。また、外国語を学ぶ際には、その言葉が話す国の文化の理解が欠かせません。授業では、ドイツ語を話す国々の文化についても紹介していきます。

【授業の目標】

ドイツ語を理解し、使用するために必要な能力の向上を目指します。特にこの授業では、ドイツ語の表現能力を養い、必要な語彙を身につけることを目標にしています。ドイツ語の学習を通してドイツ語圏の文化についての理解を深めることも目標のうちです。

【授業計画】

さまざまな場面ごとの会話の例を学び、それを利用してパートナー練習を通して実際に使うことが出来るように練習を行います。同時に、文法事項を学ぶことでドイツ語を理解し、またドイツ語で表現するために必要な知識を身につけることを目指します。具体的な内容は次のとおりです。

- ・ドイツ語の特徴とドイツ語を話す国々の紹介
- ・動詞の現在人称変化、語順
- ・ドイツ語の語順、疑問文と答え方
- ・名詞の性と格
- ・定冠詞の格変化
- ・不定冠詞の格変化
- ・所有、否定冠詞
- ・人称代名詞
- ・前置詞
- ・話法の助動詞の変化、使い方

【評価方法】

数回の小テストと授業参加 (40%)、および期末試験 (60%) によって判断します。期末試験にだけ成績評価の重点を置くのではないので、小テストに関してもしっかりとした準備が求められます。

【テキスト】

クロイツング (小野他著 朝日出版社)

【参考文献・資料】

独和辞典

090432508_0030 掲載順 : 0030

MCode: 090106012_0030 ★

初めての外国語3 (ロシア語)

水野晶子

【授業の概要】

ロシア語の基礎を学び、初歩的なロシア語の運用能力を身に付けます。授業ではロシア語の仕組み(文法)の学習と並行して、ロシアの音楽、絵画、民芸品、映画、料理などロシア文化もたくさん紹介します。様々なロシアの姿に触れることで、ことばの学習と同時にヨーロッパとアジアに跨る隣国ロシアへの理解を深めていきます。

【授業の目標】

キリル文字をマスターしロシア語の基本的な仕組み(文法)を理解すること、簡単な会話が出来ようになること、そしてロシアについて自分なりの何か新しい見識を得ることを目標とします。

【授業計画】

毎回、プリントを配布し、プリントを中心に辞書を積極的に活用しながら授業を進めていきます。

一見少し風変わりなキリル文字、音楽のように美しい響きを持ったロシア語にぜひ一度、触れてみませんか。新しいことばを学ぶことは、新しい世界への扉の鍵を手に入れることです。他ではなかなか学ぶチャンスのないロシア語にチャレンジして、新たな世界を覗いてみましょう。芸術の宝庫であるロシア、「知」だけでは理解できないとされるロシア、心に響く何かときっと出会えること請け合いです！
授業では各回次のようなテーマでロシア語の仕組みについて学んでいきます。

1. キリル文字に慣れ親しむ①
2. キリル文字に慣れ親しむ②
3. ロシア語のいろいろな挨拶表現とロシア人の名前の仕組み
4. 辞書でいろいろ調べてみよう！
5. 自分をロシア語で紹介しよう
6. ロシア語で尋ねてみよう
7. いろいろな形容詞を使ってみよう
8. 天気表現
9. いろいろな行為をロシア語で表現する①
10. いろいろな行為をロシア語で表現する②
11. 「～で～する」表現と数詞
12. 映画鑑賞
13. ロシア語で気持ちを表現しよう
14. 総復習
15. 試験

【評価方法】

①プリントの課題、②授業への参加度、③期末試験の三つの総合点で評価します。

【テキスト】

安藤厚 他 著『ロシア語ミニ辞典』白水社

初めての外国語2 (フランス語)

清水ベアトリックス

【授業の概要】

ヨーロッパの文化や近代精神の発祥の地ともいわれるフランスの旅に行ってみませんか？実際の旅にも役に立つフランス語を覚えるような内容を盛り込んでいるプリント、ビデオドキュメンタリーなどを使って、会話とコミュニケーションを中心にフランス語を楽しく学びます。

【授業の目標】

半年のコースなので、分かりやすいパターンを使って、フランス語の特徴を理解し、フランス語に興味を持つようになります。毎回、文法と語彙のメインポイントをしっかり説明した後、楽しい会話の練習をします。様々なシチュエーションによる必要な単語や表現を覚えて、身に付くまでクラス全員と一緒に練習を繰り返して、喫茶店での注文の仕方、メトロの乗り方、道の尋ね方、電話のかけ方、デパートの使い方、お土産の買い方などを学びます。

【授業計画】

- 1)挨拶-自己紹介 - 20までの数
- 2)名前・国籍・住んでいるところをたずねる
- 3)職業についてたずねる - 60までの数
- 4)何かを示す-持っているものについて話す-
- 5)好きなものを言う - 100までの数 - 小テスト
- 6)年齢についてたずねる - 疑問文と否定文の作り方
- 7)1000までの数 - 買い物と喫茶店での注文の仕方
- 8)趣味について話す- 小テスト
- 9)時間の使い方 - 時間割について話す
- 10)一週間の過ごし方
- 11)ある場所について説明する - 小テスト
- 12)家族について話す
- 13)まとめ - 映画観察
- 14)まとめ - 映画観察
- 15)試験

【評価方法】

定期試験を重視するが、出席率、受講態度なども考慮に入れる。

【テキスト】

プリント

090432508_0040 掲載順 : 0040

MCode: 090106012_0040 ★

初めての外国語4 (スペイン語)

木下まりあ

【授業の概要】

「初めての外国語4 (スペイン語)」は、スペイン語を初めて学ぶ人のための入門的な講義であり、スペイン語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

- ・スペイン語の基礎を学び、初歩的な語学力を身につけ、学習ゲームや練習問題を通して、スペイン語への関心を高める。
- ・多様性に富んだスペインの歴史と文化について学び、独特の風土についての理解を深める。

【授業計画】

講義方式による。授業中、適宜プリントを配布する。

1. スペイン語とスペイン語圏の世界
2. スペイン語のアルファベット、音節、アクセント
3. 挨拶、自己紹介の仕方
4. 名詞の性数、定冠詞と不定冠詞
5. 形容詞 (性数の一致)
6. 人称代名詞、ser動詞とestar動詞
7. 数詞と時刻の表現
8. スペイン語の手紙の書き方
9. 旅行に役立つスペイン語会話
10. まとめ

【評価方法】

出席 20%
授業中の提出物、小レポート 30%
期末レポート 50%

【テキスト】

「未定」

初めての外国語5 (イタリア語)

柴田有香

【授業の概要】

芸術、ファッション、料理、観光など様々な分野において魅力で溢れるイタリア、そして人とのコミュニケーションを大切に創造性に富んだイタリア人には、興味と親しみが高まるばかり。その上イタリア語は、私達日本人にとって聞き取り又発音しやすい言語でもあり、実は私達は日頃から知らず知らずのうちにカタカナでのイタリア語単語に接しています。簡単で実用的な日常会話を題材にしてイタリア語の基礎を学びながら、イタリアへの扉を開きます。

【授業の目標】

簡単なイタリア語を聞き、読み、話せるようになることによって、イタリア語のおもしろさを実感し、更にはイタリアへの関心を深めていけることを目指します。

【授業計画】

挨拶、自己紹介、人の紹介、バーやレストランでの注文の仕方。その他、「何語を話しますか?」「私はおなかですいています」「私は眠いです」などの表現方法。実際日常の様々な状況の中でよく使われる単語や会話表現を楽しく習得しながら、名詞、形容詞、冠詞、動詞(現在)などの基礎文法にも触れていきます。又映像や音楽を通して、イタリアへの小旅行や生きたイタリア語の響きも楽しみましょう。

【評価方法】

出席、授業中の積極性、試験成績から総合的に評価。

【テキスト】

Un piatto d'italiano イタリア語ひとさら (改訂版) 遠藤礼子著 (白水社)

初めての外国語6 (ポルトガル語)

瀧藤千恵美

【授業の概要】

「初めての外国語6(ポルトガル語)」は、ポルトガル語を初めて学ぶ人のための入門的な講義であり、ポルトガル語の基礎知識の習得を目指します。

【授業の目標】

ブラジル・ポルトガル語のコミュニケーションに最低限必要な基礎文法事項を学び、簡単な会話ができるようにしましょう。(詳細は授業にて説明します)

【授業計画】

- 第1回. プレゼンテーション
- 第2回. あいさつ
- 第3回. 発音
- 第4回. SER動詞
- 第5回. 男性名詞と女性名詞
- 第6回. 数字
- 第7回. TER動詞
- 第8回. 規則動詞 (ar動詞)
- 第9回. 規則動詞 (er,ir動詞)
- 第10回. ir動詞
- 第11回. 時間表現
- 第12回. 疑問詞
- 第13回. querer動詞
- 第14回. 今までの復習
- 第15回. 定期試験

の予定。また授業中にブラジルの文化や社会に関するDVDなども鑑賞予定。

【評価方法】

定期試験(口頭試験)と平常点(出席や授業態度)の評価により総合判断します。

【テキスト】

プリントを配布

【参考文献・資料】

各自でブラジル・ポルトガル語の参考書を見ると良い。
おススメは「ニューエクスプレス ブラジルポルトガル語」香川正子著 白水社

情報スキル I (Word・PowerPoint)

西荒井学 諸上茂光 小林久恵 外部講師

【授業の概要】

コンピュータに関わる基本的な知識と技術の習得を目的として、今後のより専門的な情報技術に関する技能と知識の習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。具体的には、情報技術の基礎となる基本ソフトウェアならびにアプリケーションソフトウェアに関する技術的な能力と知識を習得する。特に、Wordにおける文書表現の方法や特徴をはじめ、プレゼンテーション・ツールを利用した資料作成や発表の手段・方法について学習し、情報の処理能力や創造力を培うとともに、コンピュータの仕組みなど実践に対応する純粋な論理的知識も養う。

【授業の目標】

Windows XPの環境を前提に、基本的なパッケージソフトウェアの操作方法を習得し、文書表現やプレゼンテーション技法についてコンピュータ実習を通じて体得する。

【授業計画】

1. Webメールの基本操作
2. メールマナーとセキュリティ
3. Windows操作(1): ファイルとフォルダ
4. Windows操作(2): 圧縮ファイル
5. Word操作(1): 文字の編集と装飾
6. Word操作(2): 文字の配置と印刷
7. Word操作(3): 図形の作成
8. Word操作(4): 表の作成
9. Word操作(5): まとめ、プレゼンテーションの概要
10. PowerPoint操作(1): 基本操作
11. PowerPoint操作(2): 図表の活用
12. PowerPoint操作(3): プレゼンテーションと資料作成
13. プレゼンテーション課題制作
14. まとめ
15. 試験

※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

後期の「情報活用スキルI」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

情報スキルI 2009年度版(愛知淑徳大学情報教育センター編・共立出版)

情報スキル II (Excel・Access)

西荒井学 小林久恵 外部講師

【授業の概要】

コンピュータに関わる基本的な知識と技術の習得を目的として、今後のより専門的な情報技術に関する技能と知識の習得に向けての礎を築く、基盤となる授業科目である。具体的には、Excelによる表計算処理を中心に、収集したデータの加工方法や特徴を的確に把握する技能を習得する。また、Accessによるデータベースの作成を通して、データベースの基本原則や仕組み、特徴についての基礎知識を学習する。

【授業の目標】

コンピュータ技術の基礎として不可欠なコンピュータの仕組み、及びデータ処理操作方法について、利用者が持つべき基本的な専門知識を習得する。また、Accessによるデータベース作成・検索・レポート作成についてのスキルと知識を習得する。

【授業計画】

1. コンピュータの歴史と原理、ハードウェアの仕組み
 2. ソフトウェアの役割、情報ツールとマナー
 3. 情報の表現: 基数変換、補数
 4. Excel(1): データ入力と編集
 5. Excel(2): 数式と関数
 6. Excel(3): 相対参照と絶対参照
 7. Excel(4): グラフの作成、印刷
 8. Excel統計(1): 統計処理とは
 9. Excel統計(2): 度数分布とヒストグラム
 10. Excel統計(3): 代表値と散布度
 11. Access(1): データベースの設計
 12. Access(2): テーブル、フォームの作成
 13. Access(3): クエリ、レポートの作成
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

後期の「情報活用スキルI」「資格取得スキルIa・Ib」「情報活用スキルIII」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

情報スキルII 2009年度版(愛知淑徳大学情報教育センター編・共立出版)

情報活用スキル I (情報ツールの活用)

諸上茂光 奥村文徳 小林久恵 宇佐美貴史 伊藤吉樹

【授業の概要】

習得したコンピュータに関わる基本的な知識と技術を補助スキルとして活用する科目である。具体的には、実社会において問題解決やプロジェクト推進の際にICTを実践的に活用できるように、必要な情報の検索ならびにその収集、収集した情報の分析、分析したデータの特性を効果的に表現する図表や説明力のある高度な文章の作成、さらには説得力のあるプレゼンテーションの実施まで、一連の情報ツール活用能力を習得する。

【授業の目標】

Word・Excelについての高度なスキルを身につけた上で、インターネットを利用した情報検索から文章による整理分析、PowerPointによる効果的な表現に至るまでの情報活用の流れを習得する。

【授業計画】

1. 情報活用とは
 2. 検索エンジンの活用、情報の信頼性
 3. Wordの実践(1): 長文レポートの作成
 4. Wordの実践(2): 脚注、索引、目次の作成
 5. Wordの実践(3): グラフ、図表目次の作成
 6. Excelの実践(1): データの加工・集計
 7. Excelの実践(2): データベースの集計
 8. Excelの実践(3): データの検索・抽出
 9. プレゼンテーションの計画
 10. プレゼンテーションの技法
 11. 総合演習(1)
 12. 総合演習(2)
 13. 総合演習(3)
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

なお、この授業では「情報スキルI」「情報スキルII」で習得した知識、技術が必要になる。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

情報リテラシーの応用(伊東俊彦他著 近代科学社)

情報活用スキル II (情報発信ツールの作成)

石丸 緑 末次新市

【授業の概要】

習得したコンピュータに関わる基本的な知識と技術を補助スキルとして活用する科目である。具体的には、Webサイトに掲載する写真やイラスト、アニメーション画像などのデジタルコンテンツ制作に関する高度な技能と知識を習得し、ユーザの利用環境や利用目的に応じた表現方法を考慮し、問題解決を意識した情報発信ツールの開発を行う。

【授業の目標】

Photoshopを利用して、画像処理の知識とスキルを習得し、ユーザの利用環境や利用目的に応じたWebサイトを制作する。

【授業計画】

1. デジタル画像の基礎知識、Photoshopの基本操作
 2. 画像の補正: 色調補正、トーンカーブ
 3. 画像の合成: 選択範囲の作成、レイヤー機能
 4. 画像の加工: フィルタの適用
 5. 画像の描画: シェイプの作成
 6. 文字のレイアウト、レイヤースタイルの設定
 7. レイヤーマスクの作成
 8. 課題: 画像編集
 9. アニメーションGIFの作成(1)
 10. アニメーションGIFの作成(2)
 11. 印刷、Web用ボタンの作成
 12. スライスツール、出力サイズの調整
 13. 課題: Webサイト制作
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業では、「情報スキルIII」で習得した知識が必要になる。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

Photoshopレッスンブック CS3/CS2/CS/7対応(ソシム)

資格取得スキル Ia (ITパスポート試験対策)

森 友紀 末次新市 金澤小夜子

【授業の概要】

学習者の目標、能力の客観的評価、そして明日に「役立つもの」として「ITパスポート試験」の合格を目標とする教育科目である。情報技術全般にわたる基礎的な技能や知識を習得し、担当する業務に対して情報技術を活用できる能力を身につける。特に、ITパスポート試験の出題範囲である「テクノロジ系」を学習し、コンピュータシステム、データベース、ネットワーク、セキュリティ等の基礎知識や、アルゴリズムやプログラミングの論理的な思考力を養う。

【授業の目標】

情報分野における国家資格であるITパスポート試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. ITパスポート試験概要、基礎理論(1): 離散数学
2. 基礎理論(2): 応用数学、情報に関する理論
3. アルゴリズムとプログラミング
4. コンピュータ構成要素
5. システム構成要素
6. ソフトウェア
7. 中間試験、前半のまとめ
8. ハードウェア、ヒューマンインタフェース
9. マルチメディア
10. データベース
11. ネットワーク(1): ネットワーク方式
12. ネットワーク(2): 通信プロトコル、ネットワーク応用
13. セキュリティ(1): 情報資産、情報セキュリティ管理
14. セキュリティ(2): 情報セキュリティ対策、後半のまとめ
15. 試験

この授業では、「情報スキルI」「情報スキルII」「情報スキルIII」で習得した知識が必要になる。

また、ITパスポート試験を受験する人は「資格取得スキルIb」も履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、中間試験(割合:40%)、学期末試験(割合:40%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

ITパスポート試験 対策テキスト&問題集 平成21年度版 (FOM出版)

090433009_0070 掲載順:0070

MCode:090106513_0090 ★

資格取得スキル Ib (ITパスポート試験対策)

末次新市 森 友紀

【授業の概要】

学習者の目標、能力の客観的評価、そして明日に「役立つもの」として「ITパスポート試験」の合格を目標とする教育科目である。特に、問題解決の手法やデータ分析、オフィスツールの活用に関する「ストラテジ系」の基礎知識、またコンピュータやネットワークを活用して、業務環境の整備を考えるための「マネジメント系」の基礎知識を習得する。

【授業の目標】

情報分野における国家資格であるITパスポート試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. 企業活動: 経営・組織、OR・IE、会計・財務
2. 法務(1): 知的財産権、労働関連法規・取引関連法規
3. 法務(2): ガイドライン・技術者倫理、標準化
4. 経営戦略マネジメント(1): 経営戦略手法・経営分析手法、ビジネス戦略
5. 経営戦略マネジメント(2): 経営管理システム、技術戦略マネジメント
6. ビジネスインダストリ: ビジネスシステム、エンジニアリングシステム
7. 問題演習
8. 中間試験、前半のまとめ
9. システム戦略: 情報システム戦略、業務プロセス
10. システム企画: システム化計画、要件定義、調達計画・実施
11. 開発技術: システム開発技術、ソフトウェア開発管理技術
12. プロジェクトマネジメント
13. サービスマネジメント、システム監査
14. 後半のまとめ、問題演習
15. 試験

この授業では、「情報スキルI」「情報スキルII」「情報スキルIII」で習得した知識が必要になる。

また、ITパスポート試験を受験する人は「資格取得スキルIa」も履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、中間試験(割合:40%)、学期末試験(割合:40%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

ITパスポート試験 対策テキスト&問題集 平成21年度版 (FOM出版)

090433009_0080 掲載順:0080

MCode:090106513_0100 ★

資格取得スキル II a (基本情報技術者試験対策)

戸谷英司

【授業の概要】

学習者の目標、能力の客観的評価、そして明日に「役立つもの」として「基本情報技術者試験」の合格を目標とする教育科目である。情報技術全般の基礎知識を活用し、高度な技術者を目指す者としての知識と実践的な活用能力を習得する。特に午前問題を中心に、基礎理論から開発技術に至る「テクノロジ系」、プロジェクトマネジメントやサービスマネジメントに関する「マネジメント系」、システム戦略や経営戦略などに関する「ストラテジ系」の幅広い知識を習得する。

【授業の目標】

情報分野における国家資格である基本情報技術者試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. 情報の基礎理論(1): データの表現と基数変換
2. 情報の基礎理論(2): 論理演算
3. ハードウェア(1): 動作原理、プロセッサの性能
4. ハードウェア(2): 記憶素子、補助記憶装置
5. ソフトウェア(1): OS、ジョブ管理とタスク管理
6. ソフトウェア(2): 実記憶管理、仮想記憶システム、プログラム言語
7. ファイルとデータベース(1): ファイル編成とデータベースの正規化
8. ファイルとデータベース(2): DBMS、SQL
9. 通信ネットワーク(1): 通信の仕組み
10. 通信ネットワーク(2): プロトコル、LAN、アクセス制御方式
11. システム開発(1): 開発手法、外部設計、内部設計、プログラム設計
12. システム開発(2): テスト技法、オブジェクト指向、信頼性設計
13. セキュリティ、情報化と経営
14. データ構造とアルゴリズム
15. 試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

また、基本情報技術者試験を受験する人は「資格取得スキルIb」も履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

基本情報技術者合格教本 (技術評論社)

【参考文献・資料】

基本情報技術者予想問題集 (アイテック)

資格取得スキル II b (基本情報技術者試験対策)

戸谷英司

【授業の概要】

学習者の目標、能力の客観的評価、そして明日に「役立つもの」として「基本情報技術者試験」の合格を目標とする教育科目である。特に午後問題を中心に、テクノロジ系やマネジメント系、ストラテジ系についての応用問題に取り組み、データ構造、アルゴリズム、プログラム言語や表計算に関する問題を通して、論理的思考力と実務能力を養う。

【授業の目標】

情報分野における国家資格である基本情報技術者試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. ハードウェア
2. ソフトウェア
3. アルゴリズム(1): 整列・探索、配列処理
4. アルゴリズム(2): 文字列操作、擬似言語
5. プログラム開発: テスト手法
6. データベース: SQL、排他制御
7. 通信ネットワーク
8. 情報処理技術: 在庫管理、日程計画
9. プログラム設計(1): システム開発手順、仕様分析方法
10. プログラム設計(2): コード設計、画面設計、データ設計
11. プログラム言語
12. 過去問題対策(1)
13. 過去問題対策(2)
14. まとめ
15. 試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

また、基本情報技術者試験を受験する人は「資格取得スキルIIa」も履修することが望ましい。

【評価方法】

出席状況(割合:20%)、課題提出(割合:30%)、学期末試験(割合:50%)によって総合評価を行う。

【テキスト】

基本情報技術者合格教本 (技術評論社)

【参考文献・資料】

基本情報技術者予想問題集 (アイテック)

CGクリエイティングコース I (CGクリエイター検定Webデザイン部門2級試験対策)

伊藤吉樹

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門2級」の合格を目標とする教育科目である。2級問題は、「CGクリエイター検定3級」レベルのCGに関する総合的な知識の他に、コンセプトメイキングから運用に至る全工程の知識が必要とされるため、Webデザインや音の利用に関するWeb制作に必要な知識を体系的に学ぶ。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門3級合格者やそれに準ずる者を対象に、CGクリエイター検定Webデザイン部門2級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. Webデザインへのアプローチ (Webサイト制作の流れ)
 2. コンセプトメイキング (Webサイトの種類とコンセプト)
 3. コンセプトメイキング (Web2.0、情報メディアについて)
 4. 情報の構造 (情報の収集・分類、組織化、Webサイト構造)
 5. ページデザイン (レイアウト、タイポグラフィ)
 6. ページデザイン (グラフィックス、カラーコーディネート)
 7. ナビゲーション (ユーザインターフェース、ナビゲーションデザインの手法)
 8. 動きと音の効果 (動きの技法と表現、音の演出)
 9. Webサイトを実現する技術 (技術の基礎、Webサイト上の機能)
 10. Webサイトを実現する技術 (Web制作の言語、バックエンドで活用する技術)
 11. Webサイトのテストと運用 (Webサイトのテスト、Web解析)
 12. Webサイトのテストと運用 (Webサイトの運用とリニューアル)
 13. 知的財産権、過去出題問題の検証と分析
 14. まとめ
 15. 試験
- ※14回目のまとめと15回目の試験は入れ替わる場合があります。

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。
特に「CGクリエイティングコースII」を履修予定の学生は必ず受講する。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

Webデザイン：コンセプトメイキングから運用まで 改訂版 (CG-ARTS協会)

【参考文献・資料】

ハイパーメディアデザイン：Webページのための情報のデザイン (CG-ARTS協会)
Webデザイナー検定2級・3級問題集 (CG-ARTS協会)

CGクリエイティングコース II (CGクリエイター検定Webデザイン部門1級試験対策)

伊藤吉樹

【授業の概要】

「CGクリエイター検定Webデザイン部門1級」の合格を目標とする教育科目である。1級問題は、Web設計とWebデザインの高度な専門知識の他に、企画立案とWebデザインの具体化に関する問題解決能力が必要とされるため、自ら発案するテーマに基づいたWeb制作の実習を行う。

【授業の目標】

CGクリエイター検定Webデザイン部門1級の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. Webデザインを始める前に：企画提案とコンセプトメイキング
2. グローバルナビゲーションのデザイン
3. ビットマップ画像の選択と抽出、編集・加工
4. フォトレタッチとフィルタや効果による高度な表現
5. ベクターグラフィックスのデザイン：
ロゴ作成、ピクトグラム・地図の作成
6. スライスと最適化：Web画像の切り分けと書き出し
7. 課題制作：レイアウトデザイン
8. 基本コーディング：HTMLの基本タグとリンク
9. XHTMLとマークアップ：グルーピングと画像リンク
10. CSSの基本記述ルールとボックスモデル
11. CSSとXHTMLによるページレイアウト
12. JavaScriptによる動的表現：Flashによる動的表現
13. 総合課題制作：コンテンツ構築、デザイン
14. 総合課題制作：コーディング、アップロード、講評
15. 試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況、課題提出、学期末試験によって総合評価を行う。

【テキスト】

3週間でマスター Webデザインの教室 (ソシム)

【参考文献・資料】

詳解 HTML & XHTML & CSS辞典 (秀和システム)
詳解 JavaScript & DynamicHTML辞典 Ajax対応 (秀和システム)

システム管理者コース II (ソフトウェア開発技術者試験対策)

戸谷英司

【授業の概要】

「応用情報技術者試験 (旧 ソフトウェア開発技術者試験)」の合格を目標とする教育科目である。応用情報技術者として、高品質なソフトウェアを開発するための知識を習得する。ネットワーク、データベースの全般的知識と実装技術、内部設計書やプログラム設計書の作成、テスト実施における指導能力について学ぶ。

【授業の目標】

応用情報技術者試験の資格取得を目指す。

【授業計画】

1. コンピュータ科学基礎上級 (情報の基礎理論)
2. アルゴリズムとプログラミング (データ構造、探索、整列)
3. コンピュータシステム (ハードウェア)
4. コンピュータシステム (ソフトウェア、プログラム言語)
5. システム構成要素 (集中・分散、構成、評価、信頼性、待ち行列)
6. システム開発と運用 (システム開発手法とプロセスモデル)
7. データベース (関係データベースの基礎)
8. データベース (SQLとデータベース設計)
9. ネットワーク (通信技術、プロトコル、インターネット)
10. セキュリティと標準化 (暗号化と認証、コンピュータウイルス、リスク対策)
11. マネジメント (工程管理、システム運用)
12. ストラテジ (経営戦略・経営工学、会計、関連法規・標準化)
13. 過去出題問題対策
14. 過去出題問題対策
15. 試験

この授業を履修する際には、履修条件を確認すること。

【評価方法】

出席状況 (割合:20%)、課題提出 (割合:30%)、学期末試験 (割合:50%) によって総合評価を行う。

【テキスト】

授業前に掲示で指示する。

【参考文献・資料】

応用情報技術者 合格教本 (大滝みや子、岡嶋裕史著 技術評論社)
情報処理教科書 応用情報技術者 (日高哲郎著 翔泳社)
応用情報技術者 予想問題集 (アイテック情報技術教育研究部編著 アイテック)

教職入門

後口伊志樹

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

「学制」公布に始まる学校教育制度の歴史的推移を概観し、今日の学校教育が抱える諸課題について理解を深めるとともに、教育の重要性と教師の役割の重大さを知ることによって学生自らが「教師としての適性」を見極める機会を提供する。

【授業計画】

- 1 教育とは何か
- 2 日本における近代学校教育制度の変遷
 - (1) 第一の教育改革
 - (2) 第二の教育改革
 - (3) 第三の教育改革
- 3 教師に求められる資質能力とは何か
 - (1) いつの時代にも求められる資質能力
 - (2) 今後特に求められる資質能力
- 4 教師の資質能力にかかる形成諸段階
 - (1) 養成段階（戦前・戦後の教員養成）
 - (2) 採用段階
 - (3) 現職研修段階
 - ・ 法的根拠
 - ・ 研修の種類
- 5 教職員の職種・職務
- 6 教員の日・一学期・一年の仕事
- 7 今日的教育問題をテーマにグループ討論

【評価方法】

期末試験、授業コメント・カード、グループ討論評価表、出席率を総合して評価する。

【参考文献・資料】

授業時に参考文献の紹介とともに資料プリントを配布する。

090433510_0030 掲載順 : 0030

MCode: 090107014_0040 ★

教職入門

小栗正彦

【授業の概要】

本講義は、教員という職業がどのような意義を持っているのか、学校での教師の職務と役割がどのようなものであるかを、学生の被教育体験を生かしながら具体的に解説する。職務の個々の内容について、現在の中学高校の実態を踏まえて詳説する。その上で、今日の学校が抱えている問題解決の方途を、中教審などの答申から学び、求められている教師像を明らかにすることによって教職につくかどうか、自らの適性を見極めて決定する情報と機会を提供したい。

【授業の目標】

現在の教育現場で、教師や生徒たちが置かれている状況を知ることによって、学生自らが「教師としての適性」を見極めるための機会を提供したい。

【授業計画】

- 第1・2時間 教師になるためには（教職課程ガイダンス）
 - ・ レポートの書き方
 - ・ 教師に求められる資質・能力
 - ・ 戦前、戦後の教師像
- 第3時間 学校をとりまくしくみ（教育行政のあり方）
 - ・ 国や地方公共団体が「教育」にどう関わっているのか
 - ・ いろいろな学校
- 第4・5・6時間 「学校」をとりまく諸問題
 - ・ いじめ問題
 - ・ 「新しい荒れ」（生徒をとりまく状況）と学校現場（学級崩壊）
 - ・ 教師の生活
 - ・ 「外国語」の小学校必修化問題について
- 第7時間 愛知の教育について
- 第8・9・10時間 学習指導要領とは
 - ・ その思想、歴史と現行教育課程の問題点
 - ・ カリキュラム・メイキング
- 第11時間 学習指導とは（進路指導との関連で）
 - ・ 生徒のためのよりよい勉強法（「学び」のモチベーションをどうやって高めるか）
- 第12時間 青年期とはどんな時代なのか
- 第13時間 先生になろう（ビデオ「桜の花の咲く頃」鑑賞）
- 第14時間 先生になるために最低限、読んでほしい本の紹介
- 第15時間（最終回） 試験

【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

講義ノート

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

090433510_0040 掲載順 : 0040

MCode: 090107014_0472 ★

教師論

大久保義男

【授業の概要】

日本における明治維新以降の教員養成制度について、教員免許・資格、教員に求められるべき資質等の歴史を学習する。

多様化と個性化、国際化、情報化、高学歴化等の現代社会の急激な社会変化の中において期待される教員像を求め、学生の被教育体験を交えて模索することによって、教職への理解を深め、目的意識をもって教職への道を歩む人材の育成を目指す。

【授業の目標】

学校教育における教師の役割について考えるとともに、学校を取り巻く諸課題を整理しながら今後の学校教育の在り方や教師像について展望する。

【授業計画】

- 1 教職の意義と教師の役割
- 2 教育基本法の趣旨
- 3 中学校・高等学校の目的・目標
- 4 学校教育の歴史
- 5 答申類に見る我が国の教育施策
- 6 愛知県の教育施策
- 7 教育をめぐる現代的な諸課題
 - (1) 青少年の心理と生徒理解
 - (2) 問題行動・不登校・いじめ・児童虐待・薬物乱用
 - (3) 人権教育・同和問題
 - (4) 障害児教育
 - (5) 情報教育・国際理解教育・環境教育・消費者教育
 - (6) 生涯学習・社会教育
- 8 魅力ある学校づくり
 - (1) 学校評価と開かれた学校づくり
 - (2) 教員評価と学校組織の活性化
 - (3) 危機管理・説明責任

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況、考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

使用しない。必要に応じて資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育原理

渡辺かよ子

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

- ・ 教育を受けるという立場だけでなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場で教育をするという視点から学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
- ・ 教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】

1. 教育とは何か
2. 人間と教育
 - 動物学からみた人間の特殊性/人間の成長と環境/教育の重要性/人間形成の場
3. 教育の本質
 - 注入主義（ソフィスト～本質主義）/開発主義（ソクラテス～進歩主義）
4. 教育の目的
 - 教育目的とは/教育目的の歴史的変遷（古代ギリシャ～現代）
5. 現代の教育

【評価方法】

授業内レポートとテスト。

【テキスト】

使用しない。

【参考文献・資料】

国家（プラトン著 岩波書店）
世界図説（コメニウス著 平凡社）
エミール（ルソー著 岩波書店）
学校と社会（デュイ著 岩波書店）
被抑圧者の教育学（フレイレ著 亜紀書房）

教育原理

植村広美

【授業の概要】

高等教育機関への高い進学率を誇っている日本では、教育といえば学校教育を思い浮かべることが多いであろう。しかし、学校教育を受けるのは、人生の一時期にしかすぎない。しかも学校教育をめぐる様々な問題が生じている今日、学校とは何か、教育とは何か、そのあるべき姿を真剣に考える必要がある。

本講義では、教育の歴史及び教育思想から現在の教育問題まで幅広く紹介する中で、教育の本質と目的を中心に教育とは何かを考察していく。

【授業の目標】

- ・教育を受けるという立場だけではなく、教職課程を履修し教職をめざすという立場、すなわち教育をするという視点から、学校とは何か、教育とは何かを考え理解すること。
- ・教育についての様々な考え方や実践を理解すること。

【授業計画】

学問としての教育学の性格、歴史、現代的な課題についていろいろな視点から理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

【評価方法】

出席、レポート、筆記試験により評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

教育心理学 I

小池理穂

【授業の概要】

中学・高校生についての理解を深めるために乳幼児期から青年期までの発達の姿を概観し、発達課題について考えると共に、障害児への理解を通して発達の可能性について考えていく。その上で、教育を受ける側と教育する側との相互の人間関係の中で展開される「教育」の営みについて、学習のメカニズムや動機づけの理論を通して考え、心理学的知見を実践の中に生かしていくことを目的としたい。

【授業の目標】

教育に対して、教育心理学が求められている点、教育心理学が担っている役割、提供できる知識・技術を理解する。その上で、自己を見つめ、自分の教育観を考える。

【授業計画】

1. 教育心理学を学ぶということ
 - ・教育の機能と教育心理学の位置づけ
2. 発達について考える
 - ・生涯発達の視点
 - ・障害の意味と発達可能性
 - ・発達段階と発達課題
 - ・認知の発達
3. 学習の過程を考える
 - ・学習の成立過程
 - ・学習における知識の役割
 - ・学習意欲を育てる

外発的動機づけと内発的動機づけ/原因帰属をめぐる/知的好奇心の喚起/報酬の意味/目標のありかた

【評価方法】

筆記試験またはレポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育思想史

梅村敏郎

【授業の概要】

教育は、人間の本質的な営みの一つであって、既に古代から哲学者や思想家の考察の対象となってきた。これらの思想は、思想家たちが生きた時代や文化の主要な潮流や思想家自身の思考方法の特徴によって極めて多様な思想や理論が形成された。

この授業では、古代から現代まで各時代を代表するような偉大な教育思想を時代順に辿るのではなく、現代の教育についての基本的な考え方や主要な概念に直接的な影響を与え、そのため現代教育と直接的なつながりを持つと思われる17世紀のコメニウスを出発点として、それ以後今日に至るまで最も重要と考えられてきた教育者たちの思想を取り上げる。

その際、学生はそれらの思想についての他人の解釈や解説を聴くことも必要ではあろうが、むしろそれらの思想と直接に対決することがより大切である。

専門的な研究者にとっては、それらの思想はそれが書かれた元の言語で読まれるべきであろうが、初歩の学生は先ずそれらの書物の良い日本語訳によって、これらの思想に直接触れることが必要である。

【授業の目標】

17世紀以来の西洋の代表的な教育思想家が現代教育にどのような影響を及ぼしたかを調べることによって、現代教育の思想的基盤について一層の理解を得ることを目標とする。

【授業計画】

1. 教育思想史を勉強することの意義
2. 教育思想史を17世紀から取り扱う理由
3. コメニウス
4. ルソー
5. ペスタロッチ
6. ヘルバルト
7. フレーベル
8. デューイ
9. 教育思想と教育実践

【評価方法】

評価は資料持ち込み自由の筆答試験による。

【テキスト】

事前に授業内容を要約したプリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献は授業中に適宜紹介する。

教育心理学 II

富安玲子

【授業の概要】

人間を発達可能性のある存在として生涯発達の視点から考えながら、一人ひとりが自分の教育観・発達観の基礎づくりをすることを目的にしたい。自己意識の発達などのプロセスを辿りながら、教育的働きかけとの関わりを考え、今日的課題への理解を深めていきたい。

【授業の目標】

自己形成のプロセスへの関心を深め、生徒及び自分自身の理解を促進すること。

【授業計画】

1. 発達の心理学を学ぶ/発達の心理学から学ぶ
2. 青年期の意味
3. 発達と教育
4. 「自分」の諸相
5. 「自分でない」世界の認識から
6. 第一「反抗」期の意味
7. 自我と他我
8. 9. 他律的規範への順応
10. 11. 第二の誕生
12. 13. アイデンティティの確立
14. 生涯発達の視点と生き方
15. 自分探し(自分育て)の旅と人間関係

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

障害児の教育

小塩允護

【授業の概要】

特殊教育から特別支援教育へと移行し、障害のある児童生徒への指導が従来の特殊教育諸学校や特殊学級等から、通常の学級に在籍する障害のある児童生徒に対しても指導の場が拡大されてきた。このことから、今後教職に就く者が障害のある児童生徒の教育に対しても広く学ぶ必要性が生じ、障害のある児童生徒の理解を深めていくことが大切である。

【授業の目標】

過去及び現在の特別支援教育の仕組みを理解するとともに、それぞれの障害の特性を理解し、個々の特別な教育的ニーズに応じるために学校教育では、どのように指導・支援する必要があるかを概略把握する。

【授業計画】

- 1 特殊教育から特別支援教育への転換
- 2 障害のある児童生徒の教育の現状
特別支援学校における教育
小・中学校等における障害のある児童生徒の教育
- 3 障害の理解
- 4 各種障害の特性と理解

【評価方法】

出席状況・授業中の学習態度・期末試験等の成績により総合的に評価する。

【テキスト】

テキストは使用せず、資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

教育制度

植村広美

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

教育制度の変遷の歴史、特徴、今日的な課題について理解すること。(詳細は授業にて説明する。)

【授業計画】

- 1 学校教育制度の原理
- 2 学校教育制度の変遷
- 3 学校教育制度の比較
- 4 日本の学校教育制度
- 5 現代の学校教育制度

【評価方法】

出席、レポート、筆記試験により評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に紹介する。

教育制度

佐藤実芳

【授業の概要】

社会の変化にともなう学校の誕生や変化に基づき、社会において学校教育が果たしてきた役割について考えるとともに、学校教育制度の類型的比較及び学校教育制度の歴史の変遷から、学校教育制度の基本的な事項を理解する。さらに、学校経営や教育行政に関する規定がある教育法規を取り上げ、現在の日本の教育制度の特徴を考察していく。

【授業の目標】

- ・教育制度の基本的な事項について理解すること。
- ・日本の学校教育制度の歴史の変遷について理解すること。
- ・現在の日本の教育制度について、教育法規に基づいて理解すること。

【授業計画】

- 1 教育制度の意義
- 2 現代学校教育制度の起源
- 3 学校教育制度の類型
- 4 日本の学校教育制度の変遷
- 5 教育法規と学校教育
- 6 教育行政制度
- 7 諸外国の教育制度

【評価方法】

出席状況 10% 課題の提出 20% 定期試験 70%

【テキスト】

資料を配布する。

【参考文献・資料】

授業の中で必要に応じて紹介する。

学級経営

前田勝洋

【授業の概要】

学級崩壊、担任不信等学校を取り巻く教育環境が問題となっている今日の教育状況を正しく理解し、学級担任として、どのように生徒に接したらよいか、どのようにして生徒の信頼を回復するのか探求するとともに、楽しい、生き生きとした学級作りを具体的な事例から求めて行きたい。

【授業の目標】

教師の資質の一つである「学級経営」の進め方の方法を、具体的な事例研究によって、実証的に学ぶことをめざす。

【授業計画】

小学校、中学校の学級経営事例に学びながら、教師の資質向上を図る方策を探っていきたい。

- (1) 学級づくりと学級こわしの関係
- (2) 生徒理解と学級担任の役割
- (3) 共感的学級経営の実践
- (4) 成就型教育観と参加型教育観
- (5) 学級担任と言葉の問題
- (6) カルテ（個人記録）と一人ひとりを生かす経営

以上のような視点を軸にしなが、互いに事例について意見交換を行うなど、担任教師としての資質を磨きたい。

【評価方法】

毎回の受講感想レポートと「事例に対する意見記述」を中心に行いたい。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

教育課程

後口伊志樹

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の変遷を学ぶことによって、「生きる力」と「確かな学力」の一層の充実を目指す現行学習指導要領が生み出されてきた時代背景と今後の進展について理解するとともに、教育課程編成の理論と実際についても論考する。

【授業計画】

- 1 教育課程とは
 - (1) 教育課程研究の重要性
 - (2) 教育課程を考えるいくつかの視点
 - (3) 教育課程の編成原理
- 2 教育課程の歴史の変遷
 - (1) 戦前の教育課程
 - (2) 戦後の教育課程
 - ア 学習指導要領第一次改訂
 - イ 学習指導要領第二次改訂
 - ウ 学習指導要領第三次改訂
 - エ 学習指導要領第四次改訂
 - オ 学習指導要領第五次改訂
 - カ 学習指導要領第六次改訂
 - キ 学習指導要領第七次改訂
- 3 現行学習指導要領総則編(小・中・高)
- 4 現行教育課程の事例検討(小・中・高)
- 5 教育課程編成の構成要件と生徒・学校の実態
- 6 教育課程にかかる今日的課題をテーマにグループ討論

【評価方法】

期末試験、授業コメント・カード、グループ討論評価表、出席率を総合して評価する。

【参考文献・資料】

授業時に参考文献の紹介とともに資料プリントを配布する。

商業科教育法 I

宮部幸雄

【授業の概要】

高等学校学習指導要領の改訂の趣旨とその内容を学習し、教科指導に必要な基本的な知識と技法を指導する。

【授業の目標】

新しい学習指導要領について理解を求めるとともに、具体的な学習計画の立案、実施などの経験的学習を通して、商業科の教師としての基礎的資質を身につける。

【授業計画】

- 1 学習指導要領と商業教育
 - (1) 学習指導要領の性格及び構成
 - (2) 商業の目標・組織・学科
- 2 教育課程の編成
- 3 指導計画の作成と内容の取扱い
年間指導計画・学習指導案の作成
- 4 各科目の内容とねらい
「ビジネス基礎」「課題研究」「総合実践」
- 5 授業の具体的展開
教材作成、AV機器の利用、学習評価、副教材の活用

【評価方法】

出席状況、レポートの提出、試験等の結果を総合的に評価します。

【テキスト】

商業科教育法 (吉野弘一 著 実教出版株式会社)

教育課程

小栗正彦

【授業の概要】

特定の発達段階にいる子どもを対象として、各レベルの学校がその教育目的・目標を十分に達成するために、子どもにどの種の教科・教材をどのように学習させるか、またどの種の活動をどう体験させるかについての全体的な教育計画である教育課程(カリキュラム)について学習する。

なお、各学校が教育課程を編成する場合に、広範な人間の文化領域のなかから、子どもが学習・体験すべき内容・要件を選択し組織化する原理が何であるかという問題についても焦点をあてる。

【授業の目標】

教育課程の歩みを学ぶことの中から、どのようにして「ゆとり」と「生きる力」を目指した、1998年の「新教育課程」が生み出されてきたかを理解できるようにする。また、教育課程を編成する難しさを体験させる。

【授業計画】

- | | |
|----------|--|
| 第1時限 | 講義に関する諸注意
講義の進め方と評価に関する注意、アンケートの実施 |
| 第2・3時限 | 「教育課程」とは何か |
| 第4時限 | わが国の教育課程改革の歴史(戦前) |
| 第5・6時限 | 世界の教育課程改革の歴史(20世紀以降)
特にアメリカにおける教育課程に関する考え方の変遷 |
| 第7・8・9時限 | わが国における教育課程改革の歴史(戦後)
・学習指導要領の変遷史 |
| 第10時限 | 現行の学習指導要領の成立と問題点
・いわゆる「学力低下」論争、その他について |
| 第11時限 | 教育課程(カリキュラム)を編成する
(高等学校…現行学習指導要領) |
| 第12時限 | 小学校における「外国語」の授業について |
| 第13時限 | 学びのモチベーションを高める授業とは |
| 第14時限 | 諸外国における学校制度と教育課程
・アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ、中国 |
| 第15時限 | 試験 |

【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

小栗「講義ノート」

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

商業科教育法 II

宮部幸雄

【授業の概要】

商業科教育も国際化、情報化、サービス経済化の進展に対応しその内容が変化してきた現実をふまえ、各科目群の教育目標とその具体的な展開について学習し、教科指導に必要な知識や指導技術の向上を図る。

【授業の目標】

「商業科教育法I」に引き続き、商業の各分野に関する基礎的・基本的な科目を具体的な学習指導計画に基づいた模擬授業のあり方を中心に学習を進め、あわせて「将来のスペシャリストとして必要な専門性の基礎・基本」について理解を深める中で、教職の使命とその特殊性・専門性について自覚を促す。

【授業計画】

- 1 学習指導と評価
 - (1) 学習指導の一般原則
 - (2) 学習指導の形態と方法
 - (3) 商業教科の評価
- 2 各科目の内容とねらい
流通ビジネス科目群、国際経済科目群、簿記会計科目群、経営情報科目群
- 3 資格取得指導の現状と課題
- 4 商業高校における進路指導の視点 進学・就職
- 5 商業教育の将来

【評価方法】

出席状況、レポートの提出、試験等の結果を総合的に評価します。

【テキスト】

商業科教育法 (吉野弘一 著 実教出版株式会社)

情報科教育法 I

石黒昭吉

【授業の概要】

本授業においては、高度情報化社会における学校教育における情報科教育の意義、役割を認識し、情報科の学習指導要領に示された教育の目的を理解するとともに、情報科担当者に要求される教育目標達成に必要な基礎的な知識、技能について実習を織りまぜながら学習する。授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

教育実習に参加する学生がある場合には、授業計画を変更することがある。

【授業の目標】

高等学校での普通教科「情報」の目標・学習内容・指導方法の概要を理解し、情報科教員として必要となるミニマムエッセンシャルズとしての知識・技能を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 情報科教育の史的展開と意義について概観する
- 3 高度情報化社会における情報倫理、セキュリティ等について
- 4 コンピュータ及び情報に関する基本的な知識・技能について
- 5 普通教科「情報」に関する目標・学習内容・指導方法の概要
 - (1) 科目「社会と情報」の目標・学習内容・指導方法について
 - (2) 科目「情報の科学」の目標・学習内容・指導方法について
- 6 普通教科「情報」に関する学習内容の発表

【評価方法】

出席状況、提出された報告書、発表等により総合的に評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省 開隆堂出版）

【参考文献・資料】

随時紹介する。

道徳指導法

伊藤昭道

【授業の概要】

道徳とはなにか、わが国の道徳教育の基盤、義務教育における道徳教育の在り方を探求する。その上で、今日の道徳教育に至るまでの歴史の変遷を学び、さらに道徳性の発達理論を考察する。また、道徳指導の実際についての具体例をとりあげ、その理解を深める。

【授業の目標】

道徳教育の必要性を理解すると共に、将来教育現場で「道徳」の時間の指導や道徳教育を行う上で必要な知識や指導法を習得することをめざす。併せて教育実習で「道徳の時間」の指導が適切に行えるようにする。

【授業計画】

- 1 道徳と道徳教育
 - ・道徳と倫理
 - ・道徳教育思想の展開
- 2 道徳教育の現状と課題
- 3 道徳性の発達に関する理論
- 4 学校における道徳教育の実際
 - ・道徳教育の目標
 - ・道徳教育の内容
 - ・「道徳の時間」の指導計画、指導案の作成
 - ・「道徳の時間」の指導の実際
- 5 道徳教育の歴史
 - ・学制公布前後から昭和20年終戦に至る修身教育の変遷
 - ・戦後の道徳教育の展開
- 6 まとめとテスト

【評価方法】

学期末試験の成績に、毎時間の出席状況、授業中の態度、課したレポート内容を加味して総合的に評価する。

【テキスト】

講義資料を配布。

【参考文献・資料】

中学校学習指導要領（文部省 平成10年）
史料 道徳教育を考える（浪本勝年他編 北樹出版 他）

情報科教育法 II

石黒昭吉

【授業の概要】

本授業においては、情報科教育法Iにおいて学習した事項について、授業者として、実際の学校の授業でどのように展開するかを学習することを目的として、効果的な授業を実施するために必要な、学習指導案、教材・教具の開発と活用、教育方法について、授業計画の作成と模擬授業を行ない実践的な学習を実施する。

授業はすべてコンピュータ実習室で行なう。

【授業の目標】

専門教科「情報」の13科目についてその概要を理解する。教育実習生および新任教師として、教科「情報」の授業をするための基礎的能力を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- 1 オリエンテーション
- 2 専門教科「情報」とは何か
- 3 専門教科「情報」に関する目標・学習内容・指導方法の概要
- 4 普通教科「情報」の授業の展開
 - (1) 「社会と情報」の授業計画の立案、学習指導案の作成・模擬授業の実施
 - (2) 「情報の科学」の授業計画の立案、学習指導案の作成・模擬授業の実施
- 5 専門教科「情報」の科目「課題研究」の教材収集・開発

【評価方法】

出席状況、提出された課題、指導案とそれに基づく模擬授業等により総合的に評価する。

【テキスト】

高等学校学習指導要領解説（情報編）（文部省 開隆堂出版）
（前期と同じテキストです。）

【参考文献・資料】

随時紹介する。

特別活動指導法

不破民由

【授業の概要】

中学校・高等学校の特別活動の変遷とその具体的な活動として学級活動、ホームルーム活動、生徒会活動、学校行事についての指導法を考察、演習する。

そのなかで望ましい人間関係、基本的な生活習慣の形成を通して個人及び社会の一員としての在り方、生き方に関する指導の充実を図ることを学習目標とする。

【授業の目標】

特別活動を歴史的・国際的に比較し、相対的に考えることができるようにする。

「読書タイム」や話し合いなどを通じ実践的に特別活動を考察する。

【授業計画】

1. 自由度の高い特別活動の可能性…学習活動や生徒指導とのかかわりとともに、特別活動の独自の価値を考える。
2. 特別活動の歴史の変遷…「どくとるマンボウ青春記」や森有礼を事例として近代日本の特別活動の変遷を具体的にイメージする。
3. 学級活動…閉鎖的な空間であることによる団結力の向上というプラス面と、逃げられない息苦しさというマイナス面を考察する。
4. 生徒会活動…特に、「校則」の見直しを考察し、日常生活における生徒会活動の活性化を重点化して考察する。
5. 学校行事…学校行事の精選化の流れの中で、必要な学校行事とその取り組み方、計画方法を工夫する

【評価方法】

2回のレポートを中心に評価する。普段の授業の参加状況を参考にします。

【テキスト】

どくとるマンボウ青春記（北杜夫 新潮文庫）

【参考文献・資料】

特別活動（高旗正人・倉田侃司編著 ミネルヴァ書房）
<学級>の歴史学（柳治男 講談社選書メチエ）
運動会と日本近代（吉見俊哉他編 青弓社） 他

教育方法

前田勝洋

【授業の概要】

今日親も教員も子供の本当の姿が見えなくなり、確かな指導の手だてが見出せず苦悩している。この現状を打破するためには、子供の理解を深め、子供の立場に立って教材を開発し、教育方法を構築し、実践する力量が求められている。

テキストを中心に、ビデオ教材、学生同士の討議を加えた参加型授業形態で行い、教員としての教育的力量を培う教育方法を解明したい。

【授業の目標】

具体的な小中高等学校の授業を検討することを中心としながら、教育方法の理解に努め、授業実践のワザの習得をめざして、教員としての資質を磨く。

【授業計画】

1. 人間回復の学力と教師の在り方
 - (1) 中学・高校における学力論と教師論の検討
 - (2) 生徒の思考の発展を目指す授業方法
 - (3) 生徒の自主的な学習を育てる学習指導法
 - (4) 生徒の側に立った学習指導技術
2. 情報機器及び教材の活用方法
 - (1) 情報機器の特色とその効果的な活用方法
 - (2) 視聴覚教材の特色とその効果的な活用方法
 - (3) メディアの進歩と新しいリテラシーの育成方法
3. 学習者にとって個を生かす学習集団とは
 - (1) 多様化した生徒への対応の仕方
 - (2) 中学校における個を生かす学習集団
 - (3) 高等学校における個を生かす学習集団

【評価方法】

学生の積極的な授業参加と毎時提出するミニレポート、期末に行う論文試験等によって評価する。

【テキスト】

後日、必要に応じて採用し、活用する。

生徒指導（進路指導を含む）

内藤春彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。

進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

学校が抱えている今日的課題の認識とその対応策の学習・実践を行い、それをもって21世紀社会を担う青少年の健全育成に携わることが出来る人間観のある教員の養成を図りたい。

【授業計画】

- 1 学校が抱えている今日的課題とその対応策
 - (1) 学校教育の現状と望ましい学校づくり
 - (2) さまざまな不応対に対する生徒指導の在り方
- 2 生徒指導の在り方
 - (1) 生徒指導の考え方と指導体制
 - (2) 生徒指導の法律問題
 - (3) 生徒の問題行動
 - (4) 非行少年の補導と処遇
 - (5) 青少年の健全育成と生徒指導関係機関
 - (6) 進路指導-1 (7) 進路指導-2
- 3 人間観の追求
 - (1) アブラハム・マズローの「自己実現の欲求」
 - (2) サムエル・ウルマンの「青春とは」
 - (3) 宮沢賢治の「雨ニモマケズ」
- 4 学校における教育相談の課題と展望
- 5 生きる力を養うソーシャルスキルトレーニングの実践

【評価方法】

メッセージ交換カード、期末考査及び出席状況等の総合的評価。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業時に、紹介または配付する。

生徒指導（進路指導を含む）

小栗正彦

【授業の概要】

生徒指導を管理監督、非行の防止といった消極的な視点からではなく、21世紀に生きる青少年の健全な育成を目指す。個人の尊厳と人格を尊重した生徒指導により生徒の生きる力を養う生徒指導の在り方を求める。進路指導においては、その理念及び目的を具体的に学習する。これらの学習をとおして、生徒指導にあたる教員の在り方及び人間観について具体的に指導する。

【授業の目標】

現在の生徒たちがおかれている状況を理解すると同時に、非行、いじめ、不登校、学級崩壊など深刻な教育問題にどのように対処すればよいかを学ばせたい。

【授業計画】

- | | |
|-------|---|
| 第1時限 | 講義の進め方と評価などについての注意
・アンケートの実施 |
| 第2時限 | 「生徒指導（進路指導を含む）」では何を学ぶのか
・「生徒指導（進路指導を含む）」の歴史と発展 |
| 第3時限 | 生徒指導の意義と課題 |
| 第4時限 | ・文部省「生徒指導の手引き（改訂版）」を読む
生徒指導（進路指導を含む）の歴史と発展
・アメリカ、日本の場合 |
| 第5時限 | 発達心理学（青年期の心理）
・子どもと大人の「境界」→「13歳論」 |
| 第6時限 | 生徒理解の方法と技術 |
| 第7時限 | いまの中学・高校生が育ってきた時代背景 |
| 第8時限 | いま学校で起こっていることども
・生徒の側から（いま中学・高校では）
生徒指導における数々の事例（法令との関わりで）
・校間問題（制服・茶髪染髪・バイクなど）
・「いじめ」と「不登校」
・学校事故（授業・クラブ活動での事故） |
| 第9時限 | 進路指導について
・学習のモチベーションを高めるために
ゲーム機やケータイと子どもたち |
| 第10時限 | ・いま「ニート」について（平成16年は「キャリア教育元年」）
懲戒と処分について（学校における「非行」対策との関わり）
・少年事件の手続き上の問題点（触法少年、虞犯少年、犯罪少年） |
| 第11時限 | ・学校に関する事例を特集したビデオを見る。
・学級崩壊とは（NHKの特集番組）
・最北の酪農高校で「桜の花の咲く頃」 |
| 最終回 | 試験 |

【評価方法】

課題の提出、出席状況、期末考査などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

小栗『講義ノート』

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

小池理穂

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。教育相談は生徒一人ひとりに関心をもつところから始まる。そこで生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えたい。また、傾聴の大切さを中心にして情報提供や助言の仕方なども含めた面接の進め方を学び、カウンセリングの基礎知識も併せて学んでいく。

【授業の目標】

1. 学校場面で起こる問題の受け取り方や、意味、対応を考える。
2. 教育相談とは何かを考え、自己との対話を進めながら理解を深める。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 教師と生徒の人間関係
 - ・「自分」は他者との関係の中で育つ
 - ・教師-生徒の相互影響過程
 - ・生徒理解
3. 教育相談
 - ・学校における教育相談
教育相談の位置づけ、教育相談の特質
 - ・教育相談の進め方
カウンセリングの基礎
4. 学校という生活環境と適応
 - ・適応と不適応
 - ・問題行動のとらえ方とその対応
 - ・学校への不適応を考える
 - ・非行・いじめを考える

【評価方法】

レポートに加えて、授業への参加関与度を考慮する。

【テキスト】

使用せず。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育相談（カウンセリングを含む）

中野靖彦

【授業の概要】

教育相談の役割が認識されるようになった背景からその必要性を考え、教育相談への理解を深めて実践につなげていきたい。生徒理解のあり方や不適応行動への対応について考えるとともに、カウンセリングの基礎知識を学ぶ。

【授業の目標】

生徒の立場に立った生徒一教師関係のあり方を考えながら、人との関わり、コミュニケーションの仕方の実際を学び、さまざまな視点からの柔軟な対応の必要性を体得すること。

【授業計画】

1. 今、なぜ「教育相談」「カウンセリング」か
2. 「自分」は他者との関係の中で育つ
3. 教師一生徒の相互影響過程
4. 生徒理解
5. 学校における教育相談
6. 教育相談の進め方
7. 相談とカウンセリング
8. 適応と不適応
9. 問題行動のとらえ方とその対応
10. 不登校を考える
11. いじめを考える
12. 非行を考える

【評価方法】

期末試験と授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

参考書として、中野著「鏡は先に笑わない」風媒社 を考えている。

総合演習

小栗正彦 伊藤昭道 後口伊志樹 楠元町子 佐藤成哉
佐藤実芳 中嶋真弓 坂東進 渡辺かよ子

【授業の概要】

社会構造や家族構造の変化する現代社会において、青少年をとりまく現実的な課題について分析及び検討することにより、総合的な見地に立って未来に生きる中学生、高校生をどのように教育するか、その方法を探究し、総合的な指導力を備えた教員の育成をめざし、次の9テーマに別れて演習を行なう。

- (1) ボランティア活動の在り方ー福祉との関連について（伊藤昭道）
- (2) 学校におけるクライシス・マネジメントの問題（後口伊志樹）
- (3) みんなの学校問題（小栗正彦）
- (4) 国際化と異文化理解（楠元町子）
- (5) 人間と自然環境（佐藤成哉）
- (6) 社会と子育て（佐藤実芳）
- (7) 情報化社会における読書（中嶋真弓）
- (8) 中高生の進路問題を考える（坂東進）
- (9) 生涯学習における学校（渡辺かよ子）

【授業の目標】

各課題に対して、自ら問題点を明らかにし、その解決に向けて調査・研究し、それを分かりやすく説明する（プレゼンテーション能力）スキルを学ぶ。

【授業計画】

- ※印は後期日程（於 星が丘）
1. 全体、各テーマ別 8月10日 ※1月27日
 - (1) 総合演習とは、これからのすすめ方
 - (2) 各テーマの概要説明、希望テーマ提出、テーマ別編成
 - (3) 各テーマ別に課題設定と学習法の指導
 2. 8月26日 ※2月16日
課題レポートの提出（必要部数の印刷）
 3. 各テーマ別 8月31日 ※2月19日
 - (1) 課題レポートについて報告、質疑応答
 4. 各テーマ別 9月4日 ※2月26日
 - (1) グループとして課題について整理、代表者の選出
 5. 全体 9月9日 ※3月3日
 - (1) グループ代表者の発表、担当教員の指導
 - (2) 感想文の作成と提出

【評価方法】

レポートと感想文、出席状況によって総合的に評価する。

カウンセリング

富安玲子

【授業の概要】

カウンセリングについてその歴史や理論に触れながら、カウンセリングの人間観や基本的態度について学んだ上で、実習による体験を通して共感的理解や傾聴の意味を考えていく。カウンセリング技法の実際についても学び、実際の人間関係の中で活かしていくことを目指したい。

【授業の目標】

「教育相談」での学習を更に進めて、実習を取り入れながら、「聴く」ことの意味と「聴く」人である自分について考えていくこと。

【授業計画】

1. 教育相談とカウンセリングを巡って
2. カウンセリングの歴史
3. カウンセリングの人間観
4. カウンセリングの理論
5. カウンセラーに必要な基本的態度・行動
6. 共感的理解のエクササイズ
7. 8. 正確に「聴く」とは
9. カウンセリングの実際例
10. 11. 話しやすさの源は聴き上手：かかわり技法
12. 13. 応答訓練
14. ロールプレイ
15. カウンセリングにおける諸問題

【評価方法】

期末試験、ロールプレイ・レポート、授業への出席・関与度による。

【テキスト】

テキストとしては使用しない。必要な資料等は授業時に配付する。

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

伊藤昭道

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護等体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

教育実習の内容・方法の理解、基礎的な指導技術の習得を図る。併せて、福祉施設、特別支援学校教育への理解を深め、教育実習および介護等体験履修上の心構えを確立する。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
 - ・前年度実習の様子
 - ・「先輩からの一言」
2. 教育実習の内容と方法
 - ・教育実習の領域
 - ・教育実習の方法
3. 教育実習記録の意義、書き方
4. 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の仕方
 - ・模擬授業の実施
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導
 - ・障害者・高齢者の理解、社会福祉施設等の種類と役割
 - ・特別支援学校教育の理解、障害児（者）介護への心構え
7. 介護体験事後指導
8. まとめとテスト

【評価方法】

毎時間の授業態度、課したレポート内容、期末試験の結果（実習・体験評価を参考）により総合的に評価する。

【テキスト】

教育実習指導 必要に応じて資料を配布。
介護体験事前指導『フィリア』（全国特殊学校長会編著 ジアース教育新社）

【参考文献・資料】

授業の中で紹介する。

教育実習指導（介護体験事前指導を含む）

宮部幸雄

【授業の概要】

教育実習前の指導として、学校教育全般にわたる基本的理解並びに教育実習の意義、実習生としての望ましい態度・技能を習得する。また、介護体験実習にむけて個人の尊厳、社会連帯の理念に関する認識を深めさせる。

【授業の目標】

1. 教師の勤務や業務について理解し、学校教育における教師の役割について、体験的、総合的に理解を深める。
2. 教師として、生徒の指導に必要な、より実際の専門的な知識と技能を習得する。
3. 教育実践上の研究方法や研究態度を習得する。

【授業計画】

1. 教育実習の意義と目的
2. 教育実習の内容と方法
3. 教育実習記録
4. 授業研究
 - ・教材研究、教具の意義
 - ・学習理解を深めるための発問・板書の活用方法
5. 教育実習についての全般的諸注意並びに事後指導
6. 介護体験事前指導・事後指導

【評価方法】

出席状況、レポートの提出、試験等の結果を総合的に評価します。

【テキスト】

教育実習を成功させよう 2009年版（小松喬生・次山信男編 一橋書店）

教育実習 I

伊藤昭道

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での3週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えらる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

実習校において、教師としての仕事を行う。

- 1.学級担任として
 - 朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
- 2.教科担任として
 - 前半では、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。後半では、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言を得て、授業をより充実させるよう努める。
- 3.特別活動として
 - 学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

『教育実習記録』を活用する。

教育実習 II

小栗正彦

【授業の概要】

教科に関する専門科目及び教職に関する専門科目で学習した成果を実践し、検証する機会である。

実習校での2週間の教育実習を通じて、教師という専門職としての自覚と誇りを高めるとともに、生徒から親愛と信頼の念をもって迎えらる実習生となるよう、努力と工夫をして3年間の成果を存分に発揮してほしい。

【授業の目標】

自らが体験した教育実習を通して現在の教育現場の状況と自らの教員としての適性を把握する。

【授業計画】

- 実習校において、教師としての仕事を行う。
- (1) 学級担任として
 - 朝の打合せ、STの諸連絡と生徒観察にはじまり、帰りの清掃指導にいたるまでの仕事内容を理解し、生徒指導にあたる。
 - また、道徳教育、総合的な学習の指導にあたるとともに学級事務を担当する。
 - (2) 教科担任として
 - 前半においては、指導教官の授業参観と授業案の作成及び教材の準備を行う。
 - 後半においては、授業案にもとづいて授業を実施し、指導教官の指導と助言をえて、授業をより充実させるよう努める。
 - (3) 特別活動として
 - 学級活動、生徒会活動、学校行事、クラブ・部活動に積極的に参加する。

【評価方法】

実習校の評価（生徒指導、学習指導、実習態度）に基づいて評価する。

【テキスト】

『教育実習記録』を活用する。

生涯学習概論

角 紘昭

【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

【授業の目標】

明治以降の我が国の社会情勢と生涯学習（社会教育）のあゆみを概観し、生涯学習全般について理解すると共に、将来あるべき生涯学習社会の姿を考える。

【授業計画】

- 1 はじめに
 - 導入としての概観（単元の構成内容）
 - 受講上の注意
- 2 社会教育のはじまり
 - 通俗教育から社会教育
- 3・4 社会教育の展開
 - 戦後の社会教育
 - 施設とその展開
- 5 生涯学習の登場
 - 社会教育から生涯教育・生涯学習
- 6 欧米における生涯学習
- 7 生涯学習の構成
 - 行政などの組織
- 8・9・10 生涯学習の展開
 - ① 人権教育
 - ② 学社融合
 - ③ スポーツ振興
 - ④ 高齢者福祉
- 11 今後の課題
 - 規制緩和の進む中で
- 12 まとめ

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

国際理解教育論

植村広美

【授業の概要】

日本の近代化の過程において、どのような経路により先進諸国の文明が導入されたかを考察する。その考察を踏まえ、日本の国際化について教育の視点から考察する。そして、どのように国際理解教育を展開すべきかを考えてみたい。

【授業の目標】

明治以降のわが国の教育のあり方を踏まえ、国際理解教育を理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 日本の近代化の過程における外国文明の摂取
 - (1) 近代化への萌芽
 - (2) 海外視察と帰国後の動向
 - (3) 外国人教員の雇用とその教育への影響
 - (4) 技術伝習による日本の産業の近代化
2. 現代の学校教育における国際化
 - (1) 学校教育における国際理解教育
 - (2) 在日外国人の子弟の受け入れ体制

【評価方法】

出席、レポート、筆記試験により評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

学校経営と学校図書館

小栗正彦

【授業の概要】

学校教育における学校図書館の教育的意義を確認し、より効果的な学校図書館の活用を目指し、教職員のみでなく、生徒会及びPTAとの連携を視野に入れた望ましい学校図書館の組織と運営はいかにあるべきかを、次の点に視座をあてて、具体的な成功事例を紹介し学習する。

【授業の目標】

司書教諭及び学校図書館司書教諭の資格取得のために必要な基礎的知識を習得する。

【授業計画】

第1時限	講義の進め方と評価の方法などについて
第2時限	あなたにとって「本を読む」とは、「図書館」を利用するということは
第3時限	学校図書館の理念と教育的意義
第4時限	学校図書館法とは（学校図書館法の展開と改正）
第5・6時限	学校図書館の歴史と現状、制度、法規、基準（施設、設備など）
第7時限	教育行政と学校図書館
第8時限	学校図書館の「経営」とは（学校図書館に関わる人びと）
第9時限	学校図書館の経営要素（資料、施設・設備、予算、図書館サービス）
第10時限	学校図書館メディアの内容と構成
第11時限	司書教諭の役割とその問題点
第12時限	生徒たちに対する読書指導のあり方 ・君達が読ませたいと思う本、君達に読んでもらいたい本 レファレンスのあり方 何をどう調べるか
第13時限	学校図書館の国際的動向と先進事例
第14時限	いま「本の世界」で問題になっていること
最終回	試験

【評価方法】

課題の提出、学習態度、出席状況などにより、総合的に評価する。

【テキスト】

必要に応じて資料を配付する。

【参考文献・資料】

授業時に紹介する。

学校図書館メディアの構成

担当者未定

【授業の概要】

情報化の著しい進展と共に、従来の活字メディア中心の学校図書館は児童生徒の活字離れにより、大きく変容を迫られている。これからの学校図書館は、児童生徒が喜んで利用できるよう、そのニーズに応え、多様なメディアを取り入れなければならない。この点を中心にして、これからの学校図書館のメディア構成を考えてみたい。

【授業の目標】

詳細は後日、掲示にて明示する。

【授業計画】

【評価方法】

学習指導と学校図書館

枝元益祐

【授業の概要】

学校図書館は、教育に必要な資料を生徒及び教員の利用に供することによって、（1）学校の教育課程の展開に寄与するとともに、（2）生徒の健全な教養を育成することを目的としている。

この授業では、（1）の目的を達成するために学校図書館はどのようなものでなければならないかを、蔵書構成や利用指導の現状と実践例、教科学習や総合学習における図書館利用の方法と実践例について学ぶ。

また、司書教諭の役割とこれからの学校教育に占める重要性について学習するとともに、利用指導の図書館実習を体験することによって、司書教諭の仕事への理解を深める。

【授業の目標】

学校において行われる教育活動全体の中での学習指導の位置付けと機能とを学校図書館が担う教育活動に関連付けることによって、その重要性を浮き彫りにする。

そこで、カリキュラム展開の中での学校図書館が学習指導に果たし得る効果を教育制度とストリートレベルとの双方の観点から捉えるとともに、メディア活用能力の重要性とその涵養、発展方法について論及、考察する。

【授業計画】

1. 学校教育における学習指導の位置付けとそこに果たす学校図書館の役割（総論①）
2. 社会教育と学校教育の関連性（総論②）
3. 司書教諭の専門性と学習支援
4. 専門性の醸成と実践活動プロセス
5. 専門性の醸成の場としての学校図書館
6. 学習理論の観点から見る学習行動及びそこに果たす学校図書館の役割
7. 発達段階に応じた学校図書館メディアの活用
8. 情報メディア活用能力と学校図書館活動
9. 学校図書館における情報サービスと学習指導
10. 公教育と学校図書館及び学習指導の意義
11. 公教育と私教育との関連及びそれぞれの評価過程
12. 学習支援としての学校図書館活動

【評価方法】

授業内での課題：40%
期末試験：60%

【テキスト】

使用しない。適宜教材資料等を配布する。

【参考文献・資料】

学校教育と図書館－司書教諭科目のねらい・内容とその解説（志保田務、北克一、山本順一 編著 第一法規）

読書と豊かな人間性

梅田卓夫

【授業の概要】

現在、児童生徒の読書離れの傾向は拡大し、まったくと言っていいほど本を読まなくなってきた。

児童生徒の読書離れの要因と実態を解明するとともに、学校図書館が「読書と豊かな人間性」の視点に立って、どのような役割を果たすべきかを、具体的な事例を紹介するとともに、一方的な講義に終わることなく、受講者自身の体験も取り入れ、以下のような視座に立った参加型授業を展開する。

【授業の目標】

人類の歴史の中で、図書館・本・読書はどのような役割を果たしてきたか。また個人の成長の過程で読書はどのような意味を持つか。人間精神と読書との関わりを、事例によって見ながら、学校図書館および学校図書館司書が「豊かな人間性」のために果たすべき役割を考える。

【授業計画】

1. 読書のよこび
（1）読書との出会いとよこび——先人の読書経験から学ぶ
2. 人間形成と読書
（1）幼児期における読み聞かせの教育的意味
（2）少年期・青年期における読書との出会い
（3）読書による、内省、思索の意義
3. 学校教育における読書指導
（1）教師による本の紹介、読み聞かせ
（2）「十分間読書」「朝の黙読」等の実践例
4. 読書と仲間作り
（1）家庭・友人間での読書、対話、読書会
（2）学区図書館を利用した共同研究
5. 読書の技術
（1）情報収集のための「読書」と思索のための読書
（2）愛読書、好きな作家

【評価方法】

出席状況及びレポートによる。

【テキスト】

プリントを配布する。

【参考文献・資料】

プリントを配布する。

情報メディアの活用

担当者未定

【授業の概要】

学校図書館の高度情報化は21世紀には避けて通れない状況である。現在の状況は必ずしも満足はできないが、学校図書館に将来関係すると思われる新しいメディアの運用についての基礎知識と技能は、今後学校図書館の仕事に携わる教員にとって必須だと言える。以上の観点から、次のテーマで実践的な学習を行ない、これからの情報化される学校図書館の効果的な活用を目標とする。

【授業の目標】

詳細は後日、掲示にて明示する。

【授業計画】

【評価方法】

博物館概論

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館とは何か、その発達の歴史をたどり、世界と日本の博物館を概観するとともに、博物館の新しい動きをとらえる。

【授業の目標】

学芸員として必要な基礎的知識を学習する。

【授業計画】

- 1) はじめに…博物館学とは何かなど学習の基礎を知る。
- 2) 博物館の定義…ICOMの定義、博物館法の定義を中心に考えていく。
- 3) 博物館の始原…博物館の始原をたずねてみる。
- 4) 博物館の萌芽…ルネサンス期からの博物館的な施設の形を探る。
- 5) 近代博物館の出発I…王権の誇示としての財宝の展示から考える。
- 6) 近代博物館の出発II…市民への公開がなされていく過程を考える。
- 7) ヨーロッパの博物館…主要な博物館を例にとり、近世からの特徴をまとめると。
- 8) アメリカの博物館、アジアの博物館…合衆国独立から現代までと、アジアの博物館の特徴をみる。
- 9) 日本の博物館…日本の博物館の歴史を概観する。
 - ・幕末から明治期にかけての博物館の出発
 - ・国威の宣揚と博物館
 - ・通俗教育による教化と博物館
 - ・十五年戦争と博物館
- 10) 博物館法の概要
- 11) 博物館の新しい動き
 - ・企業博物館、エコ・ミュージアム、テーマ・パークなど
 - ・最近の博物館組織

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銕治原著、柴垣勇夫補訂）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論 I

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館の現状を分析し、その将来を考えるとともに、文化財の保護についても学習する。

【授業の目標】

学芸員資格にかかる基礎的事項を学習する。

【授業計画】

- 1) 博物館の機能…生涯学習施設と定義されていることを考える。
- 2) 博物館の分類…分類を通して、博物館の役割やあり方を考えていく。
- 3) 博物館の組織…公立博物館を例にとり、典型的な組織をみていく。
- 4) 博物館の運営…公立博物館を例にとり、運営の実際を知る。
- 5) 学芸員の倫理…学芸員の実態などに焦点をあて、「学芸員」はいかにあるべきかを考える。
- 6) 予算など…博物館のマネジメントについて考える。
- 7) 博物館の施設・設備…市民参加の視点から、あるべき施設・設備について考えてみる。
- 8) 博物館と情報その1…情報化社会の発展、情報技術の進歩と博物館のあり方を探っていく。
- 9) 博物館と情報その2…博物館での情報提供のあり方を探る。
- 10) 博物館と情報その3…博物館と大学・研究機関などとの連携についても考える。
- 11) 文化財の保護…わが国の文化財保護の現状と問題点について考察し、博物館との関係を考える。

【評価方法】

- ・数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・出席率は重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銕治原著、柴垣勇夫補訂）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館概論

早川正一

【授業の概要】

「博物館概論」とは、愛知淑徳大学が文部省（現在の文科省）の認可のもとに、学芸員と呼ぶ博物館や美術館に不可欠な専門職員になるため、基礎知識をカリキュラムを通じて取得させる基幹の学科目である。したがって、この養成課程の当初に受講させるので真剣に取り組みないと脱落しかねない。充分な心構えが肝要である。

次のような単元のもとに講義を展開してゆく予定である。

【授業の目標】

この科目は、後期におこなう「博物館学各論I」と共に、所定の必修科目の一つである。必修の理由は、卒業を条件として学芸員の資格が与えられる基幹の学科目のため、この講義内容を習得させることが目標となる。

【授業計画】

博物館や美術館の基本概念と必要性
 専門職員としての「学芸員」とは何か
 博物館と美術館の発達とその時代背景
 博物館と呼ぶ施設の機能と多様性
 博物館の分類と現代性
 博物館の日常的な組織と運営の局面への学芸員のかかわり方、そして館外活動への配慮
 博物館の相互協力と情報の活用
 毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
 無用な欠席は不合格につながるので、注意されたい。
 長谷川銕治『博物館学論考』（1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

学期末の筆記試験をはじめ、毎時間の出席状況、受講態度などで総合評価する。資格認定のため厳格である。

【テキスト】

テキストを購入させない。毎時間のノートの一学期分がテキストの代用となる。

【参考文献・資料】

本学図書館が所蔵する060～069.9までの基礎図書に目を通しておくことをすすめる。

博物館学各論 I

早川正一

【授業の概要】

愛知淑徳大学の学芸員課程委員会が計画したカリキュラムに準拠し、前段階の「博物館概論」を修得した学生に受講させる。したがって、この講義も基幹をなす学科目であるから、年次計画を考慮し、真面目に受講しないと、資格取得につながらないので、注意が肝要である。

【授業の目標】

この科目は、前期に実施する「博物館概論」と共に、所定の必修科目の一つであって、必修とした最大の理由は、卒業を条件に学芸員の資格が与えられる。したがって、授業計画による講義内容を受講生に修得させることが目標となる。

【授業計画】

次の単元を土台として講義を展開する予定である。
 博物館や美術館の展示と陳列構造
 博物館がとり扱う資料の収集と保存
 博物館と所属する学芸員のおこなう調査と研究
 博物館や美術館のおこなう普及活動と教育
 文化財の種類と保護にかかわる諸問題
 生涯学習の必要性和博物館の関連事業
 毎時間、入念にノートさせる。コピーは許さない。
 無用な欠席は不合格につながるので、注意してほしい。
 博物館学論考（長谷川銕治 1995）をはじめ、大学図書館に所蔵の関連文献を通読しておくこと。

【評価方法】

本学の学長の名において資格を認定する以上、定期試験を厳格に実施し、出席状況や受講態度を含めて総合評価する。

【テキスト】

毎時間のノートの一学期分がテキストの代用となるので、テキストを購入させない。

【参考文献・資料】

本学図書館が所蔵する060～069.9までの基礎図書に目を通しておくことをすすめる。

博物館学各論 II

柴垣勇夫

【授業の概要】

博物館資料とは何か、資料の取扱い方を学習する。また、博物館における調査・研究についても考える。

【授業の目標】

学芸員として必要な基本的事項を実践をとおして学習する。

【授業計画】

- 1) 「物」が博物館資料として位置づけられることを考える。
- 2) 博物館資料の実践について具体的に学ぶ。
 - a 資料の収集
 - b 資料の取扱い
 - ・ 保存箱の種類と取扱い
 - ・ 掛軸の扱いと掛け方
 - ・ 古文書 ・和装本の取扱い
 - ・ やきもの ・茶碗の取扱い
 - ・ 瓦のみかたと取扱い、拓本の取り方
 - ・ 刀、太刀のみかたと取扱い
 - c 資料の整理・保存
 - d 資料の保全
- 3) 資料情報の管理について、その実際を探る。
- 4) 博物館における調査と研究、成果の公表について考える。

【評価方法】

- ・ 数回にわたるテストとレポートの提出で評価する。
- ・ 出席率も重要な評価対象である。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銕治原著 柴垣勇夫補訂）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館学各論 II

瀬川貴文

【授業の概要】

博物館は「もの（物）」「ひと（人）」「ば（場）」の3つの要素で構成される。この授業では、そのうちの「もの」＝博物館資料に焦点をあて、博物館活動の中での役割を考える。

【授業の目標】

博物館資料の定義、収集、整理分類、保管保存、調査研究そして実際の取扱い方について、基礎的な知識を学び、技術を習得することを目標とする。

【授業計画】

- 履修学生が、手を動かし、自分で考える「実技」の時間をできるだけ多くとる。
- (a) 博物館と博物館資料
 - (b) 資料を記録する技術
拓本・実測・写真など。
 - (c) 資料を扱う技術
掛け軸・卷子・和本・陶磁器・考古資料など。
 - (d) 資料を保管・保存する技術
ドキュメンテーション・保存科学など。
 - (e) 博物館と調査・研究

【評価方法】

実技を行うため、出席および授業に臨む姿勢を重視する。あわせて、レポートなどの課題、(時間内の)小テストの結果も勘案する。

【テキスト】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

【参考文献・資料】

随時プリントを配布し、参考文献・論文などを紹介する。

博物館学各論 II

赤羽一郎

【授業の概要】

博物館の活動の基軸は「資料」にあり、それを収集し、正しく保存し、かつ有効に活用することが博物館には求められる。本講座では、資料の収集・取扱い・整理・保存・活用について、具体的事例や実習を取り入れながら学んでいく。

【授業の目標】

博物館における「資料」の存在意味を学び、その基礎的な取扱いと活用について実習を通して修得することを目標とする。

【授業計画】

1. 博物館資料とは……「博物館資料」とは、何を指すか、理念およびその具体的な種類を知る。
2. 資料収集……資料の収集に際しての、収集方針の重要性、収集方法の事例を学ぶ。
3. 資料の取扱い……基本資料の取扱いを実習し、習得するとともに、その構造を知り展示方法等も学ぶ。
陶磁器、考古資料、軸装、額装、刀剣その他で実習する。
4. 資料整理……資料の整理について、分類方法やその整理登録方法を考え、資料カードの作成を実習する。
5. 資料情報……整理された資料の情報、二次的資料の情報の管理運営について考える。
6. 資料保管……資料の保管に関しての、保存条件や方法、問題点などを学ぶ。
7. 資料活用……資料を活用した調査研究活動の実際とその意義を知る。
また、4年次の「博物館実習」に備えた情報や、館務実習の準備について説明する。

【評価方法】

受講態度及びレポートで評価する。

【テキスト】

『新訂博物館学概説』（長谷川銕治・著 戸谷印刷）
必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館実習

柴垣勇夫

【授業の概要】

展示演習、内外の博物館見学、館務実習などを通して、実践的に学習する。

【授業の目標】

学芸員の基本的な役割について、種々の実践をとおして考察するとともに学芸員資格取得のためのまとめをする。

【授業計画】

- 1 展示についての学問的側面、実際の運用などをみていく。
 - 1) 展示とは
 - 2) 展示のポイント
・動線 ・視線 ・照明 ・温度 ・湿度
 - 3) 展示の施設、設備
 - 4) 展示のプロセス
 - 5) 展示方法の実践例
 - 6) 展示と保全
- 2 生涯学習が重要な課題である現代社会にあって、博物館が果たす役割を考える。
- 3 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
 - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける（全員）。
 - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
 - 4) 県外実習……2)、3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

- ・ 演習はもちろん、学外での研修、実習にはかならず参加し、それぞれレポートを提出。評価の対象とする。
- ・ その都度、提出させるレポートを中心に実習態度なども勘案して評価する。

【テキスト】

新訂博物館学概説（長谷川銕治著）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布する。

博物館実習

赤羽一郎

【授業の概要】

展示についての理論・方法論を提示し、また博物館・美術館見学、博物館実習を通して、学芸員に求められる業務を多様な面から学習する。

【授業の目標】

学芸員資格を取得するにあたって、展示演習・博物館見学・博物館実習を通して、展示についての基礎的な理論と方法を修得することを目標とする。

【授業計画】

1. 展示の意義……博物館等における展示の意義、役割について学ぶ。
2. 展示の条件……展示空間の諸条件について、資料保全と展示効果の両面から学ぶ。
3. 展示のプロセス……展示立案から終了までの流れを実践的に学ぶ。
4. 学外に出て現場の実務に接し、学芸員業務を具体的に学ぶ。
 - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
 - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
 - 4) 県外実習……2)、3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

授業および学外での研修等の出席状況、受講態度及びレポート成績によって評価する。

【テキスト】

『新訂博物館学概論』（長谷川銕治・著 戸谷印刷）

【参考文献・資料】

必要に応じてプリントを配布し、ビデオ等も利用する。

博物館実習

武藤 真

【授業の概要】

「展示」は、博物館と利用者とは結ぶインターフェイスであり、博物館の「顔」といえる。この授業では、「展示」に関わる知識・技術を学び、各種博物館の見学を通じて、その実践例を見る。

【授業の目標】

実技を行うことによって、「展示」に関わる知識・技術、とくに展示デザインの基礎を身につけることを目標とする。

【授業計画】

- I 「展示」を実施する際の各場面を疑似体験できるよう、「実技」の時間を多くとる。また、ビデオなど視聴覚教材を用いて、具体的なイメージでとらえられるようにする。
 - (a) 展示とは
 - (b) 展示のプロセス
 - (c) 展示の構成要素
 - (d) 展示と資料保全
 - (e) 着想から実施まで
 - (f) 解説の方法と印刷物
 - (g) 展示とその周辺
 - (h) まとめ
- II 学外に出て現場の実務に接し理解を深める。
 - 1) 博物館見学……土・日曜日に展覧会や施設の見学に出かける。
 - 2) 館務実習……夏休み中に各博物館に依頼して館務実習を行う。
 - 3) 海外実習……夏休み中に希望者と海外の博物館に出かけ学習する。
 - 4) 県外実習……2) 3)に参加できない者は、9月に県外へ見学に出かける。

【評価方法】

実技を行うので出席状況を重視する。あわせて、レポートと課題の提出などにより評価する。

【テキスト】

授業中に適宜指示する。

【参考文献・資料】

授業の進行状況に応じ、文献・論文などを指示する。

生涯学習概論

角 紘昭

【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

【授業の目標】

明治以降の我が国の社会情勢と生涯学習（社会教育）のあゆみを概観し、生涯学習全般について理解すると共に、将来あるべき生涯学習社会の姿を考える。

【授業計画】

- 1はじめに
 - 導入としての概観（単元の構成内容）
 - 受講上の注意
- 2社会教育のはじまり
 - 通俗教育から社会教育
- 3・4社会教育の展開
 - 戦後の社会教育
 - 施設とその展開
- 5生涯学習の登場
 - 社会教育から生涯教育・生涯学習
- 6欧米における生涯学習
- 7生涯学習の構成
 - 行政などの組織
- 8・9・10生涯学習の展開
 - ①人権教育
 - ②学社融合
 - ③スポーツ振興
 - ④高齢者福祉
- 11今後の課題
 - 規制緩和の進む中で
- 12まとめ

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

視聴覚教育メディア論

藤井 信

【授業の概要】

情報・視聴覚機器の持つ機能、メディアリテラシー、宗教と視聴覚との関連の観点から、情報教育のあり方、更には、学芸員としての博物館・美術館等における視聴覚的展示や補助資料に関することを論じていきたい。

【授業の目標】

視聴覚教育の意義・役割と、情報の送り手と受け手の立場からメディアリテラシーを理解する。展示・解説等における視聴覚・情報メディアの活用を追求する。

【授業計画】

- 1 視聴覚教育の目標
 - 1-1 視聴覚教育の意義
 - 1-2 視聴覚教育の機能
 - 1-3 視聴覚教育の役割と特性
- 2 情報の活用とメディア
 - 2-1 情報とメディア
 - 2-2 情報の記録と保存
 - 2-3 情報活用能力の育成
 - 2-4 プレゼンテーションの意義と機能
 - 2-5 情報モラルとセキュリティ
- 3 宗教における視聴覚の役割
 - 3-1 宗教における荘厳
 - 3-2 宗教における音声
 - 3-3 宗教における絵画・彫刻
- 4 博物館・美術館におけるプレゼンテーション
 - 4-1 展示の機能と効果
 - 4-2 学芸員の職務・役割
 - 4-3 視聴覚資料の鑑賞

【評価方法】

毎時の小レポート、指示するレポートおよび期末テストで評価する

【テキスト】

メディア社会（佐藤卓己著、岩波新書）

【参考文献・資料】

メディア・リテラシー（菅谷明子著、岩波新書）
 視聴覚メディアと教育方法（井上智義編、北大路書房）

教育学概論

植村広美

【授業の概要】

教育学の基本的な知識や概念の習得とそれに基づく具体的な諸問題について考察を進めていくことにする。とりわけ、人間の社会生活と教育との関連に力点をおいて、本来の教育の意義や望ましい教育の作用を明らかにするように努めていく。その際、より理解が深まるよう具体的な事例を題材として取り上げていく。

【授業の目標】

学問としての教育学の性格、歴史、現代的な課題についていろいろな視点から理解すること。(詳細は授業にて解説する。)

【授業計画】

1. 序
2. 教育学の概念
3. 教育学の歴史
 - (1) 外国
 - (2) 日本
4. 教育学の課題
5. 学校と教育
6. 社会と教育
7. 家庭と教育
8. 現代と教育
9. 総括

【評価方法】

出席、レポート、筆記試験により評価する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

美術史

高橋秀治

【授業の概要】

美術の歴史をつくってきた美術家たちはその生きた時代の動きと無関係に作品を生み出したのではなく、常にその背景と共にあります。美術が社会を映す鏡という視点に立ち、19世紀末から今日に至る西洋近現代美術のありさまを社会的、文化的あるいは思想や、政治、人々の生活などの背景と結びつけながら理解していきます。

【授業の目標】

美術作品を鑑賞するときに、単に表現上の技法や構成などを分析的に理解するにとどまらず、作品の生れた時代的、社会的あるいは文化的背景まで含めた幅広い視野の必要性を理解できるようになることを目標とする。

【授業計画】

- | | | | |
|------|----------------|-------|------------|
| 1～4 | 印象派からシュルレアリスムへ | 5～8 | 激動の時代と美術 |
| | ・産業革命と芸術 | | ・第一次世界大戦 |
| | ・写真と絵画 | | ・反芸術 |
| | ・時間表現 | | ・第二次世界大戦 |
| | ・心理学 | | ・工業社会 |
| 9～12 | アメリカ美術の時代 | 13～15 | ニューメディアと美術 |
| | ・巨大絵画 | | ・ニューメディア |
| | ・アメリカン・ドリーム | | ・身体表現 |
| | ・文明の廃棄物 | | |
| | ・エコロジー | | |

【評価方法】

出欠を確認し、評価に反映させる。ワークシートや感想・質問などを記すフィードバックシートなどを適宜配布、回収して出欠の確認に代えるとともに内容を評価する。また、授業で自分の考えを表明したり質問をする姿勢もあわせて評価する。

【テキスト】

とくになし

【参考文献・資料】

必要により授業内で紹介する。

民俗学

谷沢 明

【授業の概要】

なにげなくくりかえしている日々の暮らしの中に、古い生活の投影がある。現代人の物の見方、考え方の中にも、伝統的な生活文化が反映している。民俗学においては、日本人はいかなる文化をつくりあげて今日にいたったかを、民衆の立場にたち、民衆の生活の中から、社会・経済・儀礼・信仰などの伝承をとおして具体的にみつめていきたい。また、古いものが今日の暮らしの中にどのように残存しているか、新しく変わった部分はどこで、何が新しくさせていく力になったかも考えてみたい。

【授業の目標】

日本民俗学の基礎を幅広く学び、民俗学的な物の見方を身につけることを目標とする。

【授業計画】

1. 民俗学を学ぶ～目的・領域・方法論～
2. 稲作と日本文化～伝統的文化のとらえかた～
3. 農耕儀礼～田遊びを中心に～
4. 年中行事～正月行事を中心に～
5. 年中行事～盆行事を中心に～
6. 人生儀礼～人生の折り返しにあたって～
7. 暮らしの中の習俗～海に生きる人々～
8. 暮らしの中の習俗～山に生きる人々～
9. 庶民信仰を探る～絵馬に託された願い～
10. 庶民信仰を探る～庚申信仰～
11. 日本民俗学のあゆみ～柳田國男の役割～
12. 日本民俗学のあゆみ～宮本常一のまなざし～

【評価方法】

中間レポート及び授業内小テスト・試験による。

【テキスト】

フィールドワークで探る民俗と生活文化

【参考文献・資料】

授業で必要に応じて紹介します。

文化史

秋元悦子

【授業の概要】

本講座は、歴史・文化が地理的背景とどのように関係してきたか、日本文化に大きな影響を与えた中国を例にさまざまな角度から検討するものである。授業では、古典文献・地形図・考古学などの情報を利用して文化的特質を考察してゆく。

教材としてプリントを配布し、視覚資料(DVD・OHC・地図ソフトなど)を多用し、地域と歴史の様相をより具体的に示していきたい。

【授業の目標】

ある地域の「文化」を知ろうとするときに、どのような手段・方法があるかを学ぶことが目標である。

本講座では、地理的状況や歴史思想、考古学的な状況を知ることにより、様々な視点から物事を解説することができるようになることを目標としている。

同時に、古代日本・中国の史資料に関する基礎的知識も養っていきたい。

【授業計画】

1. 履修に関するガイダンス・オリエンテーション
2. 中国と日本の自然地理を知る
標高・気温・降水量の分析から
3. 中国人の地域概念と日本への影響
『禹貢』の世界から現代の地理意識まで
漢籍と日本の風土記
4. 『禹貢』時期の考古学
夏殷周三代の歴史とその遺跡
5. ユーラシア大陸の歴史と中国
四大文明から近代までのユーラシア史
中国の首都変遷から見えるもの
6. 気候変動と歴史
王朝交代と気候変動の関係
7. まとめ

【評価方法】

おもに期末試験(筆記)により評価する。期中にレポートを提出させた場合は、これを成績評価に反映させる。

【テキスト】

なし。授業中に配布するプリントを使用。

【参考文献・資料】

世界の歴史と文化 中国(陳舜臣・尾崎秀樹監修 新潮社)
長安の都市計画(妹尾達彦著 講談社選書メチエ)
また、授業中に各種文献を紹介する。

考古学

赤羽一郎

【授業の概要】

学問としての考古学の主な対象は先人が遺した遺跡・遺物であり、それらを顕在化・資料化するための方法は発掘調査に拠っている。遺跡・遺物には、いつ造られ使われそして廃棄されたかという情報、つまり「時計」と、誰がどこでどのような材料で造ったかという情報、「戸籍」が内包されている。その「時計」と「戸籍」を解明することが、考古学ではまず求められる。近年は自然科学分野と共に、この「時計」と「戸籍」を解明するための作業が活発に行われている。また、遺跡・遺物が先人の生活でどのような役割を担っていたかを知る上で、文化人類学、民俗学、さらには文献史学の知見も有効である。このように、考古学も他の学問領域との共同作業、つまり「学際」の途を歩んでいる。

しかし、遺跡・遺物に内包されている「時計」「戸籍」を解き明かすことだけが考古学の目的ではない。何故なら、考古学は歴史学の一分野として、単に先人の足跡を追跡するにとどまらず、考古学の成果がどのような現代的意味、私たちが生きていく上での指針を持っているかを学ぶものだからでもある。特に、博物館などで資料として遺跡・遺物といった考古資料を活用する際に、欠くことのできない視点であると考えたい。

【授業の目標】

多くの博物館・資料館では考古資料が収蔵・展示されていることから、学芸員として必要な考古学及び考古資料に関する基礎的な知識の修得を目的とする。

【授業計画】

- 1 考古学の理念と方法論
 - 2 日本考古学の発展 ア 原始
 - 3 〃 イ 古代・中世
 - 4 〃 ウ 近世以降
 - 5 文化財としての遺跡・遺物
- 随時、スライド、OHPを用いて視覚による理解を促す。

【評価方法】

出席状況、レポートにより判定する。

【テキスト】

講義の都度、レジユメを配布する。

【参考文献・資料】

特になし。

生涯学習概論

角 紘昭

【授業の概要】

現代の社会では、一人ひとりが人として主体的に生きてゆくため、広く社会において学び続けてゆくことが求められている。そのための生涯学習の歴史、意義、実践について具体的な事例を基に考察をする。

【授業の目標】

明治以降の我が国の社会情勢と生涯学習（社会教育）のあゆみを概観し、生涯学習全般について理解すると共に、将来あるべき生涯学習社会の姿を考える。

【授業計画】

- はじめに
導入としての概観（単元の構成内容）
受講上の注意
- 社会教育のはじまり
通俗教育から社会教育
- 3・4 社会教育の展開
戦後の社会教育
施設とその展開
- 生涯学習の登場
社会教育から生涯教育・生涯学習
- 欧米における生涯学習
- 生涯学習の構成
行政などの組織
- 8・9・10 生涯学習の展開
①人権教育
②学社融合
③スポーツ振興
④高齢者福祉
- 11 今後の課題
規制緩和の進む中で
- 12 まとめ

【評価方法】

主に期末試験（筆記）により評価するが、開講中にレポートを課した場合はこれを加味する。

【テキスト】

テキストは使用しない。

【参考文献・資料】

授業中に参考文献を適宜紹介する。

図書館情報学概論 I

廣田慈子

【授業の概要】

この科目は、図書館情報学に関する学習の基礎固めのためのものである。Iでは、図書館情報学における基本的な考え方および分野の特徴について概説する。

【授業の目標】

まず、用語辞典を参照しながら、図書館と情報にかかわる多様な用語をできるだけ多く習得すること。それが第一である。それに加えて、「情報」も、「図書館情報学」という学術分野それ自体も、簡単には理解できない難物であるということも体感してほしい。そして、情報伝達にはさまざまな因子が関与することを理解し、情報に関して多様な考え方やアプローチが併存していることを理解してほしい。

【授業計画】

- 情報と知識の研究と実務に関わる分野
図書館学/情報学/図書館情報学
図書館情報学を学ぶための情報源/指定図書
- 情報の概念
概念・考え方・観点・立場
定義の多様性と現象の多面性
情報概念の歴史/情報・知識・データ
定義の整理のための枠組み/構造的な理解
認識・認知・ころろ/人間・人・ヒト
- 情報検索の過程

【評価方法】

平常点、レポート、試験によって評価する。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典（丸善 3,800円税別定価）および配布資料

【参考文献・資料】

適宜、講義内で紹介する。

図書館情報学概論 II

廣田慈子

【授業の概要】

古来より人類の知識と経験を記録物として収集、保管し、現在と将来にわたって提供する情報機関としての図書館の姿を概説し、図書館についての基礎を学ぶ。

地域、社会環境、技術の進展、多様な人々の利用要求などに応じて発展してきた、図書館の機能と構造、意義、種類と構成要素などを歴史的展開や法・社会環境の変化などを踏まえて全体像を把握する。

【授業の目標】

情報サービス機関としての図書館の全体像を把握し、図書館の多様性や社会的意義など、包括的に図書館を理解すること。

【授業計画】

- 社会における図書館
・情報サービス機関としての図書館
・情報の流通と図書館
- 図書館の意義と役割
・図書館の機能（サービス）
・法的基盤からみた図書館
- 図書館の構成要素
・図書館という組織/図書館員/利用者/図書館
- 図書館の種類と機能
・国立図書館/公共図書館/大学図書館/専門図書館/学校図書館
- 情報ネットワークの中の図書館
- 図書館を取り巻く諸問題
・情報環境の変化/図書館の運営 等

【評価方法】

平常点、小課題、レポート試験等による総合評価。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第3版（丸善）
その他、適宜資料を配付する。

【参考文献・資料】

図書館学基礎資料 第7版（今ま子編 樹村房）
図書館情報学ハンドブック 第2版（丸善）
その他、適宜講義内で紹介する。

図書館経営論

雨森弘行

【授業の概要】

図書館の技術的な面－分類・目録等－資料組織とは別に図書館運営上の諸問題－司書の専門職制の問題、図書館の地域サービスと図書館網計画、図書館の経営評価と見直し等、を図書館経営論として論述する。

【授業の目標】

図書館に対する社会の要請や期待に対して、図書館がどのように応えるべきか、また応え得るのかについて、図書館の存在意義についての基本的な考え方を身につけるとともに、図書館の組織機構・管理運営・計画策定等、経営の全般に亘って、実際例を参考にしながら理解を深める。

【授業計画】

- 開講に当たって（受講の動機、目的、目標の確認）
- 図書館経営の意義
- 自治体行政と図書館
- 図書館業務の理論と実際
- 図書館の組織
- 図書館の職員
- 図書館の計画とマーケティング
- 図書館の施設整備計画
- 図書館ネットワークの形成
- 図書館業務・サービスの評価
- まとめ

【評価方法】

出席点、小レポート、最終レポートにより総合評価する。

【テキスト】

改訂「図書館経営論」（最新刊）（高山正也他編著 樹村房）

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介する。

情報サービス基礎論 I

廣田慈子

【授業の概要】

情報通信技術（ICT）の急速かつ世界規模での展開を背景として、社会における人と情報との関わりは激変している。「情報サービス基礎論 I」では、情報を扱う産業も多様化・高度専門化の中で、旧来からの情報提供機関である「図書館」のサービスについて、社会の変化に対応する先進事例や今日直面する諸問題について概観する。

【授業の目標】

情報サービス機関として図書館が直面する諸問題について理解し、現代の社会環境、特に情報化・電子化が進む社会環境の中で、図書館に求められ、図書館が提供すべき情報サービスの内容と多様性に対する知識と理解を深め、図書館および図書館員の可能性について考える。

【授業計画】

1. 現代の情報化社会における図書館の役割
2. ICT（情報通信）環境と図書館環境の変化
3. 図書館における情報サービスの意義
4. 図書館種別の情報サービスの概要
5. 現代の図書館情報サービスの目標と先進事例
6. 現代社会と図書館情報サービスの諸問題

上記内容について、講義を中心に行います。
適宜、小課題やレポート等を課します。

【評価方法】

講義内での小課題等（30%）、および期末レポート（70%）の総合評価

【テキスト】

適宜、プリント配付資料を用いる。

【参考文献・資料】

『これからの図書館像－地域を支える情報拠点をめざして－』（「これからの図書館の在り方検討協力者会議」報告書）文部科学省2008年3月
その他、講義内で適宜紹介します。

レファレンスサービス論

千代由利

【授業の概要】

図書館における情報サービスの中核を成してきたレファレンスサービスに関して、レファレンスコレクションの構築、レファレンス質問からその回答にいたる一連のレファレンスプロセス、サービス組織のあり方、等について理解を深めることを主な目的として講義を進める。この科目は、「情報検索演習Ⅲ（情報と文献の探索）」と相互に補完するものとして扱う。

【授業の目標】

図書館サービスにおけるレファレンスサービスの意義および重要性について、これまでの展開および新しい情報環境下における展開について理解し、演習等をとおして実践する。

【授業計画】

1. 授業のガイダンス
2. 図書館における情報サービス
3. レファレンスサービスの歴史と展開
4. 図書館におけるレファレンスサービス
5. 情報源とレファレンスコレクション
6. レファレンス質問とレファレンスプロセス
7. 質問の受付と内容の確認
8. 探索戦略と質問の分析
9. 探索の手順と情報（源）の入手
10. 回答の提供と事後処理
11. レファレンスブックの探索

【評価方法】

出席状況、演習レポート、試験等により評価する。

【テキスト】

『新版 問題解決のためのレファレンスサービス』（長澤雅男 石黒祐子著 日本図書館協会 2007.4）

【参考文献・資料】

『情報源としてのレファレンスブック（新版）』（長澤雅男、石黒祐子著 日本図書館協会）
『レファレンスサービス 図書館における情報サービス』（長澤雅男著 丸善）

情報サービス基礎論 II

廣田慈子

【授業の概要】

「情報サービス基礎論I」の履修を前提とする。
あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

今日の社会において図書館に求められる「情報サービス」の意義と役割、歴史的展開を理解した上で、現況の情報サービスの内容とその必要性、および新しい社会環境・技術環境に対応した情報サービスの内容とその必要性について、理解を深める。

【授業計画】

1. 図書館における「情報サービス」（基礎論 I の復習）
2. 情報サービスの歴史と展開
・ 図書館における伝統的な情報サービスの歴史と内容の変遷
3. 図書館情報サービスの種類：パブリックサービス
・ 貸出閲覧／レファレンスサービス／等
4. 図書館情報サービスの種類：テクニカルサービス
・ 資料組織化／蔵書構築／等
5. 現代社会における図書館サービスの変化
・ 情報通信技術（ICT）環境変化に対応した新・情報サービス
6. 社会環境の変化と図書館サービスの変化
・ 法的環境の変化（著作権等）に対応した情報サービスの展開
7. 求められる「図書館の情報サービス」
上記内容について、講義を中心に行います。
適宜、小課題やレポート等を課します。

【評価方法】

講義内での小課題等（30%）、および期末試験レポート（70%）の総合評価

【テキスト】

適宜、配布資料（レジュメ等）を用いる。

【参考文献・資料】

図書館情報学用語事典 第3版（同編集委員会編 丸善）
その他、授業中に適宜紹介する。

情報検索演習 II（学術情報の探索）

廣田慈子

【授業の概要】

学術論文を対象として、オンライン情報検索システムの活用に必要な知識と技術を習得することを目的とする。テーマ検索の実習に基づき、検索過程の把握や検索ツールの利用法、および検索結果に対する評価について理解する。

LAN講習会を必ず受講すること。

【授業の目標】

情報検索における基礎的な専門知識を理解すること。
実際の検索過程で、さまざまな情報検索の知識や技術を活用する能力を修得すること。

【授業計画】

1. 情報検索とは
2. 学術情報の検索
学術論文の特徴
抄録・索引誌
3. CD-ROM検索
4. シソーラス
5. 各種オンライン情報検索システム
JDream
DIALOG
CSA
6. テーマ検索の演習

【評価方法】

平常点、小テスト、レポート作成の総合評価。

【テキスト】

使用せず（プリント配布）。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

情報検索演習 III (情報と文献の探索)

廣田慈子

【授業の概要】

情報検索演習IIにおける習得内容を基礎とし、より高度な情報検索技術の習得を目標とする。

本科目で扱う情報源は、図書館を中心とした情報提供機関において利用可能なものとし、特にレファレンス業務に必要な情報源探索技能を養うため、検索対象のメディア別に特徴、機能、検索に必要な技術の紹介、実習を伴う課題解決演習を行う。さらにレファレンス質問を事例にして、利用者インタビュー、利用者の情報要求の確認、適切な情報源の選定、検索、回答の評価などの一連の作業について実習する。演習には情報検索室の書誌データベースと本学図書館所蔵の印刷体二次資料を併用する。

【授業の目標】

より高度な情報検索技術を習得し、情報検索の専門家としての技能を獲得する。

【授業計画】

1. 文献探索と情報探索
2. 各種情報源の特徴
 - 2.1 雑誌記事(書誌情報)検索
 - 2.2 雑誌記事横断検索: DIALINDEX複数ファイル横断検索
 - 2.3 シソーラスを利用した検索
 - 2.4 引用関係を利用した検索
 - 2.5 一次資料が入手可能なシステムの検索
 - 2.6 ネットワーク情報資源検索・アクセス
 - 2.7 図書(所蔵/目次情報)検索
 - 2.8 新聞記事(全文記事)検索: 各種新聞ファイル
 - 2.9 人物情報検索: 人物情報横断検索
3. レファレンス質問を事例とした問題解決プロセス

【評価方法】

出席点、課題点、試験によって評価する。

【テキスト】

使用しない(プリント配布)。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

情報メディア基礎論 II

廣田慈子

【授業の概要】

今日の図書館が取り扱う情報メディアは、技術の進展や社会環境の変化に合わせて多様化している。この講義では、情報メディアの種類とそれぞれの情報源としての特性、図書館サービスにおける意義を学び、情報流通と利用における役割についての知識を身につけ、問題点について検討する。

【授業の目標】

図書館サービスの土台となる情報メディアの特性と役割を学ぶことで、図書館サービスにおける意義と実践に必要な知識を身につけ、多様なサービスに寄与できる知識を身につける。

【授業計画】

1. 図書館と図書館資料、情報メディア
2. 図書館資料としての情報メディアの種類と特性
 - ・紙媒体メディア情報源
 - ・非紙媒体メディア情報源
 - ・非メディア(ネットワーク)情報源
3. 情報メディアの発生・生産
4. 情報流通と情報メディア
5. 図書館コレクションとしての情報メディア
 - ・情報メディアの収集・選択・整理
 - ・情報メディアの保存・管理・再編
6. 情報メディアと情報通信技術・環境
 - ・新しいメディアと情報技術
 - ・ネットワーク環境と情報メディア
7. 情報メディアの活用と法的環境
8. 図書館における情報メディアの活用の今後

【評価方法】

平常点、小課題およびレポートによって評価する。

【テキスト】

適宜、配付資料を用いる。

【参考文献・資料】

図書館情報学用語事典(丸善)
その他、適宜紹介する。

情報メディア基礎論 I

廣田慈子

【授業の概要】

情報流通における情報メディアの役割について論じる。各種メディアの生産から流通までを対象に、その過程での問題点について議論し、より効果的な情報流通のための情報メディアのあり方を検討する。

【授業の目標】

今日の情報化社会および情報通信技術に応じた、多種多様な情報メディアの生産から利用までについて理解する。

【授業計画】

1. 情報流通と情報メディア
2. 学術情報の流通モデル
3. 現代社会における情報メディアの特徴と問題点
 - (1) 図書
 - 出版流通過程と制度
 - オンライン書店、オンデマンド出版
 - (2) 雑誌
 - 学術雑誌の機能、査読制度
 - 雑誌論文の構成
 - 抄録作成法、引用法、
 - プレプリント、e-print
 - レター、editorial comment
 - (3) 新聞
 - 新聞の流通制度
 - 新聞記事の構成
 - (4) 会議資料
 - 学会、会議録
 - (5) 特許資料
 - 特許制度
 - パテントファミリー、引用特許
 - (6) 規格票
 - 規格制度、情報関連の標準化活動
 - (7) データベース
 - 情報検索システムの歴史
 - 検索技術、シソーラス
 - (8) インターネット
 - ネットワーク情報源の特徴
 - WWWの評価
 - Web citation、メタデータ
 - ウェア・アーカイビング
4. 情報流通モデルの修正

【評価方法】

平常点、小課題、レポートによって評価する。

【テキスト】

適宜、配付資料を用いる。

【参考文献・資料】

適宜、講義内で紹介する。

情報メディア論 IV (人文社会情報メディア)

藤野寛之

【授業の概要】

人文・社会科学分野における情報メディアの特徴から、学問分野における学術情報の生産と利用について検討することを目的とする。

【授業の目標】

人文・社会科学分野で生産され利用されている各種情報メディアの特徴を理解する。

【授業計画】

1. 学問分野と情報メディア
2. 自然科学分野と人文・社会科学分野
3. 人文・社会情報メディア
 - (1) 美術・音楽
 - (2) 言語・文学
 - (3) 歴史
 - (4) ビジネス(経済、経営、企業情報等)
 - (5) 法律
 - (6) 図書館情報学
 - (7) その他
4. 情報メディアからみた情報の生産と利用

【評価方法】

出席状況、レポートおよび試験などを総合して評価する。

【テキスト】

専門資料論 [JLA図書館情報学テキストシリーズII 8] (三浦逸雄、野末俊比古 共編著 日本図書館協会)。
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

授業中に指示する。

情報メディア論 V (科学技術情報メディア)

廣田慈子

【授業の概要】

自然科学領域における主要な一次情報源である、学術雑誌を中心に解説する。学術雑誌と科学論文についての知識は、情報サービス専門家に欠かせない知識であり、学術雑誌を理解するポイントは、図書館資料としての狭い枠組みでなく、研究活動と科学コミュニケーションのなかで、その役割や問題を知ることにある。本講義では、特に研究者による論文生産の視点から、学術雑誌について検討する。

【授業の目標】

学術雑誌を中心に、執筆、審査、発表、製作、流通、利用の流れを理解し、自然科学領域における情報メディアの特性を理解し、より深く情報サービスを展開できる能力を習得する。

【授業計画】

1. 学術情報と文献情報・文献調査
2. 学術雑誌の歴史と形態
 - ・総合誌、レビュー誌、レター誌、等
3. 科学論文の執筆・論文発表
 - ・執筆と投稿規程
 - ・発表の形態
4. オーサーシップからみた学術論文
5. 出版倫理と科学者の倫理
6. レフェリーシステム
7. 学術雑誌の評価とインパクトファクター
8. 電子化環境・ネットワーク環境における学術情報
 - ・オンラインジャーナル、データベース等
 - ・オープンアクセス、機関リポジトリ等の新しい流れ

【評価方法】

平常点、レポートで評価する

【テキスト】

使用せず（配付資料）。

【参考文献・資料】

適宜、紹介する。

090435013_0180 掲載順 : 0155

MCode:090108517_0320 ★

資料組織演習

後藤宣子

【授業の概要】

「資料組織論」で学んだ理論について、演習を通してより深い理解と習得を目的とする。

演習内容は、記述目録法と主題目録法の2部から構成する。

記述目録では、目録規則の適用について学ぶ。ISBDや記述目録の知識を演習を通して理解し、さらに書誌ユーティリティを利用したオンライン目録作業について演習を行う。

主題目録法では、国内で主に利用されている「日本十進分類法」と「基本件名標目表」を取り上げる。主に図書資料を対象として、書誌レコードを作成する。

本科目の履修については、「資料組織論」の履修を条件とする。

学内LAN講習を必ず受講のこと。

【授業の目標】

「資料組織論」で学んだ知識を応用して、さまざまな参考ツールを活用しながら、オンライン目録作業を通して書誌レコードの作成ができること。書誌コントロールや典拠コントロールについて理解すること。

【授業計画】

- ・目録作業の概要
- ・記述目録法
 - ISBD
 - 書誌ユーティリティ (NACSIS/MARC) を利用したMARCレコード作成
 - アクセス・ポイントの選定
 - 典拠コントロール
- ・主題目録法
 - 分類：日本十進分類法
 - 主題件名標目表：基本件名標目表

【評価方法】

出席、実習およびレポート提出の総合評価

【テキスト】

資料組織演習 改訂新版 (北克一著 M.B.A.2003年)

【参考文献・資料】

「資料組織論」で配布したテキスト

資料組織論

廣田慈子

【授業の概要】

情報の組織化に関する理論と概念について理解することを目的とする。様々な情報資源を念頭において、資料組織業務の標準化と統一化の流れを把握し、目録の機能を理解することを目指す。

目録に関する用語と、英米目録規則、日本目録規則、主要な分類表および主題件名標目表を網羅する。

【授業の目標】

情報の組織化に関する概念を理解し、現在の目録サービスについて批判的に考察することができること。

目録やそれに関連する専門用語を理解すること。

【授業計画】

- 第1回 情報の組織化
- 第2回 目録
- 第3回 書誌コントロール
- 第4回 書誌ユーティリティ
- 第5回 目録規則
- 第6回 記述目録 (1) AACR2r, NCR
- 第7回 記述目録 (2) アクセス・ポイントの選定；標目形；典拠コントロール
- 第8回 記述目録 (3) 各種記述フォーマット
- 第9回 メタデータ
- 第10回 主題目録 (1) 概要
- 第11回 主題目録 (2) 分類法
- 第12回 主題目録 (3) 主要分類法
- 第13回 主題目録 (4) 主要件名標目表

【評価方法】

平常点、小課題、レポート、試験の総合評価。

【テキスト】

初回時にテキスト配布。

【参考文献・資料】

書誌コントロールの課題 (国立国会図書館編 日本図書館協会、2002)
 文献世界の構造：書誌コントロール論序説 (根本彰著 勁草書房、1998)
 図書館ネットワーク-書誌ユーティリティの世界- (宮澤彰 九善、2002)

090435013_0190 掲載順 : 0165

MCode:090108517_0330 ★

図書館学特殊 III (児童サービス論)

近藤洋子

【授業の概要】

図書館における児童サービスの理論と実際について、基礎的理解を図る。具体的には、日本の読書推進政策の現状を踏まえ、児童用資料の特性、利用者としての児童の特性、公立図書館・学校図書館における児童サービスおよび、図書館の周辺領域における児童へのサービスについても広くとりあげる。

【授業の目標】

図書館における児童サービスの理論の基礎的理解を具体的資料にあたって学ぶ。

サービスがよりよく実践されるための実技を学ぶ。

図書館見学等を通して、現状のサービスについて理解を深めていく。

【授業計画】

- (1) 子どもの読書と児童図書館
- (2) 児童図書館の意義と歴史
- (3) 児童資料の類型、出版・流通
- (4) 児童資料の特性1 絵本・創作児童文学
- (5) 児童資料の特性2 昔話・ノンフィクション・その他
- (6) 児童資料の収集・整理 蔵書構成
- (7) 資料提供サービス 窓口業務・フロアワーク・レファレンス
- (8) 集会行事 展示・PR
- (9) 児童サービスの技術1 読み聞かせ ストーリーテリング
- (10) 児童サービスの技術2 ブックトーク 書評・ブックリスト
- (11) 児童図書館の企画・運営 施設・設備
- (12) 児童サービスの対象 乳幼児・ヤングアダルトサービス
- (13) 類縁機関との連携 学校図書館
- (14) 児童図書館の現在と今後 見学レポートの発表
- (15) ストーリーテリング実習

【評価方法】

出席状況 平常点 図書館見学等レポートを総合評価

【テキスト】

児童サービス論 新訂版 (堀川照代編著 日本図書館協会)

【参考文献・資料】

児童サービス論 (佐藤涼子編 教育史料出版会)
 児童図書館のあゆみ(児童図書館研究会編 教育史料出版会)

情報学 III (図書館と情報検索の歴史)

藤野寛之

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、(人類の情報環境の発達過程を概観する)というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、(情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか)という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IIIでは、古代から中世までを対象とし、IVに引き継ぐ。

【授業の目標】

図書館や情報メディアに関する歴史的な事実を学ぶ。そのことにより、現代の図書館や情報サービス機関が持つ思想や性格について理解を深めていくことを目標とする。

【授業計画】

1. 古代文明のメディアと情報・知識活動
2. ギリシア・ローマにおける進展
3. 中世の学術と書物・図書館
4. 印刷革命

【評価方法】

出席状況および試験などを総合して評価する。

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (B. C. ヴィッカーリー著 [村主朋英訳] 勁草書房)。
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

図書館分類=書誌分類の歴史 第一巻 (エヴゲーニー・シャムーリン著 [藤野幸雄訳] 金沢文圃閣)。
その他の文献は授業中に指示する。

情報メディア論 I (マルチメディア)

廣田慈子

【授業の概要】

現代社会における情報の伝達・流通・活用の手法は、情報通信技術とコンピュータ機器の急速な発展と普及と共に多様に変化している。

本講義では、情報の表現・伝達方法である文字・画像情報を中心に、記録媒体である情報メディアおよびそれらを取り扱う多様な情報機器の種類、特性、機能、利用法、等について概説し、図書館・情報サービスにおける導入・活用の実例を示しながら解説する。

【授業の目標】

情報サービスにおける情報機器の活用に必要な基礎知識を習得し、多様な実践に対応しうる見識を身につける。

【授業計画】

1. 情報サービス機関における情報機器の意義と役割
2. 情報機器の概念構造
3. 情報メディアと情報機器の種類と歴史的展開
 - ・記録技術と情報機器
 - ・視聴覚メディアと視聴覚機器
 - ・電子メディアと電子機器
4. 情報処理技術
5. 情報機器の構成
 - ・入力装置
 - ・出力装置
 - ・通信装置
6. ネットワーク環境と情報機器
7. 現代社会における情報通信技術と社会環境の諸問題
 - ・知的財産権
 - ・ユビキタス環境
8. 図書館と情報機器

【評価方法】

出席、小課題、試験、の総合評価。

【テキスト】

適宜、資料を配付する。

【参考文献・資料】

適宜、講義内で紹介する。

情報学 IV (図書館と情報検索の歴史)

藤野寛之

【授業の概要】

図書館情報学分野に関わる歴史を概観する。『図書館情報学ハンドブック』第2版(丸善刊)において示された枠組みに基づき、図書及び図書館史の範囲を拡張し、(人類の情報環境の発達過程を概観する)というコンセプトを掲げ、図書館情報サービスの発達ならびに書誌・索引・目録・分類およびレファレンスブックに代表される知識の組織化過程の発達を中心に、(情報・知識の伝達・継承のために人類がどのような活動を行ってきたか)という問題を探求する。

具体的には、まず情報活動のための背景要因となるメディア技術(情報・通信技術)の発達過程を概観し、つぎに情報流通の制度・機構(とくに図書館等の情報サービス機関や、図書館員等の情報専門職)、および書誌・索引作成や目録・分類法等の情報の蓄積・検索の技術・技法が整備されていった過程を詳述する。それらは、人類にとって一種の環境要因である。その上で、そうした環境要因と人間との関わり(とくに情報の社会的蓄積・継承の問題)を展望する。

IVでは、IIIの知見を踏まえた上で、近・現代を対象とする。なお、マスメディアおよびコンピュータやネットワーク等の情報通信技術は背景要因の一部として扱うのみなので、それらの内容に期待する学生には、別の科目や参考書等を紹介する。

【授業の目標】

図書館や情報メディアに関する歴史的な事実を学ぶ。そのことにより、現代の図書館や情報サービス機関が持つ思想や性格について理解を深めていくことを目標とする。

【授業計画】

1. 近代の動向
2. 図書館の世紀
 - (1) アメリカ
 - (2) イギリス
 - (3) その他
3. 書誌とドキュメンテーション
4. 情報メディア技術の発達
5. 20世紀の情報流通システムと情報検索
6. わが国の図書館、情報流通のあゆみ
7. 各国の図書館、情報流通の比較
8. 各国の図書館・情報政策の変遷

【評価方法】

出席状況および試験などを総合して評価する。

【テキスト】

歴史のなかの科学コミュニケーション (B. C. ヴィッカーリー著 [村主朋英訳] 勁草書房)。
その他、適宜プリントを配布する。

【参考文献・資料】

図書館を育てた人々 イギリス篇 (藤野幸雄、藤野寛之著 日本図書館協会)。
その他の文献については授業中に指示する。

図書館概論

廣田慈子

【授業の概要】

古来より人類の知識と経験を記録物として収集、保管し、現在と将来にわたって提供する情報機関としての図書館の姿を概説し、図書館についての基礎を学ぶ。

地域、社会環境、技術の進展、多様な人々の利用要求などに応じて発展してきた、図書館の機能と構造、意義、種類と構成要素などを歴史的展開や法・社会環境の変化などを踏まえて全体像を把握する。

【授業の目標】

情報サービス機関としての図書館の全体像を把握し、図書館の多様性や社会的意義など、包括的に図書館を理解すること。

【授業計画】

1. 社会における図書館
 - ・情報サービス機関としての図書館
 - ・情報の流通と図書館
2. 図書館の意義と役割
 - ・図書館の機能(サービス)
 - ・法的基盤からみた図書館
3. 図書館の構成要素
 - ・図書館という組織(施設等) / 図書館員 / 利用者 と 図書館
4. 図書館の種類と機能
 - ・国立図書館 / 公共図書館 / 大学図書館 / 専門図書館 / 学校図書館
5. 情報ネットワークの中の図書館
6. 図書館を取り巻く諸問題
 - ・情報環境の変化 / 図書館の運営

【評価方法】

平常点、小課題、レポート試験等による総合評価。

【テキスト】

図書館情報学用語辞典 第3版(丸善)
その他、適宜資料を配付する。

【参考文献・資料】

図書館学基礎資料 第7版(今まど子編 樹村房)
図書館情報学ハンドブック 第2版(丸善)
その他、適宜講義内で紹介する。

図書館サービス論

廣田慈子

【授業の概要】

あなたが図書館員であると仮定し、図書館の現場で利用者からの期待に応えるさまざまな業務と施設を計画立案し、実施、評価するケーススタディなどを交え、より具体的に図書館サービスについての理解を深めることを目的とする。

【授業の目標】

今日の社会において図書館に求められる「情報サービス」の意義と役割、歴史的展開を理解した上で、現況の情報サービスの内容とその必要性、および新しい社会環境・技術環境に対応した情報サービスの内容とその必要性について、理解を深める。

【授業計画】

1. 図書館における「情報サービス」の意義
2. 情報サービスの歴史と展開
 - ・図書館における伝統的な情報サービスの歴史と内容の変遷
3. 図書館情報サービスの種類：パブリックサービス
 - ・貸出閲覧／レファレンスサービス／等
4. 図書館情報サービスの種類：テクニカルサービス
 - ・資料組織化／蔵書構築／等
5. 現代社会における図書館サービスの変化
 - ・情報通信技術（ICT）環境変化に対応した新・情報サービス
6. 社会環境の変化と図書館サービスの変化
 - ・法的環境の変化（著作権等）に対応した情報サービスの展開
7. 求められる「図書館の情報サービス」

上記内容について、講義を中心にを行います。
適宜、小課題やレポート等を課します。

【評価方法】

講義内での小課題等（30%）、および期末試験レポート（70%）の総合評価

【テキスト】

適宜、配布資料（レジュメ等）を用いる。

【参考文献・資料】

図書館情報学用語事典 第3版（同編集委員会編 丸善）
その他、授業中に適宜紹介する。

図書館資料論

廣田慈子

【授業の概要】

今日の図書館が取り扱う情報メディアは、技術の進展や社会環境の変化に合わせて多様化している。この講義では、情報メディアの種類とそれぞれの情報源としての特性、図書館サービスにおける意義を学び、情報流通と利用における役割についての知識を身につけ問題点について検討する。

【授業の目標】

図書館サービスの土台となる情報メディアの特性と役割を学ぶことで、図書館サービスにおける意義と実践に必要な知識を身につけ、多様なサービスに寄与できる知識を身につける。

【授業計画】

1. 図書館と図書館資料、情報メディア
2. 図書館資料としての情報メディアの種類と特性
 - ・紙媒体メディア情報源
 - ・非紙媒体メディア情報源
 - ・非メディア（ネットワーク）情報源
3. 情報メディアの発生・生産
4. 情報流通と情報メディア
5. 図書館コレクションとしての情報メディア
 - ・情報メディアの収集・選択・整理
 - ・情報メディアの保存・管理・再編
6. 情報メディアと情報通信技術・環境
 - ・新しいメディアと情報技術
 - ・ネットワーク環境と情報メディア
7. 情報メディアの活用と法的環境
8. 図書館における情報メディアの活用の今後

【評価方法】

平常点、小課題およびレポートによって評価する。

【テキスト】

適宜、配付資料を用いる。

【参考文献・資料】

図書館情報学用語事典（丸善）
その他、適宜紹介する。

初級簿記（3級程度） *基礎総合

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定3級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。前期は2コマ（3時間）ずつ週2回のペースで、後期は2コマ（3時間）ずつ週1回のペースで講義を行う。この講義は初学者向けの講義であり、簿記の仕組みから精算表の作成まで簿記の基礎とされる内容を一通り学習した後、全国公開模擬試験などの問題を通して日商簿記検定3級の合格サポートを行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記の目的・取引・仕訳・勘定口座の記入方法
- 第2回 試算表・商品売上の記帳方法、現金預金の記帳
- 第3回 手形の記帳方法、その他の勘定の記帳方法
- 第4回 その他の勘定記帳方法、主要簿および補助簿
- 第5回 主要簿および補助簿、伝票
- 第6回 直前総まとめ問題集解説（補助簿、試算表、伝票対策）
- 第7回 決算整理（売上原価）、英米式決算法、精算表
- 第8回 決算整理（貸倒、減価償却、固定資産の売却、繰延・見越）
- 第9回 決算整理（消耗品、現金過不足、売買目的有価証券、引出金）
- 第10回 直前総まとめ問題集解説（仕訳、精算表対策）
- 第11回 直前答練第1回、解説
- 第12回 直前答練第2回、解説
- 第13回 直前答練第3回、解説
- 第14回 全国公開模擬試験、解説
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）B *工業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「商業簿記」は中級簿記（2級程度）Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 工業簿記の基礎、個別原価計算の体系
- 第2回 材料費会計
- 第3回 労務費会計
- 第4回 経費会計、製造間接費会計
- 第5回 工企業の財務諸表
- 第6回 部門別会計、工場会計
- 第7回 工業簿記の基礎、総合原価計算の体系
- 第8回 単純総合原価計算
- 第9回 減損および仕損
- 第10回 組別・等級別原価計算
- 第11回 標準原価計算
- 第12回 損益分岐点分析、直接原価計算、固定費調整
- 第13回 総まとめ（1）
- 第14回 総まとめ（2）
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）A *商業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定3級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく2級の試験範囲である「工業簿記」は中級簿記（2級程度）Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 簿記一巡、固定資産
- 第2回 減価償却、銀行勘定調整表、引当金
- 第3回 その他の引当金、商品の評価、税金
- 第4回 株式の発行、利益処分
- 第5回 会社の合併、社債の発行、決算整理
- 第6回 社債の償還、決算法、財務諸表
- 第7回 伝票会計
- 第8回 帳簿組織
- 第9回 特殊商品売買
- 第10回 仕入割引、売上割引、研究開発費、有価証券
- 第11回 債務保証、手形の不渡り、裏書譲渡
- 第12回 本支店会計
- 第13回 総まとめ（1）
- 第14回 総まとめ（2）
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価をする。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記（2級程度）C *実践

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定2級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。この講義は中級簿記（2級程度）AまたはBの受講者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

【評価方法】

単位認定試験の成績に応じて評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）A *商業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「会計学」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）B、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、企業会計原則、簿記一巡
- 第2回 一般販売、特殊商品売買I
- 第3回 特殊商品売買II
- 第4回 特殊商品売買III
- 第5回 棚卸資産
- 第6回 固定資産I
- 第7回 固定資産II
- 第8回 減損会計、繰延資産
- 第9回 研究開発費、引当金I
- 第10回 引当金II、退職給付会計I
- 第11回 退職給付会計II、社債I
- 第12回 社債II、資本I
- 第13回 資本II
- 第14回 合併会計、会社分割
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）C *原価計算

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。講義は前期集中授業期間で行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「原価計算」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、B、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、原価・営業量・利益関係の分析I
- 第2回 原価・営業量・利益関係の分析II
- 第3回 予算編成
- 第4回 予算統制I
- 第5回 予算統制II、売上数量差異の分析
- 第6回 事業部制、セグメント別損益計算
- 第7回 業務的意思決定I
- 第8回 業務的意思決定II
- 第9回 業務的意思決定III、最適セールス・ミックス
- 第10回 構造的意思想定I、設備投資の意思想定
- 第11回 構造的意思想定II
- 第12回 構造的意思想定III
- 第13回 戦略的原価計算I、品質原価計算
- 第14回 戦略的原価計算II、原価企画、活動基準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）B *会計学

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。講義は前期集中授業期間で行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「会計学」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「原価計算」、「工業簿記」は上級簿記（1級程度）A、C、Dで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 現金および預金、債権、有価証券
- 第2回 金融資産および金融負債、デリバティブ取引
- 第3回 ヘッジ会計、為替換算会計
- 第4回 外貨建取引処理基準、為替予約
- 第5回 税効果会計、一時差異等の会計処理I
- 第6回 一時差異等の会計処理II
- 第7回 本支店会計
- 第8回 連結会計、取得日連結
- 第9回 連結会計、取得後連結I
- 第10回 連結会計、取得後連結II
- 第11回 連結会計、持分の段階取得、売却、増資
- 第12回 持分法、連結税効果会計、在外子会社連結
- 第13回 キャッシュ・フロー会計
- 第14回 連結キャッシュ・フロー会計
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）D *工業簿記

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネートをを行う。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。この講義は日商簿記検定2級の合格者およびそれに相当する者向けの講義であり、日商簿記検定1級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。同じく1級の試験範囲である「商業簿記」、「会計学」、「原価計算」は上級簿記（1級程度）A、B、Cで取り扱うので、履修することが望ましい。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 総論、単純個別原価計算
- 第2回 部門別個別原価計算
- 第3回 部門別計算I
- 第4回 部門別計算II
- 第5回 実際総合原価計算I、総論
- 第6回 全部原価計算と直接原価計算、固定費調整
- 第7回 実際総合原価計算II、減損、仕損
- 第8回 実際総合原価計算III、異常減損・仕損
- 第9回 工程別総合原価計算
- 第10回 組別・等級別原価計算、練産品・副産物・作業屑
- 第11回 標準原価計算I
- 第12回 標準原価計算II、歩減が発生する場合
- 第13回 標準原価計算III、配合差異・歩留差異
- 第14回 工程別標準原価計算、直接標準原価計算
- 第15回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

上級簿記（1級程度）E *実践

コーディネーター：三浦克人・浅井敬一郎

【授業の概要】

大原簿記専門学校の講師が日商簿記検定1級の試験対策講座を行い、本学講師がそのコーディネーターを行う。この講義は上級簿記（1級程度）A、B、C、Dのうちいずれか1つを受講した者を対象とした講義であり、検定試験直前期に集中的に行う。日商簿記検定は知名度・人気ともにナンバーワンの簿記資格であり、公認会計士、税理士試験に挑戦する人や金融関係を目指す人だけでなく、民間企業への就職志望者にとっても非常に有効な資格である。

【授業の目標】

日商簿記検定1級に合格すること。

【授業計画】

- 第1回 直前答練第1回、解説
- 第2回 直前答練第2回、解説
- 第3回 直前答練第3回、解説
- 第4回 直前答練第4回、解説
- 第5回 全国公開模擬試験、解説
- 第6回 ファイナルチェック問題、解説
- 第7回 直前総まとめ
- 第8回 単位認定試験

【評価方法】

出席状況、課題、単位認定試験により総合的に評価する。

【テキスト】

大原簿記専門学校のテキスト

初級簿記演習

三浦克人 藤原英賢

【授業の概要】

この授業は、初級簿記（3級程度）の単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。

【授業の目標】

日商簿記検定3級に合格すること。

【授業計画】

1. 商品売買
2. 手形取引
3. 有価証券
4. 固定資産
5. 決算手続き
6. 精算表の作成
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

日商簿記3級過去問題集（大原簿記学校著 大原出版）

【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記演習A *商業簿記

藤原英賢

【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「商業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく2級の範囲である「工業簿記」は、中級簿記演習Bで取り扱うので、同時履修が望ましい。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

1. 商品・特殊商品売買取引
2. 手形取引
3. 株式会社会計
4. 本支店会計
5. 帳簿組織
6. 決算整理
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

日商簿記2級過去問題集（大原簿記学校 大原出版）

【参考文献・資料】

大原簿記専門学校のテキスト

中級簿記演習B *工業簿記

三浦克人

【授業の概要】

この授業は、中級簿記（2級程度）AまたはBの単位を修得した学生で、簿記検定試験の再受験を希望する者のみが履修できる。2コマ（3時間）ずつ、週1回のペースで講義を行う。日商簿記検定2級の試験範囲のうち「工業簿記」を取り扱う。検定試験のレベルにあわせた問題練習を中心に講義を進める。同じく2級の範囲である「商業簿記」は、中級簿記演習Aで取り扱うので、同時履修が望ましい。

【授業の目標】

日商簿記検定2級に合格すること。

【授業計画】

1. 工業簿記の基礎、材料費・労務費・経費の計算
2. 製造間接費の計算、部門費の計算
3. 個別原価計算
4. 総合原価計算
5. 標準原価計算
6. 直接原価計算
7. 単位認定試験

【評価方法】

出席状況と単位認定試験により評価する。

【テキスト】

別途指示する。

【参考文献・資料】

大原簿記学校のテキスト

英語海外セミナー II (オーストラリア)

ARNOLD, Brent C.

【Course description】

Students will be in an English Immersion course at Canberra University. They will study and practise English language in class, and then have an opportunity to use English during out-of-class activities and weekly excursions to places of interest around Canberra. Students will home-stay for the entire period in Canberra.

【Course objectives】

This course will allow students to improve their English skills, and increase their accuracy, fluency and confidence in expressing themselves in English. The English environment and conversation in and outside the classroom will also improve listening comprehension.

【Course schedule】

Daily schedules include morning classes and afternoon activities. Wednesday afternoons will be set aside for excursions to places of interest such as a farm, the National Gallery and Questacon, an interactive science museum.

【Assessment】

Assessment will be based on Canberra University's standards, which evaluate a student's ability to use English, their willingness to try to use English, and improvement in English ability.

【Textbooks】

No text. Worksheets will be given as necessary.

英国インターンシッププログラム

WOODMAN, Jo-Anne

【Course description】

This summer internship programme is designed to allow the students to experience studying, living, and working in England. The course will involve two weeks of English lessons, followed by two weeks work-experience. The English lessons will emphasize the specific language and communication skills needed in a British work environment. The internship placement will be decided after considering the preferences and language ability of each student.

【Course objectives】

This is a unique opportunity for ASU students...they will have English lessons, a home-stay, a multitude of extra-curricular activities, PLUS the chance to acquire knowledge and experience of British corporate culture. Consequently, the students should be better equipped to make informed career decisions.

In addition, potential employers will appreciate the internship experience has helped to broaden their perspective, increased their self confidence, and improved their ability to work and communicate in English.

【Course schedule】

The programme is scheduled to include:
Lessons: - English for work/General English/British Culture
Internship - At least 48 hours of work-experience
Trips / activities (often including other International Students)
- London, Canterbury, Cambridge, Bluewater, beach BBQ, ice-skating, karaoke evening(with hostparents),luncheon(with Internship Supervisors)

【Assessment】

Students will be required to attend all the orientation sessions prior to departure, in addition to fulfilling the lesson and work requirements deemed appropriate by the ASU Programme Co-ordinator.

米国NPOインターンシッププログラム

榎田勝利

【授業の概要】

米国ワシントンD.C.にあるCivil Society Consulting Group (CSCG) との共同プログラムとして、毎年2月中旬から約1ヵ月間実施する。米国の民間非営利組織 (NPO) でのインターンシップの体験を通して米国社会が抱える深刻な社会問題を理解し、その問題解決の方法を学ぶ。インターンシップの期間中は、一般の米国人の家庭でのホームステイをし、日常生活を体験する。インターンシップの受け入れ場所は、ワシントンD.C.および周辺地域で、学生の関心分野、英語力、専門的知識、経験等を考慮し、受け入れ団体を決める。

(活動可能な分野) 老人、児童・青少年、自然・環境、識字教育、障害者、家族、ホームレス、ジェンダー、文化・芸術、スポーツ、バイリンガル教育、外国人支援、国際交流・国際協力、博物館・美術館、図書館、その他。

(米国側協力団体) Civil Society Consulting Group (CSCG)

【授業の目標】

実践の場を通して、異文化コミュニケーション能力と情報技術能力の向上を図り、学生の将来のキャリア形成の一助ともなる機会を提供する。

【授業計画】

(事前研修)・インターンシップの活動分野の決定・日米のNPO、ボランティア団体等の現状学習・日本のNPO、ボランティア団体へのフィールドワーク・英会話のトレーニング・米国側ディレクターによる合宿オリエンテーション

(現地プログラム)・オリエンテーション合宿・基本的に月曜から金曜までの5日間のインターン・1日特別研修プログラム・インターンシップの体験報告書の作成と提出・評価会、修了式、さよならパーティ

(事後研修)・フォローアップ研修、報告書作成

【評価方法】

現地での評価(受け入れ団体、ホストファミリー等と報告書)を考慮し総合評価を行う。

【テキスト】

米国側提出の英文資料

【参考文献・資料】

研修時にその都度資料を提供する

中国語海外セミナー I (中国)

馮 富榮

【授業の概要】

この講義では、言語実践を通して、言葉を知り、相手を理解し、さらに自ら発信して、理解されることの楽しさを体験することができる。また南京師範大学に滞在して生活することで、中国に対する単なる傍観者・観察者ではなく、客観的な目をもった共感者になることを目指す。

1. 南京師範大学において4週間程度の中国語研修を行う。
 - ◎ 月曜～金曜の午前中は8:00～11:30まで中国語の授業。日本語のできない先生が中国語で授業するが、分かるのが不思議。内容は会話表現中心。
 - ◎ 午後は課外活動として南京市内見学(中山陵、南京博物館、玄武湖、夫子廟、南京大屠殺記念館など)を通して、南京の風俗、歴史を学び、日本語学科の学生との交流会などを通して中国人同世代の人の考え方や生活を学ぶ。
 - ◎ 夜は予習復習に追われる。みんな教室に集まって、黙々と勉強。
 - ◎ 土曜と日曜は言語実践の日。南京の街へ飛び出そう!
 - ◎ 風光明媚な「瘦西湖」で名高い揚州への一日旅行。
2. 言語文化論Iの講義内容と呼応した5日間ほどの研修旅行。
3. 定員は20名程度。
4. 今年度の2月中旬から3月中旬にかけて実地する。
5. 修了者に2単位を認定する。

【授業の目標】

研修に参加することによって、授業に使われている中国語を聞いて分かること、買い物に使う会話や中国人との普通の会話がマスターすること、並びに研修から帰って2ヵ月後に学内で実施するHSK基礎試験の3級を取ることを目標とする。

【授業計画】

後期開講科目であるが、履修登録を必要とせず、参加したことによって単位が取得できる。9月下旬頃、参加募集を掲示に出し、10月中旬頃に参加者を決定する。その後、説明会を2回ほど、オリエンテーションを1回実施する。詳しくは国際交流センターの掲示を見る。2月中旬に出発し、3月中旬に帰国する。費用は25万程度。

【評価方法】

引率者は平常点で評価する。

【テキスト】

南京師範大学の研修授業の担当先生が決めるテキストを使用する。

【参考文献・資料】

適宜に指示する

韓国・朝鮮語海外セミナー I (韓国)

キム ソヨン

【授業の概要】

韓国語の学習と韓国文化の体験、そして韓国の大学生との交流を目的に設けられた研修です。韓国屈指の名門、ソウルの梨花女子大において実施されます。梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流する形で韓国語の授業、韓国の文化と社会を理解し体験できるための韓国文化の各講座、韓国の庶民生活がじかに体験できる2泊3日におよぶホームステイ、そしてこの国際時代の未来とともに生きる韓国の若者と一緒に語りあい、活動しあえる日韓学生共同プログラムなどが正規のメイン企画です。その他、ソウル随一の学生街、おしゃれ街として知られる新村での一夏の生活もこの研修の大きな魅力の一つです。

期間：夏期休暇の8月中の3～4週間

内容：

1. 韓国語研修
 - a. 梨大(イデ)の言語教育院が主催する「韓国語短期過程」に合流
 - b. 実生活での意思疎通のための集中的韓国語の学習
 - c. 入門の1段階から最上級の6段階に分けられたクラス編成
 - d. 専門教授陣による自分の能力に見合ったクラスでの研修
2. 韓国文化研修
 - a. 芝居鑑賞
 - b. 板門店の訪問
 - c. ホームステイ(2泊3日)
3. 日韓学生共同プログラム
 - a. 毎週1回程度の頻度
 - b. テーマごとに、韓日の大学生が協同参加で活動する大学生との交流行事
 - c. テーマ、「韓国と日本の大学生活を語る」、「地域探訪(文化財調査)」、「韓国の民俗と礼節」など
4. その他の課外活動

【授業の目標】

韓国に滞在しながら実生活に必要な意思疎通のための韓国語(サブバイバル韓国語)を身に付け、梨大言語教育院で韓国語の実力を向上させるとともに、韓国文化研修やホームステイ、韓国の大学生との交流行事等を通して、韓国の文化や諸事情に関する知識や理解を深める。

【授業計画】

- 4～5月：ガイダンス、参加者の募集および決定
6～7月：数回の事前研修
8月：現地研修
9～11月：事後研修および報告書のまとめ

【評価方法】

現地教員、プログラムの関連スタッフ、および引率教員の総合評価による。

【テキスト】

現地研修の韓国語教材「Pathfinder in Korean1,2,3,4,5」(梨花女子大学校出版部)中
その他は特になし

090436015_0080 掲載順:0080

MCode:090109519_0080 ★

Get together and Talk II

ARNOLD, Brent C.

【Course description】

対話力養成モジュールの1つとして、学生同士の意見交換を活発に行うことで、説得力のある議論を口頭で展開する方法を、実際の経験を通して学ぶことを目標とします。

Get together and Talk IIでは、本学学生同士の意見交換のみならず、インターネットのプロトコル接続によるビデオコンファレンス機能(アップルコンピュータ社のiChat)を利用して、キャンベラ大学等の学生と意見交換を行います。

さまざまなテーマに基づいて、キャンベラ大学等の学生と意見を交換することで、英語運用力を高めるのみならず、日本語と英語の違い、日本とオーストラリアの文化・考え方の違いなどさまざまな違いを発見することが期待されます。

【Course objectives】

- There are three main objectives.
1. To allow students to converse with native speakers, helping the students' listening and speaking fluency skills.
 2. Discuss topics of interest with people of a similar age who live in a different country.
 3. Listening to native English speakers speaking in Japanese will help students understand their own speaking difficulties and increase their awareness and confidence.

【Course schedule】

This lesson will be held on Tuesdays over 2nd and 3rd periods, 10:50 - 2:50, Wednesdays 4th and 5th Periods 3:00-6:10pm and Thursdays 3rd and 4th Periods 1:20-4:30pm.

During this time there will be 4 time periods, 1. Preparation, 2. Chat, 3. Review, and 4. Lunch/or break! Due to the time difference between Japan and Australia it may be necessary to have a flexible lunch period.

Time Will be used for real time chat with Australian University students. Topics for discussion will differ week to week. Some example topics are listed below.

1. Death penalty
2. The article no.9 of Japanese constitution
3. Marriage between the same sex couple
4. Should we accept more refugees?

【Assessment】

Assessment will be based on
50% Topic preparation
50% Participation

【Textbooks】

No text

【Reference】

<http://www.apple.com/support/isdigit/>

Get together and Talk I

HARRIS, Richard S.

【Course description】

“One World Cultural Exchange” Get Together and Talk I seminar, 2009

<Course outline>

Students are provided with ample opportunities to improve their English communication skills through dialog with international students. All lectures and activities will be conducted in English. This 2-credit intensive English course is offered to all departments

Students must be available for the full length of the program and they must be motivated to improve their speaking skills in English while actively participating in all aspects of the program.

Course size is limited to 30 students.

【Course objectives】

Course objective is to participate in a cultural exchange with people from other parts of the world. Learn about international societies from native people from Asia Africa, and Europe. Your guide through this lecture Series is Richard S. Harris an American who has been teaching in Japan for over 21 years.

【Course schedule】

<Class activities and assignments>

- 1) International students give presentations on their cultures and participate in Group discussions.
- 2) Japanese students will be required to do two short written assignments about culture, one is pre seminar survey and the other is post seminar assignment.

【Assessment】

Course Assessment

60% of grade will be based on course participation.

40% of grade will be based on assessment of written assignments

【Textbooks】

not required

090436015_0090 掲載順:0090

MCode:090109519_0090 ★

コミュニティ・サービラーニング IA (社会貢献実習)

小島祥美

【授業の概要】

私たちが暮らす地域(コミュニティ)には、多様なニーズに対応した地域活動(サービス)が展開されています。本講義では、受講生全員が地域(学外)における実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。

具体的な実践活動としてIAでは、地域で活躍するボランティア団体や行政などと協働しながら、EXPOエコマナーを活用した環境活動、ボランティア啓発活動などの企画を行いながら、実践へ繋げていきます。

【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI～IIIの内容等の説明)
2. ラーニングI
 - 1) 地域活動とは?
 - 2) 地域活動の意義とその役割
 - 3) 地域活動参加にあたっての心構え
 - 4) 参加学習と各自の専攻との関連
3. ラーニングII
地域活動参加学習(活動期間は、内容により異なる)
4. ラーニングIII
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

【評価方法】

出席状況、各課題(レポート、発表)により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加(出席)、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典(社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版)

コミュニティ・サービスラーニング IB (社会貢献実習)

小島祥美

【授業の概要】

私たちが暮らす地域(コミュニティ)には、多様なニーズに対応した地域活動(サービス)が展開されています。本講義では、受講生全員が実践を通じて、地域社会の一員としての自覚と能力を育成していきます。
コミュニティ・サービスラーニング IBでは、IAでの企画・運営を受けて、地域で活躍するボランティア団体や行政等と協働しながらEXPOエコマネーを活用した環境活動の他、ボランティア啓発活動などの具体的な運営を行います。

【授業の目標】

受講生全員が地域に貢献しつつ地域活動に参加し、社会への参画体験を積むことによって、自主的に考え行動する力や責任感、判断力などを養い、健全な社会構成員に求められる資質や能力を育てることを目標とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
(本講義の目的とスケジュール、ラーニングI~IIIの内容等の説明)
2. ラーニングI
 - 1) 地域活動とは?
 - 2) 地域活動の意義とその役割
 - 3) 地域活動参加にあたっての心構え
 - 4) 参加学習と各自の専攻との関連
3. ラーニングII
地域活動参加学習(活動期間等は内容により異なります)
4. ラーニングIII
活動を振り返りながら参加学習と各自の専攻との関連を考えます。

【評価方法】

出席状況、各課題により、「合」「否」として評価する。なお、ラーニングI・IIIへの参加(出席)、およびラーニングIIでの所定期間の活動参加を行った者について、単位を認定する。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布する。

【参考文献・資料】

参考文献: ボランティア・NPO用語事典(社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版)

コミュニティ・サービスラーニング IIIA (地域メディア実習)

小川明子 小島祥美

【授業の概要】

さまざまな産業の労働者として、日本にも多くの外国人が暮らすようになりました。しかし、私たちは、買い物や交通機関などで、彼らと日常的に顔を合わせながら、その生活がどのようなものなのか、よく理解できていません。そして残念ながら、こうした文化や思いへの無理解や行き違いが、ときに地域社会において問題化したりします。
・この演習では、地域において、その地域に暮らす住民たちと在住外国人が、よりよく互いを理解するためのお手伝いをします。具体的には、外国人(主に、ブラジル、フィリピン)の中高生たちが、普段の暮らしのなかで伝えたいことを写真や動画を撮影し、それをケーブルテレビやウェブサイトなどの地域のメディアで表現することでより多くの人びとに視聴してもらおう現場実践型プログラム、そのお手伝いです。
・この演習では、自分たちがそれぞれの学部や専攻において、これまでの授業のなかで学んだことを積極的に生かしていってほしいと思います。(たとえば、語学、映像編集、異文化コミュニケーション、アーカイビングなど)
・この実習は昨年(2019年)に続き2年目です。すべては参加者の皆さんのやる気次第ですが、きっと思い出せる実習になると思います。このプロジェクトを面白いと思い、夏休みの一週間をそれにあててみようとする積極的な学生さんぜひ集まってほしいと思っています。

【授業の目標】

- 1) 日本の地域における外国人をめぐる状況を把握する。
- 2) 地域におけるメディアやコミュニケーションの重要性、可能性について考える。
- 3) 大学での学習と、地域の現場との往復を通じて、実践型参加型の学習のありかたについて考える。
- 4) 参加者間のコミュニケーションを通じて、自らプロジェクトを立案し、遂行する能力を身につける。

【授業計画】

- プレセミナー
プレ1日目 4月(場所、日程等、詳細は学生課横CCC掲示板にて提示)
授業内容詳細の提示、サービス・ラーニング準備
プレ2日目 7月(場所、日程等、詳細はCCC掲示板にて提示)
事前調査発表
- 8月集中講義日程(場所、日程等、詳細は学生課横CCC掲示板を確認のこと)
1日目 アイスブレイキンググループ分け
メディア技術研修(長久手キャンパス)
2日目 参加学生作品制作
3日目 現地ワークショップ1日目
4日目 現地ワークショップ2日目
- 振り返り
9月または10月

【評価方法】

出席、授業態度/参加意欲、授業をめぐるレポートなどで総合的に評価する。

【テキスト】

・「在日外国人一法の壁、心の溝」岩波新書 田中 宏(著)
・「日本の中の外国人学校」明石書店 月刊「イオ」編集部(編集)
・「メディア・ワークショップ」東京大学出版会(2008年出版予定)
・「メディア・プラクティス」セリカ書房

【参考文献・資料】

適宜指定する

コミュニティ・サービスラーニング IIA (企業のCSR活動)

小林三太郎

【授業の概要】

現代社会では積極的にCSR活動に取り組む企業が増加している。
また、企業の不祥事が相次ぐ中、CSR活動の重要性が高まっている。
本講義では、受講生が特定企業におけるCSR活動の企画立案に参加し、プレゼンテーションを行なう。学内の講義と学外での実践を通してCSR活動の重要性を習得する。

【授業の目標】

授業前半でCSR活動の基本的知識の習得を目指し、授業後半では、前半で養った知識を活かし学外で発表をする。講義と学外活動を通してプロジェクトの企画・提案を創出するプロセスを把握し、必要な能力を養うことを目標とする。

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 CSR活動とは
- 3 企業のCSR活動(事例報告)
- 4 CSRに関する調査活動
- 5 CSR活動の企画立案
- 6 プレゼンテーション
- 7 総括

【評価方法】

出席状況と授業中の態度による。

【テキスト】

必要に応じて資料を配布。

【参考文献・資料】

授業中に適宜紹介。

地域活動総合演習 IA

小林三太郎

【授業の概要】

現代社会において医療を取り巻く環境は激しく変化している。
本講では、医療制度や医療現場の問題を様々な視点から学ぶ。
また、病院施設の現場見学や老人保健施設でレクリエーションの企画・発表を行い、地域における医療機関のあるべき姿を考察する。

【授業の目標】

現在の医療に関する基本的な問題を学習する。
また、学外活動やグループワークを通して、学生の課題発見・探求能力の向上を目指す。

【授業計画】

- 1 ガイダンス
- 2 医療を取り巻く環境について
- 3 現代の医療の問題
- 4 病院見学
- 5 レクリエーションの企画・発表
- 6 グループワーク

【評価方法】

出席と授業態度の評価による。

【テキスト】

未定

【参考文献・資料】

授業の中で適宜紹介する。

地域活動総合演習 IIA

小島祥美

【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会化が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習します。

また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。

これらの学習を通じ、各受講生が事業企画を行い、IBの実践的な活動運営まで発展させていきます。

なお、具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）
日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

障がい者支援ボランティア入門

石黒文字

【授業の概要】

大学で学ぶ学生の中には、視覚障害、聴覚障害、肢体障害などにより制限を受けているために、授業や学生生活においてノートテイク、手話通訳等の授業支援を必要とする人たちがいる。そこで、本授業では、これら障害のある人についての基本的な理解と初歩的な支援技術を学び、障害のある人への学生支援ボランティア活動の活性化と充実及び共に学ぶ場を作り出していくことをめざすことを目的とする。

【授業の目標】

- (1) 障害学生支援に関心をもち、障害のある人のニーズについて学ぶ。
- (2) 障害のある人への支援技術を身に付け、共に学ぶ実践を実行する。
- (3) 授業で学んだ内容を実際の支援ボランティア活動に結びつけ、共に学ぶ場を作っていく。

【授業計画】

1. 授業のガイダンス
2. 現代社会と障害のある人を取り巻く環境
3. 肢体に障害がある人の理解と支援方法
 - (1) 肢体障害者の理解
 - (2) 肢体障害者の支援方法（生活介護）
4. 視覚障害者の理解と支援方法
 - (1) 視覚障害者の理解
 - (2) 視覚障害者の支援方法（点字、移動問題、授業の解説）
5. 聴覚障害者の理解と支援方法
 - (1) 聴覚障害者の理解
 - (2) 聴覚障害者の支援方法（手話通訳・ノートテイク）
6. 障害学生支援ボランティア活動の実践
7. 愛知淑徳大学における支援のシステム
8. 共に生きる社会を目指して

【評価方法】

- 1.出席を評価の中心とする。
- 2.ボランティアの体験レポート
- 3.最終レポートの提出

【テキスト】

毎回の講師が指定する資料やレジュメがテキストとなる

地域活動総合演習 IIB

小島祥美

【授業の概要】

日本社会は急激に多民族多文化社会化が進んでいます。特に私たちが暮らす愛知県は、ブラジル、ペルーなどを中心とした中南米出身の外国人住民の占める比率が全国で最も高い地域です。このような現状から、外国人住民と共に暮らす地域づくりは、今後ますます重要な課題になると考えられます。

本演習では「多様な文化や背景を持つ外国人住民との共生社会」という具体的なテーマに関する実践を通じて、地域社会に対する興味、関心、問題意識という力を養っていきます。

本演習テーマに対し、主体的かつ積極的に取り組む受講生を歓迎します。

【授業の目標】

地域に暮らす外国人コミュニティでのフィールドワーク、ボランティア活動を通じ、地域に暮らす外国人住民と共生をめざした地域づくりに必要な視点および事業企画・運営能力を養います。

【授業計画】

本演習では、まず学生一人ひとりが地域社会にある課題を発見し、課題解決策を考える力を培うことを目的とした課題探求型講義を行います。特に、「行政とまちづくり」「外国人コミュニティ」「地域住民とボランティア活動」などの多角的視点から、地域社会を社会的に見る方法を学習します。

また実際に外国人住民が多く暮らす地域へ一緒に出かけ、地域住民と外国人住民との共生社会をめざした行政やNGO/NPOなどの取り組みについてフィールドワークを行い、実践方法について学習していきます。

これらIAの学習を通じ、実践的な活動運営を行います。なお具体的な活動運営内容は、公立学校における外国人児童生徒の学習支援、ブラジル政府認可校におけるブラジル人の子どもたちを対象にした日本語学習支援や日本文化紹介などを予定しています。

【評価方法】

出席状況、授業内のディスカッションへの参加、レポート等を総合的に判断して評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

新在日外国人（田中宏著、岩波新書）、日本の中の外国人学校（月刊「イオ」編集部編、明石書店）

入門ボランティア

小島祥美

【授業の概要】

1997年11月の国際連合総会において、日本の提案に基づき122カ国の共同提唱国を得て、「2001年ボランティア国際年(International Year of Volunteers)」とすることを宣言する」という決議が採択されました。1995年の阪神・淡路大震災以後、日本国内においてはボランティア活動に対する関心と理解が高まり、各地に多種多様なボランティア活動が展開されています。本講義では、ボランティア活動についての理解と認識を深め、地域での実践事例を通じ、「ボランティア活動の魅力」について学びます。なお、地域で活躍するボランティア活動実践者をゲストスピーカーとしてお招きする他、受講生全員でボランティアを体験できる場も設定する予定です。

【授業の目標】

ボランティア活動の「魅力」を学び、ボランティア活動の「楽しさ」を知り、実践活動への「参加」へ繋げることを目指します。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. ボランティア活動に参加することの意義を考える
3. 基本的な用語とキーワードを学ぶ
- 4～8. 地域で活躍するボランティア活動から学ぼう
- 9～11. 企業の社会貢献とは？
 - ※企業の社会貢献事業を学ぶ場として学外による活動を予定しています
12. 行政とボランティア団体とのコラボレーションとは？
13. ボランティア団体の抱える課題とは？
14. 地域にあるボランティア・市民活動推進機関とは？
15. 総括

【評価方法】

毎回出席確認を兼ねた感想文の他、授業態度、レポート課題により、総合的に評価します。

【テキスト】

適宜、参考文献の紹介、参考資料やプリントを配布します。

【参考文献・資料】

ボランティア・NPO用語事典（社会福祉法人大阪ボランティア協会編集、中央法規出版）

入門ボランティア

橋本吉広

【授業の概要】

自分自身の周りにある壁を破って、ボランティアの世界に入っていくことを「入門」と位置付けてみます。ボランティア活動の実際を紹介することで、そこにある問題を自分の力で発見し、どのような活動につなげていったらいいか、ボランティア発想を鍛える自問型授業とします。

【授業の目標】

ボランティアの現場を取り巻く状況に視点をあて、ボランティアとは何か、なぜボランティアが必要とされているかなどを考えながら、ボランティアの世界に踏み出す心構えと作法を身につけることをめざします。

【授業計画】

- 1 ようこそ ボランティアの世界へ セカンド・ハーベストの実践
- 2 生死と関わるボランティア-国境なき医師団の活動
- 3-4 住まうこととボランティア-高齢期の住まい・宅老所の実践
- 5-6 ワーキングプアの生活支援・ホームレスの自立支援
- 7-8 自然災害と向き合うボランティア-災害救援活動/災害復興・まちづくり
- 9 ボランティアの現代(中間まとめ)
- 10-11 自然環境と向き合うボランティア-霞ヶ浦での自然再生/風力発電への取り組み
- 12 ボランティアとNPO・市民事業～ボランティアとして働く
- 13 ボランティア活動のマネジメント 資金調達の世界/ボランティア組織のガバナンス
- 14 さあボランティアの世界へ
- 15 試験

【評価方法】

授業にもとづくレポート提出を数回求め、その提出状況を評価の基礎に置きます(25%程度)。期末試験を実施し、学習の成果を確認します(75%程度)。

【テキスト】

授業毎に資料を配布します。

【参考文献・資料】

『ボランティア学を学ぶ人のために』(内海成治他編 世界思想社)

インターンシップ概論

上原 衛 小林三太郎 石田寅生

【授業の概要】

学生が在学中に自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適の職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ研修を受講するための導入講義として位置づける。

【授業の目標】

講義を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】

1. ガイダンス(インターンシップについて、心構え等)
2. 職業と人生について
3. 各種業種について(学生各自の調査と発表も実施)
4. 日本の企業経営について
5. NPO/NGO/ボランティア活動について
6. ビジネスマナー講座
7. キャリアプランの作成
8. インターンシップ研修後の報告レポートの作成と成果報告について

【評価方法】

出席状況、課題・レポート、期末テストの成績により総合的に評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

インターンシップ研修

上原 衛 小林三太郎

【授業の概要】

学生が在学中に企業や公共機関、NPOなどにおける就業経験を行うことにより、自分のキャリアパスを考え、職業観や就業意識の向上を図ることを目的とする。個々の学生が最適の職業と人生を模索し、発見していく過程を理解させ、選択したキャリアと人生に必要な学業を修める過程で、インターンシップを通して人生における職業の意味を模索する方法を学ぶ。この講義は、インターンシップ概論を修得済または同時履修中の学生のみ履修可とする。

【授業の目標】

研修を通して、自らのキャリアプランについて考え、目標を設定する。そして、その目標に向かってどのように努力していけばよいかについて理解し、その目標に向けた第一歩を踏み出すこと。

【授業計画】

- 夏期または春期に1～2週間程度の期間、企業や公共機関、NPOなどでインターンシップ研修を実施し、実社会を体験する。その後に、研修報告と成果発表を行い、研修の総括を行う。
1. ガイダンス
 2. 夏期または春期に企業や公共機関、NPOなどでインターンシップ研修を受ける
 3. インターンシップ研修後の成果報告会における発表
 4. 報告レポートの作成と提出

【評価方法】

企業での実地研修状況、成果報告書の作成と発表の3つにより総合的に評価する。成績は「合」「否」により評価する。

【テキスト】

随時資料を配布する。

キャリアデザイン

小林三太郎

【授業の概要】

現代の社会情勢は大きく変化してきている。その状況下で学生が早い段階に大学で学ぶことの意義を認識しキャリア形成のために視野を拡大することが重要となる。

授業前半は社会で活躍している方々に現在までの「人生の経験談、キャリア形成について、社会人とは」について講演していただく。授業後半は毎回ディスカッションを取り入れ、入学後の初期段階から「大学で何を学ぶか」、社会で「働くとは」について考える。また、学生自らのキャリア形成を考えることを目的とする。

【授業の目標】

様々な人の人生観や経験談を参考にディスカッションを行い、自らのキャリア形成を考える機会とし、学生自身の視野を拡大することを目標とする。

【授業計画】

1. オリエンテーション
2. キャリア概論①
3. キャリア概論②
4. 人生とキャリアについて(全6回)
5. グループディスカッション(全4回)
6. 考察及びレポート

【評価方法】

出席とレポートにより評価する。

【テキスト】

配布プリント

【参考文献・資料】

必要に応じて授業時に指示する。